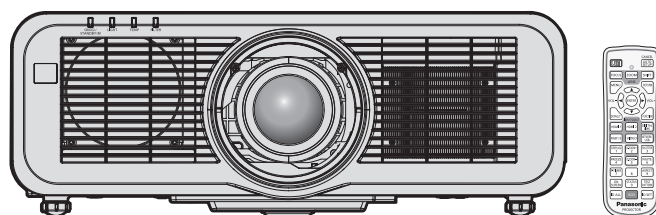


取扱説明書 詳細編

液晶プロジェクター **業務用**

品番 **PT-MZ770J**
PT-MW730J



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用の前に“安全上のご注意”（ 5～9 ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。



保証書別添付

製造番号は、品質管理上重要なものです。製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

JAPANESE

DPQP1224ZC/X1

もくじ

安全上のご注意 5

第 1 章 はじめに

ご使用になる前に	14
製品の意図する使い方	14
レンズ保護クッションについて	14
本機の運搬について	14
本機の設置について	14
使用上のご注意	17
セキュリティに関するお願い	17
無線 LAN に関するお願いとお知らせ	18
光 ID について	19
DIGITAL LINK について	19
本機が対応するアプリケーションソフトにつ いて	20
保管について	20
廃棄について	20
本機の取り扱いについて	20
付属品の確認	22
別売品	22
各部の名称とはたらき	23
リモコン	23
本体	25
リモコンの準備	28
電池を入れる、取り出す	28
本機を複数台使用するとき	28
ケーブルで本体と接続して使う	28

第 2 章 準備

設置する	30
設置形態	30
設置オプション（別売品）について	31
投写関係	32
アジャスター脚の調整	43
投写レンズの取り外し / 取り付け方	44
投写レンズの取り外し方	44
投写レンズの取り付け方	44
ワイヤレスモジュールの取り付けについて	46
ワイヤレスモジュールを取り付ける	46
接続する	47
接続の前に	47
映像機器との接続（例）	48
コンピューターとの接続（例）	49
DIGITAL LINK での接続（例）	50

第 3 章 基本的な使い方

電源を入れる / 切る	53
電源コードを接続する	53
電源インジケータについて	53
電源を入れる	54
初期設定画面が表示されたら	55
調整・選択をする	58
電源を切る	59
投写する	60
投写する映像を選択する	60
フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する	61
レンズ位置のホームポジションへの移動のし かた	62
レンズ位置移動による（光学シフト）調整範囲	62
USB メモリーを使う	63
使用上のお願い	63
本機で使える USB メモリー	63
USB メモリーを取り付ける	63
USB メモリーを取り外す	64
リモコンで操作する	65
シャッター機能を使う	65
消音機能を使う	65
音量を調整する	66
静止機能を使う	66
オンスクリーン表示機能を使う	66
オートセットアップ機能を使う	67
スクリーン補正機能を使う	67
デジタルズーム機能を使う	68
映像の縦横比を切り換える	69
プレゼンテーションタイマー機能を使う	69
ファンクションボタンを使う	69
内蔵テストパターンを表示する	69
ステータス機能を使う	70
ECO マネージメント機能を使う	70
リモコンの ID ナンバーを設定する	71

第 4 章 調整と設定

オンスクリーンメニューについて	73
メニュー画面の操作方法	73
メインメニュー	74
サブメニュー	75

【映像】メニューについて	78	【プロジェクターセットアップ】メニューについて	107
[映像モード]	78	[プロジェクター ID]	107
[ピクチャー]	78	[投写方式]	107
[黒レベル]	78	[ECO マネージメント]	107
[色の濃さ]	79	[光 ID]	110
[色あい]	79	[起動方法]	111
[色温度設定]	79	[スタートアップ入力選択]	111
[ガンマ選択]	80	[日付と時刻]	112
[デイライトビュー]	81	[スケジュール]	112
[シャープネス]	81	[RS-232C]	114
[ノイズリダクション]	81	[REMOTE1 端子モード]	116
[ダイナミックコントラスト]	81	[ファンクションボタン]	116
[システムセクター]	82	[レンズキャリブレーション]	116
【位置調整】メニューについて	84	[音声設定]	116
[シフト]	84	[フィルターカウンター]	119
[アスペクト]	84	[DC OUT]	119
[ズーム]	85	[ステータス]	120
[クロックフェーズ]	86	[データクロニング]	121
[リアルタイム台形補正]	86	[全ユーザーデータ保存]	125
[スクリーン補正]	87	[全ユーザーデータ呼出]	125
【アドバンスドメニュー】メニューについて	90	[初期化]	125
[デジタルシネマリアリティー]	90	[サービスパスワード]	126
[ブランキング]	90	【テストパターン】メニューについて	127
[入力解像度]	91	[テストパターン]	127
[クランプ位置]	91	【登録信号一覧】メニューについて	128
[ラスターポジション]	91	新規登録	128
【表示言語 (LANGUAGE)】メニューについて	92	登録信号の名前の変更	128
表示言語を切り換える	92	登録した信号を削除する	128
【表示オプション】メニューについて	93	登録した信号を保護する	129
[カラーアジャスト]	93	信号の引き込み範囲を拡大する	129
[カラーコレクション]	93	サブメモリーについて	130
[スクリーン設定]	94	【セキュリティ】メニューについて	131
[入力自動セットアップ]	94	[セキュリティパスワード]	131
[自動調整]	94	[セキュリティパスワード変更]	131
[RGB IN]	95	[表示設定]	131
[HDMI IN]	96	[テキスト変更]	132
[DIGITAL LINK IN]	98	[メニューロック]	132
[オンスクリーン表示]	99	[メニューロックパスワード]	132
[クローズドキャプション設定] (NTSC 信号 入力時のみ)	101	[操作設定]	132
[入力検出]	103	[操作設定パスワード変更]	134
[バックカラー]	103		
[スタートアップロゴ]	103		
[シャッター設定]	103		
[プレゼンテーションタイマー]	104		
[フリーズ]	105		
[デジタルズーム]	106		

[ネットワーク /USB] メニューについて	135	お手入れ / 部品交換	195
[DIGITAL LINK モード]	135	お手入れ / 部品交換の前に	195
[DIGITAL LINK ステータス]	135	お手入れ	195
[DIGITAL LINK メニュー]	136	部品交換	197
[有線 LAN]	136	故障かな!?	198
[無線 LAN]	137	困ったとき	200
[プロジェクター名]	140	無線 LAN 接続	200
[ネットワークコントロール]	141	ミラーリング接続	200
[メモリービューワー]	141	[自己診断] の表示について	202
[Panasonic APPLICATION]	142		
[ネットワークステータス]	146		
 第 5 章 機能の操作			

ネットワーク接続について	148
有線 LAN で接続する	148
無線 LAN で接続する	151
WEB 制御機能について	154
設定に使用できるコンピューター	154
WEB ブラウザーからのアクセスのしかた	154
Panasonic APPLICATION 入力で表示する	175
使用できるアプリケーション	175
端末を接続する	175
端末との接続を終了する	175
待ち受け画面の説明	176
Panasonic APPLICATION 入力で司会者 モードを使用する	177
MIRRORING 入力で表示する	178
端末を接続する	178
端末との接続を終了する	179
MIRRORING 入力で司会者モードを使用する	179
WEB ブラウザーで操作する	180
[司会者モード] ページの説明	181
MEMORY VIEWER 入力で表示する	182
メモリービューワー機能で再生できる画像	182
メモリービューワー画面を表示する	183
メモリービューワー画面を操作する	183
静止画を再生する	185
動画を再生する	186
メモリービューワー画面の説明	188
コンテンツリストを使って再生する	188
ペアリング機能を使用する	190
USB メモリーをペアリングする	190

第 6 章 点検とお手入れ

光源 / 温度 / フィルターインジケーター	193
インジケーターが点灯したら	193

付録	205
PJLink プロトコルを使用する	205
LAN 経由の制御コマンドについて	207
〈SERIAL IN〉端子について	209
〈REMOTE 1 IN〉端子について	213
[メニューロックパスワード] の操作について	213
対応信号リスト	214
仕様	217
外形寸法図	220
天つり金具取り付け時の注意事項	221
保証とアフターサービス	222
保証書 (別添付)	222
補修用性能部品の保有期間	222
修理のご依頼について	222
さくいん	223

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

				してはいけない内容です。
		実行しなければならない内容です。		

**警告**

電源について

異常・故障時には直ちに使用を中止する

	電源プラグを抜く	■ 異常があったときは、電源プラグを抜く [内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音が発生したとき] (そのまま使用すると、火災や感電の原因になったり、視力障害を引き起こす原因になったりします。) ⇒ 異常の際、電源プラグをすぐに抜けるように、コンセントを本機の近くに取り付けるか、配線用遮断装置を容易に手が届く位置に設置してください。 ⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。 ⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。
		■ 電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）は、根元まで確実に差し込む (差し込みが不完全であると、感電や発熱による火災の原因になります。) ⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。 ■ 電源プラグのほこりなどは、定期的にとる (プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。) ⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。 ⇒ 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
		■ 電源コード・プラグが破損するようなことはしない [傷つける、加工する、高温部や熱器具に近づく、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど] (傷んだまま使用すると、火災や感電、ショートの原因になります。) ⇒ 電源コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。 ■ コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない (たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。) ■ 付属の電源コード以外は使用しない (付属以外の電源コードを使用すると、ショートや発熱により、感電・火災の原因になることがあります。また、付属の電源コードを使い、コンセント側でアースを取らないと感電の原因になります。)
	ぬれ手禁止	■ ぬれた手で電源プラグや電源コネクターに触れない (感電の原因になります。)



警告（つづき）

電源について



接触禁止

- 雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない
(感電の原因になります。)

ご使用・設置について



- 放熱を妨げない
[布や紙などの上に置かない（吸気口に吸着することがあります）、風通しが悪く狭い所に押し込まない]
(内部が高温になり、火災の原因になることがあります。)
⇒ 吸排気を妨げないよう、周辺の壁やものから排気口までは 1 m 以上、吸気口までは 50 cm 以上離して設置してください。
- カーペットやスポンジマットなどのやわらかい面の上で本機を使用しない
(内部に熱がこもり、本機の故障、火災ややけどの原因になることがあります。)
- 湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に置かない
(火災や感電の原因になることがあります。また、油により樹脂が劣化し、天井取り付け設置の場合に落下するおそれがあります。)
- 荷重に耐えられない場所や不安定な場所に設置しない
(落下などによる本機の破損・変形や、大きな事故やけがの原因になります。)
- 人が通る場所にプロジェクターを設置しない
(ぶつかったり、電源コードに足を引っ掛けたりして、火災や感電、けがの原因になることがあります。)
- 使用中は投写レンズを絶対にのぞかない
- 光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しない
(投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。)
⇒ 使用中に本機から離れる場合は、電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。
- 内部に金属類や燃えやすいものなどを入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない
(ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。)
⇒ 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
⇒ 水などの液体が内部に入ったときは、販売店にご相談ください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。
- レンズカバーを取り付けたまま投写しない
(火災の原因になることがあります。)



警告 (つづき)

ご使用・設置について



分解禁止

■ 分解や改造をしない

(内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器の故障の原因になります。)

⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。



警告

感電のおそれあり

サービスマン以外の方は
ケースをあげないでください。
内部には高電圧部分が多く
あり、万一さわると危険です。

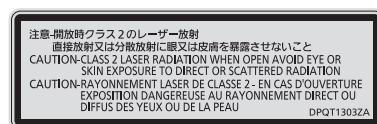
「本体に表示した事項」

(危険なレーザー放射にさらされる原因になることがあります。)

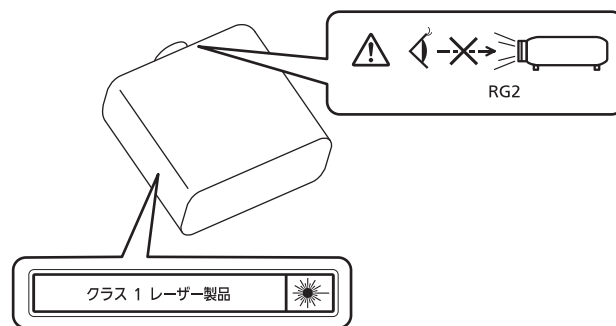
⇒ 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。取扱説明書に指定した手順で操作や調整を行ってください。



「本体内部に表示した事項」



「本体に表示した事項」



■ 天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者または販売店に依頼する

(工事の不備により、落下事故の原因となります。)

■ 当社で指定した天つり金具を使用する

(天つり金具の不備により、落下事故の原因となります。)

⇒ 天つり金具に付属のワイヤーで落下防止の処置を行ってください。

付属品・消耗品について



■ 電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない

[液が目に入ったら目をこすらない]

(失明のおそれや、液が身体や衣服に付着した場合、皮膚の炎症やけがの原因になります。)

⇒ すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

■ 電池は誤った使い方をしない

- 指定された電池以外は使用しない。
 - 乾電池は充電しない。
 - 加熱・分解したり水などの液体や火の中へ入れたりしない。
 - +と-を針金などで接続しない。
 - +と-を逆に入れない。
 - ネックレスやヘアピンなど金具が使用されているものと一緒に持ち運んだり保管したりしない。
 - 新旧の電池や違う種類の電池を混ぜて使わない。
 - 被覆のはがれた電池は使わない。(電池には安全のために被覆がかぶせてあります。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。)
- (液漏れ・発熱・破裂・発火の原因になります。)

■ 付属の乾電池は、乳幼児の手の届く所に置かない

(誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。)

⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。



■ 使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

(そのまま機器の中に放置すると、電池の液漏れや、発熱・破裂の原因になります。)



注意

電源について

 電源プラグ を抜く	■ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く (電源プラグにほこりがたまり、火災・感電の原因になることがあります。)
	■ 投写レンズの交換を行う前に、必ず電源を切り電源プラグをコンセントから抜く (不意の投写による光で目を痛めることがあります。) (電源プラグを抜かずに交換作業を行うと、感電の原因になることがあります。)
	■ お手入れ、部品交換の際は、電源プラグをコンセントから抜く (感電の原因になることがあります。)
	■ 電源コードを取り外すときは、必ず電源プラグ(コンセント側)や、電源コネクタ(本体側)を持って抜く (コードを引っ張るとコードが破損し、感電、ショートによる火災の原因になることがあります。)

ご使用・設置について

	■ 本機の上に重いものを載せたり、乗ったりしない (バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。また、本機の破損や変形の原因になることがあります。)
	■ 異常に温度が高くなる所に置かない (外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。) ⇒ 直射日光の当たる所や、熱器具などの近くには、設置・保管をしないでください。
	■ 塩害が発生する所、腐食性ガスが発生する所に設置しない (腐食による落下の原因になることがあります。また、本機の故障の原因になることがあります。)
	■ レンズシフト動作中は、レンズ周辺の開口部に手を入れない (手を挟み、けがの原因になることがあります。)
	■ 使用中は投写レンズの前に立たない (投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前に立つと衣服を傷めたり、やけどの原因になることがあります。)
	■ 使用中は投写レンズの前にもものを置かない ■ 投写レンズの前にもものを置いて遮光しない (投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前にもものを置くと、火災やものの破損、本機の故障の原因になることがあります。)
	■ <VARIABLE AUDIO OUT> 端子には、ヘッドホンやイヤホンを接続しない (ヘッドホンやイヤホンからの過剰な音圧により、難聴の原因になることがあります。)
	■ 移動させる場合は、必ず接続線を外す (コードの破損などにより、火災や感電の原因になることがあります。)
	■ 天井り設置する場合は、取り付けねじや電源コードが天井内部の金属部と接触しないように設置する (天井内部の金属部と接触して、感電の原因になることがあります。)

付属品・消耗品について

	■ 長期間使用しない場合は、リモコンから電池を取り出す (電池の液漏れ、発熱、発火、破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。)
---	---



注意（つづき）

お手入れについて



- **エアフィルターユニットは、ぬれたまま本体に取り付けない**
（感電や故障の原因になります。）
⇒ エアフィルターユニットを洗淨したあとは、十分に乾燥させてから取り付けてください。



- **使用時間 20 000 時間ごとを目安に、内部の清掃を販売店に依頼する**
（本機の内部にほこりがたまったら使用を続けると、火災の原因になることがあります。）
⇒ 特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。
⇒ 内部清掃費用については販売店にご相談ください。

■ 商標などについて

- SOLID SHINE はパナソニック株式会社の商標です。
- 「光 ID」技術について、パナソニック株式会社は日本とその他の国において特許を保有しています。
- 「LinkRay」およびアイコンは、パナソニック株式会社の商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Direct™、Miracast™ は、Wi-Fi Alliance の商標です。
- Windows、Internet Explorer、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac と macOS、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
- Crestron Connected、Crestron Connected ロゴ、Crestron Fusion、Crestron RoomView、RoomView は、Crestron Electronics, Inc. の、米国および / または各国での商標または登録商標です。
- HDBaseT™ は HDBaseT Alliance の商標です。
- IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Android は、Google Inc. の商標です。
- QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。
- Adobe、Adobe Flash Player、Adobe Reader は、アドビシステムズ社の米国および / または各国での商標または登録商標です。
- オンスクリーンメニューに使用しているフォントの一部は、株式会社リコーが製作・販売した、リコービットマップフォントです。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio License、VC-1 Patent Portfolio License および MPEG-4 Visual Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、以下に記載する行為に関わるお客様の個人的または非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
 - 画像情報を AVC 規格、VC-1 規格および MPEG-4 Visual 規格に準拠して (以下、AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオ) 記録すること
 - 個人的活動に従事する消費者によって記録された AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオ、またはライセンスを受けた提供者から入手した AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオを再生すること詳細については MPEG LA, LLC ホームページ (<http://www.mpegla.com>) をご参照ください。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。
なお、本文中では ® や ™ マークは明記していません。

当製品に関するソフトウェア情報

本製品は、以下の種類のソフトウェアから構成されています。

- (1) パナソニック株式会社 (パナソニック) が独自に開発したソフトウェア
 - (2) 第三者が保有しており、パナソニックにライセンスされたソフトウェア
 - (3) GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.0 (GPL V2.0) に基づきライセンスされたソフトウェア
 - (4) GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.1 (LGPL V2.1) に基づきライセンスされたソフトウェア
 - (5) GPL V2.0、LGPL V2.1 以外の条件に基づきライセンスされたオープンソースソフトウェア
- 上記 (3) ~ (5) に分類されるソフトウェアは、これら単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。詳細は、付属の CD-ROM に含まれるライセンス条件をご参照ください。

パナソニックは、本製品の発売から少なくとも 3 年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた方に対し、実費にて、GPL V2.0、LGPL V2.1、またはソースコードの開示義務を課すその他の条件に基づきライセンスされたソフトウェアに対応する完全かつ機械読取り可能なソースコードを、それぞれの著作権者の情報と併せて提供します。

問い合わせ窓口 (E メール) : oss-cd-request@gg.jp.panasonic.com

■ 本書内のイラストについて

- プロジェクター本体、メニュー画面 (OSD) などのイラストは、実際とは異なることがあります。
- ご使用のコンピューターの機種や OS の種類によって、実際にコンピューターの画面に表示されるものとは異なることがあります。

■ 参照ページについて

- 本書では、参照ページを (☞ 00 ページ) のように示しています。

■用語について

- 本書では付属品の「ワイヤレス / ワイヤードリモコン」を「リモコン」と記載しています。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

本機は、IEC 60825-1 に適合したクラス 1 レーザー製品です。

本機の特長

高画質

- ▶ 新世代レーザー光源を用いた独自の光学システムとレーザー光源駆動方式により、小型でありながら 8 000 lm の高輝度と 3 000 000 : 1^{*1} の高コントラストを実現しました。また、4K 映像信号の入力にも対応しています。

^{*1} [映像モード] を [ダイナミック] に、[ダイナミックコントラスト] を [1] または [2] に設定時

簡単 & 自由度の高い設置性

- ▶ レンズ交換方式、レンズシフトの搭載に加え、DIGITAL LINK など幅広いインターフェースへの対応と、固体光源の特徴を生かした 360° 設置対応により、幅広い用途へのご使用を可能にしました。

長寿命・高信頼性

- ▶ 独自の光源冷却制御技術と防じん性の向上により、長期運用時のメンテナンス費用を低減します。

投写するまでの手順

詳しくは各ページをご覧ください。

1. 本機を設置する
(👉 30 ページ)



2. 投写レンズを取り付ける
(👉 44 ページ)



3. 本機と外部機器を接続する
(👉 47 ページ)



4. 電源コードを接続する
(👉 53 ページ)



5. 電源を入れる
(👉 54 ページ)



6. 初期設定をする
(👉 55 ページ)
 - 本機をご購入後、初めて電源を入れてご使用になる場合に行う手順です。



7. 投写する映像を選択する
(👉 60 ページ)



8. 映像の映り具合を調整する
(👉 61 ページ)

第 1 章 はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたい内容やご確認いただきたい内容について説明しています。

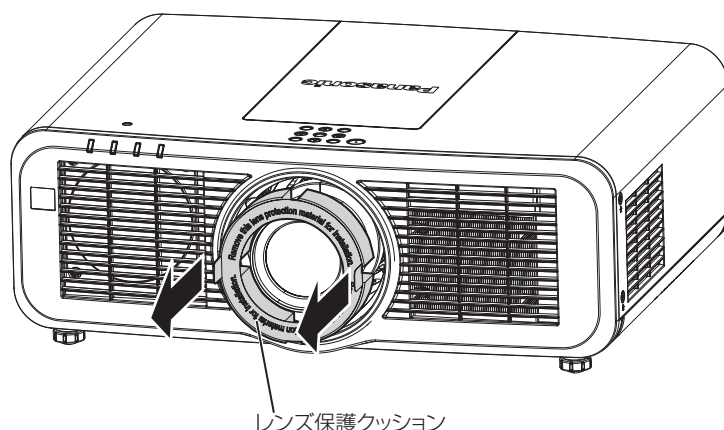
ご使用になる前に

製品の意図する使い方

本機は、映像機器やコンピューターからの映像信号を、静止画や動画としてスクリーンなどに投写することを目的としています。

レンズ保護クッションについて

運搬時などの振動から投写レンズを保護するために、ご購入時には製品にレンズ保護クッションが取り付けられています。ご使用前にレンズ保護クッションを取り外し、将来また取り付けられるように保管しておいてください。運搬時は、レンズ位置をホームポジションに移動させ、レンズ保護クッションを取り付けてください。レンズ位置をホームポジションに移動させる手順については、“レンズ位置のホームポジションへの移動のしかた”（ 62 ページ）をご覧ください。



本機の運搬について

- 運搬の際は、本機の底面を持つようにし、過度の振動や衝撃を加えないようにお取り扱いください。内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- アジャスター脚を伸ばした状態で運搬しないでください。アジャスター脚が破損するおそれがあります。

本機の設置について

■ 屋外に設置しないでください

本機は室内でご使用ください。

■ 以下の場所には設置しないでください

- 車両・船舶など、振動や衝撃が加わる場所：内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- 海の近くや腐食性ガスが発生する場所：腐食により製品が落下するおそれがあります。また、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。
- エアコンの吹き出し口の近く：使用環境によっては、排気口からの熱せられた空気や、空調からの温風・冷風の影響で、まれに画面に「ゆらぎ」が発生することがあります。本機の前面に自機、あるいは他機の排気や、空調からの風が回り込むような設置がないように注意してください。
- 照明器具（スタジオ用ランプなど）の近くなどの温度変化が激しい場所：光源の寿命などに影響を及ぼすおそれや、熱により本体が変形し、故障の原因になることがあります。
本機の使用環境温度をお守りください。
- 高圧電線や動力源の近く：妨害を受けることがあります。

■ 天井取り付けなどの設置工事は、必ず工事専門業者、または販売店にご依頼ください

本機を天つり設置する場合や、高所へ設置する場合は、性能、安全確保のため、工事専門業者またはお求めの販売店に施工を依頼してください。

■ DIGITAL LINK 接続用のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください

工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像や音声途切れたり乱れたりする原因となります。

■放送局や無線機からの強い電波により、正常に動作しないことがあります

近くに強い電波を発生する設備や機器がある場合は、それらの機器から十分に離して設置してください。または、両端で接地された金属箔あるいは金属配管で〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している LAN ケーブルを覆ってください。

■フォーカス調整について

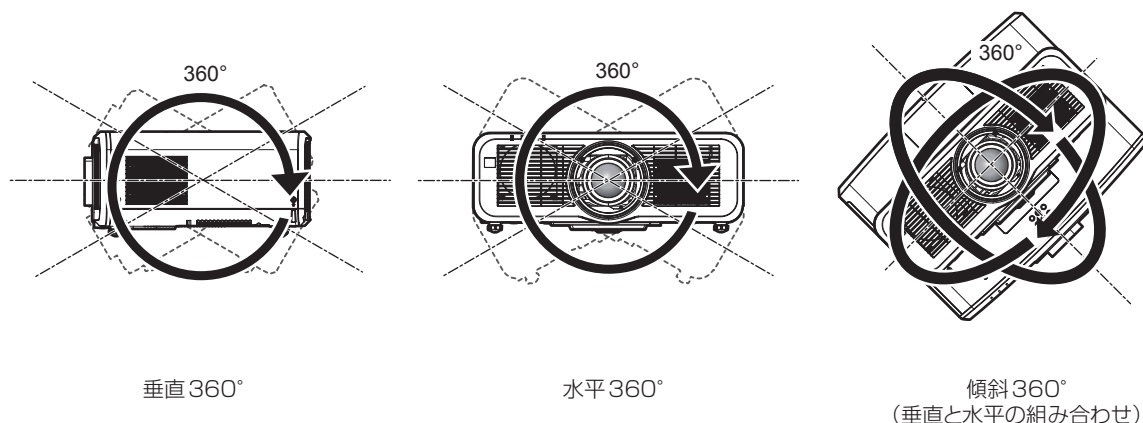
高輝度プロジェクターのレンズは、光源からの光による熱の影響で、電源を入れた直後はフォーカスが安定しません。フォーカスの調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。

■海拔 2 700 m 以上の場所に設置しないでください

■周囲温度が 45 °C を超える場所で使用しないでください

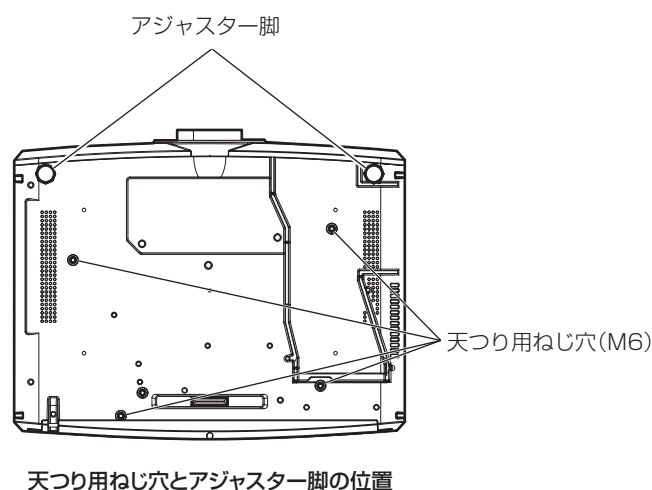
本機を使用する場所の海拔高度が高すぎたり、周囲温度が高すぎたりすると、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。

■360° 全方位への投写が可能です

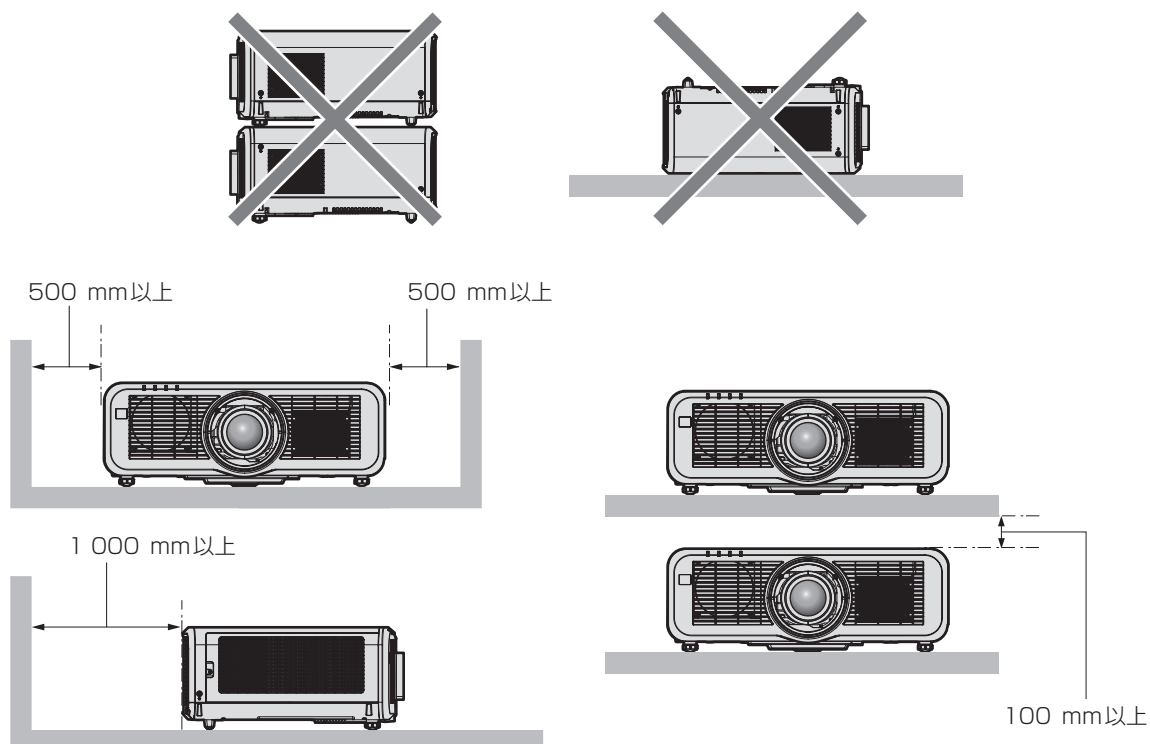


■設置上のご注意

- アジャスター脚は、床置き設置およびその際の角度調整にのみ使用してください。それ以外の用途で使用すると、本機が破損するおそれがあります。
- プロジェクターをアジャスター脚による床置き設置や天つり金具による天つり設置以外の方法で設置して使用する場合は、プロジェクターの固定を天つり用ねじ穴（図示）4 か所を使用して行ってください。またその際は、スペーサー（金属製）を挟むなどの方法で、プロジェクター底面の天つり用ねじ穴と設置面との間にすき間が生じないようにしてください。
- 固定ねじの締めつけの際は、トルクドライバーまたは、六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。（ねじ径：M6、プロジェクター内部ねじ穴深さ：12 mm、ねじの締めつけトルク：4 ± 0.5 N・m）



- 本機を積み重ねて使用しないでください。
- 本機を天面で支えて使用しないでください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。
- 空調の冷風や温風が、本機の吸気口・排気口に直接当たらないように設置してください。

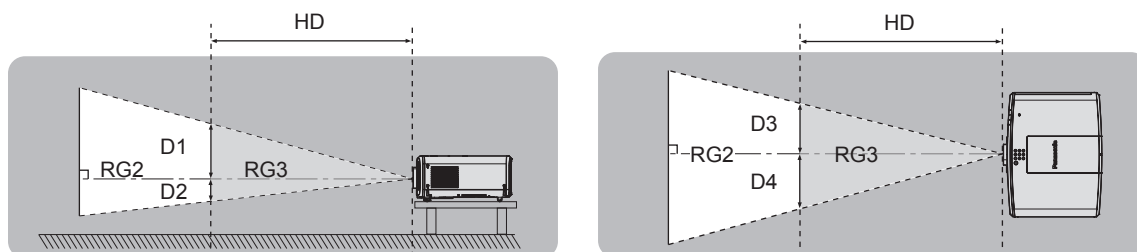


- 本機を密閉した空間に設置しないでください。
密閉した空間に設置する場合は、別途、空調設備、換気設備を設けてください。換気が不十分な場合、排気熱が滞留することで、本機の保護回路がはたらくことがあります。
- 設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。

使用上のご注意

■ 障害距離（IEC 62471-5 : 2015）

被ばくレベルが、当該の被ばく限度値に到達するまでの距離を、障害距離（HD）、または安全距離といいます。障害距離の内側（RG3 の領域内）では、プロジェクターからの投写光をのぞき込まないでください。直接照射により目を痛める可能性があります。障害距離の外側（RG2 の領域内）からであれば、プロジェクターからの投写光をのぞき込んでも安全とみなされます。



(単位：m)

投写レンズ品番	HD ^{*1}	D1 ^{*2}	D2 ^{*2}	D3 ^{*2}	D4 ^{*2}
ET-ELW21	< 1.0	0.97	0.97	1.13	1.13
ET-ELW22		0.89	0.89	1.03	1.03
ET-ELW20		0.62	0.62	0.72	0.72
標準ズームレンズ		0.47	0.47	0.55	0.55
ET-ELT22		0.29	0.29	0.34	0.34
ET-ELT23		0.19	0.19	0.23	0.23

*1 HD：障害距離

*2 D1、D2、D3、D4 の値は、レンズシフト量に応じて変化します。表内の各数値は、最大値です。

お知らせ

- 表内の数値は、IEC 62471-5:2015 に基づく値です。

■ 使用中は投写レンズを絶対にのぞかないでください（RG2 IEC 62471-5:2015）

■ 光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しないでください

投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。



RG2

「本体に表示したマーク」

セキュリティに関するお願い

本製品をご使用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
 - 悪意の第三者による本製品の不正操作
 - 悪意の第三者による本製品の妨害や停止
- セキュリティ対策を十分に行ってください。
- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
 - パスワードは定期的に変更してください。パスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] および [ネットワーク / USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] → [パスワード変更] で設定できます。
 - パナソニック株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはありません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
 - ファイアウォールなどの設定により、安全性が確保されたネットワークでご使用ください。
 - WEB 制御のパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。WEB 制御のパスワードは、WEB 制御画面の [パスワード変更] ページで設定できます。

■無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューターなどと無線アクセスポイントとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波が届く範囲内であれば障害物（壁など）を越えてあらゆる場所からアクセスできるため、セキュリティ設定に不足があると、次のような問題が発生するおそれがあります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、次のような通信内容を盗み見られる可能性があります。
 - ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
 - メールの内容
- 不正に侵入される
悪意ある第三者により個人や会社内のネットワークへ無断でアクセスされ、次のような不正行為を受ける可能性があります。
 - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
 - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線 LAN アダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 機器をご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定を、それぞれの無線 LAN 機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

本機を無線 LAN で使用する際のセキュリティ設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック プロジェクターサポートセンター」（☎ 19 ページ）までお問い合わせください。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

無線 LAN に関するお願いとお知らせ

本機の無線 LAN 接続機能使用時は、2.4 GHz/5 GHz 帯域の電波を使用します。無線局の免許は必要ありませんが、以降の内容を十分理解してご使用ください。

本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（☎ 46 ページ）をご覧ください。

■ほかの無線機器の近くでは使用しないでください

次の機器は、本機と同じ帯域の電波を使用している可能性があります。これらの近くで本機を使用すると、電波の干渉により通信できなくなったり、通信速度が遅くなったりする場合があります。

- 電子レンジなど
- 産業・科学・医療用機器など
- 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局
- 特定小電力無線局

■本機の近くでは、携帯電話・テレビ・ラジオをできるだけ使用しないでください

携帯電話・テレビ・ラジオなどは、本機とは違う帯域の電波を使用していますので、無線 LAN の通信や、これらの機器の送受信には影響ありません。しかし、本機からの電波により、音声や映像にノイズが発生することがあります。

■鉄筋・金属・コンクリートなどは、無線 LAN 通信の電波を通しません

木材やガラス（金属メッシュ入りガラスを除く）などの壁や床を通して通信することはできますが、鉄筋・金属・コンクリートなどの壁や床を通して通信することはできません。

■ 静電気が多く発生するような場所では、できるだけ本機を使用しないでください

静電気やノイズが多く発生するような場所で本機を使用する場合、無線 LAN、または有線 LAN での通信が切れやすくなります。

まれに静電気やノイズにより LAN 接続ができなくなる場合がありますので、その場合は本機の電源を切ったあとに電源プラグをコンセントから抜き、問題となる静電気やノイズ源を取り除いたあとに本機の電源を入れ直してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

パナソニック プロジェクターサポートセンター：  0120-872-601

■ IEEE802.11a/n (5.2 GHz/5.3 GHz 帯) は、屋内で使用してください

5.2 GHz/5.3 GHz 帯 (W52/W53) を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。

光 ID について

光 ID は、光の点滅を使って高速かつ安定して情報を伝える可視光通信技術の 1 つです。本機は、光 ID 信号を発信する機能を備えており、パナソニックが提供する LinkRay 光 ID ソリューションサービスをご利用いただくことで、次のような使い方ができます。

- 本機が発信する光 ID 信号を端末（スマートフォン / タブレット）のカメラと専用のアプリケーションソフトを使って受信すると、その光 ID 信号にひも付けされたコンテンツを取得して端末の画面上に表示します。

詳しくは弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/LinkRay/>) をご覧ください。

お知らせ

- LinkRay 光 ID ソリューションサービスのご利用には、別途契約が必要になります。
- スマートフォン用アプリケーションソフト「LinkRay - 光 ID Solution」が必要になります。
App Store または Google Play から「LinkRay」で検索して、ダウンロードしてください。動作確認済み端末の最新情報については、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/LinkRay/>) をご覧ください。

■ 光 ID 機能に関するお知らせ

- 光 ID 信号を送信時、投写映像にちらつきが発生することがありますが、光 ID の送信による輝度変化によるものであり、故障ではありません。
- 投写映像をカメラなどで撮影した場合、撮影画像に縞模様が発生することがあります。
- 光 ID 機能を使用している場合、光出力が低下します。
- 次の場合、端末（スマートフォン / タブレット）で光 ID 信号を受信しにくくなる場合があります。
 - 投写しているスクリーンに、外光などの強い光が照射されている場合
 - 本機以外の光 ID 送信機器が隣接して設置されている場合
 - スクリーンとの距離が遠く離れた位置で受信する場合
 - スクリーンに対して斜めの位置で受信する場合
 - スクリーン特性による光反射ロスが大きい場合
 - 投写画面のサイズが小さい場合
 - 表示中の投写映像が暗いシーンの場合
- レーザー方式のバーコードリーダーを使用する場合は、バーコード読み取り面に投写光やその反射光が当たらないようにしてください。バーコードリーダーの不読や誤読の原因になります。
- 本機の光 ID 機能は、すべての端末での動作を保証するものではありません。

DIGITAL LINK について

「DIGITAL LINK (デジタルリンク)」は、HDBaseT Alliance により策定された通信規格 HDBaseT™ をベースに、パナソニック独自の機能を追加した、映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送する技術です。

本機は、別売品の弊社 DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）や、同じく HDBaseT™ 規格をベースとした他社製周辺機器（Extron 社製「XTP トランスミッター」などのツイストペアケーブル伝送器）に対応しています。本機で動作確認済みの他社製機器については、弊社 WEB サイト（<https://panasonic.biz/cns/projector/>）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機が対応するアプリケーションソフトについて

本機は、次のアプリケーションソフトに対応しています。各アプリケーションソフトの詳細やダウンロードについては、弊社 WEB サイト（<https://panasonic.biz/cns/projector/>）をご覧ください。

● ログ転送ソフトウェア

スタート時に投影する会社ロゴマークなどユーザー独自の画像を、プロジェクターに転送するアプリケーションソフトです。

● Smart Projector Control

LAN 接続されたプロジェクターを、スマートフォンやタブレットを用いて設定・調整するアプリケーションソフトです。

● 複数台監視制御ソフトウェア

イントラネットに接続された複数台のディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を監視・制御するアプリケーションソフトです。

● 予兆監視ソフトウェア

イントラネット内にあるディスプレイやその周辺機器の状態を監視し、これらの機器の異常の通知や異常発生の予兆を検知するプラグインソフトです。「予兆監視ソフトウェア」は、「複数台監視制御ソフトウェア」にあらかじめ組み込まれています。このプラグインソフトの予兆監視機能を使用する場合は、「複数台監視制御ソフトウェア」を、ご使用のコンピューターにインストールしてください。予兆監視機能を有効にすると、ディスプレイの消耗品交換、各部清掃、部品交換のおおよその時期を通知し、事前にメンテナンスを実施することが可能になります。

予兆監視機能は、「複数台監視制御ソフトウェア」をコンピューターへのインストール後 90 日間に限り、無料で最大 2048 台のディスプレイを登録してご使用いただけます。90 日以降も継続して予兆監視機能を使用する場合は、「予兆監視ソフトウェア」のライセンス (ET-SWA100 シリーズ) をご購入のうえ、アクティベーションを行う必要があります。また、ライセンスの種類によって監視できるディスプレイの登録台数が異なります。詳しくは、「複数台監視制御ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。

● ワイヤレスマネージャー ME6.4

コンピューターの画面をプロジェクターへ、無線 LAN または有線 LAN で送信するためのアプリケーションソフトです。

1 台のコンピューターから複数プロジェクターへの同時投写や、複数のコンピューターから 1 台のプロジェクターへの同時投写などが可能となります。

● プラグアンドシェア

USB メモリーを使用してプロジェクターとコンピューターをペアリングすることにより、ネットワーク経由でコンピューターを接続する際の機器選択を省略し、簡単にコンピューターの画面をプロジェクターで投写できるようにするアプリケーションソフトです。

● ワイヤレスプロジェクター

PDF や画像などのファイルを、プロジェクターへ無線 LAN で送信して投写する iOS/Android 用アプリケーションソフトです。

保管について

本機を保管しておく場合は、乾燥した室内に保管してください。

廃棄について

製品を廃棄する際は、最寄りの市町村窓口または販売店に、正しい廃棄方法をお問い合わせください。また、製品を分解せずに廃棄してください。

本機の取り扱いについて

■ 美しい映像をご覧いただくために

より高いコントラストで美しい映像をご覧いただくには、適切な環境を整えてください。スクリーン面に外光や照明などの光が入らないように、窓のカーテンやブラインドなどを閉め、スクリーン面近くの照明を消してください。

■ 投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付着すると、それらが拡大されてスクリーンに映り、美しい映像をご覧いただくための妨げとなります。

■ 液晶パネルについて

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で製造されていますが、まれに画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

また、静止画を長時間投写すると、液晶パネルに映像の残像が生じる場合がありますので、その場合は全白画面を 1 時間以上投写してください。なお、残像が完全に消えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 光学部品について

ご使用になる環境温度が高い場合や、ほこり、たばこなどの煙が多い環境下では、1 年未満のご使用でも、液晶パネルや偏光板などの光学部品の交換サイクルが短くなる場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 光源について

本機の光源には、レーザーを使用しており、下記のような特性があります。

- 使用環境温度によって、光源の輝度が低下します。
温度が高くなるほど、光源の輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間にともない、光源の輝度が低下します。
明るさが著しく低下した場合や、光源が点灯しなくなった場合は、内部清掃または光源ユニットの交換を販売店に依頼してください。

■ コンピューターや外部機器との接続について

コンピューターまたは外部機器を接続する際は、電源コードやシールドされたケーブルの使用も含め、本書の内容をよくご確認ください。

付属品の確認

以下の付属品が入っていることを確認してください。＜ ＞は個数です。

ワイヤレス / ワイヤードリモコン ＜1＞
(N2QAYA000150)

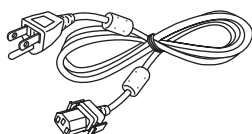


CD-ROM ＜1＞

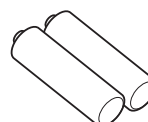


(取扱説明書が収録されています。)

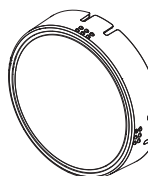
電源コード ＜1＞
(TXFSX01VLF3)



単 4 形乾電池 ＜2＞
(リモコン用)



レンズカバー ＜1＞
(6103626291)



お願い

- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理してください。
- 付属の電源コードは本機以外の機器では使用しないでください。
- 付属品を紛失してしまった場合、販売店にご相談ください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かない所に適切に保管してください。

お知らせ

- 付属品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

別売品

別売品 (品名)		品番
投写レンズ	ズームレンズ	ET-ELW20、ET-ELT22、ET-ELT23、ET-ELW22
	固定焦点レンズ	ET-ELW21
天つり金具		ET-PKD120H (高天井用) ET-PKD120S (低天井用) ET-PKE301B (取付用ベース金具) *1
予兆監視ソフトウェア (基本ライセンス / 3 年ライセンス)		ET-SWA100 シリーズ *2
デジタルインターフェースボックス		ET-YFB100
デジタルリンクスイッチャー		ET-YFB200
交換用フィルターユニット		ET-RFM100
ワイヤレスモジュール		ET-WM300

*1 既設の天つり金具 (品番:ET-PKD120H (高天井用) または ET-PKD120S (低天井用) と、品番:ET-PKE300B (取付用ベース金具) との組み合わせ) に本機を取り付ける場合は、落下防止用のワイヤーロープを本機に対応した仕様のものに交換する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

落下防止セット (サービス品番: DPPW1004ZA/X1)

*2 ライセンスの種類によって品番末尾の記号が異なります。

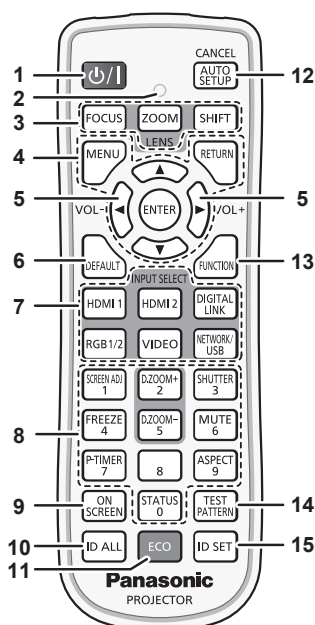
お知らせ

- 別売品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

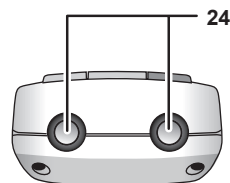
各部の名称とはたらき

リモコン

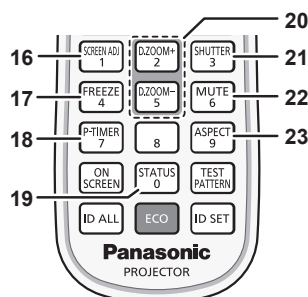
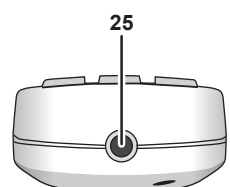
■ 正面



■ 天面



■ 底面



1 電源 (⏻/⏻) ボタン

(⏻: スタンバイ、⏻: 電源入)

本体の主電源 (MAIN POWER) スイッチが (ON) 側で、投写状態のとき、本機の電源を切った状態 (スタンバイ状態) にします。
電源が切れている状態 (スタンバイ状態) のとき、本機を投写状態にします。

2 リモコン操作表示ランプ

リモコンのボタンを押すと点滅します。

3 レンズ (〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉) ボタン

レンズのフォーカス、ズーム、レンズシフトを調整します。
(☞ 61 ページ)

4 〈MENU〉ボタン / 〈RETURN〉ボタン / 〈ENTER〉ボタン / ▲▼◀▶ ボタン

メニュー画面の操作に使用します。(☞ 73 ページ)
また、▲▼◀▶ ボタンは [セキュリティ] のパスワード入力や文字の入力にも使用します。

5 〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタン

内蔵スピーカーおよび音声出力の音量を調整します。
(☞ 66 ページ)

6 〈DEFAULT〉ボタン

表示中のサブメニューの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。(☞ 74 ページ)

7 入力切替 (〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈RGB1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉) ボタン

投写する入力を切り換えます。(☞ 60 ページ)

8 数字 (〈0〉 ~ 〈9〉) ボタン

本体を複数台使用する環境で ID ナンバーを入力する場合や、パスワードを入力する場合などに使用します。

9 〈ON SCREEN〉ボタン

オンスクリーン表示機能のオン (表示) / オフ (非表示) を切り換えます。(☞ 66 ページ)

10 〈ID ALL〉ボタン

本体を複数台使用する環境で、1 つのリモコンで同時制御する場合に使用します。(☞ 28 ページ)

11 〈ECO〉ボタン

ECO マネージメントに関する設定画面を表示します。(☞ 70、107 ページ)

12 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタン

映像を投写中に、画面表示位置を自動調整します。
自動調整中は画面に [実行中] と表示されます。(☞ 67 ページ)
また、デジタルズーム中とメモリービューワー画面の操作や、Panasonic APPLICATION 入力の待ち受け画面でのキャンセルの操作に使用します。
MIRRORING 入力時は、画面左上に受信機名と、本機にアクセスするための URL が表示されます。(☞ 180 ページ)

13 〈FUNCTION〉ボタン

よく使う操作を割り当て、ショートカットボタンとして使用します。(☞ 69 ページ)

14 〈TEST PATTERN〉ボタン

テストパターンを表示します。(☞ 69 ページ)

15 〈ID SET〉ボタン

本体を複数台使用する環境で、リモコンの ID ナンバーを設定する場合に使用します。(☞ 28 ページ)

16 〈SCREEN ADJ〉ボタン

投写映像のゆがみを補正したい場合に使用します。(☞ 67、87 ページ)

17 〈FREEZE〉ボタン

映像を一時的に静止し、音声を消したい場合に使用します。(☞ 66 ページ)

18 〈P-TIMER〉ボタン

プレゼンテーションタイマー機能を操作します。(☞ 69 ページ)

19 〈STATUS〉ボタン

本体の情報を表示します。

20 〈D.ZOOM+〉ボタン / 〈D.ZOOM-〉ボタン

映像を拡大および縮小します。(☞ 68 ページ)

21 〈SHUTTER〉ボタン

映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。(☞ 65 ページ)

22 〈MUTE〉ボタン

音声を一時的に消したい場合に使用します。(☞ 65 ページ)

23 〈ASPECT〉ボタン

映像のアスペクト比を切り換えます。(☞ 69 ページ)

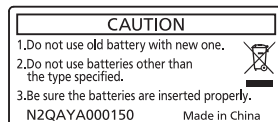
24 リモコン発信部

25 リモコンワイヤード端子

ワイヤードリモコンとして使用する場合に、ケーブルで本体と接続して使用する端子です。(👁 28 ページ)

お願い

- リモコンは落とさないようにしてください。
 - リモコンに液状のものをかけないでください。
 - リモコンを分解・修理しないでください。
 - リモコン裏面の注意書きに記載されている次の内容をお守りください。
 - 新旧の電池は混用しない。
 - 指定された電池以外は使用しない。
 - 電池の極性 (+、-) を正しく入れる。
- このほか、“安全上のご注意”に記載されている電池に関する内容をお読みください。



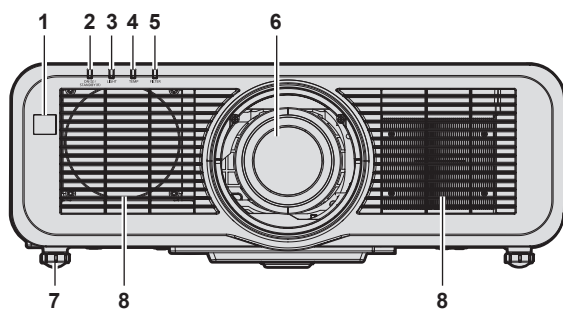
リモコン裏面の注意書き

お知らせ

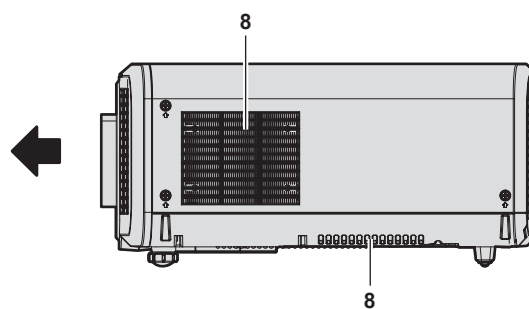
- リモコンを直接本体のリモコン受信部に向けて操作する場合は、リモコン受信部正面より約 30 m 以内で操作してください。また、上下左右に ± 30° まで操作できますが、操作可能距離が短くなることがあります。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しないことがあります。
- リモコンからの信号を、スクリーンに反射させて本機を操作できます。ただし、スクリーン特性による光反射ロスにより、操作有効範囲が制限されることがあります。
- 本体のリモコン受信部に蛍光灯などの強い光が当たっていると、操作できなくなることがあります。できるだけ光源から離して設置してください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が点滅します。

本体

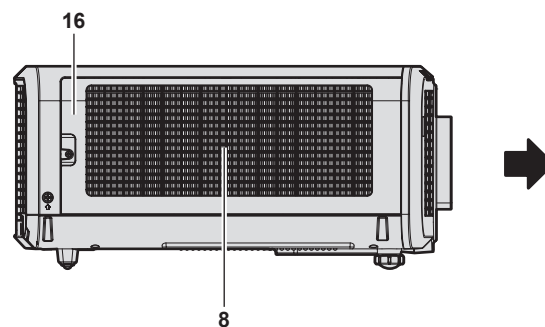
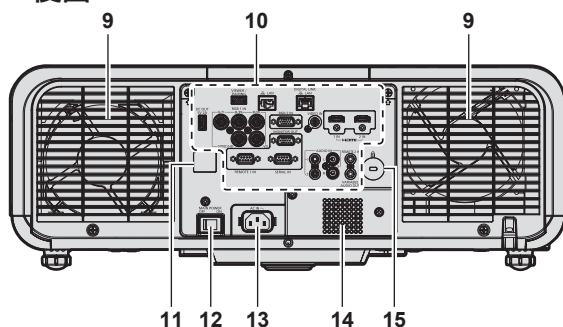
■ 前面



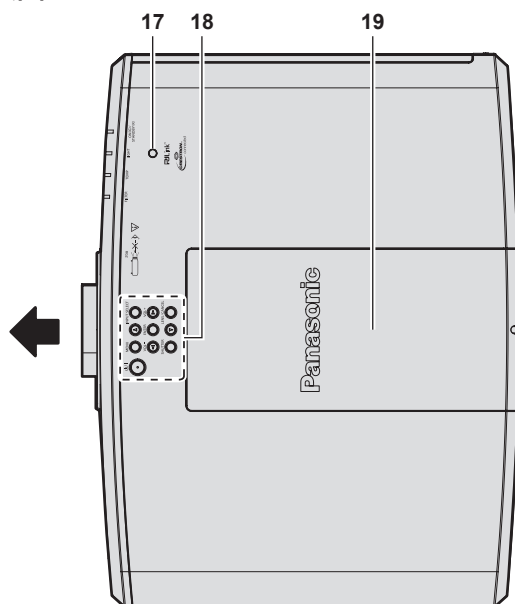
■ 側面



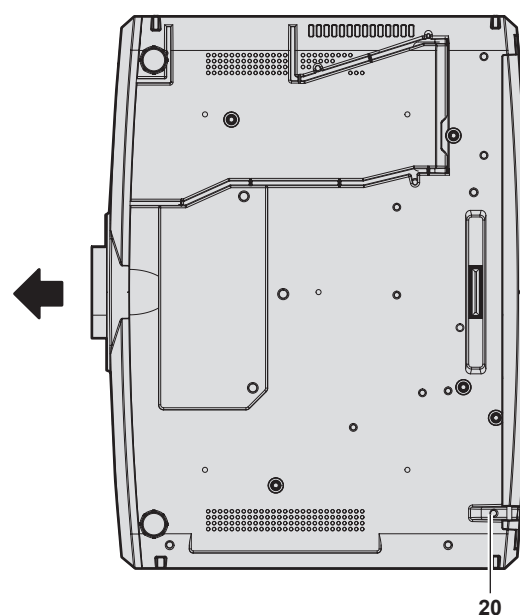
■ 後面



■ 天面



■ 底面



←：投写方向

- 1 リモコン受信部 (前)
- 2 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉
電源の状態を表示します。
- 3 光源インジケータ 〈LIGHT〉
光源の状態を表示します。
- 4 温度インジケータ 〈TEMP〉
内部温度の状態を表示します。
- 5 フィルターインジケータ 〈FILTER〉
エアフィルターユニットの状態を表示します。
- 6 投写レンズ
- 7 アジャスター脚
設置姿勢を調整します。

- 8 吸気口
- 9 排気口
- 10 接続端子部 (☞ 27 ページ)
- 11 リモコン受信部 (後)
- 12 主電源 〈MAIN POWER〉 スイッチ
主電源を切 / 入します。
- 13 〈AC IN〉 端子
付属の電源コードを接続します。
- 14 スピーカー
- 15 セキュリティスロット
このセキュリティスロットは、Kensington 社製セキュリ
ティーケーブルに対応しています。

16 エアフィルターカバー

内部にエアフィルターユニットがあります。

17 照度センサー (☞ 81 ページ)

18 本体操作部 (☞ 26 ページ)

19 トップスライドカバー

内部にワイヤレスモジュール接続端子があります。(☞ 46 ページ)

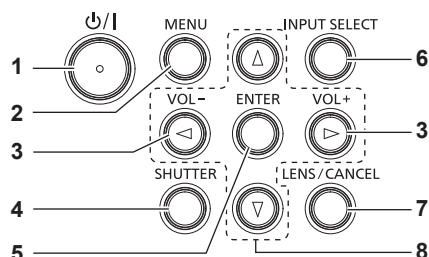
20 セキュリティーバー

盗難防止用にワイヤーなどを取り付けることができます。

お願い

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。
本機内部の冷却が妨げられることで、部品が早期に劣化するおそれがあります。

■ 本体操作部



1 電源 (☐/|) ボタン

(☐: スタンバイ、|: 電源入)

本体の主電源 (MAIN POWER) スイッチが (ON) 側で、投写状態のとき、本機の電源を切った状態 (スタンバイ状態) にします。
電源が切れている状態 (スタンバイ状態) のとき、本機を投写状態にします。

2 (MENU) ボタン

メインメニューを表示したり、消したりします。(☞ 73 ページ)
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。

3 (VOL-) ボタン / (VOL+) ボタン

内蔵スピーカーおよび音声出力の音量を調整します。(☞ 66 ページ)

4 (SHUTTER) ボタン

映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。(☞ 65 ページ)

5 (ENTER) ボタン

メニュー画面の項目の決定や実行をします。

6 (INPUT SELECT) ボタン

投写する入力を切り換えます。(☞ 60 ページ)

7 (LENS/CANCEL) ボタン

レンズのフォーカス、ズーム、レンズシフトを調整します。(☞ 61 ページ)

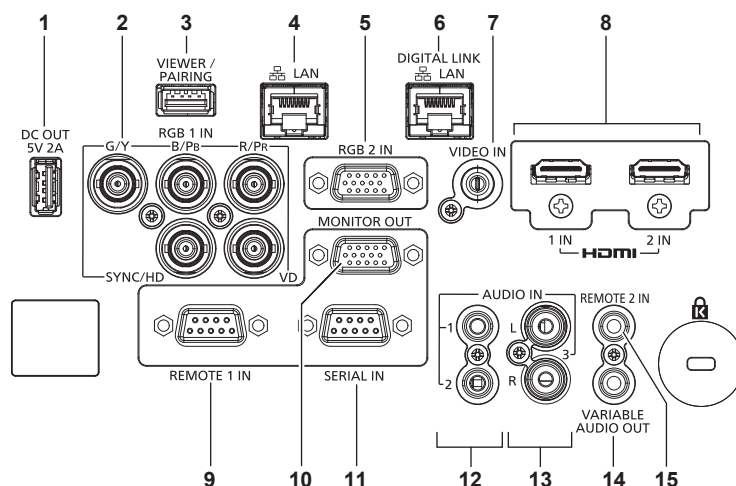
また、デジタルズーム中とメモリービューワー画面の操作や、MIRRORING 入力と Panasonic APPLICATION 入力の待ち受け画面でのキャンセルの操作に使用します。

8 ▲▼◀▶ ボタン

メニュー画面の項目選択や、設定の切り換えおよびレベルの調整をします。

また、[セキュリティー] メニューのパスワード入力や文字の入力にも使用します。

■ 接続端子部



1 〈DC OUT〉端子

給電専用の USB 端子です。(DC5 V、最大 2.0 A)
本機が投写状態で、ワイヤレスディスプレイアダプターなどへ電源供給が必要な場合にご使用いただけます。

2 〈RGB 1 IN〉(〈G/Y〉、〈B/Pb〉、〈R/Pr〉、〈SYNC/HD〉、〈VD〉) 端子

RGB 信号または YCbCr/YPbPr 信号を入力する端子です。

3 〈VIEWER/PAIRING〉端子

メモリービューワー機能、ペアリング機能、データクローニング機能を使用するときに、USB メモリーを取り付ける端子です。(182、190 ページ)

4 〈LAN〉端子

ネットワーク接続する LAN 端子です。
画像転送用アプリケーションソフトからの、画像転送にも対応しています。(148 ページ)

5 〈RGB 2 IN〉端子

RGB 信号または YCbCr/YPbPr 信号を入力する端子です。

6 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子

LAN 端子経由で映像信号や音声信号を送出する機器を接続するときの端子です。または、ネットワーク接続する LAN 端子です。

7 〈VIDEO IN〉端子

ビデオ信号を入力する端子です。

8 〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子

HDMI 信号を入力する端子です。

9 〈REMOTE 1 IN〉端子

外部制御回路を使用して本体を遠隔操作する端子です。

10 〈MONITOR OUT〉端子

〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に入力された RGB 信号および YCbCr/YPbPr 信号を出力する端子です。入力を RGB1 または RGB2 に切り換えた場合に、該当の入力信号が出力されます。

11 〈SERIAL IN〉端子

コンピューターを接続して本体を外部制御するための RS-232C 準拠の入力端子です。

12 〈AUDIO IN 1〉端子 / 〈AUDIO IN 2〉端子

音声を入力する端子です。

13 〈AUDIO IN 3〉端子

音声信号を入力する端子です。右入力〈R〉と左入力〈L〉があります。

14 〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子

本機に入力された音声信号を出力する端子です。

15 〈REMOTE 2 IN〉端子

本機をワイヤードリモコンで制御する場合に、ケーブルでリモコンと接続する端子です。

お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。
ノイズや配線長の影響で信号が劣化するおそれがあります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子は、本機の内部で接続されています。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子の両方を使用する場合は、直接、またはハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。

リモコンの準備

電池を入れる、取り出す

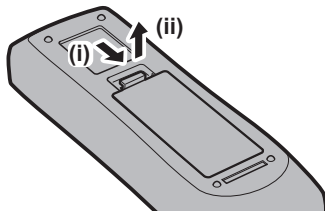


図 1

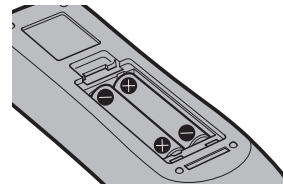


図 2

1) ふたを開ける (図 1)

2) 電池を入れ、ふたを閉じる (● 側から先に入れます) (図 2)

- 電池を取り出す場合は、逆の手順で行います。

本機を複数台使用するとき

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

ID ナンバーを設定して使用する場合は、初期設定終了後、まず本体の ID ナンバーを設定し、次にリモコンの ID ナンバーを設定します。初期設定については、「初期設定画面が表示されたら」(☞ 55 ページ)をご覧ください。工場出荷時、本機 (本体とリモコン) の ID ナンバーは「オール」に設定されていますので、そのままお使いいただけます。必要に応じて、本体とリモコンの ID ナンバーを設定してください。

リモコンの ID ナンバーの設定について、詳しくは「リモコンの ID ナンバーを設定する」(☞ 71 ページ)をご覧ください。

お知らせ

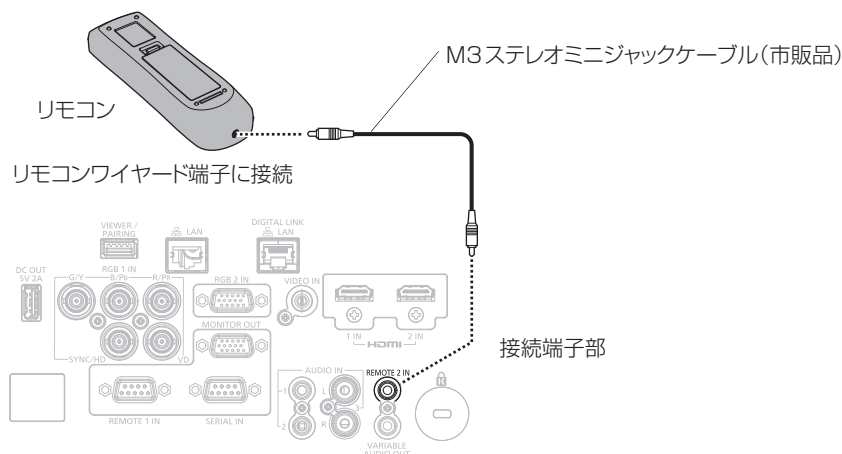
- 本体の ID ナンバーは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [プロジェクター ID] で設定してください。

ケーブルで本体と接続して使う

本機をワイヤードリモコンで制御する場合は、リモコンのリモコンワイヤード端子と本体の〈REMOTE 2 IN〉端子とを市販の M3 ステレオミニプラグケーブルで接続します。

本体とリモコンとの間に障害物がある場所や、外光の影響を受けやすい場所で使用する場合に効果的です。

- 本体の〈REMOTE 2 IN〉端子にケーブルが接続されているときは、ワイヤレスリモコンを使用できません。



お願い

- ケーブルは長さが 15 m 以下、2 芯シールドのものを使用してください。ケーブルの長さが 15 m を超えるものや、ケーブルのシールドが不十分なものを使用すると、動作しない場合があります。

第 2 章 準備

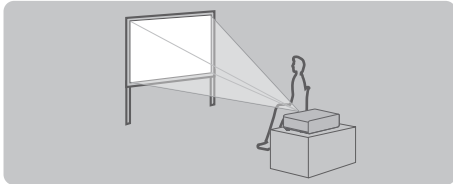
設置や接続など、ご使用前に行っていただく内容について説明しています。

設置する

設置形態

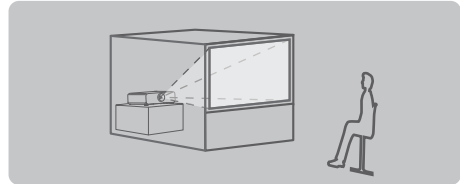
本機の設置形態は次のとおりです。設置形態に応じて「プロジェクトセットアップ」メニュー→「投写方式」(☞ 107 ページ) の「フロント/リア」/「床置/天つり」を設定してください。

床置き設置で前方に投写する場合



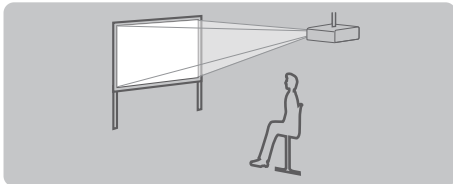
メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「フロント」
「床置/天つり」	「オート」または「床置」

床置き設置で後方から投写する場合
(透過式スクリーン使用)



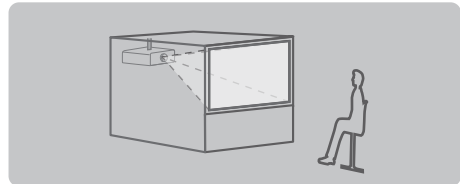
メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「リア」
「床置/天つり」	「オート」または「床置」

天つり設置で前方に投写する場合



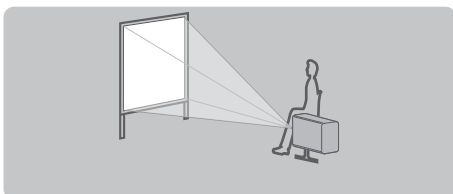
メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「フロント」
「床置/天つり」	「オート」または「天つり」

天つり設置で後方から投写する場合
(透過式スクリーン使用)



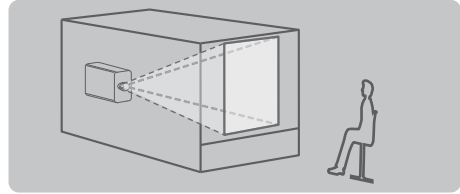
メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「リア」
「床置/天つり」	「オート」または「天つり」

ポートレート設置で前方に投写する場合



メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「フロント」
「床置/天つり」	投写する映像に合わせて設定してください。

ポートレート設置で後方から投写する場合
(透過式スクリーン使用)



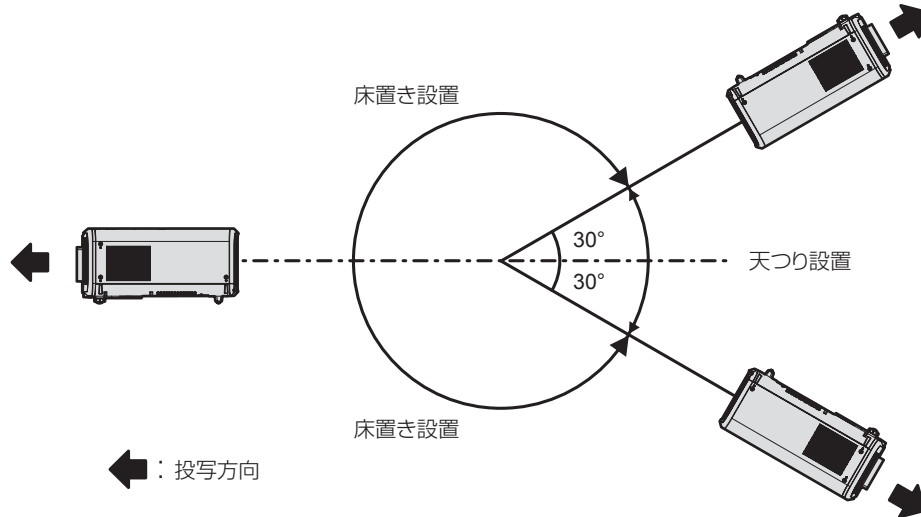
メニュー項目	設定値
「フロント/リア」	「リア」
「床置/天つり」	投写する映像に合わせて設定してください。

お知らせ

- ポートレート設置時、オンスクリーンメニューは横向きで表示されます。
縦向きで表示するには、「表示オプション」メニュー→「オンスクリーン表示」(☞ 99 ページ) で「OSD 回転」の設定を変更してください。
- 本機は角度センサーを内蔵しています。「プロジェクトセットアップ」メニュー→「投写方式」の「床置/天つり」を「オート」に設定すると、本機の姿勢を自動的に検出します。

■ 角度センサーについて

本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲は、次のとおりです。



設置オプション（別売品）について

別売品の天つり金具が必要です。天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）または ET-PKD120S（低天井用））と、天つり金具（品番：ET-PKE301B（取付用ベース金具））とを組み合わせで設置してください。

品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKE301B（取付用ベース金具）

既設の天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）または ET-PKD120S（低天井用）と、品番：ET-PKE300B（取付用ベース金具）との組み合わせ）に本機を取り付ける場合は、落下防止用のワイヤーロープを本機に対応した仕様のものに交換する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

落下防止セット（サービス品番：DPPW1004ZA/X1）

- 必ず、本機専用の天つり金具をご使用ください。
- 本機に取り付けおよび設置については、天つり金具の施工説明書をご覧ください。

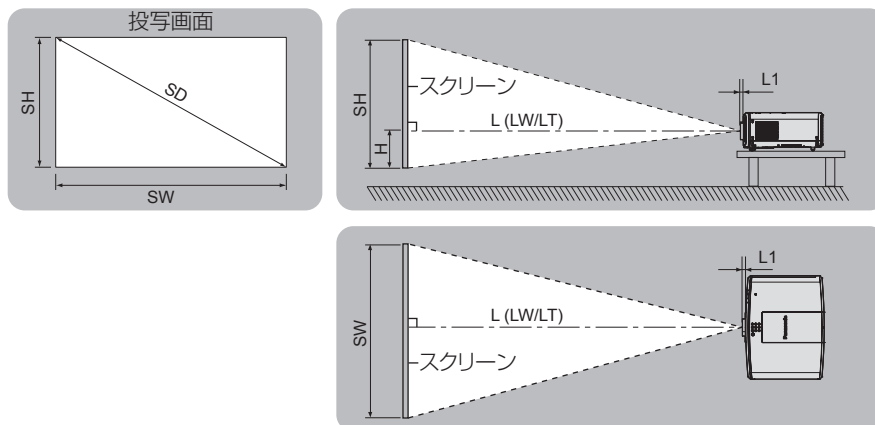
お願い

- 天つり金具の取り付け工事は、性能、安全確保のため、必ずお求めの販売店または工事専門業者に施工を依頼してください。

投写関係

本機の設置は、スクリーンサイズや投写距離を参考にして設置してください。なお、スクリーンサイズ、スクリーン位置に応じて画面サイズ、画面位置を調整できます。

- 次のイラストは、投写画面のサイズと位置をスクリーンいっぱいに合わせて表現しています。



L (LW/LT) *1	投写距離
L1	レンズ突出寸法
SH	投写画面高さ
SW	投写画面幅
H	レンズセンターから投写画像下端までの距離
SD	投写画面サイズ

*1 LW：ズームレンズ使用時、最短投写距離
LT：ズームレンズ使用時、最長投写距離

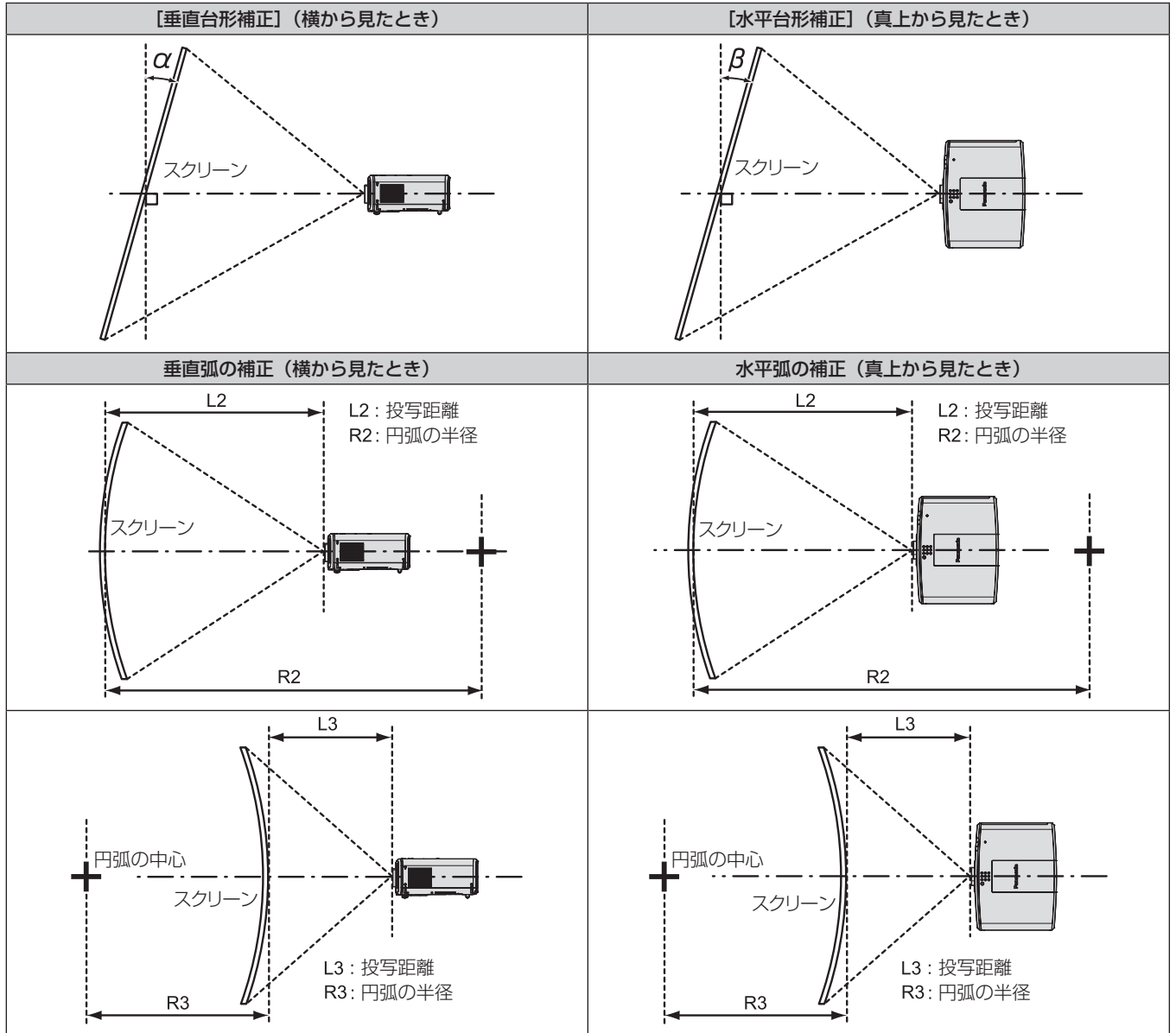
(単位：m)

投写レンズ品番	L1 の寸法 (概略値)
標準ズームレンズ	0.015
ET-ELW21	0.005
ET-ELW22	0.050
ET-ELW20	0.035
ET-ELT22	0.036
ET-ELT23	0.032

お願い

- 設置する前に“ご使用になる前に” (14 ページ) をお読みください。
- 本機と高出力のレーザー機器を同じ部屋で使用しないでください。レーザー光が投写レンズ面に入ると液晶パネルの故障の原因になります。

[スクリーン補正] による投写範囲



PT-MZ770J の場合

投写レンズ品番	【台形補正】のみ ^{*1}		【台形補正】と【曲面スクリーン補正】の併用時				【曲面スクリーン補正】のみ	
	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値
標準ズームレンズ	± 25	± 30	± 20	± 15	0.9	1.8	0.5	1.0
ET-ELW21	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1.0	2.6
ET-ELW22	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1.0	2.6
ET-ELW20	± 25	± 30	± 20	± 15	1.2	3.1	0.7	1.8
ET-ELT22	± 25	± 30	± 20	± 15	0.6	1.1	0.3	0.6
ET-ELT23	± 25	± 30	± 20	± 15	0.4	0.7	0.2	0.4

*1 【垂直台形補正】と【水平台形補正】を同時使用時は合計で55°を超えて補正することはできません。

PT-MW730J の場合

投写レンズ品番	【台形補正】のみ *1		【台形補正】と【曲面スクリーン補正】の併用時				【曲面スクリーン補正】のみ	
	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値
標準ズームレンズ	± 35	± 35	± 20	± 15	0.9	1.8	0.5	1.0
ET-ELW21	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1.0	2.6
ET-ELW22	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1.0	2.6
ET-ELW20	± 35	± 35	± 20	± 15	1.2	3.1	0.7	1.8
ET-ELT22	± 35	± 35	± 20	± 15	0.6	1.1	0.3	0.6
ET-ELT23	± 35	± 35	± 20	± 15	0.4	0.7	0.2	0.4

*1 【垂直台形補正】と【水平台形補正】を同時使用時は合計で 55° を超えて補正することはできません。

お知らせ

- 【スクリーン補正】を使用した場合、補正量が大きくなるとフォーカスが画面全体では合わない場合があります。
- 曲面のスクリーンは、真円の一部を切り取った円弧の形状にしてください。

投写レンズごとの投写距離

記載の投写距離は± 5 % の誤差が発生します。

また、[スクリーン補正] 使用時は、所定の画面サイズよりも小さくなる方向で補正されます。

PT-MZ770J の場合

■ 画面アスペクト比 16 : 10 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ *1			1.61-2.76 : 1		0.786-0.983 : 1		1.21-1.66 : 1		2.72-4.48 : 1		4.44-7.12 : 1		0.764 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.538	0.862	1.36	2.35	—	—	1.02	1.41	2.29	3.81	3.72	6.03	0.63
1.270 (50 型)	0.673	1.077	1.71	2.95	—	—	1.29	1.77	2.89	4.79	4.70	7.59	0.80
1.524 (60 型)	0.808	1.292	2.06	3.55	1.00	1.26	1.55	2.14	3.49	5.77	5.68	9.15	0.97
1.778 (70 型)	0.942	1.508	2.42	4.15	1.18	1.48	1.82	2.50	4.09	6.75	6.66	10.71	1.14
2.032 (80 型)	1.077	1.723	2.77	4.76	1.35	1.69	2.09	2.87	4.69	7.73	7.64	12.27	1.32
2.286 (90 型)	1.212	1.939	3.12	5.36	1.53	1.91	2.36	3.23	5.30	8.71	8.63	13.83	1.49
2.540(100 型)	1.346	2.154	3.48	5.96	1.71	2.13	2.63	3.60	5.90	9.69	9.61	15.39	1.66
3.048(120 型)	1.615	2.585	4.18	7.16	2.06	2.56	3.16	4.33	7.10	11.65	11.57	18.51	2.00
3.810(150 型)	2.019	3.231	5.24	8.96	2.58	3.22	3.97	5.42	8.90	14.59	14.52	23.19	2.52
5.080(200 型)	2.692	4.308	7.01	11.96	3.46	4.30	5.31	7.25	11.91	19.49	19.43	30.99	3.38
6.350(250 型)	3.365	5.385	8.77	14.96	4.34	5.39	6.65	9.07	14.91	24.39	24.34	38.79	4.24
7.620(300 型)	4.039	6.462	10.54	17.97	5.21	6.48	7.99	10.90	17.92	29.29	29.25	46.59	5.10
8.890(350 型)	4.712	7.539	12.30	20.97	6.09	7.56	9.33	12.73	20.92	34.19	34.16	54.39	5.95
10.160 (400 型)	5.385	8.616	14.07	23.97	6.97	8.65	10.67	14.55	23.93	39.09	39.07	62.19	6.81

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) *2		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.538	0.862	-0.09 ~ 0.63	—	0.27
1.270 (50 型)	0.673	1.077	-0.11 ~ 0.79	—	0.34
1.524 (60 型)	0.808	1.292	-0.14 ~ 0.95	-0.08 ~ 0.89	0.40
1.778 (70 型)	0.942	1.508	-0.16 ~ 1.10	-0.09 ~ 1.04	0.47
2.032 (80 型)	1.077	1.723	-0.18 ~ 1.26	-0.11 ~ 1.18	0.54
2.286 (90 型)	1.212	1.939	-0.21 ~ 1.42	-0.12 ~ 1.33	0.61
2.540 (100 型)	1.346	2.154	-0.23 ~ 1.58	-0.13 ~ 1.48	0.67
3.048 (120 型)	1.615	2.585	-0.27 ~ 1.89	-0.16 ~ 1.78	0.81
3.810 (150 型)	2.019	3.231	-0.34 ~ 2.36	-0.20 ~ 2.22	1.01
5.080 (200 型)	2.692	4.308	-0.46 ~ 3.15	-0.27 ~ 2.96	1.35
6.350 (250 型)	3.365	5.385	-0.57 ~ 3.94	-0.34 ~ 3.70	1.68
7.620 (300 型)	4.039	6.462	-0.69 ~ 4.73	-0.40 ~ 4.44	2.02
8.890 (350 型)	4.712	7.539	-0.80 ~ 5.51	-0.47 ~ 5.18	2.36
10.160 (400 型)	5.385	8.616	-0.92 ~ 6.30	-0.54 ~ 5.92	2.69

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 16 : 9 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ ^{*1}			1.61-2.76 : 1		0.787-0.984 : 1		1.21-1.66 : 1		2.73-4.49 : 1		4.44-7.12 : 1		0.765 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.498	0.886	1.40	2.42	—	—	1.05	1.45	2.36	3.92	3.83	6.20	0.65
1.270 (50 型)	0.623	1.107	1.76	3.04	—	—	1.32	1.82	2.97	4.92	4.83	7.81	0.83
1.524 (60 型)	0.747	1.328	2.12	3.65	1.03	1.30	1.60	2.20	3.59	5.93	5.84	9.41	1.00
1.778 (70 型)	0.872	1.550	2.49	4.27	1.21	1.52	1.87	2.57	4.21	6.94	6.85	11.01	1.18
2.032 (80 型)	0.996	1.771	2.85	4.89	1.39	1.74	2.15	2.95	4.83	7.95	7.86	12.62	1.35
2.286 (90 型)	1.121	1.992	3.21	5.51	1.57	1.97	2.43	3.32	5.45	8.95	8.87	14.22	1.53
2.540 (100 型)	1.245	2.214	3.57	6.12	1.75	2.19	2.70	3.70	6.06	9.96	9.88	15.82	1.71
3.048 (120 型)	1.494	2.657	4.30	7.36	2.11	2.64	3.25	4.45	7.30	11.97	11.90	19.03	2.06
3.810 (150 型)	1.868	3.321	5.39	9.21	2.66	3.31	4.08	5.58	9.15	15.00	14.93	23.84	2.59
5.080 (200 型)	2.491	4.428	7.20	12.29	3.56	4.42	5.46	7.45	12.24	20.03	19.98	31.86	3.47
6.350 (250 型)	3.113	5.535	9.02	15.38	4.46	5.54	6.83	9.33	15.33	25.07	25.02	39.87	4.36
7.620 (300 型)	3.736	6.641	10.83	18.47	5.36	6.66	8.21	11.20	18.42	30.10	30.07	47.89	5.24
8.890 (350 型)	4.358	7.748	12.65	21.55	6.26	7.77	9.59	13.08	21.51	35.14	35.12	55.91	6.12
10.160 (400 型)	4.981	8.855	14.46	24.64	7.16	8.89	10.97	14.96	24.60	40.18	40.17	63.92	7.00

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) ^{*2}		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.498	0.886	-0.12 ~ 0.62	—	0.25
1.270 (50 型)	0.623	1.107	-0.15 ~ 0.77	—	0.31
1.524 (60 型)	0.747	1.328	-0.18 ~ 0.93	-0.12 ~ 0.87	0.37
1.778 (70 型)	0.872	1.550	-0.21 ~ 1.08	-0.15 ~ 1.02	0.44
2.032 (80 型)	0.996	1.771	-0.24 ~ 1.24	-0.17 ~ 1.16	0.50
2.286 (90 型)	1.121	1.992	-0.27 ~ 1.39	-0.19 ~ 1.31	0.56
2.540 (100 型)	1.245	2.214	-0.30 ~ 1.55	-0.21 ~ 1.45	0.62
3.048 (120 型)	1.494	2.657	-0.37 ~ 1.86	-0.25 ~ 1.74	0.75
3.810 (150 型)	1.868	3.321	-0.46 ~ 2.32	-0.31 ~ 2.18	0.93
5.080 (200 型)	2.491	4.428	-0.61 ~ 3.10	-0.42 ~ 2.91	1.25
6.350 (250 型)	3.113	5.535	-0.76 ~ 3.87	-0.52 ~ 3.63	1.56
7.620 (300 型)	3.736	6.641	-0.91 ~ 4.65	-0.62 ~ 4.36	1.87
8.890 (350 型)	4.358	7.748	-1.07 ~ 5.42	-0.73 ~ 5.08	2.18
10.160 (400 型)	4.981	8.855	-1.22 ~ 6.20	-0.83 ~ 5.81	2.49

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 4 : 3 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ ^{*1}			1.93-3.32 : 1		0.947-1.18 : 1		1.46-2.00 : 1		3.28-5.39 : 1		5.34-8.56 : 1		0.922 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.610	0.813	1.54	2.67	—	—	1.16	1.60	2.61	4.33	4.24	6.85	0.72
1.270 (50 型)	0.762	1.016	1.94	3.35	—	—	1.46	2.01	3.29	5.43	5.35	8.62	0.91
1.524 (60 型)	0.914	1.219	2.34	4.03	1.14	1.43	1.77	2.43	3.97	6.54	6.46	10.39	1.11
1.778 (70 型)	1.067	1.422	2.74	4.71	1.34	1.68	2.07	2.84	4.65	7.65	7.57	12.15	1.30
2.032 (80 型)	1.219	1.626	3.14	5.39	1.54	1.92	2.37	3.25	5.33	8.76	8.68	13.92	1.50
2.286 (90 型)	1.372	1.829	3.54	6.07	1.74	2.17	2.68	3.67	6.01	9.87	9.79	15.68	1.69
2.540 (100 型)	1.524	2.032	3.94	6.75	1.94	2.42	2.98	4.08	6.69	10.98	10.91	17.45	1.89
3.048 (120 型)	1.829	2.438	4.74	8.11	2.33	2.91	3.59	4.91	8.05	13.20	13.13	20.98	2.28
3.810 (150 型)	2.286	3.048	5.94	10.15	2.93	3.65	4.50	6.15	10.09	16.53	16.47	26.28	2.86
5.080 (200 型)	3.048	4.064	7.94	13.55	3.92	4.88	6.02	8.21	13.49	22.08	22.03	35.11	3.83
6.350 (250 型)	3.810	5.080	9.94	16.95	4.91	6.11	7.53	10.28	16.90	27.62	27.58	43.94	4.80
7.620 (300 型)	4.572	6.096	11.94	20.34	5.91	7.34	9.05	12.35	20.30	33.17	33.14	52.77	5.78
8.890 (350 型)	5.334	7.112	13.93	23.74	6.90	8.57	10.57	14.41	23.70	38.72	38.70	61.60	6.75
10.160 (400 型)	6.096	8.128	15.93	27.14	7.89	9.80	12.09	16.48	27.10	44.27	44.26	70.43	7.72

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) ^{*2}		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.610	0.813	-0.10 ~ 0.71	—	0.30
1.270 (50 型)	0.762	1.016	-0.13 ~ 0.89	—	0.38
1.524 (60 型)	0.914	1.219	-0.16 ~ 1.07	-0.09 ~ 1.01	0.46
1.778 (70 型)	1.067	1.422	-0.18 ~ 1.25	-0.11 ~ 1.17	0.53
2.032 (80 型)	1.219	1.626	-0.21 ~ 1.43	-0.12 ~ 1.34	0.61
2.286 (90 型)	1.372	1.829	-0.23 ~ 1.60	-0.14 ~ 1.51	0.69
2.540 (100 型)	1.524	2.032	-0.26 ~ 1.78	-0.15 ~ 1.68	0.76
3.048 (120 型)	1.829	2.438	-0.31 ~ 2.14	-0.18 ~ 2.01	0.91
3.810 (150 型)	2.286	3.048	-0.39 ~ 2.67	-0.23 ~ 2.51	1.14
5.080 (200 型)	3.048	4.064	-0.52 ~ 3.57	-0.30 ~ 3.35	1.52
6.350 (250 型)	3.810	5.080	-0.65 ~ 4.46	-0.38 ~ 4.19	1.91
7.620 (300 型)	4.572	6.096	-0.78 ~ 5.35	-0.46 ~ 5.03	2.29
8.890 (350 型)	5.334	7.112	-0.91 ~ 6.24	-0.53 ~ 5.87	2.67
10.160 (400 型)	6.096	8.128	-1.04 ~ 7.13	-0.61 ~ 6.71	3.05

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

PT-MW730J の場合

■ 画面アスペクト比 16 : 10 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ *1			1.63-2.79 : 1		0.789-0.987 : 1		1.23-1.68 : 1		2.76-4.54 : 1		4.49-7.21 : 1		0.774 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.538	0.862	1.38	2.38	—	—	1.03	1.42	2.32	3.85	3.76	6.10	0.64
1.270 (50 型)	0.673	1.077	1.74	2.99	—	—	1.30	1.79	2.93	4.85	4.76	7.68	0.81
1.524 (60 型)	0.808	1.292	2.09	3.60	1.01	1.26	1.58	2.16	3.54	5.84	5.75	9.26	0.99
1.778 (70 型)	0.942	1.508	2.45	4.21	1.18	1.48	1.85	2.53	4.14	6.83	6.75	10.84	1.16
2.032 (80 型)	1.077	1.723	2.81	4.82	1.36	1.70	2.12	2.90	4.75	7.82	7.74	12.42	1.33
2.286 (90 型)	1.212	1.939	3.16	5.42	1.54	1.92	2.39	3.27	5.36	8.81	8.73	14.00	1.51
2.540(100 型)	1.346	2.154	3.52	6.03	1.71	2.14	2.66	3.64	5.97	9.80	9.73	15.58	1.68
3.048(120 型)	1.615	2.585	4.24	7.25	2.06	2.57	3.21	4.38	7.19	11.79	11.72	18.73	2.03
3.810(150 型)	2.019	3.231	5.31	9.07	2.59	3.23	4.02	5.48	9.01	14.76	14.70	23.47	2.55
5.080(200 型)	2.692	4.308	7.09	12.11	3.47	4.32	5.38	7.33	12.05	19.72	19.67	31.36	3.42
6.350(250 型)	3.365	5.385	8.88	15.15	4.35	5.41	6.74	9.17	15.10	24.68	24.64	39.26	4.29
7.620(300 型)	4.039	6.462	10.66	18.20	5.23	6.50	8.10	11.02	18.14	29.64	29.61	47.15	5.16
8.890(350 型)	4.712	7.539	12.45	21.24	6.11	7.59	9.46	12.86	21.18	34.59	34.58	55.04	6.03
10.160 (400 型)	5.385	8.616	14.24	24.28	6.99	8.68	10.82	14.71	24.22	39.55	39.55	62.94	6.89

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) *2		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.538	0.862	-0.09 ~ 0.63	—	0.27
1.270 (50 型)	0.673	1.077	-0.11 ~ 0.79	—	0.34
1.524 (60 型)	0.808	1.292	-0.14 ~ 0.95	-0.08 ~ 0.89	0.40
1.778 (70 型)	0.942	1.508	-0.16 ~ 1.10	-0.09 ~ 1.04	0.47
2.032 (80 型)	1.077	1.723	-0.18 ~ 1.26	-0.11 ~ 1.18	0.54
2.286 (90 型)	1.212	1.939	-0.21 ~ 1.42	-0.12 ~ 1.33	0.61
2.540 (100 型)	1.346	2.154	-0.23 ~ 1.58	-0.13 ~ 1.48	0.67
3.048 (120 型)	1.615	2.585	-0.27 ~ 1.89	-0.16 ~ 1.78	0.81
3.810 (150 型)	2.019	3.231	-0.34 ~ 2.36	-0.20 ~ 2.22	1.01
5.080 (200 型)	2.692	4.308	-0.46 ~ 3.15	-0.27 ~ 2.96	1.35
6.350 (250 型)	3.365	5.385	-0.57 ~ 3.94	-0.34 ~ 3.70	1.68
7.620 (300 型)	4.039	6.462	-0.69 ~ 4.73	-0.40 ~ 4.44	2.02
8.890 (350 型)	4.712	7.539	-0.80 ~ 5.51	-0.47 ~ 5.18	2.36
10.160 (400 型)	5.385	8.616	-0.92 ~ 6.30	-0.54 ~ 5.92	2.69

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 16 : 9 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ *1			1.63-2.80 : 1		0.790-0.987 : 1		1.23-1.68 : 1		2.76-4.54 : 1		4.50-7.21 : 1		0.775 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.498	0.886	1.42	2.45	—	—	1.06	1.46	2.39	3.96	3.87	6.28	0.66
1.270 (50 型)	0.623	1.107	1.79	3.08	—	—	1.34	1.84	3.01	4.98	4.90	7.90	0.84
1.524 (60 型)	0.747	1.328	2.15	3.70	1.04	1.30	1.62	2.22	3.64	6.00	5.92	9.52	1.01
1.778 (70 型)	0.872	1.550	2.52	4.33	1.22	1.52	1.90	2.60	4.26	7.02	6.94	11.15	1.19
2.032 (80 型)	0.996	1.771	2.89	4.95	1.40	1.75	2.18	2.98	4.89	8.04	7.96	12.77	1.37
2.286 (90 型)	1.121	1.992	3.25	5.58	1.58	1.97	2.46	3.36	5.51	9.06	8.98	14.39	1.55
2.540 (100 型)	1.245	2.214	3.62	6.20	1.76	2.20	2.74	3.74	6.14	10.08	10.00	16.01	1.73
3.048 (120 型)	1.494	2.657	4.35	7.45	2.12	2.65	3.30	4.50	7.39	12.12	12.05	19.26	2.09
3.810 (150 型)	1.868	3.321	5.46	9.33	2.67	3.32	4.14	5.64	9.27	15.18	15.11	24.13	2.62
5.080 (200 型)	2.491	4.428	7.29	12.45	3.57	4.44	5.53	7.53	12.39	20.27	20.22	32.24	3.52
6.350 (250 型)	3.113	5.535	9.13	15.58	4.47	5.56	6.93	9.43	15.52	25.37	25.33	40.35	4.41
7.620 (300 型)	3.736	6.641	10.96	18.70	5.38	6.68	8.33	11.33	18.64	30.46	30.44	48.47	5.30
8.890 (350 型)	4.358	7.748	12.80	21.83	6.28	7.80	9.72	13.22	21.77	35.56	35.55	56.58	6.19
10.160 (400 型)	4.981	8.855	14.63	24.95	7.19	8.93	11.12	15.12	24.90	40.66	40.66	64.69	7.09

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) ^{*2}		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.498	0.886	-0.12 ~ 0.62	—	0.25
1.270 (50 型)	0.623	1.107	-0.15 ~ 0.77	—	0.31
1.524 (60 型)	0.747	1.328	-0.18 ~ 0.93	-0.12 ~ 0.87	0.37
1.778 (70 型)	0.872	1.550	-0.21 ~ 1.08	-0.15 ~ 1.02	0.44
2.032 (80 型)	0.996	1.771	-0.24 ~ 1.24	-0.17 ~ 1.16	0.50
2.286 (90 型)	1.121	1.992	-0.27 ~ 1.39	-0.19 ~ 1.31	0.56
2.540 (100 型)	1.245	2.214	-0.30 ~ 1.55	-0.21 ~ 1.45	0.62
3.048 (120 型)	1.494	2.657	-0.37 ~ 1.86	-0.25 ~ 1.74	0.75
3.810 (150 型)	1.868	3.321	-0.46 ~ 2.32	-0.31 ~ 2.18	0.93
5.080 (200 型)	2.491	4.428	-0.61 ~ 3.10	-0.42 ~ 2.91	1.25
6.350 (250 型)	3.113	5.535	-0.76 ~ 3.87	-0.52 ~ 3.63	1.56
7.620 (300 型)	3.736	6.641	-0.91 ~ 4.65	-0.62 ~ 4.36	1.87
8.890 (350 型)	4.358	7.748	-1.07 ~ 5.42	-0.73 ~ 5.08	2.18
10.160 (400 型)	4.981	8.855	-1.22 ~ 6.20	-0.83 ~ 5.81	2.49

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 4 : 3 のとき

(単位 : m)

レンズタイプ			ズームレンズ										固定焦点レンズ
投写レンズ品番			標準ズームレンズ		ET-ELW22		ET-ELW20		ET-ELT22		ET-ELT23		ET-ELW21
スローレシオ *1			1.96-3.36 : 1		0.951-1.19 : 1		1.48-2.02 : 1		3.32-5.46 : 1		5.41-8.67 : 1		0.933 : 1
投写画面サイズ			投写距離 (L)										
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	最短 (LW)	最長 (LT)	固定
1.016 (40 型)	0.610	0.813	1.57	2.70	—	—	1.18	1.62	2.64	4.38	4.29	6.94	0.73
1.270 (50 型)	0.762	1.016	1.97	3.39	—	—	1.48	2.04	3.33	5.50	5.41	8.73	0.93
1.524 (60 型)	0.914	1.219	2.38	4.08	1.15	1.44	1.79	2.45	4.02	6.62	6.54	10.51	1.12
1.778 (70 型)	1.067	1.422	2.78	4.77	1.35	1.68	2.10	2.87	4.71	7.75	7.67	12.30	1.32
2.032 (80 型)	1.219	1.626	3.18	5.46	1.55	1.93	2.41	3.29	5.40	8.87	8.79	14.09	1.52
2.286 (90 型)	1.372	1.829	3.59	6.15	1.75	2.18	2.71	3.71	6.08	9.99	9.92	15.87	1.71
2.540(100 型)	1.524	2.032	3.99	6.84	1.94	2.42	3.02	4.12	6.77	11.11	11.04	17.66	1.91
3.048(120 型)	1.829	2.438	4.80	8.21	2.34	2.92	3.64	4.96	8.15	13.36	13.29	21.24	2.30
3.810(150 型)	2.286	3.048	6.01	10.28	2.94	3.66	4.56	6.21	10.22	16.73	16.67	26.60	2.89
5.080(200 型)	3.048	4.064	8.04	13.72	3.94	4.90	6.10	8.30	13.66	22.34	22.30	35.53	3.88
6.350(250 型)	3.810	5.080	10.06	17.16	4.93	6.13	7.64	10.39	17.10	27.95	27.92	44.47	4.86
7.620(300 型)	4.572	6.096	12.08	20.61	5.93	7.37	9.18	12.48	20.55	33.57	33.55	53.40	5.85
8.890(350 型)	5.334	7.112	14.10	24.05	6.93	8.60	10.72	14.57	23.99	39.18	39.18	62.34	6.83
10.160 (400 型)	6.096	8.128	16.12	27.49	7.92	9.84	12.25	16.66	27.43	44.79	44.80	71.28	7.81

投写レンズ品番			標準ズームレンズ / ET-ELW20/ET-ELT22/ET-ELT23	ET-ELW22	ET-ELW21 (固定)
投写画面サイズ			高さ位置 (H) *2		
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)			
1.016 (40 型)	0.610	0.813	-0.10 ~ 0.71	—	0.30
1.270 (50 型)	0.762	1.016	-0.13 ~ 0.89	—	0.38
1.524 (60 型)	0.914	1.219	-0.16 ~ 1.07	-0.09 ~ 1.01	0.46
1.778 (70 型)	1.067	1.422	-0.18 ~ 1.25	-0.11 ~ 1.17	0.53
2.032 (80 型)	1.219	1.626	-0.21 ~ 1.43	-0.12 ~ 1.34	0.61
2.286 (90 型)	1.372	1.829	-0.23 ~ 1.60	-0.14 ~ 1.51	0.69
2.540 (100 型)	1.524	2.032	-0.26 ~ 1.78	-0.15 ~ 1.68	0.76
3.048 (120 型)	1.829	2.438	-0.31 ~ 2.14	-0.18 ~ 2.01	0.91
3.810 (150 型)	2.286	3.048	-0.39 ~ 2.67	-0.23 ~ 2.51	1.14
5.080 (200 型)	3.048	4.064	-0.52 ~ 3.57	-0.30 ~ 3.35	1.52
6.350 (250 型)	3.810	5.080	-0.65 ~ 4.46	-0.38 ~ 4.19	1.91
7.620 (300 型)	4.572	6.096	-0.78 ~ 5.35	-0.46 ~ 5.03	2.29
8.890 (350 型)	5.334	7.112	-0.91 ~ 6.24	-0.53 ~ 5.87	2.67
10.160 (400 型)	6.096	8.128	-1.04 ~ 7.13	-0.61 ~ 6.71	3.05

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置 (H) は SH/2 になります。

投写レンズ別投写距離計算式

本書に記載のない画面サイズでご使用の場合は、投写画面サイズ SD (m) をご確認のうえ、それぞれの計算式で投写距離を求めてください。

式の単位はすべて m です。(次の計算式で求められる値には、若干の誤差があります。)

投写距離を、画面サイズ呼称 (インチ数値) を用いて計算する場合は、インチ数値を 0.0254 倍したものを投写距離計算式の SD に代入してください。

PT-MZ770J の場合

■ ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離 (L) 計算式	
			最短 (LW)	最長 (LT)
標準ズームレンズ	1.61 ~ 2.76 : 1	16 : 10	$=1.389961 \times SD - 0.054882$	$=2.363976 \times SD - 0.048228$
	1.61 ~ 2.76 : 1	16 : 9	$=1.428602 \times SD - 0.054882$	$=2.429695 \times SD - 0.048228$
	1.93 ~ 3.32 : 1	4 : 3	$=1.573583 \times SD - 0.054882$	$=2.676260 \times SD - 0.048228$
ET-ELW22	0.786 ~ 0.983 : 1	16 : 10	$=0.690394 \times SD - 0.048460$	$=0.855787 \times SD - 0.045477$
	0.787 ~ 0.984 : 1	16 : 9	$=0.709587 \times SD - 0.048460$	$=0.879578 \times SD - 0.045477$
	0.947 ~ 1.18 : 1	4 : 3	$=0.781595 \times SD - 0.048460$	$=0.968837 \times SD - 0.045477$
ET-ELW20	1.21 ~ 1.66 : 1	16 : 10	$=1.055748 \times SD - 0.055497$	$=1.437441 \times SD - 0.053400$
	1.21 ~ 1.66 : 1	16 : 9	$=1.085098 \times SD - 0.055497$	$=1.477402 \times SD - 0.053400$
	1.46 ~ 2.00 : 1	4 : 3	$=1.195197 \times SD - 0.055497$	$=1.627323 \times SD - 0.053400$
ET-ELT22	2.72 ~ 4.48 : 1	16 : 10	$=2.366220 \times SD - 0.114022$	$=3.858307 \times SD - 0.112874$
	2.73 ~ 4.49 : 1	16 : 9	$=2.432001 \times SD - 0.114022$	$=3.965568 \times SD - 0.112874$
	3.28 ~ 5.39 : 1	4 : 3	$=2.678780 \times SD - 0.114022$	$=4.367992 \times SD - 0.112874$
ET-ELT23	4.44 ~ 7.12 : 1	16 : 10	$=3.866693 \times SD - 0.212284$	$=6.141575 \times SD - 0.210772$
	4.44 ~ 7.12 : 1	16 : 9	$=3.974187 \times SD - 0.212284$	$=6.312311 \times SD - 0.210772$
	5.34 ~ 8.56 : 1	4 : 3	$=4.377480 \times SD - 0.212284$	$=6.952874 \times SD - 0.210772$

■ 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離 (L) 計算式
ET-ELW21	0.764 : 1	16 : 10	$=0.676299 \times SD - 0.057678$
	0.765 : 1	16 : 9	$=0.695100 \times SD - 0.057678$
	0.922 : 1	4 : 3	$=0.765630 \times SD - 0.057678$

PT-MW730J の場合

■ ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離 (L) 計算式	
			最短 (LW)	最長 (LT)
標準ズームレンズ	1.63 ~ 2.79 : 1	16 : 10	$=1.406181 \times SD - 0.050400$	$=2.394370 \times SD - 0.049700$
	1.63 ~ 2.80 : 1	16 : 9	$=1.445236 \times SD - 0.050400$	$=2.460945 \times SD - 0.049700$
	1.96 ~ 3.36 : 1	4 : 3	$=1.591906 \times SD - 0.050400$	$=2.710613 \times SD - 0.049700$
ET-ELW22	0.789 ~ 0.987 : 1	16 : 10	$=0.693071 \times SD - 0.048417$	$=0.859134 \times SD - 0.045448$
	0.790 ~ 0.987 : 1	16 : 9	$=0.712338 \times SD - 0.048417$	$=0.883018 \times SD - 0.045448$
	0.951 ~ 1.19 : 1	4 : 3	$=0.784610 \times SD - 0.048417$	$=0.972607 \times SD - 0.045448$
ET-ELW20	1.23 ~ 1.68 : 1	16 : 10	$=1.070236 \times SD - 0.055400$	$=1.453031 \times SD - 0.053400$
	1.23 ~ 1.68 : 1	16 : 9	$=1.099996 \times SD - 0.055400$	$=1.493425 \times SD - 0.053400$
	1.48 ~ 2.02 : 1	4 : 3	$=1.211591 \times SD - 0.055400$	$=1.644945 \times SD - 0.053400$
ET-ELT22	2.76 ~ 4.54 : 1	16 : 10	$=2.395157 \times SD - 0.113900$	$=3.904055 \times SD - 0.112800$
	2.76 ~ 4.54 : 1	16 : 9	$=2.461732 \times SD - 0.113900$	$=4.012598 \times SD - 0.112800$
	3.32 ~ 5.46 : 1	4 : 3	$=2.711504 \times SD - 0.113900$	$=4.419694 \times SD - 0.112800$
ET-ELT23	4.49 ~ 7.21 : 1	16 : 10	$=3.913819 \times SD - 0.212700$	$=6.215236 \times SD - 0.210700$
	4.50 ~ 7.21 : 1	16 : 9	$=4.022638 \times SD - 0.212700$	$=6.388031 \times SD - 0.210700$
	5.41 ~ 8.67 : 1	4 : 3	$=4.430747 \times SD - 0.212700$	$=7.036131 \times SD - 0.210700$

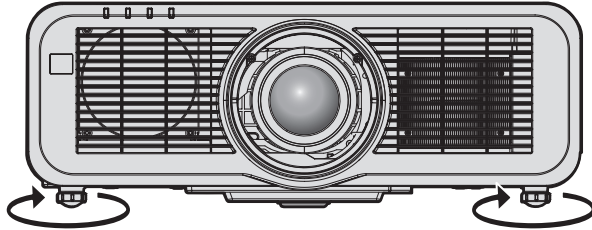
■ 固定焦点レンズ (品番 : ET-ELW21) の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離 (L) 計算式
ET-ELW21	0.774 : 1	16 : 10	$=0.684213 \times SD - 0.057231$
	0.775 : 1	16 : 9	$=0.703228 \times SD - 0.057231$
	0.933 : 1	4 : 3	$=0.774582 \times SD - 0.057231$

アジャスター脚の調整

投写画面が長方形になるよう、プロジェクターは、その前面がスクリーン面と平行になるように水平な場所に設置してください。

スクリーンが下向きに傾いている場合は、投写画面が長方形になるように、前面のアジャスター脚を伸ばすことで調整します。プロジェクターが水平方向に傾いている場合も、アジャスター脚で水平になるように調整します。図のようにアジャスター脚を回すと脚を伸ばすことができます。また、逆に回すと元に戻すことができます。



最大調整可能量

各アジャスター脚：23 mm

お願い

- 光源点灯中にアジャスター脚を調整するときは、手などで吸排気を妨げないように注意してください。(👉 25 ページ)

投写レンズの取り外し / 取り付け方

投写レンズの取り外し / 取り付け方は、標準ズームレンズと別売品で同じです。

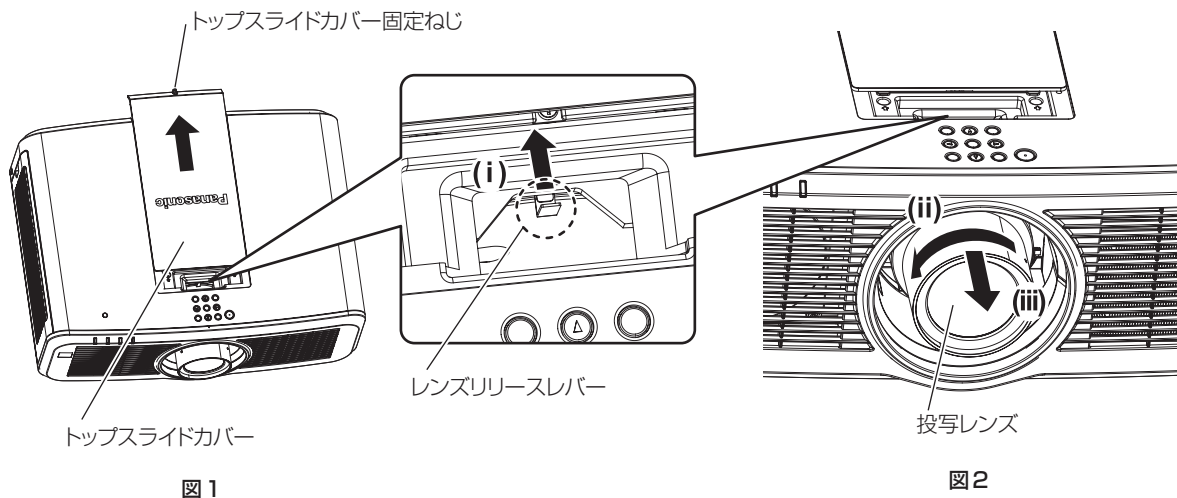
投写レンズの交換や取り外しの際は、あらかじめレンズ位置をホームポジションに移動させておいてください。
(☞ 62 ページ)

お願い

- 投写レンズの交換は本機の電源を切ってから行ってください。
- 投写レンズの電気接点には指を触れないようにしてください。ほこりや汚れなどにより、接触不良の原因となることがあります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
- 投写レンズを取り付ける前に、投写レンズに付いているレンズカバーを取り外してください。
- 当社製以外の投写レンズの使用による製品の損傷や不具合などの問題については責任を負いかねます。必ず、本機付属の標準ズームレンズまたは指定の投写レンズをご使用ください。

投写レンズの取り外し方

以下の手順で投写レンズを取り外してください。



1) トップスライドカバーをスライドさせる (図 1)

- トップスライドカバー固定ねじ (1 本) を、プラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、トップスライドカバーをゆっくりとスライドさせてください。

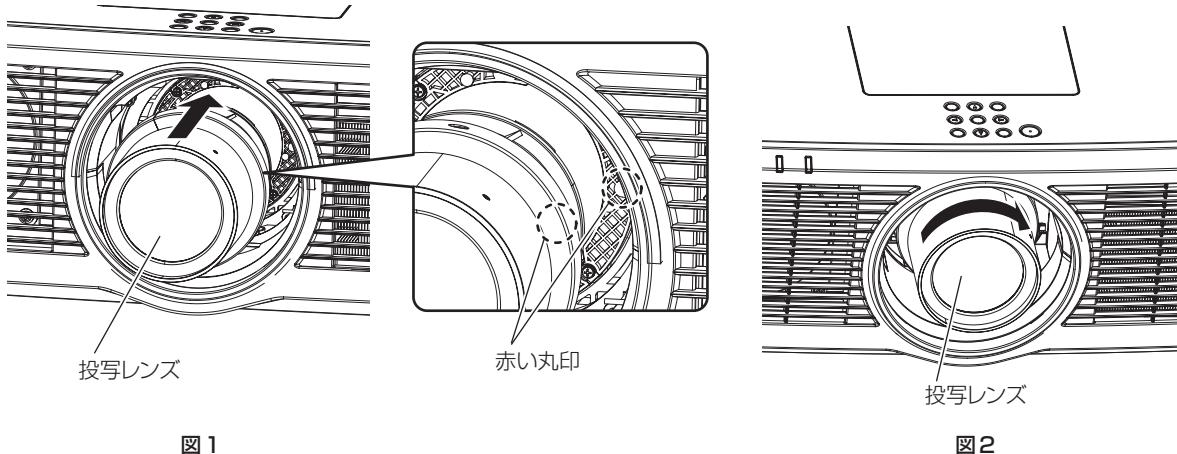
2) レンズリリースレバーを押しながら反時計方向に投写レンズを回しきり、投写レンズを取り出す (図 2)

お願い

- 取り外した投写レンズは振動や衝撃を与えないように保管してください。

投写レンズの取り付け方

以下の手順で投写レンズを取り付けてください。



1) 投写レンズの目印 (赤色) を本体の目印 (赤色) に合わせて奥まで差し込む (図 1)

2) 時計方向に回しきる (図 2)

お願い

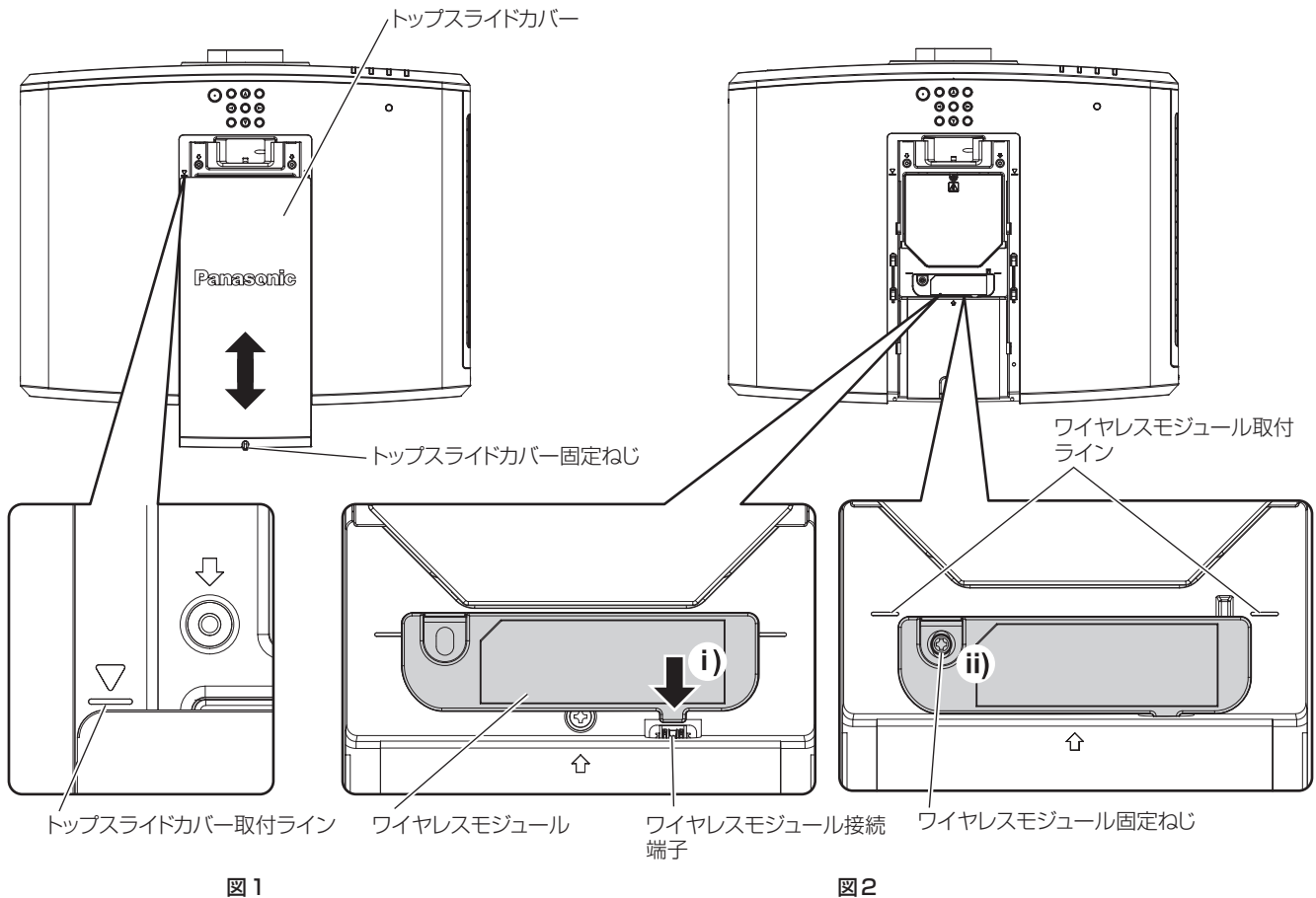
- 投写レンズを反時計方向に回して、抜けないことを確認してください。

ワイヤレスモジュールの取り付けについて

本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。



ワイヤレスモジュールを取り付ける



1) プロジェクターの電源を切る

- 電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 59 ページ）の手順を必ずお守りください。

2) トップスライドカバーを取り外す（図 1）

- トップスライドカバー固定ねじ（1 本）をプラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、トップスライドカバーをトップスライドカバー取付ラインが見えるまでスライドさせ、取り外します。

3) ワイヤレスモジュールを取り付ける（図 2）

- ワイヤレスモジュールを、本機のワイヤレスモジュール接続端子に差し込みます。
- ワイヤレスモジュールの端面がワイヤレスモジュール取付ライン上にあることを確認したうえで、ワイヤレスモジュールに付属の固定ねじ（1 本）でしっかりと固定します。

4) トップスライドカバーを取り付ける（図 1）

- トップスライドカバーをトップスライドカバー取付ラインに合わせ、スライドさせて取り付けます。
- トップスライドカバー固定ねじ（1 本）をプラスドライバーでしっかりと締めつけます。

お願い

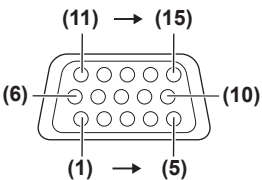
- ねじ類の締めつけの際は、プラスドライバーなどを使用し、電動ドライバーやインパクトドライバーを使用しないでください。
- 別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）以外の USB 機器は取り付けないでください。

接続する

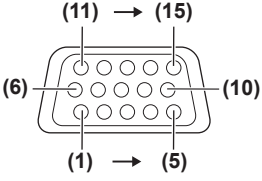
接続の前に

- 接続の前に、本機と接続する外部機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 各機器の電源を切ってからケーブルの接続をしてください。
- 下記の点に注意して、ケーブルを接続してください。行わない場合、故障の要因になります。
 - ケーブルを本機、あるいは本機と接続する外部機器に接続するときは、ケーブルを持つ前に周辺の金属に触れて身体の帯電を除去した状態で作業してください。
 - 本機と、本機に接続する機器とを接続するケーブルは、必要以上に長くしないでください。長くするほどノイズの影響を受けやすくなります。巻いた状態で使用するとアンテナになりますので、さらにノイズの影響を受けやすくなります。
 - ケーブル接続時は、GND が先に接続されるように、接続する機器の接続端子部にまっすぐに挿入してください。
- システム接続に必要な接続ケーブルは、各機器の付属品、別売品がない場合は接続される外部機器に合わせて準備してください。
- 映像機器からの映像信号にジッター成分が多い場合は、画像がふらつくことがあります。この場合はタイムベースコレクター（TBC）の接続が必要です。
- 映像出力の設定変更時など、コンピューターや映像機器側からの出力同期信号に乱れが発生した場合、一時的に投写映像に色の乱れが発生することがあります。
- 本機に接続できる信号はビデオ信号、YCbCr/YPbPr 信号、アナログ RGB 信号（同期信号は TTL レベル）、およびデジタル信号です。
- コンピューターの機種やご使用のグラフィックスカードによっては、本機と接続して使用できないものもあります。
- 各機器と本機を、長いケーブルを使用して接続する場合は、ケーブル補償器などを使用してください。本機が正常に映像を表示できないことがあります。
- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”（ 214 ページ）をご覧ください。

〈RGB 2 IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	R/P _R	(9)	+5 V
	(2)	G/Y	(10)	GND
	(3)	B/P _B	(11)	GND
	(4)	—	(12)	DDC データ
	(5)	GND	(13)	SYNC/HD
	(6)	GND	(14)	VD
	(7)	GND	(15)	DDC クロック
	(8)	GND		

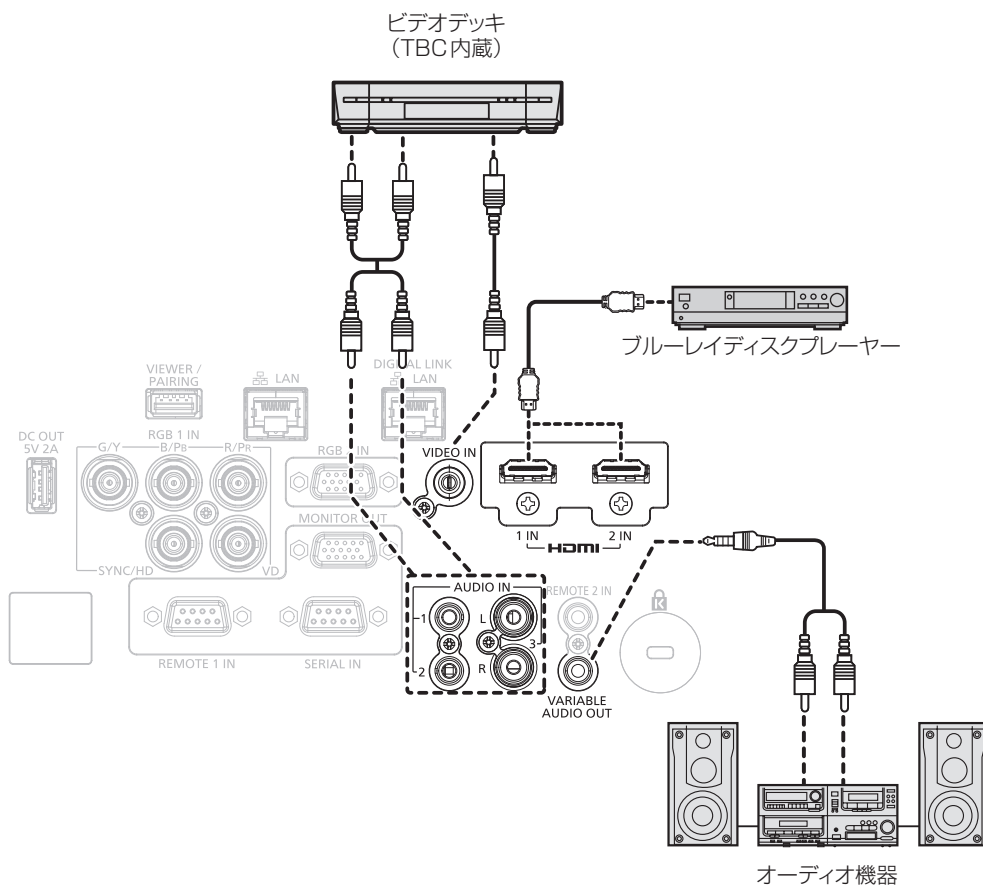
〈MONITOR OUT〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	R/P _R	(9)	—
	(2)	G/Y	(10)	GND
	(3)	B/P _B	(11)	GND
	(4)	—	(12)	—
	(5)	GND	(13)	SYNC/HD
	(6)	GND	(14)	VD
	(7)	GND	(15)	—
	(8)	GND		

〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
(2) ~ (18) の偶数ピン (1) ~ (19) の奇数ピン	(1)	T.M.D.S データ 2+	(11)	T.M.D.S クロックシールド
	(2)	T.M.D.S データ 2 シールド	(12)	T.M.D.S クロック -
	(3)	T.M.D.S データ 2-	(13)	CEC
	(4)	T.M.D.S データ 1+	(14)	—
	(5)	T.M.D.S データ 1 シールド	(15)	SCL
	(6)	T.M.D.S データ 1-	(16)	SDA
	(7)	T.M.D.S データ 0+	(17)	DDC/CEC GND
	(8)	T.M.D.S データ 0 シールド	(18)	+5 V
	(9)	T.M.D.S データ 0-	(19)	ホットプラグ検出
	(10)	T.M.D.S クロック +		

映像機器との接続（例）



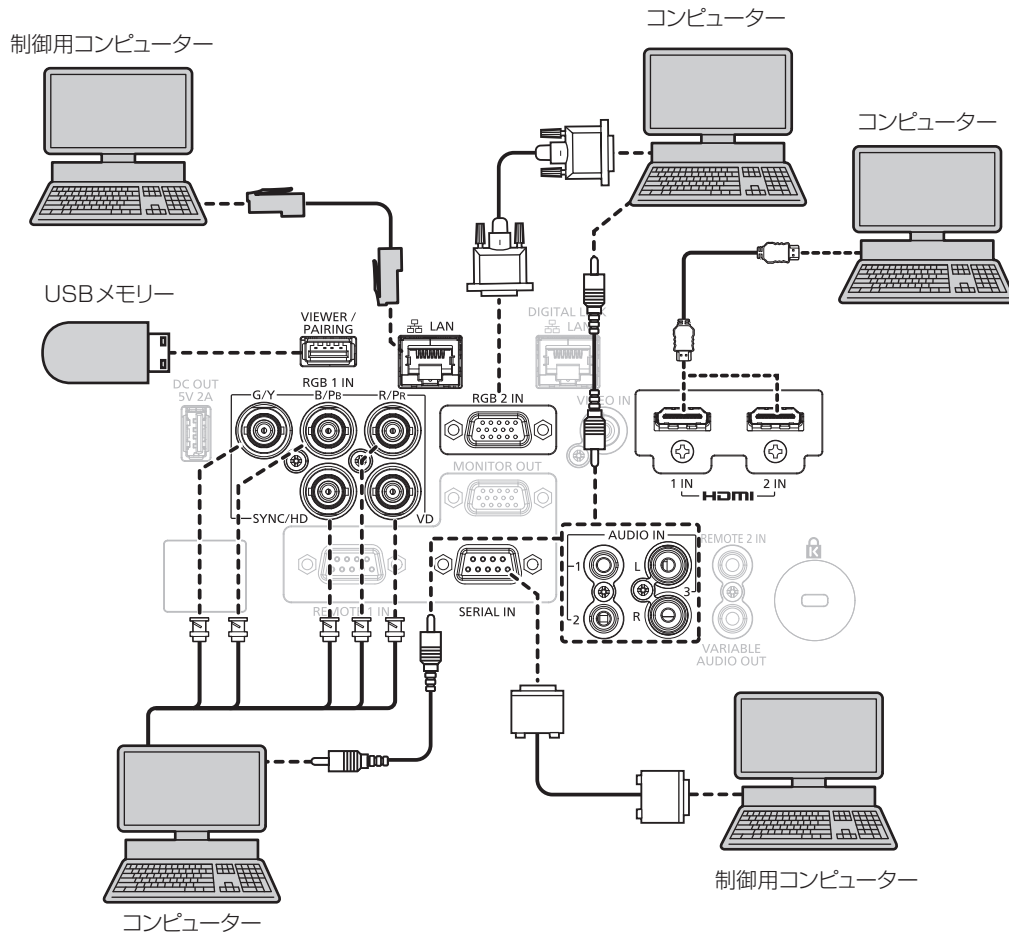
お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
 - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
 - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れることがあります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子は、HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像が出ないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機はピエラリンク（HDMI）に対応していません。

コンピューターとの接続（例）



お願い

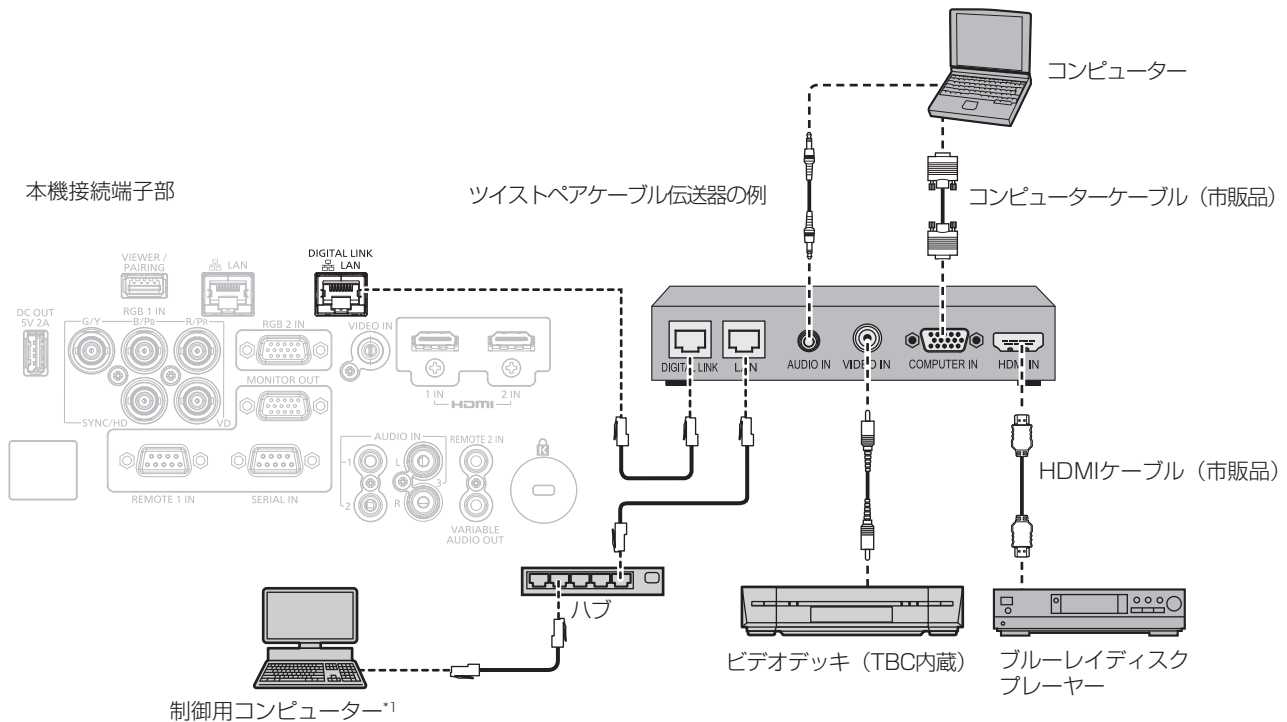
- コンピューターや外部機器に接続する際、それぞれの機器に付属の電源コードと、シールドされた市販のケーブルを使用してください。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のもを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子は、HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像が出ないなど正常に動作しないことがあります。
- レジューム機能（ラストメモリー）を持つコンピューターを使用して本機を動作させるには、レジューム機能のリセットが必要になることがあります。

DIGITAL LINK での接続（例）

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）をはじめ、通信規格 HDBaseT™ をベースとしたツイストペアケーブル伝送器は、入力された映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送するもので、本機はそのデジタル信号を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力できます。



^{*1} 制御対象は本機、またはツイストペアケーブル伝送器になります。ツイストペアケーブル伝送器によっては制御そのものがないことがありますので、接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
 - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
 - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れることがあります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください。工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
 - CAT5e 以上の規格に適合
 - シールドタイプ（コネクタを含む）
 - ストレート結線
 - 単線
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。途中で中継コネクタを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- 他社製ツイストペアケーブル伝送器（受信器）を使用して本機に接続を行うとき、他社製ツイストペアケーブル伝送器と本機の間に別のツイストペアケーブル伝送器（送信器）を経由させないでください。映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子は、本機の内部で接続されています。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子の両方を使用する場合は、直接、またはハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないでください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に [ネットワーク / USB] メニュー → [DIGITAL LINK ステータス] で [信号品質] の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。（ 135 ページ）

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機はピエラリンク（HDMI）に対応していません。

- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p (1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz) までになります。これを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。最長伝送距離以上でのご使用は、当社サポートの対象外となりますので、ご注意ください。なお、ロングリーチで接続する場合、ツイストペアケーブル伝送器の仕様によって伝送できる映像信号や距離が制限されることがあります。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

第 3 章 基本的な使い方

まず使っていただくための操作方法について説明しています。

電源を入れる / 切る

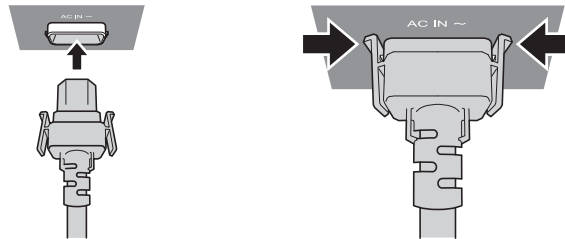
電源コードを接続する

電源コードの抜けを防止するため、付属の電源コードを使用して、本体の〈AC IN〉端子に奥までしっかりと差し込んで固定してください。

主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっていることを確認してから、付属の電源コードを本体に接続してください。

電源コードの詳しい取り扱いについては“安全上のご注意”（ 5 ページ）をご覧ください。

取り付け方

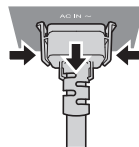


- 1) 本体後面の〈AC IN〉端子と、電源コードのコネクターの形状を確認し、向きを合わせて奥までしっかりと差し込む
- 2) コネクター左右のつまみの先端が、〈AC IN〉端子部のつめにしっかり掛かっていることを確認する

お願い

- つまみが破損している電源コードは使用しないでください。つまみが破損した状態で使用すると、電源コードのコネクターと〈AC IN〉端子との間で接触不良になるおそれがあります。電源コードの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。

取り外し方



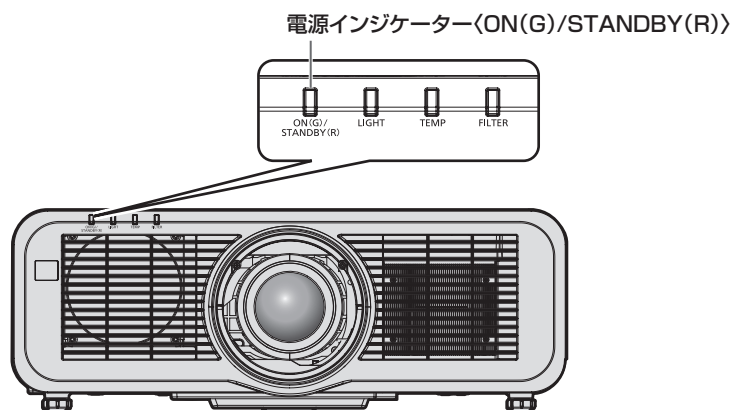
- 1) 本体後面の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっていることを確認し、コンセントから電源プラグを抜く
- 2) 本体の〈AC IN〉端子から電源コードのコネクターを、左右のつまみを押しながら抜く

お願い

- コネクター左右のつまみの先端が〈AC IN〉端子部のつめに掛かった状態でコネクターを引き抜かないでください。つめに掛かった状態で引き抜くと、つまみの先端が破損するおそれがあります。つまみが破損している場合は、本機の使用を中止して、お買い上げの販売店に電源コードの修理をご相談ください。

電源インジケータについて

電源の状態を表示します。電源インジケータ〈ON (G) /STANDBY (R)〉の状態をよく確認し、操作してください。



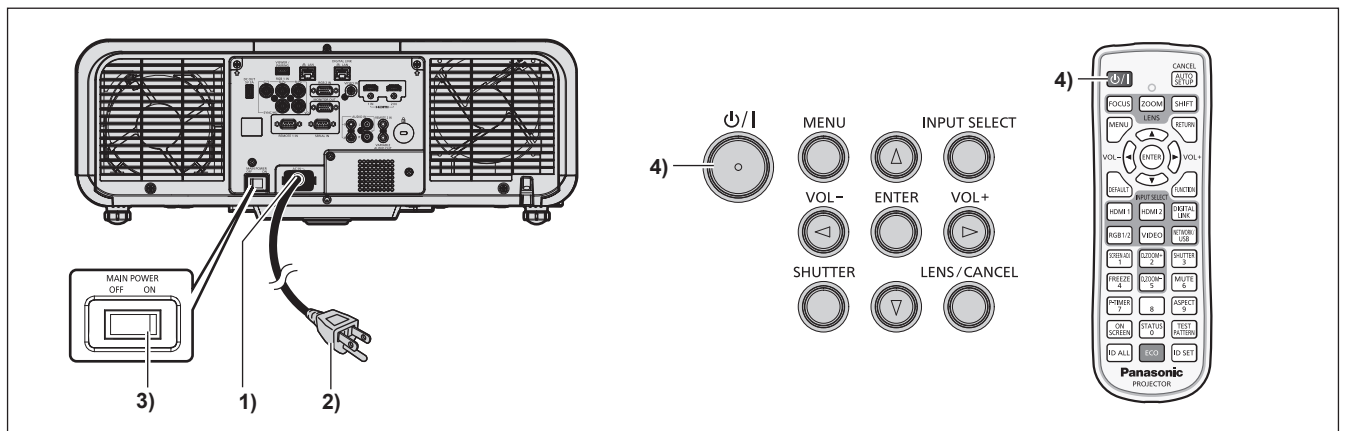
点灯状況		本機の状態
消灯		主電源が切れています。
赤色	点灯	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源 〈O/I〉 ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 本機の設定は次のとおりです。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オフ] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オフ] ● 光源インジケータ 〈LIGHT〉、温度インジケータ 〈TEMP〉 点滅時は、動作しないことがあります。(193 ページ)
	点滅	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源 〈O/I〉 ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 本機の設定が、次のいずれかに設定されています。消費電力が高い状態になっています。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オン] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オン] ● 本機を次のとおり設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過すると、赤色点灯に移行します。 所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オン] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オフ] ● 光源インジケータ 〈LIGHT〉、温度インジケータ 〈TEMP〉 点滅時は、動作しないことがあります。(193 ページ)
緑色	点灯	投写状態です。
オレンジ色	点灯	電源を切る準備をしています。 しばらくすると、電源が切れます。(スタンバイ状態になります。)

お知らせ

- 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 がオレンジ色に点灯中は、ファンが回転し、本機を冷却しています。
- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 が赤色に点灯 / 点滅してから、電源を入れ直してください。
- スタンバイ状態(電源インジケータ〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色に点灯 / 点滅)でも、電力を消費しています。消費電力については、“消費電力”(217 ページ)をご覧ください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 が点滅します。
- シャッター機能を使用中(シャッター：閉)は、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 がゆっくりと緑色点滅します。

電源を入れる

別売品の投写レンズをご使用の場合は、電源を入れる前に投写レンズを取り付けてください。
あらかじめレンズカバーを取り外してください。



- 1) 本体に電源コードを接続する
- 2) 電源プラグをコンセントに接続する
- 3) 主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈ON〉側を押して電源を入れる
 - 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 が赤色に点灯 / 点滅してスタンバイ状態になります。

4) 電源 (ON/OFF) ボタンを押す

- 電源インジケータ (ON (G) /STANDBY (R)) が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、[ノーマル] 設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに電源を入れると、電源を入れてから約 1 秒後に映像が投写されます。
所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。
- 電源を入れたときや入力信号を切り換えたときに、高周波の駆動音がすることがありますが、故障ではありません。
- 前回使用時に、投写中に主電源 (MAIN POWER) スイッチの (OFF) 側を押して電源を切ったり、直接電源ブレーカーで電源を落として終了したりしたときは、電源プラグをコンセントに接続した状態で主電源 (MAIN POWER) スイッチの (ON) 側を押して電源を入れる、あるいは電源ブレーカーを「入」にすると、電源インジケータ (ON (G) /STANDBY (R)) が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。ただし、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [起動方法] を [ラストメモリー] に設定している場合に限りです。

初期設定画面が表示されたら

本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、および [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ] を実行した場合、投写開始後にフォーカス調整画面、続いて **【初期設定】** 画面が表示されます。ご使用になる場合や状況に応じて設定してください。

それ以外の場合でも、メニュー操作で設定を変更できます。

なお、**【初期設定】** 画面を表示中に (MENU) ボタンを押すと、1 つ前の画面に戻ることができます。

(RETURN) ボタンを押すことでも同様に操作できます。

フォーカス調整

メニュー画面をはっきり表示させるために、フォーカスを調整してください。

場合によってはズーム、シフトの調整が必要になります。

詳しくは“フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する” (p. 61 ページ) をご覧ください。

1) ▲▼◀▶ ボタンでフォーカスを調整する



2) (MENU) ボタンを押し、以降の初期設定を行う

初期設定 (表示言語)

オンスクリーンに表示させる言語を選択してください。

初期設定終了後は、[表示言語 (LANGUAGE)] メニューで言語を変更できます。

1) ▲▼◀▶ ボタンで表示言語を選択する



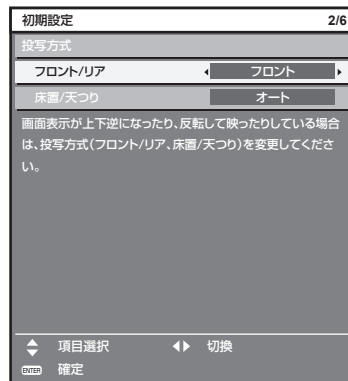
2) (ENTER) ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（設置設定）

設置形態に応じて「[投写方式]」の「[フロント / リア]」および「[床置 / 天つり]」を設定してください。詳しくは、「設置形態」（ 30 ページ）をご覧ください。

初期設定終了後は、「[プロジェクターセットアップ]」メニュー → 「[投写方式]」で設定を変更できます。

1) ◀▶ ボタンで設定を切り換える



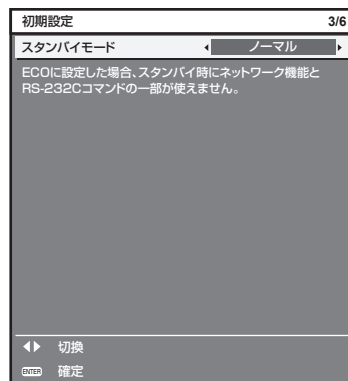
2) 〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（スタンバイモード）

スタンバイ時の動作モードを設定してください。工場出荷時の設定は、スタンバイ時にもネットワーク機能を使用できる「[ノーマル]」です。スタンバイ時の消費電力を低く抑える場合は、「[ECO]」に設定してください。

初期設定終了後は、「[プロジェクターセットアップ]」メニュー → 「[ECO マネージメント]」 → 「[スタンバイモード]」で設定を変更できます。

1) ◀▶ ボタンで設定を切り換える



2) 〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

お知らせ

- 上記の初期設定の画面は、本機をご購入後はじめて電源を入れたときのものです。「[プロジェクターセットアップ]」メニュー → 「[初期化]」 → 「[全ユーザーデータ]」を実行した場合は、実行する前の「[スタンバイモード]」の設定が表示されています。

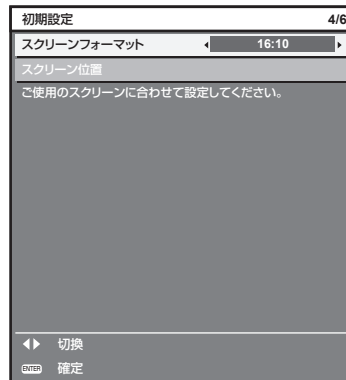
初期設定（スクリーン設定）

スクリーンのフォーマット（縦横比）と映像の表示位置を設定してください。

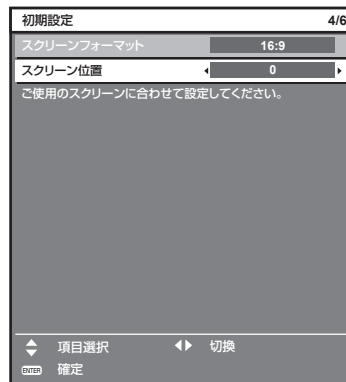
初期設定終了後は、[表示オプション] メニュー → [スクリーン設定] から各項目の設定を変更できます。

1) ◀▶ ボタンで設定を切り換える

- [16 : 10] を選択した場合は、手順 4) に進みます。



2) ▲▼ ボタンで [スクリーン位置] を選択する



3) ◀▶ ボタンで調整する

- [スクリーンフォーマット] で [16 : 9] を選択した場合は上下に、[4 : 3] を選択した場合は左右に調整できます。

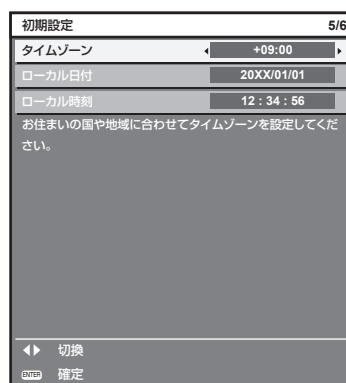
4) 〈ENTER〉 ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（タイムゾーン）

ご使用の国または地域に応じて [タイムゾーン] を設定してください。日本のタイムゾーンは +09:00 です。

初期設定終了後は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [日付と時刻] で設定を変更できます。[ローカル日付] と [ローカル時刻] には、現在設定されている内容が表示されます。

1) ◀▶ ボタンで設定を切り換える



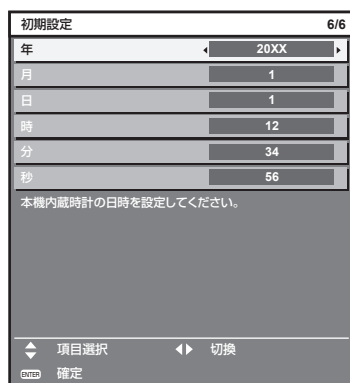
2) 〈ENTER〉 ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（日付と時刻）

ローカル日時を設定してください。初期設定終了後は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [日付と時刻] で設定を変更できます。

自動で日時を設定する場合は、“自動で日時を設定する場合”（[112 ページ](#)）をご覧ください。

1) ▲▼ ボタンで項目を選択する



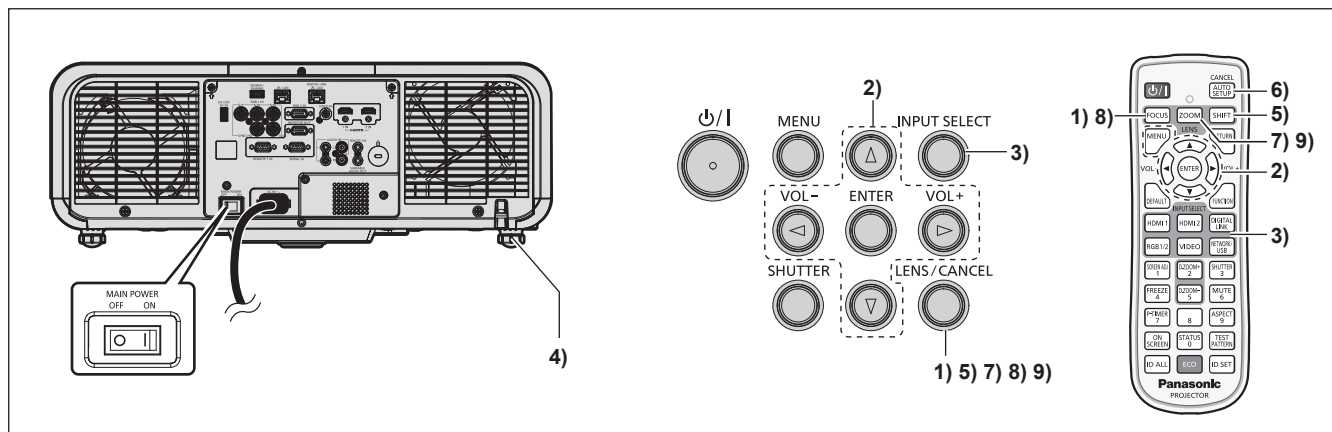
2) ◀▶ ボタンで設定を切り換える

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 設定値を確定し、初期設定を終了します。

調整・選択をする

フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。



1) 〈FOCUS〉 ボタンを押して、投写画面のフォーカスをおおまかに合わせる（[61 ページ](#)）

2) 設置形態に応じて、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] の設定を変更する（[30 ページ](#)）

- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法”（[73 ページ](#)）をご覧ください。

3) リモコンまたは本体操作部の入力切換ボタンを押して入力を選択する

- リモコンまたは本体操作部で利用できるボタンは、次のとおりです。

リモコン：

〈HDMI 1〉 ボタン、〈HDMI 2〉 ボタン、〈DIGITAL LINK〉 ボタン、〈RGB 1/2〉 ボタン、〈VIDEO〉 ボタン、〈NETWORK/USB〉 ボタン

本体操作部：

〈INPUT SELECT〉 ボタン

- 入力切換の操作について、詳しくは“投写する映像を選択する”（[60 ページ](#)）をご覧ください。

4) 本体の前後左右の傾きをアジャスター脚で調整する（[43 ページ](#)）

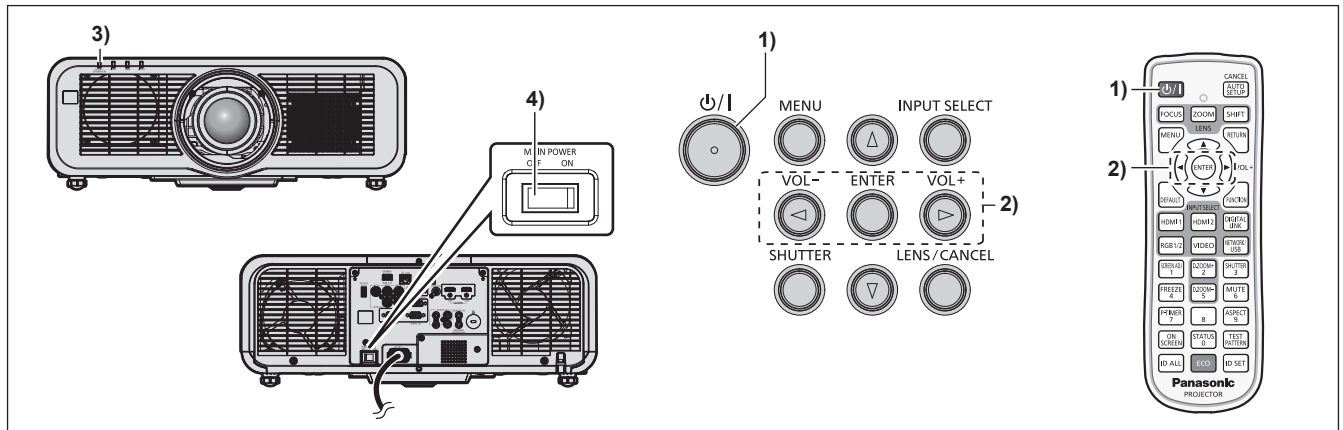
5) 〈SHIFT〉 ボタンを押して投写画面の位置を調整する（[61 ページ](#)）

- 6) 入力信号がアナログ RGB 信号の場合は〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押して、映像位置を自動調整する
- 7) 〈ZOOM〉ボタンを押して、投写画面の大きさをスクリーンに合わせる
- 8) 再度、〈FOCUS〉ボタンでフォーカスを調整する（☞ 61 ページ）
- 9) 再度、〈ZOOM〉ボタンでズームを調整して投写画面の大きさをスクリーンに合わせる

お知らせ

- 本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、および「[プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ]」を実行した場合、投写開始後にフォーカス調整画面、続いて【初期設定】画面が表示されます。詳しくは、「初期設定画面が表示されたら」（☞ 55 ページ）をご覧ください。

電源を切る



- 1) 電源〈P/I〉ボタンを押す
 - [電源オフ (スタンバイ)] 確認画面が表示されます。
- 2) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
(または、電源〈P/I〉ボタンを再度押す)
 - 映像の投写が停止し、本体の電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 がオレンジ色に点灯します。(ファンは回転したままです。)
- 3) 本体の電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 が赤色に点灯 / 点滅するまで数秒間待つ
- 4) 主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈OFF〉側を押して電源を切る

お知らせ

- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。
- 電源〈P/I〉ボタンを押して電源を切っても、本体の主電源が入っていると、電力が消費されます。
[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、一部機能の利用が制限されますが、スタンバイ時の消費電力を節約できます。
- 投写中に主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈OFF〉側を押して電源を切ったり、天つり設置などプロジェクターの主電源〈MAIN POWER〉スイッチを容易に切 / 入操作できない環境において、投写中に直接電源ブレーカーで電源を落としたりすることもできます。しかし、電源を切る直前に行った設定や調整内容が反映されないことがあります。

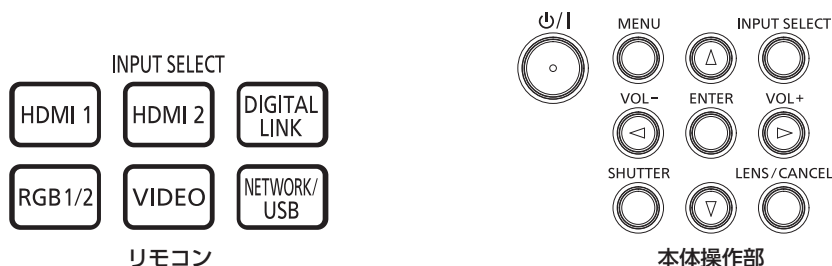
投写する

外部機器の接続（[47 ページ](#)）、電源コードの接続（[53 ページ](#)）を確認し、電源を入れる（[54 ページ](#)）と投写を開始します。投写する映像を選択し、映像の映り具合を調整してください。

投写する映像を選択する

投写する映像の入力を切り換えます。入力の切り換え方法は、次のとおりです。

- リモコンの入力切換ボタンを押して、投写する映像の入力を直接指定する。
- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力選択画面を表示し、投写する入力を一覧から選択する。



リモコンでダイレクトに入力を切り換える

リモコンの入力切換ボタンで、投写する入力を直接指定して切り換えることができます。

1) 入力切換（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈RGB1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉）ボタンを押す

〈HDMI 1〉	HDMI1 に入力を切り換えます。 〈HDMI 1 IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈HDMI 2〉	HDMI2 に入力を切り換えます。 〈HDMI 2 IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈DIGITAL LINK〉	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈RGB1/2〉	RGB1 または RGB2 に入力を切り換えます。 すでにどちらかの入力を選択されている場合は、もう一方の入力に切り換えます。〈RGB 1 IN〉端子または 〈RGB 2 IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈VIDEO〉	VIDEO に入力を切り換えます。 〈VIDEO IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈NETWORK/USB〉	MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING に入力を切り換えます。 すでにいずれかの入力を選択されている場合は、ボタンを押すごとに入力が切り換わります。 ● MEMORY VIEWER：メモリービューワー機能を用いて、USB メモリーに記録されている静止画または動画を表示します。（182 ページ） ● Panasonic APPLICATION：コンピューター（iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末を含む）から、当社の画像転送用のアプリケーションソフトを用いて無線 LAN/ 有線 LAN で伝送される映像を表示します。（175 ページ） ● MIRRORING：ミラーリング機能を用いて、Miracast 対応の端末から無線 LAN で伝送される映像を表示します。（178 ページ）

お願い

- 外部機器や再生するブルーレイディスク、DVD などによっては、正常に映像が映らないことがあります。
[映像] メニュー → [システムセレクト] を設定してください。
- 投写するスクリーンと映像の縦横比を確認し、[位置調整] メニュー → [アスペクト] で最適な縦横比に切り換えてください。

お知らせ

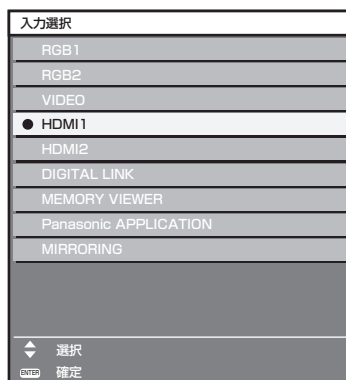
- MIRRORING に入力を切り換えるには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。
別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（[46 ページ](#)）をご覧ください。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合は、〈DIGITAL LINK〉ボタンを押すごとに、DIGITAL LINK 出力対応機器側の入力が切り換わります。また、RS-232C の操作コマンドでも入力の切り換えができます。
他社製ツイストペアケーブル伝送器の場合は、DIGITAL LINK 入力に切り換えたいうえで、ツイストペアケーブル伝送器側の入力切り換えを行ってください。
RS-232C の操作コマンドについて、詳しくは“〈SERIAL IN〉端子について”（[209 ページ](#)）をご覧ください。

入力選択画面を表示して入力を切り換える

本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンで入力選択画面を表示し、投写する入力を選択できます。

1) 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押す

- 入力選択画面が表示されます。



2) ▲▼ボタンで投写する入力を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- [MIRRORING] は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合にのみ表示されます。
- 入力選択画面を表示中に〈INPUT SELECT〉ボタンを押すことでも、入力の切り換えができます。〈INPUT SELECT〉ボタンを押すごとに、入力が切り換わります。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、入力選択画面で DIGITAL LINK 入力を選択している状態で〈ENTER〉ボタンを押すと、DIGITAL LINK 出力対応機器の入力選択メニューが表示されます。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、入力選択画面の [DIGITAL LINK] の表示部分に、DIGITAL LINK のロゴと、DIGITAL LINK 出力対応機器で選択中の入力名が表示されます。

フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する

本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像やその位置がずれている場合は、フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整してください。

本体で操作する場合

1) 本体操作部の〈LENS/CANCEL〉ボタンを押す

- ボタンを押すごとに [フォーカス]、[ズーム]、[シフト] の順に調整画面が切り換わります。

2) それぞれの調整項目を選択し、▲▼◀▶ボタンで調整する

リモコンで操作する場合

1) リモコンのレンズ（〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉）ボタンを押す

- 〈FOCUS〉ボタンを押す：フォーカス調整（レンズのフォーカス位置の調整）をします。
- 〈ZOOM〉ボタンを押す：ズーム調整（レンズのズーム位置の調整）をします。
- 〈SHIFT〉ボタンを押す：レンズシフト調整（レンズの垂直位置と水平位置）をします。

2) それぞれの調整項目を選択し、▲▼◀▶ボタンで調整する



注意



指に注意

レンズシフト動作中は、レンズ周辺の開口部に手を入れない
手を挟み、けがの原因になることがあります。

お知らせ

- 約3秒以上 ▲▼◀▶ ボタンを押し続けると、速く動作させることができます。
- フォーカス調整は、映像を映した状態で30分以上経過したのちに行うことをお勧めします。

- (フォーカスがずれて文字が判別できない状態でも) 表示されているメニュー項目が色で判別できるように、[フォーカス] のみ黄色で表示されます。(工場出荷時の状態)
[フォーカス] の表示色は、[表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [OSD デザイン] の設定によって異なります。
- シフト調整時に、現在位置と最大可動範囲をバースケールで表示します。
また、現在位置からの可動範囲外は、バーを赤色で示します。
バースケールの下にある三角マークは、ホームポジションを示します。

レンズ位置のホームポジションへの移動のしかた

レンズ位置をホームポジションへ移動する場合は、次の手順で操作してください。

1) [シフト] 調整画面表示中にリモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

- [ホームポジション] 画面が表示されます。



2) [ホームポジション] 画面が表示されている間 (約 5 秒) に〈ENTER〉ボタンを押す

- [ホームポジション] 画面に [実行中] と表示され、レンズ位置がホームポジションに戻ります。

お知らせ

- レンズのホームポジションは、レンズ交換やセット保管のためのレンズ位置で、光学的な画面中央位置ではありません。
- 本体操作部の〈LENS/CANCEL〉ボタンまたはリモコンの〈SHIFT〉ボタンを 3 秒以上押しても、[ホームポジション] 画面を表示できます。

レンズ位置移動による (光学シフト) 調整範囲

光軸シフト機能により標準投写位置を基準に、次の図の範囲で投写位置を調整できます。

次の図は、本機を床置きで設置する場合の調整範囲です。

投写レンズ品番	標準ズームレンズ /ET-ELW20/ET-ELT22/ ET-ELT23	ET-ELW22
レンズシフト範囲	投写画面幅 H 0.35 H 0.30 H 0.30 H 0.35 H 0.67 V 0.19 V 0.19 V 0.67 V 標準投写位置 投写画面高さ V	投写画面幅 H 0.30 H 0.25 H 0.25 H 0.30 H 0.60 V 0.15 V 0.15 V 0.60 V 標準投写位置 投写画面高さ V

USB メモリーを使う

本機は、USB メモリーの取り付けに対応しています。メモリービューワー機能、ペアリング機能、データクローニング機能を使用する場合に、〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを取り付けます。

お知らせ

- メモリービューワー機能については、「MEMORY VIEWER 入力で表示する」(182 ページ) をご覧ください。
- 本機と USB メモリーとのペアリングについては、「ペアリング機能を使用する」(190 ページ) をご覧ください。
- 市販の USB メモリーをプロジェクターとペアリングすることで簡単に無線 LAN 接続することができる画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用方法については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>
本機と USB メモリーをペアリングする方法については、「ペアリング機能を使用する」(190 ページ) をご覧ください。ペアリングすることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報が USB メモリーに書き込まれます。
- データクローニング機能については、[プロジェクターセットアップ]メニュー→[データクローニング](121 ページ) をご覧ください。

使用上のお願い

次のことをお守りください。

- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 水などの液体をかけたりぬらしたりしないでください。
- 端子部分に異物を入れないでください。
- 手や金属で金属端子に触れないでください。
- 湿度の高い所、ほこりの多い所に置かないでください。
- 静電気や電磁波が発生する所に置かないでください。
- 乳幼児の手が届かない所に適切に保管してください。
- 発煙や異臭に気が付いたときは、直ちに USB メモリーを本機から取り外し、製造元に連絡してください。
- データの読み出し中や書き込み中は、本機から取り外さないでください。

本機で使える USB メモリー

FAT16 または FAT32 でフォーマットされた市販の USB2.0 対応の USB メモリーに対応しています。

- シングルパーティション構成にのみ対応しています。

お知らせ

- セキュリティー機能付きの USB メモリーは、ペアリングに使用できません。
- ペアリングに使用する USB メモリーは、約 30 MB の空き容量が必要です。

USB メモリーを取り付ける

1) 〈VIEWER/PAIRING〉端子に、USB メモリーをしっかりと奥まで挿す

お願い

- USB メモリーを挿す際は、端子の向きに注意して傷めないようにしてください。
- USB 延長ケーブルや USB ハブを使用せずに、USB メモリーを本機の〈VIEWER/PAIRING〉端子に直接挿してください。
- USB メモリーを〈DC OUT〉端子に挿さないようにしてください。USB メモリーは〈DC OUT〉端子では使用できません。

お知らせ

- 本機の電源が入っているときでも USB メモリーを取り付けできます。
- ペアリング機能を使用すると、USB メモリーにペアリングデータの書き込みを行います。使用する USB メモリーに書き込み禁止のスイッチがある場合は、書き込み可能な状態にしてください。

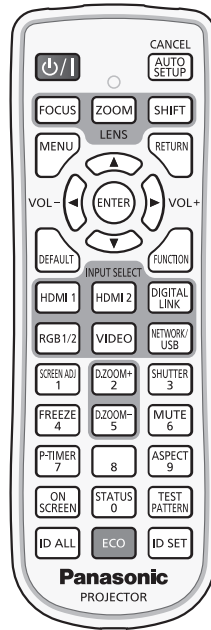
USB メモリーを取り外す

1) USB メモリー上のインジケーターが点滅していないことを確認して取り外す

お願い

- 本機に取り付けている USB メモリーのインジケーターが点滅しているときは、本機が USB メモリーにアクセス中（読み出し中または書き込み中）であることを示しています。インジケーターが点滅中は、USB メモリーを本機から取り外さないでください。
- インジケーターなどのモニター機能を備えていない USB メモリーを使用している場合は、USB メモリーへのアクセス状況を確認することができません。この場合は、次のいずれかが完了するのを待ったのちに USB メモリーを取り外してください。
 - 本機の電源を切る。
 - メモリービューワー機能を使用している場合は、MEMORY VIEWER 入力以外に切り換える。
 - ペアリング機能を使用している場合は、ペアリングデータの書き込み終了のメッセージが待ち受け画面上に表示されるのを待つ。

リモコンで操作する



シャッター機能を使う

会議の休憩時間や準備などの一定時間だけ本機を使用しない場合には、映像と音声を一時的に消すことができます。

ボタン

1) 〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像と音声が消えます。
- 本体操作部の〈SHUTTER〉ボタンを押しても操作できます。

2) 再度〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像と音声がでます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）は、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉がゆっくりと緑色点滅します。
- [表示オプション] メニュー → [シャッター設定] (103 ページ) で、映像のフェードイン / フェードアウトの時間を設定できます。
- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）に音声を出力したい場合は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] (116 ページ) → [シャッター時動作] を [オン] に設定してください。
- 使用環境温度が 0 °C 付近でシャッター機能を使用すると、ウォームアップのため、光源が薄暗く点灯することがあります。

消音機能を使う

音声を一時的に消すことができます。

ボタン

1) 〈MUTE〉ボタンを押す

- 音声が消えます。

2) 再度〈MUTE〉ボタンを押す

- 音声がでます。

音量を調整する

音声出力の音量を調整できます。



1) リモコンの〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタンを押す

〈VOL+〉	音を大きくします。
〈VOL-〉	音を小さくします。

お知らせ

- 本体操作部の ◀▶ ボタンでも操作できます。

静止機能を使う

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消すことができます。



1) 〈FREEZE〉ボタンを押す

- 映像が静止し、音声が消えます。

2) 再度 〈FREEZE〉ボタンを押す

- 映像の静止が解除され、音声がでます。

お知らせ

- 静止中は画面に「フリーズ」と表示されます。
- 動画の静止を解除したときに、映像が一時的に消えたり、乱れたりすることがあります。

オンスクリーン表示機能を使う

メニューや入力端子名などのオンスクリーン表示を視聴者に見せたくない場合に、オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にします。



1) 〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示が消えます。

2) 再度 〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示がでます。

お知らせ

- オンスクリーン表示がオフ（非表示）の状態、本体操作部の〈MENU〉ボタンを3秒以上長押しすると、オンスクリーン表示の非表示状態を解除します。

オートセットアップ機能を使う

HDMI 信号入力時の映像位置、またはアナログ RGB 信号入力時のドットクロック、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。(アナログ RGB 信号は、コンピューター信号のようなドット構成された信号です。) 自動調整時は、最外郭が明るい白枠で、白黒がはっきりしたキャラクター文字などを含む画像を入力することをお勧めします。

写真や CG のような中間調を含む画像は適しません。

CANCEL

**AUTO
SETUP** ボタン

1) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す

- オートセットアップ実行中は「実行中」と表示されます。
- 正常に終了した場合は「正常終了」と表示されます。

お知らせ

- 正常終了した場合でもクロックフェーズがずれることがあります。このときは、[位置調整] メニュー → [クロックフェーズ] (86 ページ) で調整してください。
- 画面の端がわからないような画像や暗い画像を入力すると、オートセットアップを実行しても正しく調整できていないことがあります。このときは、次の設定を調整してください。
 - [アドバンスドメニュー] メニュー → [入力解像度] (91 ページ)
 - [位置調整] メニュー → [クロックフェーズ] (86 ページ)
 - [位置調整] メニュー → [シフト] (84 ページ)
- 特殊な信号は、[表示オプション] メニュー → [自動調整] (94 ページ) に従って調整してください。
- コンピューターの機種によっては自動調整できないことがあります。
- コンボジットシンクや SYNC ON GREEN の同期信号では自動調整できないことがあります。
- 自動調整中、数秒間画像が乱れることがありますが、異常ではありません。
- 入力信号ごとに調整が必要です。
- 自動調整中に〈MENU〉ボタンまたは〈RETURN〉ボタンを押すと、自動調整を取り消すことができます。
- オートセットアップが可能な信号であっても、動画映像が入力されている状態でオートセットアップ機能を使用した場合、正常に調整できていないことがあります。
- [表示オプション] メニュー → [入力検出] を「オン」に設定している場合に、入力信号がない状態で〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、入力検出機能が動作します。
入力検出機能について、詳しくは [表示オプション] メニュー → [入力検出] (103 ページ) をご覧ください。

スクリーン補正機能を使う

[スクリーン補正] メニューを表示できます。

本機を傾けて設置した場合や、スクリーンが傾いていたり湾曲したりしている場合に発生する映像のゆがみを補正します。

SCREEN ADJ
1

ボタン

1) 〈SCREEN ADJ〉ボタンを押す

- [スクリーン補正] 画面が表示されます。

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	スクリーン補正機能を無効にします。
【台形補正】	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
【コーナー補正】	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
【曲面スクリーン補正】	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。

- 〈SCREEN ADJ〉ボタンを押すことでも項目が切り換わります。
- [オフ] 以外を選択した場合は、手順 3) に進みます。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [台形補正] 画面、[コーナー補正] 画面、[曲面スクリーン補正] 画面が表示されます。

お知らせ

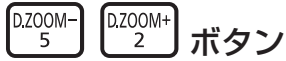
- [台形補正] または [曲面スクリーン補正] を調整する場合、▲▼ ボタンで調整する項目を選択し、◀▶ ボタンで調整してください。
- [コーナー補正] を調整する場合、▲▼ ボタンで調整する項目を選択します。〈ENTER〉ボタンを押すと個別調整画面が表示されるので、▲▼◀▶ ボタンで調整してください。

- [台形補正]、[コーナー補正]、[曲面スクリーン補正] は、いずれかの設定のみが有効になります。
- 詳しくは、[位置調整] メニュー → [スクリーン補正] (87 ページ) をご覧ください。

デジタルズーム機能を使う

(静止画系の RGB 信号、静止画系の HDMI 信号、静止画系の DIGITAL LINK 信号入力時。または、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING 入力時。)

映像を拡大したり、映像の拡大場所を移動したりします。



ボタン

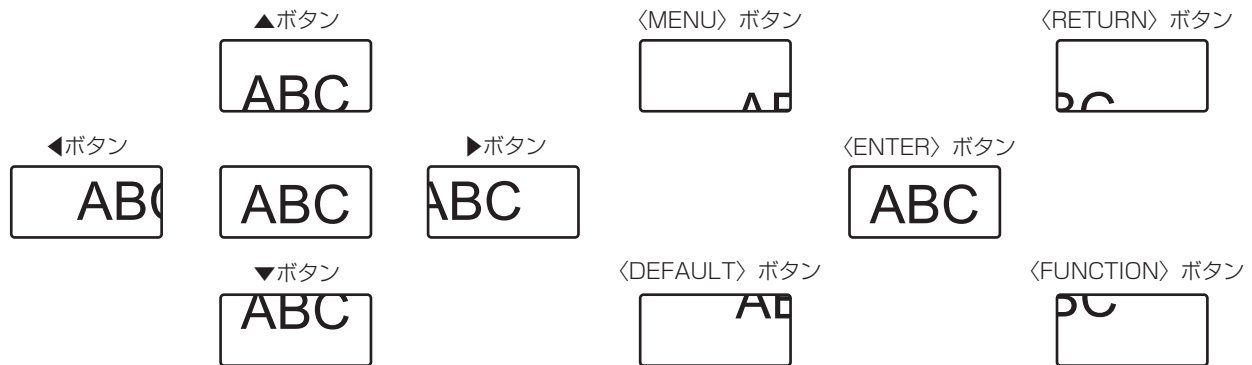
1) 〈D.ZOOM-〉ボタン / 〈D.ZOOM+〉ボタンを押す

- リモコン操作から実行すると、[デジタルズーム] 個別調整画面は表示されず、移動画面が表示されます。
- メニュー操作から実行すると、[デジタルズーム] 個別調整画面が表示されます。詳しくは、[表示オプション] メニュー → [デジタルズーム] (106 ページ) をご覧ください。

2) 次のボタン操作で拡大場所を移動したり、倍率を調整したりする

- デジタルズーム中にリモコンの 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンまたは本体操作部の 〈LENS/CANCEL〉ボタンを押すと、デジタルズームが解除されます。

操作メニュー / ボタン	操作	変化内容
移動画面 リモコン操作ボタン	▲ ボタンを押す	画像が下へ移動します。
	▼ ボタンを押す	画像が上へ移動します。
	◀ ボタンを押す	画像が右へ移動します。
	▶ ボタンを押す	画像が左へ移動します。
	〈MENU〉ボタンを押す	左上端を表示します。
	〈RETURN〉ボタンを押す	右上端を表示します。
	〈ENTER〉ボタンを押す	中心を表示します。
	〈DEFAULT〉ボタンを押す	左下端を表示します。
	〈FUNCTION〉ボタンを押す	右下端を表示します。
	〈D.ZOOM+〉ボタンを押す	倍率が上がります。
	〈D.ZOOM-〉ボタンを押す	倍率が下がります。



ボタン操作後の画面表示位置

お知らせ

- 移動画面に倍率は表示されません。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。
- デジタルズーム中は、静止機能は無効になります。
- 一部の静止画系信号ではデジタルズームは動作しません。

映像の縦横比を切り換える

入力に応じて映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えることができます。



1) 〈ASPECT〉ボタンを押す

- ボタンを押すごとに、設定が切り換わります。

お知らせ

- 詳しくは、[位置調整] メニュー → [アスペクト]（ 84 ページ）をご覧ください。

プレゼンテーションタイマー機能を使う

プレゼンテーションタイマーを操作できます。

経過時間、または設定した時間に対する残り時間を確認しながらプレゼンテーションなどを行うことができます。



1) 〈P-TIMER〉ボタンを押す

- カウントを開始します。

2) 再度 〈P-TIMER〉ボタンを押す

- カウントを停止します。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーを使用中は、投写画面の右下に経過時間または残り時間が表示されます。
- カウント停止中に 〈P-TIMER〉ボタンを押すと、カウントを再開します。
- 〈P-TIMER〉ボタンを3秒以上長押しすると、プレゼンテーションタイマーを終了します。
- プレゼンテーションタイマー機能の設定など詳細については、[表示オプション] メニュー → [プレゼンテーションタイマー]（ 104 ページ）をご覧ください。

ファンクションボタンを使う

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンに、次の機能を割り当てることで、簡単なショートカットボタンとして使用できます。

[サブメモリー]、[システムセクター]、[ダイライトビュー]



1) 〈FUNCTION〉ボタンを押す

お知らせ

- 機能の割り当ては、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ファンクションボタン]（ 116 ページ）で行います。

内蔵テストパターンを表示する

本体の状態を確認するために、10種類の内蔵テストパターンを表示させることができます。テストパターンを表示させる場合は、次の手順で操作してください。



1) 〈TEST PATTERN〉ボタンを押す

2) ◀▶ ボタンでテストパターンを選択する

お知らせ

- メニュー操作でもテストパターンを表示できます。詳しくは、「[テストパターン] メニューについて」（ 127 ページ）をご覧ください。
- 位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

ステータス機能を使う

本体の状態を表示します。



1) 〈STATUS〉ボタンを押す

- [ステータス] 画面が表示されます。

ステータス		1/3
プロジェクタータイプ	PT-MZ770J	
シリアル番号	SW1234567	
プロジェクター使用時間	10000h	
光源使用時間	10000h / 10000h	
連続点灯時間	1h 23m	
メイン/サブバージョン	1.00 / 1.00	
ネットワークバージョン	1.00	
吸気温度	31°C/87°F	
排気温度	31°C/87°F	
光源温度1	31°C/87°F	
光源温度2	31°C/87°F	
自己診断	正常	
Eメール送信		
◀ 切換	MENU 終了	

お知らせ

- メニュー操作でも本体の状態を表示できます。詳しくは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ステータス] (👁 120 ページ) をご覧ください。

ECO マネージメント機能を使う

ECO マネージメントに関する設定画面を表示できます。



1) 〈ECO〉ボタンを押す

お知らせ

- 詳しくは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] (👁 107 ページ) をご覧ください。

リモコンの ID ナンバーを設定する

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

本体の ID ナンバーを設定したあと、同じ ID ナンバーをリモコンに指定してください。

本機の ID ナンバーは、工場出荷時、[オール] に設定されています。1 台だけでご使用の場合は、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押してください。また、本体の ID がわからない場合でも、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押せば制御できます。



1) リモコンの〈ID SET〉ボタンを押す

2) 5 秒以内に、本体側で設定した 1 桁または 2 桁の ID ナンバーを、数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンを押して設定する

- 〈ID ALL〉ボタンを押した場合は、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。

お願い

- リモコンの ID ナンバー指定は、本体がなくても可能なため、リモコンの〈ID SET〉ボタンは不用意に押さないでください。〈ID SET〉ボタンを押した場合は、5 秒以内に数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンを押さないと〈ID SET〉ボタンを押す以前の ID ナンバーに戻ります。
- リモコンに入力された ID ナンバーの指定は、再度指定しない限り記憶しています。ただし、リモコンの電池が消耗したまま放置しておくと消去されます。乾電池を交換した場合は、同じ ID ナンバーを再度設定してください。

お知らせ

- リモコンの ID ナンバーを [0] に設定した場合は、[オール] に設定した場合と同様に、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。
- 本体の ID ナンバーは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [プロジェクター ID] (📖 107 ページ) で設定してください。

第 4 章 調整と設定

オンスクリーンメニューを使ってできる設定や調整方法について説明しています。

オンスクリーンメニューについて

本機の各種設定や調整は、オンスクリーンメニュー（メニュー画面）を使用します。

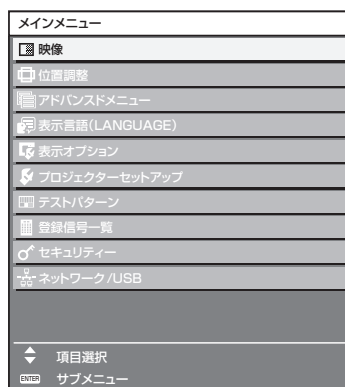
メニュー画面の操作方法

操作の手順



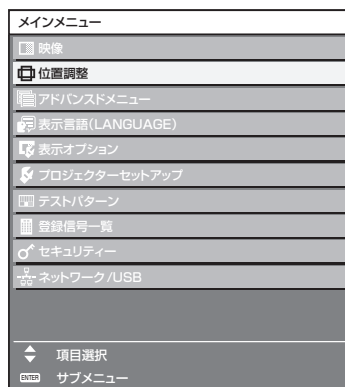
1) リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- [メインメニュー] 画面が表示されます。



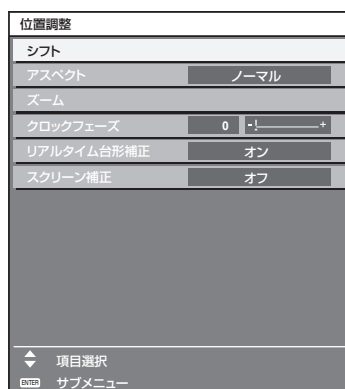
2) ▲▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選択する

- 選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。



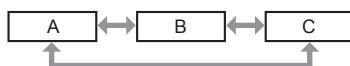
3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 選択したメインメニューのサブメニューが表示されます。



4) ▲▼ ボタンを押してサブメニュー項目を選択し、◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押して設定の切り換えや調整を行う

- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すごとに、下図のように順繰りに項目が切り換わります。



- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すと、下図のようなバースケールの個別調整画面が表示されます。



お知らせ

- メニュー画面を表示中に〈MENU〉ボタンを押すと、1 つ上の階層のメニュー画面に戻ります。〈RETURN〉ボタンを押すことでも同様に操作できます。
- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が黒色文字で表示されます。なお、メニュー画面の項目が黒色文字で表示され、その項目の調整や設定ができない状態である場合は、該当のメニューを選択した状態で〈ENTER〉ボタンを押すと、その要因となる項目が表示されます。
- 信号が入力されていない場合でも、調整できるものがあります。
- 約 5 秒間何も操作しないで放置していると、個別調整画面は自動的に消えます。
- メニューの項目については“メインメニュー” (74 ページ) や“サブメニュー” (75 ページ) をご覧ください。
- カーソルの表示色は、[表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [OSD デザイン] の設定によって異なります。工場出荷時、選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。
- ポートレート設置時、オンスクリーンメニューは横向きで表示されます。縦向きで表示するには、[表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [OSD 回転] の設定を変更してください。

調整値を工場出荷時の状態に戻す

リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと、メニュー項目で調整した値が工場出荷時の状態に戻ります。

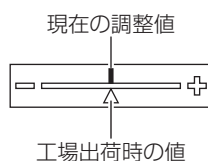


1) リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す



お知らせ

- すべての設定を一度に工場出荷時の状態には戻せません。
- サブメニュー項目で調整した値を、一度に工場出荷時の状態に戻すには、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] で行います。
- リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押しても、工場出荷時の状態に戻らない項目もあります。それらの項目は個別に操作してください。
- 個別調整画面のバースケールの下にある三角マークは、工場出荷時の値を示しています。また、三角マークは、入力される信号によって位置が異なります。



メインメニュー

メインメニューには以下の項目があります。
メインメニューを選択すると、サブメニューの選択画面に移ります。

メインメニュー項目		ページ
	[映像]	78
	[位置調整]	84
	[アドバンスドメニュー]	90
	[表示言語 (LANGUAGE)]	92

メインメニュー項目		ページ
	[表示オプション]	93
	[プロジェクターセットアップ]	107
	[テストパターン]	127
	[登録信号一覧]	128
	[セキュリティー]	131
	[ネットワーク /USB]	135

サブメニュー

選択したメインメニュー項目のサブメニューが表示され、各項目の設定・調整ができます。

【映像】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[映像モード]	[スタンダード] *1	78
[ピクチャー]	[0]	78
[黒レベル]	[0]	78
[色の濃さ]	[0] *2	79
[色あい]	[0]	79
[色温度設定]	[デフォルト] *2	79
[ガンマ選択]	[0]	80
[デイライトビュー]	[オート] *2	81
[シャープネス]	[+6] *2	81
[ノイズリダクション]	[オフ] *2	81
[ダイナミックコントラスト]	[オフ] *2	81
[システムセレクト]	[オート] *1	82

*1 入力信号により異なります。

*2 [映像モード] により異なります。

【位置調整】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[シフト]	—	84
[アスペクト]	[ノーマル] *1	84
[ズーム]	—	85
[クロックフェーズ]	[0] *1	86
[リアルタイム台形補正]	[オフ]	86
[スクリーン補正]	[オフ]	87

*1 入力信号により異なります。

【アドバンスドメニュー】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[デジタルシネマリアリティー]	[オート] *1	90
[プランキング]	—	90
[入力解像度]	—	91
[クランプ位置]	[24] *1	91
[ラスターポジション]	—	91

*1 入力信号により異なります。

お知らせ

- 工場出荷時の値は、選択している入力端子により表示が異なります。

【表示言語 (LANGUAGE)】

項目の詳細 (🔍 92 ページ)

【表示オプション】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[カラーアジャスト]	[オフ]	93
[カラーコレクション]	[オフ]	93
[スクリーン設定]	—	94
[入力自動セットアップ]	[オフ]	94
[自動調整]	—	94
[RGB IN]	—	95
[HDMI IN]	—	96
[DIGITAL LINK IN]	—	98
[オンスクリーン表示]	—	99
[クローズドキャプション設定]	—	101
[入力検出]	[オン]	103
[バックカラー]	[ブルー]	103
[スタートアップロゴ]	[デフォルトロゴ]	103
[シャッター設定]	—	103
[プレゼンテーションタイマー]	—	104
[フリーズ]	—	105
[デジタルズーム]	—	106

【プロジェクターセットアップ】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[プロジェクター ID]	[オール]	107
[投写方式]	—	107
[ECO マネージメント]	—	107
[光 ID]	[オフ]	110
[起動方法]	[ラストメモリー]	111
[スタートアップ入力選択]	[維持]	111
[日付と時刻]	—	112
[スケジュール]	[オフ]	112
[RS-232C]	—	114
[REMOTE1 端子モード]	[デフォルト]	116
[ファンクションボタン]	—	116
[レンズキャリブレーション]	—	116
[音声設定]	—	116
[フィルターカウンター]	—	119
[DC OUT]	[オン]	119
[ステータス]	—	120
[データクローニング]	—	121
[全ユーザーデータ保存]	—	125
[全ユーザーデータ呼出]	—	125
[初期化]	—	125
[サービスパスワード]	—	126

【テストパターン】

項目の詳細 (👁 127 ページ)

【登録信号一覧】

項目の詳細 (👁 128 ページ)

【セキュリティ】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[セキュリティパスワード]	[オフ]	131
[セキュリティパスワード変更]	—	131
[表示設定]	[オフ]	131
[テキスト変更]	—	132
[メニューロック]	[オフ]	132
[メニューロックパスワード]	—	132
[操作設定]	—	132
[操作設定パスワード変更]	—	134

【ネットワーク /USB】

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[DIGITAL LINK モード]	[オート]	135
[DIGITAL LINK ステータス]	—	135
[DIGITAL LINK メニュー]	—	136
[有線 LAN]	—	136
[無線 LAN] *1	[シンプル]	137
[プロジェクター名]	—	140
[ネットワークコントロール]	—	141
[メモリービューワー]	—	141
[Panasonic APPLICATION]	—	142
[ミラーリング] *1	—	144
[ネットワークステータス]	—	146

*1 サブメニュー項目は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合に選択できます。

お知らせ

- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が黒色文字で表示されます。
- サブメニューの項目、および工場出荷時の値は、選択している入力により表示が異なります。

[映像] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[映像]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 73 ページ）をご覧ください。

[映像モード]

ご覧になる映像や視聴環境に合わせて最適な映像モードに設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [映像モード] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [映像モード] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【スタンダード】	動画系全般に適した画像になります。
【ダイナミック】	明るい場所で使用する場合に適した画像になります。
【簡易 DICOM】	DICOM Part 14 グレースケール規格に近い画像になります。
【黒板】	黒板への投写に適した画像になります。
【ホワイトボード】	ホワイトボードへの投写に適した画像になります。
【シネマ】	映画コンテンツに適した画像になります。
【ナチュラル】	暗い部屋で使用する場合に適した画像になります。

お知らせ

- DICOM とは「Digital Imaging and COmmunication in Medicine」の略称で、医療用画像機器のための規格です。DICOM の名称を用いていますが、本機は医療機器ではありませんので、表示画像を診断などの用途に使用しないでください。

[ピクチャー]

色の明暗度を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ピクチャー] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ピクチャー] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	-31 ~ +31
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	

お願い

- [ピクチャー] と [黒レベル] を調整する必要がある場合には、[映像] メニュー → [黒レベル] を先に調整してください。

[黒レベル]

画面の暗い部分（黒色）を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [黒レベル] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [黒レベル] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が明るくなります。	-31 ~ +31
◀ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が暗くなります。	

[色の濃さ]

色の濃さを調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [色の濃さ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色の濃さ] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色が濃くなります。	-31 ~ +31
◀ ボタンを押す	色が薄くなります。	

[色あい]

肌色の部分を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [色あい] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色あい] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が緑色がかかります。	-31 ~ +31
◀ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が赤紫色がかかります。	

[色温度設定]

映像の白色部分が青みがかったり、赤みがかったりする場合に切り換えます。

色温度で調整する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色温度設定] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	工場出荷時の状態です。
[ユーザー]	お好みに合わせてホワイトバランスが調整できます。詳しくは、“お好みのホワイトバランスに調整する場合” (P. 79 ページ) をご覧ください。
[低] / [高]	自然な色あいになるよう選択してください。

お知らせ

- [映像] メニュー → [映像モード] が [簡易 DICOM] に設定されている場合、[デフォルト] は選択できません。
- [表示オプション] メニュー → [カラーアジャスト] の調整が [オフ] 以外に設定されている場合、[ユーザー] 固定になります。

お好みのホワイトバランスに調整する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色温度設定] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [ユーザー] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色温度設定] 画面が表示されます。

- 5) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス] を選択する
- 6) <ENTER> ボタンを押す
 - [ホワイトバランス] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス 高] または [ホワイトバランス 低] を選択する
- 8) <ENTER> ボタンを押す
 - [ホワイトバランス 高] 画面、または [ホワイトバランス 低] 画面が表示されます。
- 9) ▲▼ ボタンで [赤]、[緑]、[青] を選択する
- 10) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[赤]	▶ ボタンを押す	赤色が強くなります。	[ホワイトバランス 高] : 0 ~ +255 (出荷設定値 +255) [ホワイトバランス 低] : -127 ~ +127 (出荷設定値 0)
	◀ ボタンを押す	赤色が弱くなります。	
[緑]	▶ ボタンを押す	緑色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	緑色が弱くなります。	
[青]	▶ ボタンを押す	青色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	青色が弱くなります。	

お知らせ

- [色温度設定] は、正しく調整してください。間違った調整をすると、すべての色が正常にでなくなります。調整が合わなくなった場合は、リモコンの <DEFAULT> ボタンを押すと、選択中の項目のみ工場出荷時の値に戻せます。

[ユーザー] の名称を変更する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは <ENTER> ボタンを押す
 - [色温度設定] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [ユーザー] を選択する
- 4) <ENTER> ボタンを押す
 - [色温度設定] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [色温度設定名称変更] を選択する
- 6) <ENTER> ボタンを押す
 - [色温度設定名称変更] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、<ENTER> ボタンを押して入力する
- 8) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、<ENTER> ボタンを押す
 - 色温度設定名称が変更されます。

お知らせ

- 名称を変更すると、[ユーザー] の表示も変更されます。

[ガンマ選択]

ガンマモードの切り換えをします。

- 1) ▲▼ ボタンで [ガンマ選択] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは <ENTER> ボタンを押す
 - [ガンマ選択] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	中間階調が明るくなります。	-8 ~ +7
◀ ボタンを押す	中間階調が暗くなります。	

[デイライトビュー]

明るい照明下で映像を投写する場合でも、映像を最適な鮮やかさに補正します。

- 1) ▲▼ ボタンで [デイライトビュー] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [デイライトビュー] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	照度センサーで設置環境の明るさを検出して、映像の鮮やかさを自動的に補正します。
【オフ】	補正なしの状態です。
【1】	映像の鮮やかさを弱めに補正します。
【2】	映像の鮮やかさを中程度に補正します。
【3】	映像の鮮やかさを強めに補正します。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] の [フロント/リア] を [リア] に設定している場合、[オート] は選択できません。
- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[オート] に設定していても適切に動作しないことがあります。
- [映像] メニュー → [映像モード] を [簡易 DICOM] に設定している場合、工場出荷時の値は [オフ] です。

[シャープネス]

映像のシャープ感を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [シャープネス] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シャープネス] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	輪郭がシャープになります。	0 ~ +15
◀ ボタンを押す	輪郭がやわらかくなります。	

[ノイズリダクション]

入力された映像が劣化して、映像信号ノイズが発生している場合に切り換えます。

- 1) ▲▼ ボタンで [ノイズリダクション] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ノイズリダクション] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	補正なしの状態です。
【1】	ノイズを弱めに補正します。
【2】	ノイズを中程度に補正します。
【3】	ノイズを強めに補正します。

お願い

- ノイズが少ない入力信号に対して設定すると、映像本来のイメージと違って見えることがあります。その場合は [オフ] に設定してください。

[ダイナミックコントラスト]

映像に合わせて自動的に光源の調光と信号補正を行うことで、最適なコントラストの画像にします。

- 1) ▲▼ ボタンで [ダイナミックコントラスト] を選択する

- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	ダイナミックコントラスト機能を無効にします。
[1]	光源の調光と信号を弱めに補正します。
[2]	光源の調光と信号を強めに補正します。
[ユーザー]	入力中の映像信号が、ある一定の明るさレベル以下になった場合に一時的に光源を消灯できます。詳しくは、“光源の消灯条件を設定する場合” (82 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [光 ID] を [外部制御] または [内部 ID] に設定した場合、[ダイナミックコントラスト] は [オフ] になります。

光源の消灯条件を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [ダイナミックコントラスト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [ユーザー] を選択する
- 4) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで設定したい項目を選択する
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換わります。

設定項目	内容
[消灯検出タイマー] (消灯するまでの時間設定)	[無効]
	[0.5s] ~ [10.0s] 設定した時間の間、入力中の映像信号の明るさレベルが [消灯検出信号レベル] で設定した値を下回り続けると、光源を消灯します。項目は、[0.5s] ~ [4.0s]、[5.0s]、[7.0s]、[10.0s] から選択します。 [0.5s] ~ [4.0s] までは、0.5 単位で選択できます。
[消灯検出信号レベル] (消灯する信号の明るさレベルの設定)	[0%] ~ [5%] [消灯検出タイマー] で光源を消灯する場合の映像信号の明るさレベルを設定します。 1 % 単位で設定できます。(出荷設定値 0 %)

お知らせ

- [消灯検出タイマー] を [無効] に設定している場合、[消灯検出信号レベル] は設定できません。
- [消灯検出タイマー] を [無効] 以外に設定している場合、この機能が働いて光源が消灯した状態から、再び光源が点灯する条件は次のとおりです。
 - 入力中の映像信号の明るさレベルが、[消灯検出信号レベル] で設定した値を超えたとき
 - 入力信号がなくなったとき
 - メニュー画面 (OSD) や入力ガイドなどのオンスクリーン表示、テストパターン、警告メッセージを表示するとき
- アナログ信号の映像を投写している場合、映像信号の明るさレベルを検出するときに信号ノイズの影響を受けることがあります。この場合、[消灯検出信号レベル] で設定した明るさレベルを下回る映像であっても、信号としては下回っていないものと判別されます。

[システムセクター]

本機は入力信号を自動判別しますが、不安定な信号を入力する場合は、手動でシステム方式を設定します。入力信号に合ったシステム方式を設定してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [システムセクター] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- 3) ▲▼ ボタンでシステム方式を選択する
 - 入力信号によって、選択できるシステム方式が異なります。

接続端子	システム方式	
〈VIDEO IN〉端子	[オート]、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[SECAM]、[PAL60] から選択します。 通常は [オート] に設定してください。（[オート] は、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[SECAM]、[PAL60] の中から自動的に判別します。） それぞれのテレビの信号方式に設定を切り換えてください。日本国内では NTSC の信号方式が使われています。	
〈RGB 1 IN〉端子、〈RGB 2 IN〉端子	480/60i、576/50i、576/50p 信号	[RGB]、[YCbCr] から選択します。
	640 x 480/60、480/60p 信号	[640x480/60]、[480/60p YCbCr]、[480/60p RGB] から選択します。
	上記以外の動画系信号	[RGB]、[YPbPr] から選択します。
〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	480/60i、576/50i、480/60p、576/50p 信号	[オート]、[RGB]、[YCbCr] から選択します。
	上記以外の動画系信号	[オート]、[RGB]、[YPbPr] から選択します。

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”（ 214 ページ）をご覧ください。
- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しないことがあります。

[位置調整] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[位置調整]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 73 ページ）をご覧ください。

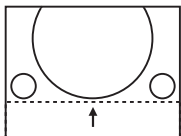
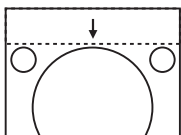
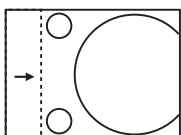
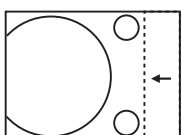
お知らせ

- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番:ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、シフト、アスペクト、クロックフェーズの調整は、まず DIGITAL LINK 出力対応機器側のメニューで設定してください。

[シフト]

本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像位置がずれている場合は、上下左右に映像位置を移動します。

- 1) ▲▼ ボタンで [シフト] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シフト] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

調整方向	操作	変化内容	
垂直位置（上下）調整	▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。	
	▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。	
水平位置（左右）調整	▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。	
	◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。	

お知らせ

- ポートレート設置時は、「垂直位置（上下）調整」を行った場合、映像位置が左右方向に移動することになります。また「水平位置（左右）調整」を行った場合は、映像位置が上下方向に移動することになります。
- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、[シフト] は調整できません。

[アスペクト]

映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えます。

[表示オプション] メニュー → [スクリーン設定] → [スクリーンフォーマット] で選択したスクリーンの範囲内でアスペクトを切り換えます。[スクリーンフォーマット] を先に設定してください。（ 94 ページ）

- 1) ▲▼ ボタンで [アスペクト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [アスペクト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ノーマル】	入力信号のアスペクト比のまま表示します。
【VID オート】 *1	映像信号に組み入れられたビデオ ID (VID) を判別し、4 : 3、16 : 9 の画面サイズを自動的に切り換えて表示します。NTSC 信号入力時に有効です。
【リアル】	入力信号の解像度のまま表示します。
【ワイド】	標準信号入力時 *2 は、アスペクト比を 16 : 9 に変換して表示します。ワイド信号入力時 *3 は、入力アスペクト比のまま表示します。
【4 : 3】	標準信号入力時 *2 は、入力アスペクト比のまま表示します。ワイド信号入力時 *3 は、4 : 3 スクリーンに収まるように入力アスペクト比のまま縮小して表示します。
【H フィット】	【スクリーンフォーマット】 で選択したスクリーン範囲の幅をすべて使って表示します。【スクリーンフォーマット】 で選択されたスクリーンのアスペクトよりも縦長のアスペクト比を持つ信号は、画像の上下が切れて表示されます。
【V フィット】	【スクリーンフォーマット】 で選択したスクリーン範囲の高さをすべて使って表示します。【スクリーンフォーマット】 で選択されたスクリーンのアスペクトよりも横長のアスペクト比を持つ信号は、画像の左右が切れて表示されます。
【フル】	【スクリーンフォーマット】 で選択したスクリーン範囲全体に映像を表示します。入力信号とスクリーン範囲のアスペクト比が異なる場合は、【スクリーンフォーマット】 で選択されたスクリーンのアスペクトに変換して表示します。

*1 ビデオ信号 (NTSC) 入力時のみ

*2 標準信号入力時とは、アスペクト比 4 : 3、5 : 4 の信号入力時です。

*3 ワイド信号入力時とは、アスペクト比 16 : 10、16 : 9、15 : 9、15 : 10 の信号入力時です。

お知らせ

- 入力信号によっては、選択できないサイズモードがあります。ビデオ信号 (NTSC) の場合、【ノーマル】は選択できません。
- 入力信号と異なるアスペクト比を選択すると、オリジナルの映像と見え方に差が出ます。この点に注意して、アスペクト比を選択してください。
- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店やホテルなどの場所で、本機を使用して画面の圧縮や引き伸ばしなどをすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。本機のアスペクト調整、ズーム機能などの機能を利用するときはご注意ください。
- ワイド画面ではない従来 (通常) の 4 : 3 の映像をワイド画面で投写すると、周辺画像が一部見えなくなることや、変形して見えることがあります。制作者の意図を尊重したオリジナルの映像は、4 : 3 の映像をご覧ください。
- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、【アスペクト】は設定できません。

【ズーム】

画像のサイズを調整します。

【位置調整】メニュー → 【アスペクト】の設定によって、【ズーム】の調整内容が異なります。

【アスペクト】を【ノーマル】および【リアル】以外に設定している場合

- ▲▼ ボタンで【ズーム】を選択する
- 〈ENTER〉ボタンを押す
 - 【ズーム】画面が表示されます。
- ▲▼ ボタンで【連動】を選択する
- ◀▶ ボタンで項目を切り換える

【オフ】	【垂直】と【水平】のズーム比をそれぞれ設定します。
【オン】	【水平垂直】でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

- ▲▼ ボタンで【垂直】または【水平】を選択する
 - 【オン】を選択した場合は、【水平垂直】を選択します。
- ◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- 【位置調整】メニュー → 【アスペクト】を【リアル】に設定している場合、【ズーム】は調整できません。
- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、【ズーム】は調整できません。

【アスペクト】を【ノーマル】に設定している場合

- ▲▼ ボタンで【ズーム】を選択する

- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ズーム] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[インターナル]	[スクリーンフォーマット] で設定されたアスペクト領域内でサイズを拡大します。
[フル]	[スクリーンフォーマット] で設定された表示エリアの全領域を使って拡大・縮小します。

- 5) ▲▼ ボタンで [連動] を選択する
- 6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	[垂直] と [水平] のズーム比をそれぞれ設定します。
[オン]	[水平垂直] でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

- 7) ▲▼ ボタンで [垂直] または [水平] を選択する
 - [オン] を選択した場合は、[水平垂直] を選択します。
- 8) ◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- [位置調整] メニュー → [アスペクト] を [ノーマル] 以外に設定した場合、[モード] は表示されません。
- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、[ズーム] は調整できません。

[クロックフェーズ]

画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [クロックフェーズ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [クロックフェーズ] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで調整する
 - 調整値は、[0] ～ [+31] まで変化します。ノイズが少なくなるように調整してください。

お知らせ

- 信号によっては調整できないことがあります。
- 入力しているコンピューターの出力が不安定であると最適値がないことがあります。
- 総ドット数がずれていると最適値がないことがあります。
- [クロックフェーズ] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に YCbCr/YPbPr 信号またはアナログ RGB 信号を入力した場合のみです。
- デジタル信号入力時は [クロックフェーズ] の調整ができません。
- 調整値が [+31] のときに ▶ ボタンを押すと、[0] になります。また、調整値が [0] のときに ◀ ボタンを押すと、[+31] になります。

[リアルタイム台形補正]

本機を傾けて設置している場合に発生する台形ひずみを自動で補正します。

- 1) ▲▼ ボタンで [リアルタイム台形補正] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで調整する項目を選択する

[オフ]	リアルタイム台形補正機能を自動実行しません。
[オン]	リアルタイム台形補正機能を自動実行します。

お知らせ

- 設置の状況によっては、台形ひずみを完全に補正できないことがあります。その場合は、[位置調整] メニュー → [スクリーン補正] で調整してください。
- 次の場合、[リアルタイム台形補正] は設定できません。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] の [床置 / 天つり] を [天つり] に設定している場合
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] の [床置 / 天つり] を [オート] に設定していて、実際の設置状態が天つり設置の場合
- [リアルタイム台形補正] および [スクリーン補正] が、ともに [オフ] に設定されている場合に、[リアルタイム台形補正] を [オン] に変更すると、[スクリーン補正] は [台形補正] に変更されます。

[スクリーン補正]

投写映像の多様なゆがみを補正します。

独自の画像処理技術により特殊な形状のスクリーンにスクエアな映像を投写できます。

1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	[スクリーン補正] を行いません。
[台形補正]	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
[コーナー補正]	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
[曲面スクリーン補正]	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。

[台形補正] または [曲面スクリーン補正] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

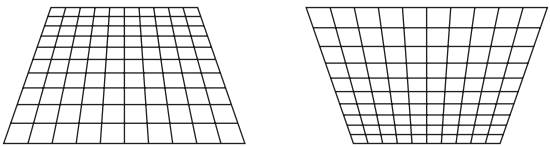
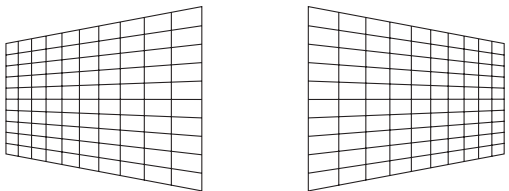
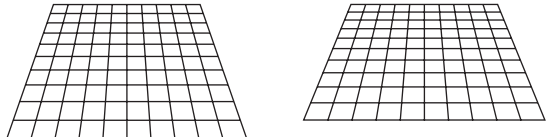
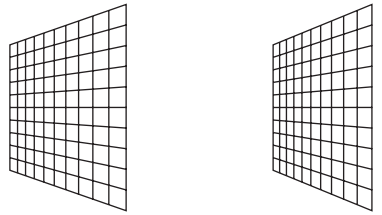
2) ◀▶ ボタンで [台形補正] または [曲面スクリーン補正] を選択する

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

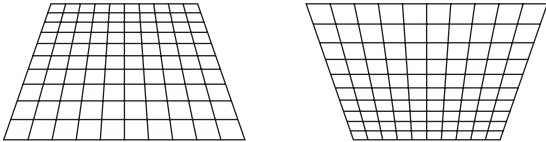
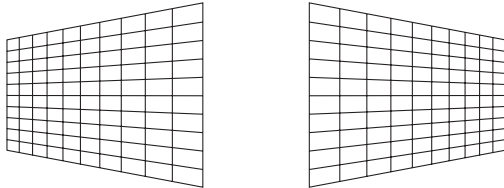
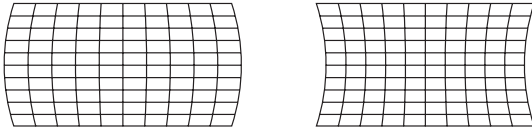
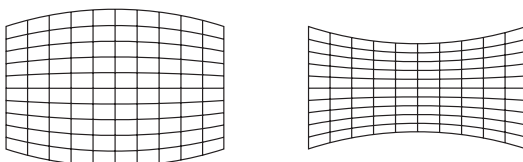
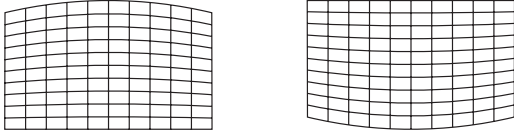
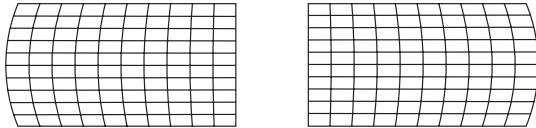
- [台形補正] または [曲面スクリーン補正] 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

5) ◀▶ ボタンで調整する

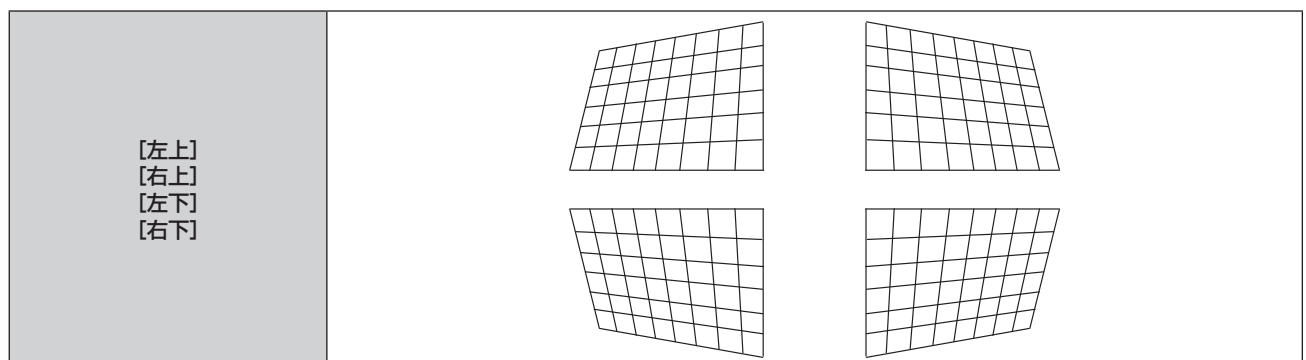
[台形補正]	
[レンズスローレシオ] スローレシオを設定してください。 ここでは、実際の投写距離を投写画面幅で割った値に近い数値を選択します。 投写距離と投写画面幅について、詳しくは“投写関係” (👁 32 ページ) をご覧ください。	
[垂直台形補正] 	[水平台形補正] 
[垂直バランス] 	[水平バランス] 
垂直方向のレンズシフト量に応じて設定してください。	水平方向のレンズシフト量に応じて設定してください。

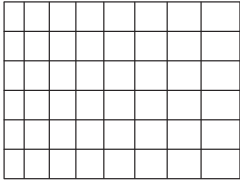
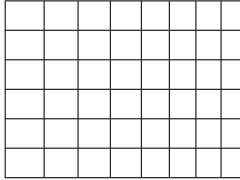
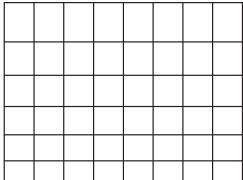
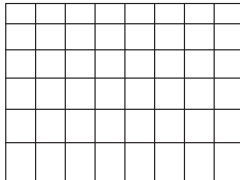
[曲面スクリーン補正]
[レンズスローレシオ] スローレシオを設定してください。 ここでは、実際の投写距離を投写画面幅で割った値に近い数値を選択します。 投写距離と投写画面幅について、詳しくは“投写関係” (👁 32 ページ) をご覧ください。

[曲面スクリーン補正]			
[垂直台形補正]		[水平台形補正]	
			
[垂直弧]		[水平弧]	
			
[垂直バランス]		[水平バランス]	
			
[アスペクト維持] アスペクト比を維持したまま補正する場合は、[オン] を選択します。			

[コーナー補正] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで [コーナー補正] を選択する
- 3) <ENTER> ボタンを押す
 - [コーナー補正] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択する
- 5) <ENTER> ボタンを押す
 - 選択した項目の個別調整画面が表示されます。
- 6) ▲▼◀▶ ボタンで調整する
 - ▲▼ ボタンで [垂直]、◀▶ ボタンで [水平] を調整できます。
 - [垂直] の調整は、▲ ボタンを押すと - 方向に、▼ ボタンを押すと + 方向に値が補正されます。



[リニアリティー]	[水平]		
	[垂直]		

お知らせ

- 補正量によっては、映像の縦横比（アスペクト比）が変化することがあります。

[アドバンスドメニュー] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [アドバンスドメニュー] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (P. 73 ページ) をご覧ください。

[デジタルシネマリアリティー]

PAL (または SECAM) の 576i 信号や NTSC の 480i 信号、および 1080/50i、1080/60i 信号が入力されたとき、シネマ処理をして垂直解像度をさらに上げ、画質を向上させます。

1) ▲▼ ボタンで [デジタルシネマリアリティー] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	自動検出し、シネマ処理をします。(工場出荷時の値)	
[オフ]	シネマ処理をしません。	
[30p 固定]	480i、1080/60i 信号入力時	強制シネマ処理 (2 : 2 ブルダウン) になります。
[25p 固定]	576i、1080/50i 信号入力時	

お知らせ

- [デジタルシネマリアリティー] では、2 : 2 でブルダウンされた信号以外を [25p 固定] または、[30p 固定] に設定すると、画質が劣化します。(垂直解像度が悪くなります。)

[ブランキング]

ビデオデッキなどの映像投写時、画面端にノイズがでている場合やスクリーンから画像がわずかにみ出ている場合などにブランキング幅を調整します。

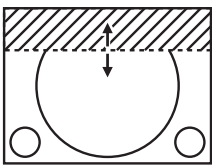
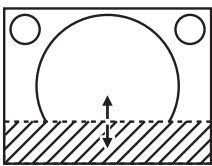
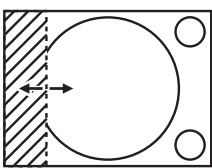
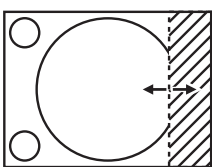
1) ▲▼ ボタンで [ブランキング] を選択する

2) <ENTER> ボタンを押す

- [ブランキング] 調整画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [上]、[下]、[左]、[右] を選択する

4) ◀▶ ボタンでブランキング幅を調整する

ブランキング補正	調整項目	操作	変化内容	調整範囲
画面上側	[上]	◀ ボタンを押す	ブランキング幅が上へ移動します。	 PT-MZ770J : 上下 0 ~ 599 PT-MW730J : 上下 0 ~ 399
		▶ ボタンを押す	ブランキング幅が下へ移動します。	
画面下側	[下]	▶ ボタンを押す	ブランキング幅が上へ移動します。	 PT-MZ770J : 上下 0 ~ 599 PT-MW730J : 上下 0 ~ 399
		◀ ボタンを押す	ブランキング幅が下へ移動します。	
画面左側	[左]	▶ ボタンを押す	ブランキング幅が右へ移動します。	 PT-MZ770J : 上下 0 ~ 959 PT-MW730J : 上下 0 ~ 639
		◀ ボタンを押す	ブランキング幅が左へ移動します。	
画面右側	[右]	◀ ボタンを押す	ブランキング幅が右へ移動します。	 PT-MZ770J : 上下 0 ~ 959 PT-MW730J : 上下 0 ~ 639
		▶ ボタンを押す	ブランキング幅が左へ移動します。	

お知らせ

- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、[ブランキング] は調整できません。

[入力解像度]

画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [入力解像度] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [入力解像度] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [総ドット数]、[表示ドット数]、[総ライン数]、[表示ライン数] を選択し、◀▶ ボタンで各項目を調整する
 - 各項目には入力している信号に応じた数値が自動的に表示されます。画面に縦縞や画面欠けが発生する場合、表示された数値を増減させて画面を見ながら最適な状態に調整してください。

お知らせ

- 全白信号入力では上記縦縞は発生しません。
- 調整中に画像が乱れることがありますが、異常ではありません。
- [入力解像度] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に RGB 信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できないことがあります。

[クランプ位置]

映像の黒部分がつぶれている場合や、緑色になっている場合に最良点に調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [クランプ位置] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで調整する

状態	最適値の目安	調整範囲
黒部分がつぶれている	黒部分のつぶれが最も改善する点が最適値です。	1 ~ 255
黒部分が緑色になっている	緑色部分が黒くなり、つぶれが改善する点が最適値です。	

お知らせ

- [クランプ位置] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できないことがあります。

[ラスターポジション]

入力された映像が表示可能エリア全体を使用していない場合、映像を表示エリア内で任意の位置に移動させることができます。

- 1) ▲▼ ボタンで [ラスターポジション] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ラスターポジション] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

お知らせ

- 入力が MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、[ラスターポジション] は調整できません。

[表示言語 (LANGUAGE)] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [表示言語 (LANGUAGE)] を選択し、サブメニューを表示させます。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (🔍 73 ページ) をご覧ください。

表示言語を切り換える

オンスクリーン表示の言語を切り換えます。

1) ▲▼◀▶ ボタンで表示言語を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

表示言語 (LANGUAGE)	
ENGLISH	MAGYAR
DEUTSCH	ROMANA
FRANÇAIS	ČESTINA
ITALIANO	РУССКИЙ
ESPAÑOL	TÜRKÇE
PORTUGUÊS	العربية
NEDERLANDS	Қазақша
SVENSKA	Hiện thị tiếng Việt
SUOMI	中文
NORSK	한국어
DANSK	● 日本語
POLSKI	ไทย
◀▶ 選択 ENTER 確定	

- 切り換えた言語で各種メニューや設定、調整画面、操作ボタン名などが表示されます。
- 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、スウェーデン語、フィンランド語、ノルウェー語、デンマーク語、ポーランド語、ハンガリー語、ルーマニア語、チェコ語、ロシア語、トルコ語、アラビア語、カザフ語、ベトナム語、中国語、韓国語、日本語、タイ語への切り換えができます。

お知らせ

- 工場出荷時、および [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ] を実行した場合、日本語でオンスクリーン表示するように設定されています。

[表示オプション] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [表示オプション] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (73 ページ) をご覧ください。

[カラーアジャスト]

複数のプロジェクターを同時に使うような場合に、プロジェクター間の色ばらつきを補正します。

1) ▲▼ ボタンで [カラーアジャスト] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	カラーアジャストの調整をしません。
[3 カラーズ]	[赤]、[緑]、[青] の 3 色と、白色の [ゲイン] を調整できます。
[7 カラーズ]	[赤]、[緑]、[青]、[シアン]、[マゼンタ]、[イエロー]、[白] の 7 色を調整できます。

3) [3 カラーズ] または [7 カラーズ] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- [3 カラーズ] または [7 カラーズ] 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで [赤]、[緑]、[青]、[白] ([7 カラーズ] の場合は、[赤]、[緑]、[青]、[シアン]、[マゼンタ]、[イエロー]、[白]) を選択する

5) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [3 カラーズ: 赤]、[3 カラーズ: 緑]、[3 カラーズ: 青]、[3 カラーズ: 白] 画面が表示されます。
[7 カラーズ] の場合は、[7 カラーズ: 赤]、[7 カラーズ: 緑]、[7 カラーズ: 青]、[7 カラーズ: シアン]、
[7 カラーズ: マゼンタ]、[7 カラーズ: イエロー]、[7 カラーズ: 白] 画面が表示されます。
- [自動テストパターン] を [オン] にしておくと、選択した色のテストパターンが表示されます。

6) ▲▼ ボタンで [赤]、[緑]、[青] を選択する

- [3 カラーズ] の [白] を選択した場合は、[ゲイン] のみ調整できます。

7) ◀▶ ボタンで調整する

- 調整値は 0^{*1} ~ 2 048 まで変化します。

*1 調整する色によって下限値が異なります。

お知らせ

- 調整色を補正する場合の動作
調整色と同じ補正色を動かす場合：調整色の輝度が変化します。
補正色赤を動かす場合：調整色に赤を加減します。
補正色緑を動かす場合：調整色に緑を加減します。
補正色青を動かす場合：調整色に青を加減します。
- 調整には熟練を要しますので、プロジェクターに関する知識がある方、またはサービスマンの方が調整してください。
- [自動テストパターン] を [オン] にしておくと、選択された調整色の調整用テストパターンが自動的に表示されます。
- リモコンの 〈DEFAULT〉 ボタンを押すことで、選択中の調整項目を工場出荷時の値に戻せます。
- [カラーアジャスト] を [オフ] 以外に設定した場合、[表示オプション] メニュー → [カラーコレクション] は [オフ] に固定され、[映像] メニュー → [色温度設定] は [ユーザー] に固定されます。

[カラーコレクション]

入力信号の方式ごとに、色の調整・登録ができます。

1) ▲▼ ボタンで [カラーコレクション] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	標準設定
[ユーザー]	VIDEO、RGB、YCbCr/YPbPr の 4 つの信号方式ごとに赤、緑、青、シアン、マゼンタ、イエローの 6 色を調整し、登録できます。〈ENTER〉ボタンを押し、詳細を設定してください。-31 ~ +31 の範囲で調整できます。

[スクリーン設定]

スクリーンサイズを設定します。

投写映像のアスペクト比変更の際に、設定したスクリーンに合わせて最適な映像位置に補正します。ご使用のスクリーンに合わせて設定してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [スクリーン設定] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [スクリーン設定] 画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [スクリーンフォーマット] の項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

品番	[スクリーンフォーマット]	[スクリーン位置] 選択時の調整範囲
PT-MZ770J	[16 : 10]	調整できません。
	[4 : 3]	水平位置を -160 ~ 160 の間で調整できます。
	[16 : 9]	垂直位置を -60 ~ 60 の間で調整できます。
PT-MW730J	[16 : 10]	調整できません。
	[4 : 3]	水平位置を -107 ~ 107 の間で調整できます。
	[16 : 9]	垂直位置を -40 ~ 40 の間で調整できます。

- 4) ▲▼ ボタンで [スクリーン位置] を選択する
 - [スクリーンフォーマット] を [16 : 10] に設定した場合、[スクリーン位置] は選択・調整できません。
- 5) ◀▶ ボタンで [スクリーン位置] を調整する

[入力自動セットアップ]

オートセットアップの自動実行を設定します。

会議などで未登録の信号を頻繁に入力する場合、その都度リモコンの <AUTO SETUP/CANCEL> ボタンを押さなくても画面表示位置や信号レベルを自動で調整できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [入力自動セットアップ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	入力自動セットアップ機能をオフにします。
[オン]	投写中の映像が、未登録の信号に変わった場合、自動的にオートセットアップを行います。

[自動調整]

静止画系信号の特殊な信号や横長（16 : 9 など）の信号を調整するときに設定します。

[モード] で設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [自動調整] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [自動調整] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[標準]	標準の設定です。
[ワイド]	[標準] 設定で合わない、映像アスペクト比がワイドの信号の場合に選択します。
[ユーザー]	特殊な水平解像度（表示ドット数）の信号を受像する場合に選択します。

- [標準] または [ワイド] を選択した場合は、手順 7) に進みます。
- [ユーザー] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) ▲▼ ボタンで [表示ドット数] を選択し、◀▶ ボタンで [表示ドット数] を信号源の水平解像度に合わせる
- 6) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
- 7) <ENTER> ボタンを押す
 - 自動調整を実行します。自動調整中は画面に [実行中] と表示されます。終了すると [自動調整] 画面に戻ります。

位置を自動で調整する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [自動調整] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [自動調整] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [位置自動調整] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オン]	オートセットアップ実行時に画面の位置、サイズを調整します。
[オフ]	自動調整を行いません。

お知らせ

- オートセットアップ機能は、白と黒がはっきりした静止映像を入力しないと正しく動作しないことがあります。

[RGB IN]

<RGB 1 IN> 端子および <RGB 2 IN> 端子の設定をします。

入力された同期信号のスライスレベルを切り換える場合

- 1) ▲▼ ボタンで [RGB IN] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [RGB IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [RGB1] または [RGB2] の [同期スライスレベル] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[低]	スライスレベルを [低] にします。
[高]	スライスレベルを [高] にします。

[RGB IN] (RGB2 入力) の [EDID モード] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [RGB IN] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [RGB IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [RGB2] の [EDID モード] を選択する
- 4) <ENTER> ボタンを押す
 - [EDID モード] 画面が表示されます。
- 5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	標準の設定です。
[スクリーンフィット]	[スクリーンフォーマット] の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
[ユーザー]	[解像度] および [垂直走査周波数] の項目を EDID に設定します。

- [デフォルト] または [スクリーンフィット] を選択した場合は、手順 10) に進みます。

- 6) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [解像度] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼◀▶ ボタンで [解像度] を選択する
 - [1024x768p]、[1280x720p]、[1280x768p]、[1280x800p]、[1280x1024p]、[1366x768p]、[1400x1050p]、[1440x900p]、[1600x900p]、[1600x1200p]、[1680x1050p]、[1920x1080p]、[1920x1080i]、[1920x1200p] から選択します。
- 8) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [垂直走査周波数] 画面が表示されます。
- 9) ◀▶ ボタンで [垂直走査周波数] を選択する
 - [解像度] で [1920x1080p] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[30Hz]、[25Hz]、[24Hz] から選択します。
 - [解像度] で [1920x1080i] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[48Hz] から選択します。
 - [解像度] で次の項目以外を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz] から選択します。
- [1920x1080p]、[1920x1080i]
- 10) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 11) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [解像度]、[垂直走査周波数] で設定した内容は [RGB IN] 画面に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要なことがあります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源の入れ直しが必要になることがあります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できないことがあります。

[HDMI IN]

〈HDMI 1 IN〉端子または〈HDMI 2 IN〉端子に入力する映像信号に合わせて設定します。

[HDMI IN] の [信号レベル] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [HDMI IN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [HDMI IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [HDMI1] または [HDMI2] の [信号レベル] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	信号レベルを自動的に設定します。
【64-940】	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子に入力している場合などに選択します。
【0-1023】	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力を、変換ケーブルなどを使用して 〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子に入力している場合などに選択します。 コンピューターなどの HDMI 端子出力を、〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子に入力している場合も同様です。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- HDMI 信号レベルの表示は、入力が 30 ビット時の表示としています。

[HDMI IN] の [EDID 選択] を設定する場合

(PT-MZ770J のみ)

- 1) ▲▼ ボタンで [HDMI IN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [HDMI IN] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [HDMI1] または [HDMI2] の [EDID 選択] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[4K/60p]	4K 映像信号（最大 4 096 x 2 160 ドット、最大垂直走査周波数 60 Hz）に対応した EDID にします。
[4K/30p]	4K 映像信号（最大 4 096 x 2 160 ドット、最大垂直走査周波数 30 Hz）に対応した EDID にします。
[2K]	2K 映像信号（最大 1 920 x 1 200 ドット）以下に対応した EDID にします。

お知らせ

- [EDID 選択] を [4K/60p] に設定して 4K 映像信号を入力しているときに正常な映像が映らない場合は、設定を [4K/30p] に切り換えてください。
- [EDID 選択] を [4K/60p] または [4K/30p] に設定して 2K 映像以下の信号を入力しているときに正常な映像が映らない場合は、設定を [2K] に切り換えてください。
- [4K/60p]、[4K/30p]、[2K] の EDID に記述している信号について、詳しくは“対応信号リスト”（ 214 ページ）をご覧ください。

[HDMI IN] の [EDID モード] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [HDMI IN] を選択する

2) <ENTER> ボタンを押す

- [HDMI IN] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [HDMI1] または [HDMI2] の [EDID モード] を選択する

4) <ENTER> ボタンを押す

- [HDMI1] 画面または [HDMI2] 画面が表示されます。

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	標準の設定です。
[スクリーンフィット]	[スクリーンフォーマット] の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
[ユーザー]	[解像度] および [垂直走査周波数] の項目を EDID に設定します。

- [デフォルト] または [スクリーンフィット] を選択した場合は、手順 10) に進みます。

6) <ENTER> ボタンを押す

- [解像度] 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで [解像度] を選択する

- [1024x768p]、[1280x720p]、[1280x768p]、[1280x800p]、[1280x1024p]、[1366x768p]、[1400x1050p]、[1440x900p]、[1600x900p]、[1600x1200p]、[1680x1050p]、[1920x1080p]、[1920x1080i]、[1920x1200p] から選択します。

8) <ENTER> ボタンを押す

- [垂直走査周波数] 画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで [垂直走査周波数] を選択する

- [解像度] で [1920x1080p] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[30Hz]、[25Hz]、[24Hz] から選択します。
- [解像度] で [1920x1080i] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[48Hz] から選択します。
- [解像度] で次の項目以外を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz] から選択します。
- [1920x1080p]、[1920x1080i]

10) <ENTER> ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

11) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、<ENTER> ボタンを押す

お知らせ

- [解像度]、[垂直走査周波数] で設定した内容は [HDMI IN] 画面に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要なことがあります。

- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源の入れ直しが必要になることがあります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できないことがあります。

[DIGITAL LINK IN]

〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力する映像信号に合わせて設定します。

[DIGITAL LINK IN] の [信号レベル] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK IN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [DIGITAL LINK IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [信号レベル] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して 〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力や HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して 〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子に入力している場合などに選択します。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 ビット時の表示としています。

[DIGITAL LINK IN] の [EDID 選択] を設定する場合

(PT-MZ770J のみ)

- 1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK IN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [DIGITAL LINK IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [EDID 選択] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[4K/60p]	4K 映像信号（最大 4 096 x 2 160 ドット、最大垂直走査周波数 60 Hz、YpPr 4:2:0 フォーマットのみ）に対応した EDID にします。
[4K/30p]	4K 映像信号（最大 4 096 x 2 160 ドット、最大垂直走査周波数 30 Hz）に対応した EDID にします。
[2K]	2K 映像信号（最大 1 920 x 1 200 ドット）以下に対応した EDID にします。

お知らせ

- [EDID 選択] を [4K/60p] に設定して 4K 映像信号を入力しているときに正常な映像が映らない場合は、設定を [4K/30p] に切り換えてください。
- [EDID 選択] を [4K/60p] または [4K/30p] に設定して 2K 映像以下の信号を入力しているときに正常な映像が映らない場合は、設定を [2K] に切り換えてください。
- [4K/60p]、[4K/30p]、[2K] の EDID に記述している信号について、詳しくは“対応信号リスト”（ 214 ページ）をご覧ください。

[DIGITAL LINK IN] の [EDID モード] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK IN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [DIGITAL LINK IN] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [EDID モード] を選択する

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [DIGITAL LINK] 画面が表示されます。

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	標準の設定です。
[スクリーンフィット]	[スクリーンフォーマット] の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
[ユーザー]	[解像度] および [垂直走査周波数] の項目を EDID に設定します。

- [デフォルト] または [スクリーンフィット] を選択した場合は、手順 10) に進みます。

6) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [解像度] 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで [解像度] を選択する

- [1024x768p]、[1280x720p]、[1280x768p]、[1280x800p]、[1280x1024p]、[1366x768p]、[1400x1050p]、[1440x900p]、[1600x900p]、[1600x1200p]、[1680x1050p]、[1920x1080p]、[1920x1080i]、[1920x1200p] から選択します。

8) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [垂直走査周波数] 画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで [垂直走査周波数] を切り換える

- [解像度] で [1920x1080p] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[30Hz]、[25Hz]、[24Hz] から選択します。
- [解像度] で [1920x1080i] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[48Hz] から選択します。
- [解像度] で次の項目以外を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz] から選択します。
– [1920x1080p]、[1920x1080i]

10) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

11) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [解像度]、[垂直走査周波数] で設定した内容は [DIGITAL LINK IN] 画面に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要なことがあります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源の入れ直しが必要になることがあります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できないことがあります。

[オンスクリーン表示]

オンスクリーン表示を設定します。

[OSD 位置] を設定する場合

メニュー画面 (OSD) の位置を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [OSD 位置] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[2]	画面の左中部に設定します。
[3]	画面の左下部に設定します。
[4]	画面の中央上部に設定します。
[5]	画面の中央部に設定します。
[6]	画面の中央下部に設定します。
[7]	画面の右上部に設定します。

[8]	画面の右中部に設定します。
[9]	画面の右下部に設定します。
[1]	画面の左上部に設定します。

[OSD サイズ] を設定する場合

(PT-MZ770J のみ)

メニュー画面 (OSD) の表示の大きさを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD サイズ] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	通常はこちらを選択してください。
[倍角]	[ノーマル] 設定時の倍角のフォントサイズでメニュー画面を表示します。メニュー画面のサイズは縦 / 横それぞれ 2 倍になります。

[OSD 回転] を設定する場合

メニュー画面 (OSD) の向きを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD 回転] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	画面を回転しません。
[右回転]	画面を時計回りに 90° 回転します。
[左回転]	画面を反時計回りに 90° 回転します。

[OSD デザイン] を設定する場合

メニュー画面 (OSD) の色を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD デザイン] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[1]	背景色を水色、選択色を黄色に設定します。
[2]	背景色を濃い青色、選択色を青色に設定します。
[3]	背景色を灰色、選択色を白色に設定します。
[4]	背景色を緑色、選択色を薄い緑色に設定します。
[5]	背景色を茶色、選択色を桃色に設定します。
[6]	背景色を薄い茶色、選択色を肌色に設定します。

[OSD メモリー] を設定する場合

メニュー画面（OSD）のカーソルの位置を保持するかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD メモリー] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	カーソルの位置を保持します。
[オフ]	カーソルの位置を保持しません。

お知らせ

- [オン] に設定している場合でも、電源を切るとカーソル位置は保持されません。

[入力ガイド] を設定する場合

[OSD 位置] で設定された位置に入力ガイドを表示するかどうかを設定します。

入力ガイドは、現在選択している入力端子名、信号名、メモリー番号などの情報を表示する画面です。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [入力ガイド] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	入力ガイドを表示します。
[オフ]	入力ガイドを表示しません。

[警告メッセージ] を設定する場合

警告メッセージの表示 / 非表示を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [警告メッセージ] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	警告メッセージを表示します。
[オフ]	警告メッセージを表示しません。

お知らせ

- [オフ] に設定すると、本機を使用中に [温度警告] などの警告状態を検出しても、投写画面上に警告メッセージが表示されなくなります。フィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージも表示されません。

[クローズドキャプション設定] (NTSC 信号入力時のみ)

クローズドキャプションを設定します。

クローズドキャプションの表示を選択する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [クローズドキャプション設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	クローズドキャプションを表示しません。
[オン]	クローズドキャプションを表示します。

- [オン] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

クローズドキャプションのモードを設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [クローズドキャプション設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
 - [クローズドキャプション] を [オフ] に設定している場合、[モード] は選択できません。
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[CC1]	CC1 のデータを表示します。
[CC2]	CC2 のデータを表示します。
[CC3]	CC3 のデータを表示します。
[CC4]	CC4 のデータを表示します。

お知らせ

- クローズドキャプションは、主に北米で使用されている映像信号の文字情報を表示する機能です。接続する機器や再生するコンテンツによってはキャプションが表示できません。
- NTSC 信号が入力されている場合にのみ [クローズドキャプション設定] を選択できます。
- [クローズドキャプション] を [オン] に設定すると、接続するクローズドキャプション対応の外部機器や使用するコンテンツによっては、映像の明るさが変化することがあります。
- 選択したモードのクローズドキャプション信号が入力された場合、[セキュリティ] メニュー → [表示設定] で設定したセキュリティーメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、クローズドキャプションは表示されません。

[入力検出]

入力検出機能の有効 / 無効を設定します。

入力検出機能を有効にすると、電源を入れたときに入力信号がある入力を自動的に選択して投写を開始します。また、選択中の入力が無信号のときに〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、入力信号がある入力に自動的に切り換わります。

1) ▲▼ ボタンで [入力検出] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オン】	入力検出機能を有効にします。
【オフ】	入力検出機能を無効にします。

お知らせ

- 入力が Panasonic APPLICATION、MIRRORING の場合、入力検出機能は動作しません。
- 入力が MEMORY VIEWER の場合、〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーが取り付けられているときに、入力信号があると判断します。

[バックカラー]

信号が入力されていないときの投写画面の表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [バックカラー] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ブルー】	投写画面全体に青色を表示します。
【ブラック】	投写画面全体に黒色を表示します。
【デフォルトロゴ】	投写画面に Panasonic ロゴを表示します。
【ユーザーロゴ】	投写画面にユーザーが登録した画像を表示します。

お知らせ

- [ユーザーロゴ] の画像作成・登録には、「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。ソフトウェアは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。

[スタートアップロゴ]

電源を入れたときのロゴ表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [スタートアップロゴ] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【デフォルトロゴ】	Panasonic ロゴを表示します。
【ユーザーロゴ】	ユーザーが登録した画像を表示します。
【なし】	スタートアップロゴ表示を無効にします。

お知らせ

- [ユーザーロゴ] を選択した場合、スタートアップロゴの表示は約 15 秒間維持されます。
- [ユーザーロゴ] の画像作成・登録には、「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。ソフトウェアは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに投写を開始した際はスタートアップロゴを表示しません。
所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。

[シャッター設定]

シャッター機能の動作の設定ができます。

[フェードイン] または [フェードアウト] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シャッター設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [フェードイン] または [フェードアウト] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

調整項目		変化内容
[フェードイン] [フェードアウト]	[オフ]	フェードイン、フェードアウトを設定しません。
	[0.5s] ~ [10.0s]	フェードイン、フェードアウトの時間を設定できます。 項目は、[0.5s] ~ [4.0s]、[5.0s]、[7.0s]、[10.0s] から 選択します。[0.5s] ~ [4.0s] までは、0.5 単位で選択できます。

お知らせ

- フェードインまたはフェードアウト中に、リモコンの〈SHUTTER〉ボタンを押すと、フェード動作はキャンセルされます。
- 音声については、フェードイン / フェードアウトを行いません。シャッター機能の動作に連動して、音声が出力または停止をします。

[スタートアップ] を設定する場合

電源を入れたときに自動でシャッター機能を有効 / 無効（シャッター：閉 / 開）にする設定をします。

- 1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シャッター設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [スタートアップ] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[開]	電源を入れたときにシャッター機能無効の状態（シャッター：開）で投写状態になります。
[閉]	電源を入れたときにシャッター機能有効の状態（シャッター：閉）で投写状態になります。

シャッター機能を使用する場合

一定時間だけ本機を使用しない場合、映像と音声を消します。

- 1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シャッター設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [シャッター] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 〈MENU〉 ボタンまたは 〈RETURN〉 ボタンを押すと解除されます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）は、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉がゆっくりと緑色点滅します。
- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）に音声を出力したい場合は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [シャッター時動作] を [オン] に設定してください。

[プレゼンテーションタイマー]

プレゼンテーションタイマー機能の設定と操作をします。

モードを設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する

- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[カウントアップ]	カウントを開始したときからの経過時間を表示します。
[カウントダウン]	[タイマー] で設定した時間に対する残り時間を表示します。

カウントダウンタイマーを設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで時間を設定する
 - 1 分から 180 分の間で 1 分刻みで設定できます。
 - 工場出荷時の値は 10 分です。

お知らせ

- [タイマー] は、[モード] を [カウントダウン] に設定している場合に設定できます。

プレゼンテーションタイマーを使用する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで項目を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

[開始]	カウントを開始します。
[ストップ]	カウントを停止します。
[再スタート]	カウントを再開します。
[リセット]	カウントがリセットされます。
[終了]	プレゼンテーションタイマーを終了します。

- [開始] または [再スタート] を選択した場合、投写画面の右下に、経過時間または残り時間が表示されます。
- [ストップ] を選択した場合、投写画面の右下に、停止したときの経過時間または残り時間が表示されます。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーの操作は、リモコンの 〈P-TIMER〉 ボタンでも操作できます。(☞ 69 ページ)
- 経過時間または残り時間を表示中、[セキュリティー] メニュー → [表示設定] (☞ 131 ページ) で設定したセキュリティーメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、経過時間または残り時間は表示されません。
- [モード] を [カウントアップ] に設定している場合、スタート時間は “000:00” になります。
- [モード] を [カウントダウン] に設定している場合、スタート時間は [タイマー] で設定した値になります。
- タイマーゲージは、[カウントアップ] のときは時計回り、[カウントダウン] のときは反時計回りに回転します。

[フリーズ]

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消します。

- 1) ▲▼ ボタンで [フリーズ] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - 〈MENU〉ボタンまたは 〈RETURN〉ボタンを押すと解除されます。

お知らせ

- 静止中は画面に [フリーズ] と表示されます。
- [フリーズ] の操作は、リモコンの〈FREEZE〉ボタンでも操作できます。(👉 66 ページ)

[デジタルズーム]

(静止画系の RGB 信号、静止画系の HDMI 信号、静止画系の DIGITAL LINK 信号入力時。または、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING 入力時。)

- 1) ▲▼ ボタンで [デジタルズーム] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [デジタルズーム] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで拡大倍率を調整する
 - 1.0 倍から 3.0 倍まで 0.1 単位で拡大倍率を調整できます。
- 4) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - 移動画面が表示されます。
- 5) 拡大場所を移動する
 - 詳しくは“デジタルズーム機能を使う”(👉 68 ページ)をご覧ください。

お知らせ

- デジタルズーム中にリモコンの〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンまたは本体操作部の〈LENS/CANCEL〉ボタンを押すと、デジタルズームが解除されます。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。
- デジタルズーム中は、静止機能は無効になります。
- 一部の静止画系信号ではデジタルズームは動作しません。

[プロジェクターセットアップ] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [プロジェクターセットアップ] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (☞ 73 ページ) をご覧ください。

[プロジェクター ID]

本機には ID ナンバーの設定機能があり、本機を複数台並べて使用する場合、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター ID] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オール】	ID ナンバーを指定しないで制御する場合に選択します。
【1】 ~ 【64】	ID ナンバーを指定して個別制御する場合に選択します。

お知らせ

- ID ナンバーを指定して個別制御する場合は、リモコンの ID ナンバーを本機の ID ナンバーに合わせる必要があります。
- ID ナンバーを【オール】に設定すると、リモコンまたはコンピューターで制御の際、ID ナンバーを何番に指定しても本機は動作します。
本機を複数台並べて設置する場合、ID ナンバーを【オール】に設定していると、他の ID ナンバーを設定した本機と分けて制御できなくなります。
- リモコンの ID ナンバーを設定する方法は“リモコンの ID ナンバーを設定する” (☞ 71 ページ) をご覧ください。

[投写方式]

本機の設置状態に合わせて、投写方式を設定します。

画面表示が反転して映っている場合は、[フロント / リア] の設定を変更してください。

画面表示が上下逆転して映っている場合は、[床置 / 天つり] の設定を変更してください。

[フロント / リア] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [投写方式] の [フロント / リア] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【フロント】	スクリーン前方に設置する場合に選択します。
【リア】	スクリーン後方（透過式スクリーン使用）に設置する場合に選択します。

[床置 / 天つり] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [投写方式] の [床置 / 天つり] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	内蔵の角度センサーで、本機の姿勢を自動的に検出します。 通常は【オート】に設定して使用してください。
【床置】	机の上などに設置する場合に選択します。
【天つり】	天つり金具（別売品）を使用して設置する場合に選択します。 映像を上下逆転させて映します。

お知らせ

- 本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲について、詳しくは“角度センサーについて” (☞ 31 ページ) をご覧ください。

[ECO マネージメント]

消費電力を抑えたり光源寿命を向上させる [ECO マネージメント] を設定します。

【光源電力】を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [光源電力] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ノーマル】	高い輝度が必要なときに選択します。光源電力は 100 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間 ^{*1} です。
【ECO】	輝度は【ノーマル】より低下しますが、光源の使用時間に対する輝度低下を抑えたいときに選択します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 24 000 時間 ^{*1} です。
【静音】	低騒音での運用を優先する場合に選択します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間 ^{*1} です。
【ユーザー】	お好みの画面の明るさに設定する場合に選択します。

^{*1} 使用時間は、[映像] メニュー→[ダイナミックコントラスト] を [2] に設定している場合の目安です。

- 【ユーザー】を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) ▲▼ ボタンで [光出力] を選択する
- 6) ◀▶ ボタンで調整する

操作	変化内容		調整範囲
	明るさ使用時間（目安）	使用時間（目安）	
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	使用時間が短くなります。	30 % ^{*1} ~ 100 %
◀ ボタンを押す画	画面が暗くなります。	使用時間が長くなります。	

^{*1} 光出力を小さくするほど、画質が劣化する傾向があります。

お知らせ

- 光源それぞれの特性、使用条件、設置環境などの影響を受けて、使用時間の目安に達しないことがあります。
- 使用時間とは、プロジェクターを連続して使い続けた場合に光源の輝度が半減するまでの時間です。使用時間は目安であり、保証期間ではありません。
- 使用時間が 10 000 時間を超えた場合は、本機内部の部品交換が必要となることがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 【ノーマル】以外に設定した場合、[プロジェクターセットアップ] メニュー→[光 ID] の設定は無効になり、[オフ] に固定されます。

【環境照度連動】を設定する場合

設置場所の明るさにより光源電力を調整する [環境照度連動] の機能を有効にするかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [環境照度連動] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	環境照度連動機能を無効にします。
【オン】	環境照度連動機能を有効にします。

お知らせ

- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[環境照度連動] を [オン] に設定していても適切に動作しないことがあります。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー→[光 ID] を [外部制御] または [内部 ID] に設定した場合、[環境照度連動] は [オフ] になります。

【無信号連動】を設定する場合

無信号時に光源の電力を下げる [無信号連動] の機能を有効にするかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [無信号連動] 選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	[無信号連動] の機能を無効にします。
[オン]	[無信号連動] の機能を有効にします。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [光 ID] を [外部制御] または [内部 ID] に設定した場合、[無信号連動] は [オフ] になります。
- MEMORY VIEWER、MIRRORING、Panasonic APPLICATION の各入力でも [無信号連動] の機能が動作します。入力信号がない状態と判別する条件は次のとおりです。
 - MEMORY VIEWER 入力：<VIEWER/PAIRING> 端子に USB メモリーが取り付けられていない
 - MIRRORING 入力、Panasonic APPLICATION 入力：コンピューターなどの端末からの接続がない

[パワーマネージメント] を設定する場合

入力信号がない状態が続くと、自動的に本機の電源をスタンバイ状態または待機状態にする機能です。スタンバイ状態または待機状態の選択と、パワーマネージメント機能が働くまでの時間を設定できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [パワーマネージメント] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[シャットダウン]	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、[タイマー] で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちにスタンバイ状態になります。
[オフ]	パワーマネージメント機能を無効にします。
[待機]	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、[タイマー] で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちに待機状態になります。 待機中に信号を入力すると、またはボタン操作をすると、光源が点灯して投写状態になります。

- [オフ] 以外を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) <ENTER> ボタンを押す
 - [パワーマネージメント] 画面が表示されます。
- 6) ◀▶ ボタンで [タイマー] の時間を設定する
 - ボタンを押すごとに、設定時間が切り換わります。
 - パワーマネージメント機能が働くまでの時間を 5 分から 120 分の間で 5 分刻みで設定できます。

お知らせ

- MEMORY VIEWER、MIRRORING、Panasonic APPLICATION の各入力でもパワーマネージメント機能が動作します。入力信号がない状態と判別する条件は次のとおりです。
 - MEMORY VIEWER 入力：<VIEWER/PAIRING> 端子に USB メモリーが取り付けられていない
 - MIRRORING 入力、Panasonic APPLICATION 入力：コンピューターなどの端末からの接続がない

[スタンバイモード] を設定する場合

スタンバイ時の電力と、[高速スタートアップ] の機能を有効にするかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [スタンバイモード] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	スタンバイ時にネットワーク機能を使用する場合に選択します。
[ECO]	スタンバイ時の消費電力を低く抑えたい場合に選択します。

- [ノーマル] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

5) ▲▼ ボタンで [高速スタートアップ] を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	[高速スタートアップ] の機能を無効にします。
[オン]	スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過するまでの間、[高速スタートアップ] の機能を有効にします。[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、電源を入れてから投写を開始するまでの時間が短縮されます。

- [オン] を選択した場合は、手順 7) に進みます。

7) <ENTER> ボタンを押す

- [高速スタートアップ] 画面が表示されます。

8) ◀▶ ボタンで [有効期間] を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[30 分]	スタンバイ状態になってから [高速スタートアップ] の機能を無効にするまでの時間を設定します。お好みの有効期間を選択してください。
[60 分]	
[90 分]	

お知らせ

- [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能が使えます。
- [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能と音声出力機能が使えません。また、RS-232C コマンドの一部が使えません。
- [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、[ノーマル] 設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [スケジュール] が [オン] に設定されている場合、[スタンバイモード] は [ノーマル] に固定されます。
- [スタンバイモード] が [ECO] に設定されている場合、[高速スタートアップ] は設定できません。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ時の消費電力が高くなります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過すると、[高速スタートアップ] の機能が無効になり、[高速スタートアップ] を [オフ] に設定した場合と同じ起動時間、同じ消費電力になります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ時に電源インジケータ <ON (G) /STANDBY (R)> が赤色点滅します。また、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オフ] に設定している場合は、スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過すると、電源インジケータ <ON (G) /STANDBY (R)> が赤色点灯に移行します。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、稼働時間としてプロジェクター使用時間に加算されます。

[光 ID]

光 ID 信号を発信する機能の設定をします。

1) ▲▼ ボタンで [光 ID] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	光 ID 機能を無効にします。光 ID 信号を発信しません。
[外部制御]	ユーザーが設定した光 ID の信号を発信します。 「複数台監視制御ソフトウェア」のコンテンツリスト配信機能または光 ID コントロール機能を使用して、本機が発信する光 ID 信号を切り換える場合などに選択します。 光 ID を設定するには、光 ID の購入が必要になります。光 ID の購入に関しては、弊社 WEB サイト (https://panasonic.biz/cns/LinkRay/) をご覧ください。 次の場合、ユーザーが設定した光 ID は消去されます。 主電源 <MAIN POWER> スイッチを <OFF> にした場合

[内部 ID]	本機内蔵の光 ID 信号を発信します。 工場出荷時、または [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] を実行したあとの光 ID 信号は、弊社 WEB サイト (https://panasonic.biz/cns/projector/) にひも付けされています。 [光 ID] を [内部 ID] に設定した状態で光 ID の設定を行った場合は、ユーザーが設定したその光 ID の信号が発信されます。
---------	---

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [光源電力] を [ノーマル] 以外に設定している場合、[光 ID] の設定は無効になり、[オフ] に固定されます。
- [光 ID] を [オフ] 以外に設定している場合、光出力が低下します。
- フィルターの目づまりが検出されて光源の明るさが制限された場合、[光 ID] は [オフ] に固定されます。
- [光 ID] を [オフ] 以外に設定している場合、次の設定は無効になり、[オフ] に固定されます。
 - [映像] メニュー → [ダイナミックコントラスト]
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] の [環境照度連動] と [無信号連動]
- 光 ID 信号の設定には、「複数台監視制御ソフトウェア」を使用します。ソフトウェアは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。
- 本機内蔵の光 ID 信号は、「複数台監視制御ソフトウェア」を使用して制御コマンドを実行することで書き換えできます。制御コマンドの実行について、詳しくは「複数台監視制御ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ] を実行すると、[光 ID] の設定は工場出荷時の状態に戻ります。
- 「複数台監視制御ソフトウェア」のコンテンツリスト配信機能および光 ID コントロール機能について、詳しくは「複数台監視制御ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。
- 光 ID 信号を送信時、投写映像にちらつきが発生することがありますが、光 ID の送信による輝度変化によるものであり、故障ではありません。
- フィルターの目づまりが検出されて光源の明るさが制限された場合、フィルターインジケータ (FILTER) が点灯して [光 ID] が [オフ] になり、光 ID 信号は発信されなくなります。目づまりを解消したのちに、再度設定してください。
- フィルターの目づまりの解消方法については、「インジケータが点灯したら」(193 ページ) をご覧ください。

[起動方法]

主電源 (MAIN POWER) スイッチを (ON) にしたときの起動方法を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [起動方法] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ラストメモリー]	主電源 (MAIN POWER) スイッチを (OFF) にする前の状態で起動します。
[スタンバイ]	スタンバイ状態で起動します。
[オン]	すぐに投写を開始します。

[スタートアップ入力選択]

電源を入れて投写を開始する際の入力を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [スタートアップ入力選択] を選択する

2) (ENTER) ボタンを押す

- [スタートアップ入力選択] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで入力を選択し、(ENTER) ボタンを押す

[維持]	最後に選択した入力を維持します。
[RGB1]	入力を RGB1 にします。
[RGB2]	入力を RGB2 にします。
[VIDEO]	入力を VIDEO にします。
[HDMI1]	入力を HDMI1 にします。
[HDMI2]	入力を HDMI2 にします。
[DIGITAL LINK]	入力を DIGITAL LINK にします。
[MEMORY VIEWER]	入力を MEMORY VIEWER にします。
[Panasonic APPLICATION]	入力を Panasonic APPLICATION にします。
[MIRRORING] *1	入力を MIRRORING にします。
[入力 1] ~ [入力 10] *2	入力を DIGITAL LINK にし、さらに当社製ツイストペアケーブル伝送器の入力を指定入力に切り換えます。

*1 [MIRRORING] は、別売品のワイヤレスモジュール (品番: ET-WM300) を取り付けている場合にのみ表示されます。

*2 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番: ET-YFB100、ET-YFB200) を本機に接続している場合、その入力名が [入力 1] ~ [入力 10] に自動的に反映されます。入力名が反映されていない項目を選択した場合は無効になります。

[日付と時刻]

本機内蔵時計のタイムゾーンと日時を設定します。

タイムゾーンを設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [日付と時刻] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [日付と時刻] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [タイムゾーン] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで [タイムゾーン] を切り換える

手動で日時を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [日付と時刻] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [日付と時刻] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [時刻設定] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [時刻設定] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンでローカル日時を設定する
- 6) ▲▼ ボタンで [設定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 日時設定が完了します。

自動で日時を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [日付と時刻] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [日付と時刻] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [時刻設定] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [時刻設定] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [NTP 同期] を選択し、◀▶ ボタンで [オン] に切り換える
- 6) ▲▼ ボタンで [設定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 日時設定が完了します。

お知らせ

- 自動で日時を設定するには、ネットワークへの接続が必要です。
- [NTP 同期] を [オン] にした直後の NTP サーバーとの同期に失敗したときは、[NTP 同期] は [オフ] に戻ります。NTP サーバーの設定がされていない状態で [NTP 同期] を [オン] にした場合も、[NTP 同期] は [オフ] に戻ります。
- NTP サーバーの設定は WEB ブラウザーから本機にアクセスして実行してください。詳しくは、“[時刻設定] ページ” (🔍 165 ページ) をご覧ください。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ] を実行すると、[タイムゾーン] の設定は工場出荷時の状態に戻ります。しかし、ローカル日時の設定に基づく日付と時刻（協定世界時、UTC、Universal Time, Coordinated）は初期化されずに保持されます。

[スケジュール]

コマンドの実行スケジュールを曜日ごとに設定します。

スケジュール機能の有効 / 無効を設定する

- 1) ▲▼ ボタンで [スケジュール] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	スケジュール機能を無効にします。
[オン]	スケジュール機能を有効にします。スケジュールの設定方法については、“プログラムの割り当て方法” (113 ページ) または “各プログラムの設定方法” (113 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ]メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した状態で [スケジュール] を [オン] に設定すると、[スタンバイモード] の設定は強制的に [ノーマル] となり、[ECO] への設定変更はできなくなります。この状態で [スケジュール] を [オフ] にしても、[スタンバイモード] の設定は元に戻りません。

プログラムの割り当て方法

1) ▲▼ ボタンで [スケジュール] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [オン] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- [スケジュール] 画面が表示されます。

3) 曜日ごとにプログラムを選択し、割り当てる

- ▲▼ ボタンで曜日を選択し、◀▶ ボタンでプログラム番号を選択します。
- プログラムは、プログラム番号 1 ～ 7 まで設定できます。“---” は未設定を表します。

各プログラムの設定方法

1 プログラムにつき 16 コマンドまでの設定ができます。

1) ▲▼ ボタンで [スケジュール] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [オン] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- [スケジュール] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [プログラム編集] を選択する

4) ◀▶ ボタンで設定したいプログラム番号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5) ▲▼ ボタンでコマンド番号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- ◀▶ ボタンでページの切り換えができます。

6) ▲▼ ボタンで [時刻] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 調整モード（時刻が点滅している状態）になります。

7) ◀▶ ボタンで「時」または「分」を選択して、▲▼ ボタンまたは数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンで時刻を設定し、〈ENTER〉ボタンを押す

8) ▲▼ ボタンで [コマンド] を選択する

9) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [コマンド] 詳細設定画面が表示されます。

10) ▲▼ ボタンで設定したい [コマンド] を選択する

- 詳細設定が必要な [コマンド] については、◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換わります。
- [入力] を選択した場合は、続けて 〈ENTER〉ボタンを押して、▲▼◀▶ ボタンで設定したい入力を選択します。

[コマンド]	[コマンド] の詳細設定	説明
[電源オン]	—	電源を入れます。
[スタンバイ]	—	スタンバイ状態にします。
[高速スタートアップ]	[オン]	[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] の機能を有効にします。
	[オフ]	[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] の機能を無効にします。
[シャッター]	[開]	シャッター機能を無効（シャッター：開）にします。
	[閉]	シャッター機能を有効（シャッター：閉）にします。

【コマンド】	【コマンド】の詳細設定	説明
【入力】	【RGB1】	RGB 1 に入力を切り換えます。
	【RGB2】	RGB2 に入力を切り換えます。
	【VIDEO】	VIDEO に入力を切り換えます。
	【HDMI1】	HDMI1 に入力を切り換えます。
	【HDMI2】	HDMI2 に入力を切り換えます。
	【DIGITAL LINK】	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。
	【MEMORY VIEWER】	MEMORY VIEWER に入力を切り換えます。
	【Panasonic APPLICATION】	Panasonic APPLICATION に入力を切り換えます。
	【MIRRORING】 *1	MIRRORING に入力を切り換えます。
	【入力 1】 ~ 【入力 10】 *2	DIGITAL LINK に入力を切り換え、さらに当社製ツイストペアケーブル伝送器の入力を指定入力に切り換えます。
【光源電力】	【ノーマル】	輝度を優先します。
	【ECO】	輝度は【ノーマル】より低下しますが、光源の寿命を延ばすように電力を制御します。
	【静音】	輝度は【ノーマル】より低下しますが、低騒音での運用を優先します。
	【ユーザー】	【ユーザー】に設定した内容で電力を制御します。
【スタンバイ時動作（音声）】	【オフ】	スタンバイ時の音声出力を停止します。
	【オン】	スタンバイ時に音声を出します。
【音量】	【0】 ~ 【63】	音量を設定します。

*1 【MIRRORING】は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合にのみ表示されます。

*2 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、その入力名が【入力 1】 ~ 【入力 10】に自動的に反映されます。入力名が反映されていない項目を選択した場合は無効になります。

11) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- コマンドが確定し、選択しているコマンドの左側に ● が表示されます。
- コマンドが確定したあとは 〈MENU〉 ボタンを押して詳細設定画面を閉じます。

12) ▲▼◀▶ ボタンで【登録】を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- すでに設定されているコマンドを削除する場合は、手順 5) の画面を表示中にリモコンの 〈DEFAULT〉 ボタンを押すか、手順 6) の画面で【削除】を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押してください。
- 同じ時刻に設定されたコマンドは、コマンド番号の若い順に実行されます。
- 時刻はローカル時刻で動作します。（☞ 112 ページ）
- 【スケジュール】で設定されたコマンドの実行前に、リモコンや本体操作部での操作、制御コマンドによる操作を実行した場合、スケジュール機能で設定したコマンドが実行されないことがあります。

【RS-232C】

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定します。“〈SERIAL IN〉端子について”（☞ 209 ページ）をご覧ください。

1) ▲▼ ボタンで【RS-232C】を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 【RS-232C】画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで【接続先選択】を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

【プロジェクター】	プロジェクター本体の〈SERIAL IN〉端子で RS-232C 通信を行います。
【DIGITAL LINK】	別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を経由して RS-232C 通信を行います。

5) ▲▼ ボタンで【通信速度】を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[9600]	適切な速度を選択してください。
[19200]	
[38400]	

7) ▲▼ ボタンで [パリティ] を選択する

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[なし]	パリティの条件を選択してください。
[偶数]	
[奇数]	

お知らせ

- [接続先選択] を [DIGITAL LINK] に設定した場合は、該当の機器（たとえば、別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200））を（DIGITAL LINK/LAN）端子に接続しているときのみ、そのシリアル端子を使用して通信できます。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）経由でロゴ転送を行う場合は、通信が途絶えないよう DIGITAL LINK 出力対応機器側の「無信号休止」の設定を「オフ」にしておく必要があります。
- [接続先選択] を [DIGITAL LINK] に設定した場合は、入力の通信速度は 9 600 bps に、パリティは「なし」に固定されます。

既存のプロジェクターの制御コマンドを使用する場合

本機の〈SERIAL IN〉端子を使用してコンピューターで制御する際に、以前に購入した弊社プロジェクターの制御コマンドを使用する場合に設定します。既存の弊社プロジェクター用制御ソフトウェア等を引き続き使用できます。

1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [RS-232C] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [エミュレート] を選択する

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [エミュレート] 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで項目を選択する

[オフ]	既存のプロジェクターの制御コマンドを使用しません。
[D3500]	D3500 系
[D4000]	D4000 系
[D/W5k シリーズ]	D5700 系、DW5100 系、D5600 系、DW5000 系、D5500 系
[D/W/Z6k シリーズ]	DZ870 系、DW830 系、DX100 系、DZ780 系、DW750 系、DX820 系、DZ770 系、DW740 系、DX810 系、DZ680 系、DW640 系、DX610 系、DW730 系、DX800 系、DZ6710 系、DZ6700 系、DW6300 系、D6000 系、D5000 系、DZ570 系、DW530 系、DX500 系、RZ970 系、RW930 系、RX110 系、RZ770 系、RZ660 系、RW730 系、RW620 系、RZ670 系、RW630 系、RZ575 系、RZ570 系
[L730 シリーズ]	L730 系、L720 系、L520 系
[L780 シリーズ]	L780 系、L750 系
[L735 シリーズ]	L735 系
[L785 シリーズ]	L785 系
[F/W シリーズ]	FW430 系、FX400 系、FW300 系、F300 系、F200 系、FW100 系、F100 系
[LZ370]	LZ370 系
[LB/W シリーズ]	LB3 系、LB2 系、LB1 系、ST10 系、LB90 系、LW80NT 系、LB80 系、LB78 系、LB75 系
[VX500 シリーズ]	VW435N 系、VW440 系、VW430 系、VX505N 系、VX510 系、VX500 系、VW330 系、VX400NT 系、VX400 系、VX41 系
[EZ570 シリーズ]	EZ570 系、EW630 系、EW530 系、EX600 系、EX500 系
[VW431D]	VW431D 系

6) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

7) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

[REMOTE 1 端子モード]

〈REMOTE 1 IN〉端子を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [REMOTE 1 端子モード] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	〈REMOTE 1 IN〉端子のピン配列を本機標準の設定で使用します。
[ユーザー]	〈REMOTE 1 IN〉端子の設定を変更する場合に使用します。(☞ 213 ページ)
[F/W シリーズ]	〈REMOTE 1 IN〉端子の設定を F/W シリーズ互換で使用します。

- [ユーザー] を選択した場合は、手順 3) に進みます。

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

4) ▲▼ ボタンで [2 番ピン] から [8 番ピン] までのいずれかを選択し、◀▶ ボタンで設定を切り換える

[ファンクションボタン]

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンの機能を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [ファンクションボタン] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [ファンクションボタン] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで機能を選択する

[無効]	〈FUNCTION〉ボタンを無効にします。
[サブメモリー]	サブメモリー一覧を表示します。(☞ 130 ページ)
[システムセクター]	[システムセクター] の設定を切り換えます。(☞ 82 ページ)
[デイルイトビュー]	[デイルイトビュー] の設定を切り換えます。(☞ 81 ページ)

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

[レンズキャリブレーション]

本機のレンズシフトの限界値を検出し、ホームポジションの自動設定を行います。

1) ▲▼ ボタンで [レンズキャリブレーション] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- 中止する場合は [中止] を選択してください。
- レンズが上下左右に移動してレンズシフトの限界値を検出し、ホームポジションを自動的に設定します。
- レンズが停止して終了します。

お知らせ

- レンズキャリブレーション実行中はメニューに [実行中] と表示されます。途中でキャンセルできません。
- レンズキャリブレーションが正しく実行できなかった場合は [異常終了] と表示されます。
- リモコンの〈FOCUS〉ボタンを 3 秒以上押しても、レンズキャリブレーション実行の確認画面を表示できます。

[音声設定]

音声機能の詳細を設定します。

音量を調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [音量] を選択する

4) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	音が大きくなります。	0 ~ 63
◀ ボタンを押す	音が小さくなります。	

左右の音声バランスを調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [バランス] を選択する

4) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	右の音が大きくなります。	L16 ~ R16
◀ ボタンを押す	左の音が大きくなります。	

内蔵スピーカーの音声出力を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [内蔵スピーカー] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	内蔵スピーカーから音声を出します。
[オフ]	内蔵スピーカーから音声を出しません。

お知らせ

- [内蔵スピーカー] を [オン] に設定すると、〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子にケーブルを接続しても、内蔵スピーカーから音声が出力されます。内蔵スピーカーから音声を出力せずに、〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子に接続した外部のオーディオ機器から音声を出力させたい場合は、[内蔵スピーカー] を [オフ] に設定してください。

スタンバイ状態での音声出力を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [スタンバイ時動作] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	スタンバイ時は音声を出しません。
[オン]	スタンバイ時に音声を出します。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定しているときは、スタンバイ状態での音声出力はできません。

シャッター機能使用中の音声出力を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [音声設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [シャッター時動作] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	シャッター機能使用中（シャッター：閉）は音声を出力しません。
[オン]	シャッター機能使用中（シャッター：閉）に音声を出力します。

消音状態に設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [音声設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [ミュート] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	音声を出力します。
[オン]	音声を出力しません。

接続機器からの音声入力を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [音声設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [音声入力選択] の設定したい項目を選択する

[RGB1]	RGB1 入力時に出力する音声を設定します。
[RGB2]	RGB2 入力時に出力する音声を設定します。
[VIDEO]	VIDEO 入力時に出力する音声を設定します。
[HDMI1]	HDMI1 入力時に出力する音声を設定します。
[HDMI2]	HDMI2 入力時に出力する音声を設定します。
[DIGITAL LINK]	DIGITAL LINK 入力時に出力する音声を設定します。
[NETWORK/USB]	MEMORY VIEWER 入力、MIRRORING 入力、Panasonic APPLICATION 入力時に出力する音声を設定します。

- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[AUDIO IN 1]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 1〉端子に接続した音声を出力します。
[AUDIO IN 2]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 2〉端子に接続した音声を出力します。
[AUDIO IN 3]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 3〉端子に接続した音声を出力します。
[HDMI1 AUDIO IN] *1	HDMI1 の音声を出力します。
[HDMI2 AUDIO IN] *2	HDMI2 の音声を出力します。
[DIGITAL LINK AUDIO IN] *3	DIGITAL LINK の音声を出力します。
[NETWORK/USB AUDIO IN] *4	MEMORY VIEWER、MIRRORING、Panasonic APPLICATION の音声を出力します。

*1 入力が HDMI1 の場合のみ

*2 入力が HDMI2 の場合のみ

*3 入力が DIGITAL LINK の場合のみ

*4 入力が MEMORY VIEWER、MIRRORING、Panasonic APPLICATION の場合のみ

[フィルターカウンター]

フィルターの使用時間を確認したり、フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定したりします。また、フィルターの使用時間をリセットできます。

1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [フィルターカウンター] 画面が表示されます。

[フィルターカウンター]	フィルターの使用時間を表示します。
[タイマー]	フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定します。
[フィルターカウンターリセット]	フィルターの使用時間をリセットします。

[タイマー] を設定する場合

定期的にフィルターのお手入れ / 交換を行いたい場合に、その周期を時間で設定します。フィルターの使用時間が設定した時間に到達すると、投写画面上にフィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージ [フィルターカウンターが設定時間に到達しました] が表示されます。

1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [フィルターカウンター] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	メッセージを表示しない場合に選択します。
[1000 時間] ~ [20000 時間]	メッセージを表示する場合に選択します。フィルターのお手入れ / 交換周期を 1 000 時間単位で設定できます。

[フィルターカウンター] をリセットする場合

フィルターの使用時間をリセットします。

1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [フィルターカウンター] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンターリセット] を選択する

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- [フィルターカウンター] の表示が [0 時間] になります。

[DC OUT]

〈DC OUT〉端子の電源供給機能を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [DC OUT] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を選択する

[オン]	電源供給機能を有効にします。〈DC OUT〉端子に接続した外部機器に電源供給します。
[オフ]	電源供給機能を無効にします。〈DC OUT〉端子に外部機器を接続しても電源供給しません。

お知らせ

- [DC OUT] を [オン] に設定すると、次の場合はスタンバイ状態または待機状態でも給電されます。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ノーマル] に、[高速スタートアップ] を [オン] に設定し、電源 (⏻) ボタンを押して本機をスタンバイ状態にした場合
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [パワーマネージメント] を [待機] に設定し、無信号を検出して待機状態になった場合
- [オン] に設定した状態で、〈DC OUT〉端子に定格 (DC5 V、最大 2 A) を超える外部機器を接続した場合、エラーを検出して給電を停止します。このとき [DC OUT] には [エラー] と表示されます。[エラー] が表示された場合は、外部機器を取り外したうえで本機の電源を入れ直してください。

[ステータス]

本機の状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [ステータス] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [ステータス] 画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンを押してページを切り換える

- ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。

[プロジェクタータイプ]	プロジェクターの種類と本機のシリアル番号を表示します。	
[シリアル番号]	本機のシリアル番号を表示します。	
[プロジェクター使用時間]	プロジェクターの稼働時間を表示します。	
[光源使用時間]	光源の使用時間を表示します。	
[連続点灯時間]	光源が点灯してからの経過時間が表示されます。 フォーカス調整する際に、光源点灯後の時間経過を確認できます。シャッター機能を使用するなど光源が一時的に消灯した場合には、経過時間がリセットされます。	
[メイン・サブバージョン]	本機のファームウェアのメインバージョン、サブバージョンを表示します。	
[ネットワークバージョン]	本機のファームウェアのネットワークバージョンを表示します。	
[吸気温度] *1	プロジェクターの吸気温度状態を表示します。	
[排気温度] *1	プロジェクターの排気温度状態を表示します。	
[光源温度 1] *1	光源の前方ブロック (レンズ側) の温度状態を表示します。	
[光源温度 2] *1	光源の後方ブロック (排気口側) の温度状態を表示します。	
[自己診断]	プロジェクターの状態を表示します。	
[入力]	現在選択している入力端子を表示します。	
[信号名]	入力信号名を表示します。	
[メモリー番号]	入力信号のメモリー番号を表示します。	
[オンカウント]	[パワーオン]	電源を入れた回数を表示します。
[登録信号数]	登録信号数を表示します。	
[冷却条件]	設定されている冷却条件を表示します。	
[気圧]	気圧を表示します。	
[REMOTE1 ステータス]	REMOTE1 の制御状態を表示します。	
[エミュレート]	[プロジェクターセットアップ] → [RS-232C] → [エミュレート] の設定を表示します。	
[信号情報]	[入力]	投写映像に使用している入力端子を表示します。
	[信号フォーマット]	入力信号のフォーマットを表示します。
	[信号周波数]	入力信号の周波数を表示します。
	[同期極性]	入力信号の同期極性を表示します。
	[垂直同期信号パルス幅]	入力信号の垂直同期信号パルス幅を表示します。
	[スキャンタイプ]	入力信号のスキャンタイプを表示します。
	[総ドット数]	入力信号の総ドット数を表示します。
	[表示ドット数]	入力信号の表示ドット数を表示します。
	[総ライン数]	入力信号の総ライン数を表示します。
	[表示ライン数]	入力信号の表示ライン数を表示します。
	[サンプリング]	入力信号のサンプリング情報を表示します。
	[信号レベル]	入力信号の信号レベルを表示します。

*1 温度状態を文字色 (緑 / 黄 / 赤) とバースケールで表示します。緑色表示の範囲内でご使用ください。

お知らせ

- **【ステータス】** 画面を表示中に〈ENTER〉ボタンを押すと、“[E メール設定] ページ” (166 ページ) で設定した E メールアドレス (最大 2 か所) にステータス内容を E メールで送信できます。
- **【信号情報】** は、設定や入力されている信号によって、表示される項目と表示されない項目があります。
- プロジェクターに何らかの異常が発生している場合には、**【ステータス】** 画面を表示中に〈DEFAULT〉ボタンを押すと、エラー情報の詳細画面を表示します。
- **【自己診断】** に表示される内容について、詳しくは“[自己診断] の表示について” (202 ページ) をご覧ください。

[データクローニング]

データクローニング機能の操作を行います。本機の設定や調整値などのデータを、LAN 経由または USB メモリーを使用して、複数台のプロジェクターにコピーできます。

■ コピーできないデータ

次の設定内容はコピーされません。プロジェクターごとに設定してください。

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [プロジェクター ID]
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [日付と時刻] → [時刻設定]
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [データクローニング] → [LAN] → [ライトプロテクト]
- [セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード]
- [セキュリティ] メニュー → [メニューロック]
- [ネットワーク / USB] メニュー → [有線 LAN]
- [ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN]
- [ネットワーク / USB] メニュー → [プロジェクター名]
- セキュリティパスワード
- メニューロックパスワード
- 操作設定パスワード
- WEB 制御画面の “[パスワード変更] ページ” (170 ページ) で設定したパスワード
- WEB 制御画面の “[E メール設定] ページ” (166 ページ)
- WEB 制御画面の “[認証サーバー設定] ページ” (167 ページ)
- WEB 制御画面の “[Crestron Connected (TM)] ページ” (172 ページ)

■ 対応デバイスについて

- 市販の USB メモリーに対応しています。
セキュリティ機能付きの USB メモリーには対応していません。
- FAT16 または FAT32 でフォーマットしたもの以外は使用できません。
- シングルパーティション構成にのみ対応しています。

お知らせ

- プロジェクターの機種が異なる場合、データクローニング機能は動作しません。たとえば、PT-MZ770J のデータは他の PT-MZ770J にコピーできますが、PT-MW730J にはコピーできません。同一機種間でのコピーに限られます。

LAN を経由して他のプロジェクターにデータをコピーする場合

あらかじめ、データのコピー先となるプロジェクターで、次の設定をしてください。詳しくは、“[ライトプロテクト] を設定する” (122 ページ) をご覧ください。

- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [データクローニング] → [LAN] → [ライトプロテクト] → [オフ]

1) すべてのプロジェクターを LAN ケーブルでハブに接続する (148 ページ)

2) すべてのプロジェクターの電源を入れる

3) コピー元のプロジェクターで、▲▼ ボタンで [データクローニング] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。

5) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押す

- [データクローニング] 画面が表示されます。

6) ▲▼ ボタンで [LAN] を選択する

7) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [LAN データクローニング] 画面が表示されます。

8) ▲▼ ボタンで [プロジェクターを選択] を選択する

9) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 同一サブネット内のプロジェクターが一覧で表示されます。

10) ▲▼ ボタンでコピー先のプロジェクターを選択する

11) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 複数のプロジェクターを選択したい場合は、手順 10) ~ 11) を繰り返してください。

12) リモコンの 〈DEFAULT〉 ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

13) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- プロジェクター間でデータのコピーを開始します。
コピーが終了すると [LAN データクロニング] 画面に結果が一覧で表示されます。
一覧に表示される印の意味は、次のとおりです。
- 緑：データコピーに成功しています。
- 赤：データコピーに失敗しています。LAN ケーブルの接続やコピー先のプロジェクターの電源状態を確認してください。
- コピー先のプロジェクターは、LAN データクロニング要求メッセージを表示したのちに自動的にスタンバイ状態に移行して、データのコピーを行います。

14) コピー先のプロジェクターの電源を入れる

- コピーした内容がプロジェクターに反映されます。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- データのコピー中は、コピー先のプロジェクターの光源インジケータ 〈LIGHT〉・温度インジケータ 〈TEMP〉・フィルターインジケータ 〈FILTER〉 が点滅します。インジケータの点滅が終了していることを確認してから電源を入れてください。

[ライトプロテクト] を設定する

LAN 経由でのデータのコピーを、許可するかどうかを設定できます。

1) コピー先のプロジェクターで、▲▼ ボタンで [データクロニング] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。

3) セキュリティーパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- [データクロニング] 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで [LAN] を選択する

5) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [LAN データクロニング] 画面が表示されます。

6) ▲▼ ボタンで [ライトプロテクト] を選択する

7) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	他のプロジェクターからの、LAN を経由した [データクロニング] の操作を許可します。
[オン]	他のプロジェクターからの、LAN を経由した [データクロニング] の操作を許可しません。 • [オン] に設定すると、コピーができなくなります。コピーする必要がない場合は、誤ってデータが変更されないように、[オン] に設定してください。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀

USB を使用して他のプロジェクターにデータをコピーする場合

USB メモリーにプロジェクターのデータをコピーする

- 1) 〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを挿す
- 2) ▲▼ ボタンで [データクローニング] を選択する
- 3) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。
- 4) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [データクローニング] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [USB メモリー] を選択する
- 6) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [コピータイプを選択] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼ ボタンで [プロジェクター → USB メモリー] を選択する
- 8) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 9) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - USB メモリーへのデータのコピーが開始します。
データのコピーが完了したら [データのコピーが完了しました。] が表示されます。
- 10) データのコピーが完了したら 〈VIEWER/PAIRING〉端子から USB メモリーを抜く

お知らせ

- セキュリティパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- USB メモリーの形状によっては周辺部に接触して取り付けられない場合があります。その場合は、LAN を経由してデータをコピーしてください。LAN を経由したデータのコピーについて、詳しくは“LAN を経由して他のプロジェクターにデータをコピーする場合” (121 ページ) をご覧ください。
- USB メモリーへのデータの保存や読み出しに失敗すると、エラーメッセージが表示されます。

USB メモリーのデータをプロジェクターにコピーする

あらかじめ、入力を MEMORY VIEWER 以外に切り換えてください。

- 1) 〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを挿す
- 2) ▲▼ ボタンで [データクローニング] を選択する
- 3) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。
- 4) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [データクローニング] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [USB メモリー] を選択する
- 6) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [コピータイプを選択] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼ ボタンで [USB メモリー → プロジェクター] を選択する
- 8) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 9) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - プロジェクターが自動的にスタンバイ状態になり、USB メモリーからプロジェクターへのデータのコピーを開始します。

10) データのコピーが完了したら〈VIEWER/PAIRING〉端子から USB メモリーを抜く

11) プロジェクターの電源を入れる

- コピーした内容がプロジェクターに反映されます。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- データのコピー中は、光源インジケータ 〈LIGHT〉・温度インジケータ 〈TEMP〉・フィルターインジケータ 〈FILTER〉 が点滅します。インジケータの点滅が終了していることを確認してから電源を入れてください。

[全ユーザーデータ保存]

各種設定値をプロジェクター内部のメモリーにバックアップとして保存します。

- 1) ▲▼ ボタンで [全ユーザーデータ保存] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。
- 3) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す
- 4) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - データ保存中は [実行中] と表示されます。

お知らせ

- セキュリティパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- [全ユーザーデータ] にはコンピューターのアプリケーションから設定したデータは含まれません。

[全ユーザーデータ呼出]

プロジェクター内部のメモリーにバックアップとして保存した各種設定値を読み込みます。

- 1) ▲▼ ボタンで [全ユーザーデータ呼出] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。
- 3) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す
- 4) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- セキュリティパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- [全ユーザーデータ呼出] を実行すると、設定値を反映させるために、プロジェクターはスタンバイ状態になります。
- [全ユーザーデータ] にはコンピューターを用いて登録したデータは含まれません。

[初期化]

各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

- 1) ▲▼ ボタンで [初期化] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [セキュリティパスワード] 画面が表示されます。
- 3) セキュリティパスワードを入力し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [初期化] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼ ボタンで初期化したい項目を選択する

[全ユーザーデータ]	[登録信号]、[ネットワーク /E メール]、[ロゴイメージ] を含めた全設定値を工場出荷時の値に戻します。 設定値を反映させるために、プロジェクターはスタンバイ状態になります。
[登録信号]	入力信号ごとに保存している設定値をすべて消去します。 登録信号の一部分だけを消去する場合は、「登録した信号を削除する」(🔍 128 ページ)を行ってください。
[ネットワーク /E メール]	[ネットワーク /USB] メニューの各種設定値を工場出荷時の値に戻します。
[ロゴイメージ]	[ユーザーロゴ] に登録された画像を消去します。

- 5) 〈ENTER〉 ボタンを押す
- 6) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、[セキュリティ] メニュー → [セキュリティパスワード変更] で設定したパスワードです。
工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- [全ユーザーデータ] を実行しても、次の設定は初期化されません。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード]

[サービスパスワード]

サービスマンが使用します。

[テストパターン] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [テストパターン] を選択します。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (73 ページ) をご覧ください。

[テストパターン]

本機内蔵のテストパターンを表示します。

位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

1) ◀▶ ボタンで [テストパターン] の項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

メニュー画面+カラーバー (縦)	メニュー画面とともにテストパターンが表示されます。お好みのテストパターンを選択してください。
メニュー画面+カラーバー (横)	
メニュー画面+ 16 階調 (縦 1)	
メニュー画面+ 16 階調 (縦 2)	
メニュー画面+ 16 階調 (横 1)	
メニュー画面+ 16 階調 (横 2)	
メニュー画面+フォーカス	
メニュー画面+ 16 : 9/4 : 3 アスペクト枠	
メニュー画面+全白	
メニュー画面+全黒	メニュー画面と入力信号が表示されます。 内蔵テストパターンを表示していない状態です。
メニュー画面+入力画面	

お知らせ

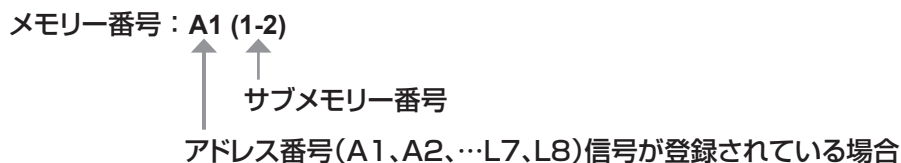
- テストパターンの表示中にリモコンの〈ON SCREEN〉ボタンを押すと、メニュー画面を非表示にすることができます。

[登録信号一覧] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[登録信号一覧]を選択します。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (☞ 73 ページ) をご覧ください。

■ 登録信号詳細



- 名前は、サブメモリー (☞ 130 ページ) ごとに設定できます。

新規登録

新規信号が入力され、リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押すと登録が完了し、[メインメニュー]画面が表示されます。

お知らせ

- 本機に対して登録できる信号数は、サブメモリーを含めて 96 個までです。
- メモリー番号は 12 ページ(A～L 各 8 メモリー、1 ページに 8 メモリーが可能)あり、空いているメモリーの中で若い番号に登録されます。メモリーの空きがない場合は古い信号から順番に上書きされます。
- 登録される名前は入力信号により自動で決定されます。
- メニューが表示されている場合は、新規信号が入力された時点で登録が完了します。

登録信号の名前の変更

登録した信号の名前を変更できます。

- 1) ▲▼◀▶ ボタンで名称を変更したい信号を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [登録信号詳細] 画面が表示されます。
 - メモリー番号、入力端子、入力信号の名前、周波数、同期極性などが表示されます。
 - 〈MENU〉ボタンを押すと [登録信号一覧] 画面に戻ります。
- 3) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [登録信号設定] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼ ボタンで [信号名称変更] を選択する
- 5) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [信号名称変更] 画面が表示されます。
- 6) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する
- 7) 名前の変更を完了後 ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
 - 登録が完了し [登録信号設定] 画面に戻ります。
 - ▲▼◀▶ ボタンで [CANCEL] を選択して 〈ENTER〉ボタンを押すと、変更した信号名は登録されず、自動登録された信号名のままになります。

登録した信号を削除する

登録した信号を削除できます。

- 1) ▲▼◀▶ ボタンで削除する信号を選択する
- 2) リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す
 - [登録信号削除] 画面が表示されます。
 - 削除を取りやめる場合、〈MENU〉ボタンを押すと [登録信号一覧] 画面に戻ります。
- 3) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - 選択した信号が削除されます。

お知らせ

- [登録信号設定] 画面の [登録信号削除] から登録した信号を削除できます。

登録した信号を保護する

- 1) ▲▼◀▶ ボタンで保護する信号を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [登録信号詳細] 画面が表示されます。
- 3) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [登録信号設定] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼ ボタンで [ロック] を選択する
- 5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	信号を保護しません。
【オン】	信号を保護します。

- [ロック] を [オン] に設定すると、[登録信号一覧] 画面の右側にロックアイコンが表示されます。



お知らせ

- [ロック] を [オン] に設定すると、信号の削除、映像調整、オートセットアップができなくなります。これらの動作を行うには、[ロック] を [オフ] に設定してください。
- 信号を保護していてもサブメモリーに登録できます。
- 信号を保護していても [初期化] を実行すると削除されます。

信号の引き込み範囲を拡大する

- 1) ▲▼◀▶ ボタンで設定する信号を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [登録信号詳細] 画面が表示されます。
- 3) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [登録信号設定] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼ ボタンで [引込範囲] を選択する
- 5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ノーマル】	通常はこちらを選択してください。
【ワイド】	引き込み範囲を広げます。

- [引込範囲] を [ワイド] に設定すると、[登録信号一覧] 画面の右側に拡張アイコンが表示されます。



お知らせ

- 入力される信号が、登録済みの信号と同一信号であると判別する範囲を切り換えます。
- 優先的に登録済みの信号と同一信号と判別させたい場合は、設定を [ワイド] に設定してください。
- 入力される信号の同期周波数が少し変化し、複数の信号リストに登録される場合などに使用できます。
- 〈RGB 1 IN〉端子、〈RGB 2 IN〉端子、〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子から信号が入力される場合のみ使用できます。
- [ワイド] に設定した場合、同期周波数が少し変化しても同一信号と判別するため、映像が乱れる場合があります。
- 入力される信号が複数の [ワイド] に設定した信号に該当する場合は、メモリー番号の大きい登録信号が優先されます。例：入力される信号が、メモリー番号の A2、A4、B1 に該当する場合は B1 と判別します。
- 登録信号が削除されると、設定も解除されます。
- 同一端子に複数の種類の信号が入力される環境で、設定を [ワイド] にすると、正しく信号の判別ができない場合があります。

サブメモリーについて

本機は同期信号源の周波数や形態により同一信号と判断した場合でも画像調整データを複数登録できるサブメモリー機能を持っています。

同一信号源によるアスペクト切り換えや、ホワイトバランスなどの画質調整が必要な場合にご使用ください。サブメモリーは、画面アスペクト比、[映像] メニューで調整したデータ（[ピクチャー]、[黒レベル] などの項目）など、信号ごとに調整できるデータすべてを含みます。

サブメモリーへの登録方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ▲▼ ボタンを押す

- サブメモリーが登録されていない場合は、サブメモリー登録確認画面が表示されます。手順 **3)** に進んでください。
- 現在入力している信号に対して登録されているサブメモリーの一覧が表示されます。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ファンクションボタン] で [サブメモリー] を選択すると、▲▼ ボタンの代わりにリモコンの〈FUNCTION〉ボタンを使用できます。

2) [サブメモリー一覧] において ▲▼◀▶ ボタンで登録するサブメモリー番号を選択する

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [信号名称変更] 画面が表示されます。

4) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- 登録信号の名前を変更する場合は、“登録信号の名前の変更”（ 128 ページ）の手順 **6)**、**7)** を行ってください。

サブメモリーへの切り換え方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ▲▼ ボタンを押す

- 現在入力している信号に対して登録されているサブメモリーの一覧が表示されます。

2) [サブメモリー一覧] において ▲▼◀▶ ボタンで切り換える信号を選択する

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 手順 **2)** で選択した信号に切り換わります。

サブメモリーの削除方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ▲▼ ボタンを押す

- [サブメモリー一覧] 画面が表示されます。

2) ▲▼◀▶ ボタンで削除したいサブメモリーを選択し、リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

- [登録信号削除] 画面が表示されます。
- 削除を取りやめる場合、〈MENU〉ボタンを押すと [サブメモリー一覧] 画面に戻ります。

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 選択したサブメモリーが削除されます。

[セキュリティ] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[セキュリティ]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 73 ページ）をご覧ください。

- 初めてご使用になる場合
初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀ ボタンの順に押し、〈ENTER〉ボタンを押してください。

お願い

- [セキュリティ] メニューを選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと、パスワードの入力が求められます。設定したセキュリティパスワードを入力してから[セキュリティ]メニューの操作を続けてください。
- 以前にパスワードを変更した場合、変更後のパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押してください。

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、*印で表示されます。
- パスワードを間違えると、画面上にエラーメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。

[セキュリティパスワード]

主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっている状態から電源を入れたときに[セキュリティパスワード]画面を表示させます。間違ったパスワードを入力した場合、電源〈/1〉ボタンでの操作に限定されます。

1) ▲▼ ボタンで[セキュリティパスワード]を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	セキュリティパスワード入力を無効にします。
[オン]	セキュリティパスワード入力を有効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または[プロジェクターセットアップ]メニュー→[初期化]→[全ユーザーデータ]を実行したあとの設定は、[オフ]になっています。必要に応じて[オン]に設定してください。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。
- [オン]に設定したあと、主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にすると、セキュリティパスワードが有効になります。

[セキュリティパスワード変更]

セキュリティパスワードを変更します。

1) ▲▼ ボタンで[セキュリティパスワード変更]を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [セキュリティパスワード変更]画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンや、数字（〈0〉～〈9〉）ボタンでパスワードを設定する

- 最大8つのボタン操作を設定できます。

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

5) 確認のため、再度パスワードを入力する

6) 〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、*印で表示されます。
- セキュリティパスワードに数字を用いた場合、リモコンを紛失すると、セキュリティパスワードの初期化が必要になります。初期化方法については、販売店にご相談ください。

[表示設定]

投写中の映像に、セキュリティメッセージ（文字や画像）を重ねて表示させます。

1) ▲▼ ボタンで[表示設定]を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	セキュリティメッセージを表示しません。
【テキスト】	[セキュリティ] メニュー → [テキスト変更] で設定したテキストを表示します。
【ユーザーロゴ】	ユーザーが登録した画像を表示します。

お知らせ

- [ユーザーロゴ] の画像作成・登録には、「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。ソフトウェアは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。

[テキスト変更]

[表示設定] で [テキスト] を選択したときに表示する文字を編集します。

- 1) ▲▼ ボタンで [テキスト変更] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [テキスト変更] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する
- 4) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - テキストが変更されます。

[メニューロック]

〈MENU〉 ボタンでメニューを表示し、メニュー操作できるかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [メニューロック] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える入力ポート
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	メニュー操作を有効にします。
【オン】	メニュー操作を無効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] を実行したあとの設定は、[オフ] になっています。必要に応じて [オン] に設定してください。
- [メニューロック] を [オン] に設定している場合、〈MENU〉 ボタンを押すと [メニューロックパスワード] 画面が表示されます。設定したメニューロックパスワードを入力すると、メニュー操作が有効になります。この場合、本機がスタンバイ状態になるまでメニュー操作有効の状態が維持されます。

[メニューロックパスワード]

メニューロックパスワードを変更します。

- 1) ▲▼ ボタンで [メニューロックパスワード] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [メニューロックパスワード] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する
 - 最大 16 文字まで入力できます。
- 4) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 中止する場合は [CANCEL] を選択してください。

お願い

- 工場出荷時、または [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] を実行したあと、初期のパスワードは「AAAA」です。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。

[操作設定]

本体操作部とリモコンのボタン操作の有効 / 無効を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [操作設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [操作設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

[本体操作部]	本体操作部からの制御の制限を設定できます。
[リモコン]	リモコンからの制御の制限を設定できます。

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [本体操作部] 画面、または [リモコン] 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- 本体操作部またはリモコンからの制御の制限を設定できます。

[有効]	すべてのボタン操作を有効にします。
[無効]	すべてのボタン操作を無効にします。
[ユーザー]	各ボタンに対して操作有効 / 操作無効を個別に設定できます。 詳しくは、「任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合」(133 ページ) をご覧ください。

7) ▲▼ ボタンで [設定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

8) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [操作設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [操作設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [本体操作部] 画面、または [リモコン] 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

6) ◀▶ ボタンで [ユーザー] に切り換える

7) ▲▼ ボタンで設定したいボタンの項目を選択する

- [リモコン] の [入力切換ボタン] を選択した場合は、続けて 〈ENTER〉 ボタンを押して、▲▼ ボタンで設定したいボタンを選択します。

	設定できるボタン	
	[本体操作部]	[リモコン]
[電源ボタン]	電源 〈ON/OFF〉 ボタン	
[入力切換ボタン]	〈INPUT SELECT〉 ボタン	〈RGB1/2〉 ボタン、〈VIDEO〉 ボタン、〈HDMI 1〉 ボタン、〈HDMI 2〉 ボタン、〈DIGITAL LINK〉 ボタン、〈NETWORK/USB〉 ボタン
[メニューボタン]	〈MENU〉 ボタン	
[レンズボタン]	〈LENS〉 ボタン	レンズ (〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉) ボタン
[オートセットアップボタン]	—	〈AUTO SETUP/CANCEL〉 ボタン
[シャッターボタン]	〈SHUTTER〉 ボタン	
[オンスクリーンボタン]	—	〈ON SCREEN〉 ボタン
[その他のボタン]	▲▼◀▶ ボタン、〈ENTER〉 ボタン	上記以外のボタン

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[有効]	ボタン操作を有効にします。
[無効]	ボタン操作を無効にします。

- [入力切換ボタン] の [RGB1/2 ボタン] を選択している場合のみ、次の項目を選択できます。

[トグル]	ボタン操作時に [RGB1] と [RGB2] を切り換えます。
[RGB1]	[RGB1] に固定します。
[RGB2]	[RGB2] に固定します。
[無効]	ボタン操作を無効にします。

- [入力切換ボタン] の [NETWORK/USB ボタン] を選択している場合のみ、次の項目を選択できます。

[トグル]	ボタン操作時に、次の順で項目を切り換えます。 [MEMORY VIEWER] → [Panasonic APPLICATION] → [MIRRORING]
[MEMORY VIEWER]	[MEMORY VIEWER] に固定します。
[Panasonic APPLICATION]	[Panasonic APPLICATION] に固定します。
[MIRRORING]	[MIRRORING] に固定します。
[無効]	ボタン操作を無効にします。

- 手順 7) で [入力切換ボタン] を選択した場合は、項目の切り換えが終わると、〈MENU〉ボタンを押して【本体操作部】画面または【リモコン】画面に戻ります。

9) ▲▼ ボタンで [設定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

10) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- [無効] に設定した側のボタンで操作すると、【操作設定パスワード】画面が表示されます。
操作設定パスワードを入力してください。
- 【操作設定パスワード】画面は約 10 秒何も操作しなければ消えます。
- 設定が反映されるとメニュー画面が消えます。継続して操作する場合は、〈MENU〉ボタンを押してメインメニューを表示させてください。
- リモコンのボタン操作を無効にしても、リモコンの〈ID SET〉ボタン、〈ID ALL〉ボタンの操作は有効です。

【操作設定パスワード変更】

操作設定パスワードを変更できます。

1) ▲▼ ボタンで [操作設定パスワード変更] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 【操作設定パスワード変更】画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する

4) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 中止する場合は [CANCEL] を選択してください。

お願い

- 工場出荷時、または [プロジェクターセットアップ] メニュー → [初期化] → [全ユーザーデータ] を実行したあと、初期のパスワードは「AAAA」です。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。

[ネットワーク /USB] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[ネットワーク /USB]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 73 ページ）をご覧ください。

- 本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（ 46 ページ）をご覧ください。

[DIGITAL LINK モード]

本機の〈DIGITAL LINK/LAN〉端子の通信方式を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK モード] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	通信方式が DIGITAL LINK、ロングリーチ、イーサネットのいずれかに自動的に切り換わります。
【DIGITAL LINK】	通信方式が DIGITAL LINK に固定されます。
【ロングリーチ】	通信方式がロングリーチに固定されます。
【イーサネット】	通信方式がイーサネットに固定されます。

通信可能なモードについて

✓：通信可能

—：通信不可

設定		通信可否			
		映像伝送 (100 m)	映像伝送 (150 m)	イーサネット	RS-232C
【オート】	DIGITAL LINK の場合	✓	—	✓	✓
	ロングリーチの場合	—	✓	✓	✓
	イーサネットの場合	—	—	✓ ^{*1}	—
【DIGITAL LINK】		✓	—	✓	✓
【ロングリーチ】		—	✓	✓	✓
【イーサネット】		—	—	✓ ^{*1}	—

*1 ツイストペアケーブル伝送器を経由しての通信はできません。本機を直接ネットワークに接続してください。

お知らせ

- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、DIGITAL LINK の通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。
- ロングリーチの通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 150 m です。ただし、その場合に本機が受信できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。
- ツイストペアケーブル伝送器側の通信方式がロングリーチに設定されている場合、[DIGITAL LINK モード] を [オート] に設定すると、ロングリーチの通信方式で接続します。別売品のデジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）との間をロングリーチの通信方式で接続する場合は、[DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定してください。
- [DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定しても、ツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応していない場合は正常に接続できません。

[DIGITAL LINK ステータス]

DIGITAL LINK の接続環境を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK ステータス] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [DIGITAL LINK ステータス] 画面が表示されます。

【リンク状態】	[NO LINK]、[DIGITAL LINK]、[ロングリーチ]、[イーサネット] のいずれかが表示されます。
【HDCP ステータス】	[無信号]、[オフ]、[オン] のいずれかが表示されます。

[信号品質]	[信号品質] はエラー発生量を数値化したもので、その数値によって表示色が緑色 / 黄色 / 赤色に変わります。 ツイストペアケーブル伝送器からの信号を受信した状態で信号品質レベルを確認してください。 • [最大] / [最小] : エラー発生量の最大値 / 最小値 • 緑色 (−12 dB 以下) → 正常な信号品質レベルです。 • 黄色 (−11 ~ −8 dB) → 画面にノイズが出る可能性がある注意レベルです。 • 赤色 (−7 dB 以上) → 同期が乱れる、または受信不可能な異常レベルです。
--------	---

[DIGITAL LINK メニュー]

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、その DIGITAL LINK 出力対応機器のメインメニューが表示されます。詳しくは、DIGITAL LINK 出力対応機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- [ネットワーク /USB] メニュー → [ネットワークコントロール] → [EXTRON XTP] を [オン] に設定している場合、[DIGITAL LINK メニュー] は選択できません。

[有線 LAN]

有線 LAN を利用するための接続設定をします。

- 1) ▲▼ ボタンで [有線 LAN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [有線 LAN 詳細設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[DHCP]	[オン]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在し、IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。
	[オフ]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在しない場合など、IP アドレスを指定するときに選択します。
[IP アドレス]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に IP アドレスを入力します。	
[サブネットマスク]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にサブネットマスクを入力します。	
[デフォルトゲートウェイ]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
[DNS1]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に優先 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
[DNS2]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に代替 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
[EAP]	RADIUS サーバーに設定されている EAP を選択します。EAP が設定されていない場合は [なし] に設定してください。 選択可能な EAP の種類は次のとおりです。 [PEAP (MS-CHAPv2)]、[PEAP (GTC)]、[EAP-TTLS (MD5)]、[EAP-TTLS (MS-CHAPv2)]、 [EAP-FAST (MS-CHAPv2)]、[EAP-FAST (GTC)]、[EAP-TLS]	
[ユーザー名]	認証に使用するユーザー名を半角英数字（スペースは除く）で入力します。（最大 64 文字） [EAP] が [なし] 以外の場合に設定できます。	
[パスワード設定]	認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。（最大 64 文字） [EAP] が [なし] 以外の場合に設定できます。	

- 4) 設定変更を完了後、▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
 - [入力されたデータは不正です。] と表示された場合は、正しい内容に設定を変更してください。
- 5) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 各項目の設定内容については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- EAPを使用する場合、RADIUS サーバーの設定に合わせて本機を設定する必要があります。RADIUS サーバーの設定についてはネットワーク管理者にご確認ください。
- 有線 LAN と無線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- [DHCP] を [オン] に設定して使用する場合は、DHCP サーバーが立ち上がっていることを確認してください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[DHCP]	[オフ]
[IP アドレス]	192.168.10.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1
[DNS1] / [DNS2]	(空白)
[EAP]	[なし]

[無線 LAN]

無線 LAN の接続方法とその詳細について設定します。

- 本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（ 46 ページ）をご覧ください。

1) ▲▼ ボタンで [無線 LAN] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[シンプル]	Windows、Mac OS、iOS、Android の各種 OS を搭載したさまざまな端末（コンピューターやタブレット、スマートフォンなど）を使用して、本機とダイレクトに接続できます。 また、当社の画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスマネージャー ME6.4」や「プラグアンドシェア」、「ワイヤレスプロジェクター」を用いて本機と接続することもできます。 設定手順について詳しくは、“[シンプル] を設定する場合”（  137 ページ）をご覧ください。
[M-DIRECT]	本機を簡易アクセスポイントとして使用するモードで、別途アクセスポイントを設置していなくても、コンピューターなどの端末と本機とをインフラストラクチャーモードでダイレクトに接続できます。接続には、当社の画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスマネージャー ME6.4」や「プラグアンドシェア」、「ワイヤレスプロジェクター」を使用します。iPad/iPhone/iPod touch や Android 端末をご使用の場合は、より簡単に接続できます。 また、ご使用のネットワーク環境に合わせて、詳細なネットワーク設定をすることもできます。設定手順について詳しくは、“[M-DIRECT] を設定する場合”（  138 ページ）をご覧ください。
[USER]	ご使用のネットワーク環境に合わせて、詳細なネットワーク設定をすることができます。設定手順について詳しくは、“[USER] を設定する場合”（  139 ページ）をご覧ください。
[無効]	無線 LAN 機能を使用しない場合に選択します。

お願い

- IEEE802.11a/n (5.2 GHz/5.3 GHz 帯) は、屋内で使用してください。5.2 GHz/5.3 GHz 帯 (W52/W53) を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。

お知らせ

- [シンプル] または [M-DIRECT] に設定している場合、本機に対して同時に無線 LAN 接続できる端末は最大 10 台です。
- [シンプル] または [M-DIRECT] に設定しても、MIRRORING 入力を選択中は設定が無効になります。
- Windows コンピューターや Mac に対応した画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスマネージャー ME6.4」の使用方法については、「ワイヤレスマネージャー ME6.4」の取扱説明書をご覧ください。ソフトウェアは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。
- 市販の USB メモリーをプロジェクターとペアリングすることで簡単に無線 LAN 接続することができる画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用方法については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>
本機と USB メモリーをペアリングする方法については、“ペアリング機能を使用する”（ 190 ページ）をご覧ください。ペアリングすることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報が USB メモリーに書き込まれます。
- iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末に対応した画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスプロジェクター」については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>

[シンプル] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [無線 LAN] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [シンプル] を選択する

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [無線 LAN 詳細設定] 画面が表示されます。

4) ▲▼◀▶ ボタンで [キー] を選択する

- 5) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [キー] 画面が表示されます。
- 6) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する
 - キーとして登録できる文字列は次のとおりです。
 - 8 ～ 15 文字の英数字
- 7) キーの入力を完了後、▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
- 8) ▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 9) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [キー] の工場出荷時の設定は、ネットワーク ID と同じ文字列「Projxxxx」（xxxx は 4 桁の数字）が設定されています。ネットワーク ID とは、製品ごとに付与されている固定値です。ネットワーク ID は、Panasonic APPLICATION 入力に切り換えたときに投影される待ち受け画面上で確認できます。

[M-DIRECT] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [無線 LAN] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで [M-DIRECT] を選択する
- 3) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [無線 LAN 詳細設定] 画面が表示されます。
- 4) ▲▼◀▶ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[IP アドレス]	IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	サブネットマスクを入力します。
[SSID]	使用する SSID を設定します。
[チャンネル]	使用するチャンネルを選択します。
[キー]	使用するキーを設定します。 8 ～ 63 文字の ASCII 文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。

- 5) 設定変更を完了後、▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 6) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [キー] を工場出荷時の設定のままにしていると、悪意ある第三者により電波を傍受され、通信内容が盗み見られる危険性があります。必ず工場出荷時の値から変更してください。
- 各項目の設定内容については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- SSID に「any」または「ANY」の文字列を設定して、ANY 接続で使用しないでください。ANY 接続とは、無線 LAN 対応端末の電波が届く範囲内で検出した、最も電波状態が良い無線 LAN 親機に接続する方法のことです。
- 端末によっては、キーのことを「SSID のパスワード」と表現している場合があります。
- 認証方法は WPA2-PSK 固定、暗号化は AES 固定です。
- [M-DIRECT] に設定すると本機は DHCP サーバーとして機能します。本機に無線 LAN 接続する端末は、IP アドレスを自動取得する設定にしてください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[IP アドレス]	192.168.12.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[SSID]	M-DIRECTxxxx (xxxx はネットワーク ID の下 4 桁の数字です。ネットワーク ID とは、製品ごとに付与されている固定値です。ネットワーク ID は、Panasonic APPLICATION 入力に切り換えたときに投影される待ち受け画面上で確認できます。)
[チャンネル]	1
[キー]	M-DIRECTxxxx ([SSID] と同じ文字列)

[USER] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [無線 LAN] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで [USER] を選択する
- 3) <ENTER> ボタンを押す
 - [無線 LAN] 画面が表示され、SSID の検索結果が表示されます。一度に検出できる SSID は最大 50 個（最大 5 ページ）です。
 - 現在選択されている SSID は常に最上部に表示され、左側に ● 印が表示されています。
 - 暗号化されている SSID には、鍵状のアイコンが表示されます。
 - 各 SSID のアンテナレベルは ■ の数で示されます。数が多いほどアンテナレベルが高いことを示します。
 - SSID を再検索したい場合は <DEFAULT> ボタンを押してください。
- 4) 検索結果の中から ▲▼ ボタンで接続する SSID を選択し、<ENTER> ボタンを押す
 - 検索結果の中から選ばずに SSID を設定する場合は、[その他] を選択してください。
 - [無線 LAN 詳細設定] 画面（1/2）が表示されます。
- 5) ▲▼◀▶ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[SSID]	アクセスポイントに登録されている SSID と同じ文字列を入力します。 手順 4) で、最上部の ● 印付きの SSID を選択した場合、または [その他] を選択した場合に設定できます。	
[認証]	本機を接続するネットワークで使用されているユーザー認証方式を選択します。	
	[オープン]	アクセスポイントの認証方式が Open System の場合に選択します。
	[共有]	アクセスポイントの認証方式が Shared Key の場合に選択します。
	[WPA-PSK]	アクセスポイントの認証方式が WPA-PSK の場合に選択します。
	[WPA2-PSK]	アクセスポイントの認証方式が WPA2-PSK の場合に選択します。
	[WPA-EAP/WPA2-EAP]	アクセスポイントの認証方式が WPA-EAP/WPA2-EAP の場合に選択します。
	[WPA-EAP]	アクセスポイントの認証方式が WPA-EAP の場合に選択します。
	[WPA2-EAP]	アクセスポイントの認証方式が WPA2-EAP の場合に選択します。
[暗号化]	本機とネットワークの間の通信で使用する暗号化方式を選択します。	
	[無し]	暗号化しない場合に選択します。 [認証] が [オープン] または [共有] の場合にのみ選択できます。
	[WEP]	暗号化方式が WEP の場合に選択します。 [認証] が [オープン] または [共有] の場合に選択できます。
	[TKIP]	暗号化方式が TKIP の場合に選択します。 [認証] が [WPA-PSK]、[WPA2-PSK]、[WPA-EAP]、[WPA2-EAP] の場合に選択できます。
	[AES]	暗号化方式に AES を使用する場合に選択します。 [認証] が [WPA-PSK]、[WPA2-PSK]、[WPA-EAP]、[WPA2-EAP] の場合に選択できます。
[デフォルトキー]	デフォルトのキーとして [1] ~ [4] のいずれかの番号を設定します。 [認証] が [オープン] または [共有] で、[暗号化] が [WEP] の場合に設定できます。	
[キー 1] ~ [キー 4]	[デフォルトキー] で選択したキー番号に WEP キーを設定します。 [認証] が [オープン] または [共有] で、暗号化方式が [WEP] の場合に設定できます。 設定できるのは、64 bit または 128 bit の WEP キーです。64 bit の場合は半角英数字で 5 文字（16 進数の場合は 10 桁）、128 bit の場合は半角英数字で 13 文字（16 進数の場合は 26 桁）を入力します。	
[キー]	キーを設定します。 [認証] が [WPA-PSK] または [WPA2-PSK] の場合に設定できます。 8 ~ 63 文字の ASCII 文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。	
[EAP]	RADIUS サーバーに設定されている EAP を選択します。 [認証] が [WPA-EAP/WPA2-EAP]、[WPA-EAP]、[WPA2-EAP] の場合に設定できます。 選択可能な EAP の種類は次のとおりです。 [PEAP (MS-CHAPv2)]、[PEAP (GTC)]、[EAP-TTLS (MD5)]、[EAP-TTLS (MS-CHAPv2)]、 [EAP-FAST (MS-CHAPv2)]、[EAP-FAST (GTC)]、[EAP-TLS]	
[ユーザー名]	認証に使用するユーザー名を半角英数字（スペースは除く）で入力します。（最大 64 文字） [認証] が [WPA-EAP/WPA2-EAP]、[WPA-EAP]、[WPA2-EAP] の場合に設定できます。	
[パスワード設定]	認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。（最大 64 文字） [認証] が [WPA-EAP/WPA2-EAP]、[WPA-EAP]、[WPA2-EAP] の場合に設定できます。	

6) ▲▼ ボタンで次のページに移動する

- [無線 LAN 詳細設定] 画面 (2/2) が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[DHCP]	[オフ]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在しない場合など、IP アドレスを指定するときに選択します。
	[オン]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在し、IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。
[IP アドレス]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に IP アドレスを入力します。	
[サブネットマスク]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にサブネットマスクを入力します。	
[デフォルトゲートウェイ]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
[DNS1]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に優先 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
[DNS2]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に代替 DNS サーバーのアドレスを入力します。	

8) 設定を完了後、▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。
- [入力されたデータは不正です。] と表示された場合は、正しい内容に設定を変更してください。

9) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 各項目の設定内容については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- EAP を使用する場合、RADIUS サーバーの設定に合わせて本機を設定する必要があります。RADIUS サーバーの設定についてはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- SSID ブロードキャストが無効なアクセスポイントと組み合わせて EAP を使用する場合、アクセスポイントの認証方式が WPA-EAP / WPA2-EAP であっても、認証方式には [WPA-EAP] または [WPA2-EAP] を選択してください。
- 有線 LAN と無線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- [DHCP] を [オン] に設定して使用する場合は、DHCP サーバーが立ち上がっていることを確認してください。
- “本機の設定” (152 ページ) を実行してもアクセスポイント経由で無線 LAN 接続ができない場合は、お使いのアクセスポイント（電波中継機）のメーカーにお問い合わせください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[認証]	[オープン]
[暗号化]	[無し]
[DHCP]	[オフ]
[IP アドレス]	192.168.11.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.11.1
[DNS1] / [DNS2]	(空白)

[プロジェクター名]

プロジェクター名を変更できます。DHCP サーバーを利用する場合などにホスト名が必要であれば入力してください。

1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター名] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [プロジェクター名変更] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する

- 最大 16 文字を入力できます。

4) プロジェクター名の入力を完了後、▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 中止する場合は [CANCEL] を選択してください。

お知らせ

- プロジェクター名の工場出荷時の設定は、「Namexxxx」です。xxxx はネットワーク ID の下 4 桁の数字です。ネットワーク ID とは、製品ごとに付与されている固定値です。ネットワーク ID は、Panasonic APPLICATION 入力に切り換えたときに投影される待ち受け画面上で確認できます。

[ネットワークコントロール]

ネットワークのコントロール方法を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ネットワークコントロール] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ネットワークコントロール] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する

[WEB 制御]	WEB 制御したい場合、[オン] に設定します。
[PJLink コントロール]	PJLink プロトコルで制御したい場合、[オン] に設定します。
[PJLink 通知]	PJLink の通知機能を使用する場合、[オン] に設定します。 • [オン] に設定して 〈ENTER〉 ボタンを押すと、[PJLink 通知] 画面が表示されます。本機のステータスを通知するコンピューターの IP アドレスを [通知先 IP アドレス 1]、[通知先 IP アドレス 2] に設定してください。
[コマンドコントロール]	〈SERIAL IN〉端子の制御コマンド形式 (211 ページ) で制御したい場合、[オン] に設定します。 “LAN 経由の制御コマンドについて” (207 ページ) をご覧ください。
[コマンドポート]	コマンドコントロールで使用するポート番号を設定します。
[Crestron Connected (TM)]	Crestron 社の Crestron Connected で制御したい場合、[オン] に設定します。
[AMX D.D.]	AMX 社のコントローラーで制御したい場合、[オン] に設定します。 この機能を [オン] に設定すると、「AMX デバイスディスカバリー」による検知を有効にすることができます。詳細については、AMX 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.amx.com/
[EXTRON XTP]	Extron 社製の「XTP トランスミッター」を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続する場合、[オン] に設定します。 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番: ET-YFB100、ET-YFB200) を接続する場合は、[EXTRON XTP] の設定を [オフ] にする必要があります。 「XTP トランスミッター」の詳細については、Extron 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.extron.co.jp/

- 4) ▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 5) ▶▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

[メモリービューワー]

メモリービューワーの動作について設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [メモリービューワー] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [メモリービューワー] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[表示切換]	メモリービューワー画面の表示方法を設定します。	
	[サムネイル]	サムネイル形式で表示します。
	[リスト]	リスト形式で表示します。
[ファイル表示ソート]	メモリービューワー画面におけるファイルの表示順序を設定します。	
	[名前]	ファイル名の昇順で表示します。
	[種類]	ファイルの種類ごとに表示します。
	[日時]	ファイルの更新日時の古いものから順に表示します。
[自動再生]	自動再生の有効 / 無効を設定します。	
	[オフ]	自動再生を無効にする場合に選択します。
	[オン]	自動再生を有効にする場合に選択します。
	[シナリオ]	「複数台監視制御ソフトウェア」から登録されたシナリオファイルに従って自動再生する場合に選択します。

【自動再生間隔】		自動再生中の静止画の表示時間を設定します。
	【5 秒】 ～ 【120 秒】	静止画の表示時間を設定できます。 項目は、【5 秒】、【10 秒】、【15 秒】、【30 秒】、【60 秒】、【120 秒】から選択できます。
【画面切り換わり効果】		静止画の再生画面転換時に使う特殊効果を設定します。
	【オフ】	特殊効果を適用しません。
	【ランダム】	特殊効果をランダムに適用します。
	【ワイブレフト】	左側からふき取るように徐々に表示します。
	【ワイブライト】	右側からふき取るように徐々に表示します。
	【ワイブダウン】	上側からふき取るように徐々に表示します。
	【スプリット】	中央から左右両側に向けてふき取るように徐々に表示します。
	【ズームアウト】	中心から全体へと徐々に表示します。
	【フェード】	全体を徐々に表示します。
	【ブラインド】	縦型ブラインドを開けるように徐々に表示します。
	【チェッカーワイプ】	格子状に左側から右方向に徐々に表示します。
	【スライドイン】	次の画面が右から左へ現れるように表示します。
	【スライドアウト】	前の画面が右から左へ消えるようにして次の画面を表示します。
【ガイド表示】		再生画面における操作ガイドと、動画の再生経過を視覚的に表現するタイムバーの表示 / 非表示を設定します。
	【オン】	静止画 / 動画を再生中に操作ガイドとタイムバー（動画再生時のみ）を表示する場合に選択します。
	【オフ】	静止画 / 動画を再生中に操作ガイドとタイムバーを表示させたくない場合に選択します。

お知らせ

- メモリービューワの使い方については、「MEMORY VIEWER 入力で表示する」（182 ページ）をご覧ください。
- 【自動再生】を【オフ】、【シナリオ】に設定している場合、【自動再生間隔】は設定できません。
- メモリービューワで静止画や動画を再生中に【自動再生間隔】または【画面切り換わり効果】の設定を変更しても、再生中の投写映像には反映されません。サムネイル形式またはリスト形式のメモリービューワ画面に戻ってから再生し直してください。
- 【ガイド表示】を【オン】に設定していても、操作ガイドおよびタイムバーは再生開始約 3 秒後に自動的に消えます。
- 【ガイド表示】を【オフ】に設定していても、動画の早送り中、巻き戻し中は操作ガイドとタイムバーが表示されます。
- 操作ガイドが表示されていなくても、再生中の ▲▼◀▶ ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンによるメモリービューワの操作は有効です。
- 【自動再生】の【シナリオ】で選択できるコンテンツリストは、「複数台監視制御ソフトウェア」の「コンテンツリスト配信」機能を使用します。
- 【自動再生】を【シナリオ】に設定している場合、再生順や再生時間は「複数台監視制御ソフトウェア」から登録されたシナリオファイルに従います。
- 【自動再生】を【シナリオ】に設定している場合、「複数台監視制御ソフトウェア」で設定した光 ID を発信します。

[Panasonic APPLICATION]

当社のアプリケーションソフトを使用してコンピューターなどの端末を本機に LAN 接続する場合の動作について設定します。

【司会者モード】を設定する場合

複数の端末から、当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して本機に接続している場合に、司会者がプレゼンターを指名できる【司会者モード】を有効にするかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで【Panasonic APPLICATION】を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 【Panasonic APPLICATION】画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで【司会者モード】を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	【司会者モード】を無効にします。 各端末の使用者自らが、全画面表示するかどうかを操作する場合に選択します。
【オン】	【司会者モード】を有効にします。 司会者が本機を操作して、サムネイル表示されている複数の端末の画像の中から、全画面表示する画像を指定する場合に選択します。

お知らせ

- [オン] に設定している場合、他のユーザーによる画像の割り込みはできません。
- Panasonic APPLICATION 入力での司会者モードの操作方法については、「Panasonic APPLICATION 入力で表示する」(P. 175 ページ) をご覧ください。
- Panasonic APPLICATION 入力で使用する画像転送用アプリケーションソフトは次のとおりです。
 - ワイヤレスマネージャー ME6.4
 - プラグアンドシェア
 - ワイヤレスプロジェクター for iOS、ワイヤレスプロジェクター for Android
- 市販の USB メモリーをプロジェクターとペアリングすることで簡単に無線 LAN 接続することができる画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用法については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>
 本機と USB メモリーをペアリングする方法については、「ペアリング機能を使用する」(P. 190 ページ) をご覧ください。ペアリングすることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報が USB メモリーに書き込まれます。
- 「ワイヤレスプロジェクター」については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>

【割り込み】を設定する場合

当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して端末画面の画像を投写中に、他のユーザーによる画像の割り込みや、「複数台監視制御ソフトウェア」の一斉画像配信機能による画像の割り込みを許可するかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [Panasonic APPLICATION] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [Panasonic APPLICATION] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [割り込み] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を選択する
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	画像の割り込みを許可する場合に選択します。
[オフ]	画像の割り込みを禁止する場合に選択します。

お知らせ

- [司会者モード] を [オン] に設定している場合、[割り込み] は設定できません。
- 1 台のコンピューター上で「複数台監視制御ソフトウェア」と「ワイヤレスマネージャー ME6.4」の両方を実行している場合、「複数台監視制御ソフトウェア」の一斉画像配信機能が正しく動作しないことがあります。これら 2 つのアプリケーションを同時に立ち上げておく必要がある場合は、アプリケーションごとにコンピューターを準備してください。

【パスワード設定】を設定する場合

当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して本機に接続しようとしたときに、端末に対してパスワードの入力を求めることができます。パスワードの入力を必要とすることで、外部からの誤接続による画像の割り込み表示などを防ぐことができます。

- 1) ▲▼ ボタンで [Panasonic APPLICATION] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [Panasonic APPLICATION] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [パスワード設定] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を選択する
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	接続時にパスワードの入力を求めない場合に選択します。
[オン]	接続時にパスワードの入力を求める場合に選択します。

お知らせ

- 工場出荷時、または [ネットワーク /USB] メニュー → [初期化] を実行したあとの設定は、[オフ] になっています。画像転送用アプリケーションソフトを使用して本機に接続する場合は、[ネットワーク /USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] → [パスワード変更] でパスワードを登録したうえで、[パスワード設定] を [オン] に設定することをお勧めします。
- [オン] に設定している場合、「複数台監視制御ソフトウェア」の一斉画像配信機能による配信画像の受信や、配信画像消去機能による画像消去はできません。これらの機能を使用する場合は [オフ] に設定してください。

【パスワード変更】を設定する場合

当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して本機に接続するときに入力するパスワードを登録、変更します。

- 1) ▲▼ ボタンで [Panasonic APPLICATION] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [Panasonic APPLICATION] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [パスワード変更] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [パスワード変更] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する
 - 最大 8 文字までの ASCII 文字を入力できます。
- 6) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 入力したパスワードが登録されます。
 - 中止する場合は [CANCEL] を選択してください。

お知らせ

- 工場出荷時、または [ネットワーク /USB] メニュー → [初期化] を実行したあとは、パスワードは空白です。[パスワード設定] を [オン] に設定してもパスワードを登録していなければ、文字を入力することなく接続できてしまいます。[パスワード設定] を [オン] に設定する場合は、必ずパスワードを登録してください。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。

【ペアリングガイド】を設定する場合

Panasonic APPLICATION 入力を選択している状態で 〈VIEWER/PAIRING〉 端子に USB メモリーを取り付けたときに、待ち受け画面上にペアリングデータ書き込みの案内を表示するペアリング機能を有効にするかどうかを設定します。ペアリングデータとは、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報です。

- 1) ▲▼ ボタンで [Panasonic APPLICATION] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [Panasonic APPLICATION] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [ペアリングガイド] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を選択する
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	ペアリング機能を有効にします。 〈VIEWER/PAIRING〉 端子に取り付けた USB メモリーを検出して、待ち受け画面にペアリングを実行するための案内を表示します。
[オフ]	ペアリング機能を無効にします。 〈VIEWER/PAIRING〉 端子に USB メモリーを取り付けても検出しません。

お知らせ

- [ペアリングガイド] の設定は、Panasonic APPLICATION 入力を選択しているときに有効になります。
- 本機と USB メモリーをペアリングする方法については、「ペアリング機能を使用する」(P.190 ページ)をご覧ください。
- USB メモリーの取り扱いについては、「USB メモリーを使う」(P.63 ページ)をご覧ください。
- 市販の USB メモリーをプロジェクターとペアリングすることで簡単に無線 LAN 接続することができる画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用方法については、次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>
 本機と USB メモリーをペアリングする方法については、「ペアリング機能を使用する」(P.190 ページ)をご覧ください。ペアリングすることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報が USB メモリーに書き込まれます。

【ミラーリング】

ミラーリング機能を使用して端末を本機に接続する場合の動作について設定します。

- ミラーリング機能を使用するには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要

があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（ 46 ページ）をご覧ください。

接続設定をする場合

ミラーリング機能による接続の設定をします。

- 1) ▲▼ ボタンで [ミラーリング] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ミラーリング] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する

[接続方法]	本機に対して初めてミラーリング機能による接続を行う場合の接続方法を選択します。	
	[オート]	自動接続する場合に選択します。
	[PIN]	MIRRORING 入力の待ち受け画面に PIN（8 桁の番号）を表示し、端末側でその PIN を入力して接続する場合に選択します。
[チャンネル]	使用するチャンネルを選択します。	
[モバイル接続]	接続性が悪い場合に選択します。通常は [オフ] に設定して使用してください。	
	[オフ]	機能を無効にします。
	[オン]	機能を有効にします。

お知らせ

- [接続方法] を [オート] に設定していて、使用する端末によって接続できないことがある場合は、[PIN] に設定して使用してください。
- 本機に対してミラーリング機能による接続をしたことがある端末で再び接続する場合は、[接続方法] の設定によらずに自動接続されます。

[司会者モード] を設定する場合

複数の端末が本機とミラーリングによる接続ができる状態にあるときに、司会者がプレゼンターを指名できる [司会者モード] を有効にするかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ミラーリング] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ミラーリング] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [司会者モード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を選択する
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	司会者モードを無効にします。 本機と接続して、その画面を表示できる端末は 1 台に限られます。
[オン]	司会者モードを有効にします。 司会者が本機を操作して、待ち受け画面に表示されている複数台の端末の中から画面画像を表示する端末を指定する場合に選択します。

お知らせ

- [オン] に設定している場合、他のユーザーによる接続の割り込みはできません。
- MIRRORING 入力での司会者モードの操作方法については、“MIRRORING 入力で表示する”（ 178 ページ）をご覧ください。

[割り込み] を設定する場合

本機があるユーザーの端末の画面を表示しているときに、他のユーザーによる接続の割り込みを許可するかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ミラーリング] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [ミラーリング] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [割り込み] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	割り込みを許可する場合に選択します。 現在の端末との接続を解除して、新たに接続要求があった端末に接続を切り換え、その画面を表示します。
[オフ]	割り込みを禁止する場合に選択します。 現在の端末との接続を維持します。

お知らせ

- [司会者モード] を [オン] に設定している場合、[割り込み] は設定できません。

[ネットワークステータス]

本機のネットワーク状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [ネットワークステータス] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [ネットワークステータス] 画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで表示画面を切り換える

- ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。
[有線 LAN] (1/3 ページ)、[無線 LAN] (2/3 ページ)、[無線 LAN] (3/3 ページ)

[有線 LAN]	本機に設定されている有線 LAN のネットワーク情報を表示します。	
	[DHCP]	DHCP サーバーの利用状態を表示します。
	[IP アドレス]	[IP アドレス] を表示します。
	[サブネットマスク]	[サブネットマスク] を表示します。
	[デフォルトゲートウェイ]	[デフォルトゲートウェイ] を表示します。
	[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[MAC アドレス]	有線 LAN の [MAC アドレス] を表示します。
	[EAP]	EAP の種類を表示します。
[無線 LAN]	本機に設定されている無線 LAN のネットワーク情報を表示します。	
	[アンテナレベル]	無線 LAN の電波状況を表示します。
	[ネットワーク]	無線 LAN の接続方法を表示します。
	[SSID]	SSID の文字列を表示します。
	[認証]	ユーザー認証方式を表示します。
	[EAP]	EAP の種類を表示します。
	[暗号化]	暗号化方式を表示します。
	[デフォルトキー]	[デフォルトキー] の番号を表示します。
	[DHCP]	DHCP サーバーの利用状態を表示します。
	[IP アドレス]	[IP アドレス] を表示します。
	[サブネットマスク]	[サブネットマスク] を表示します。
	[デフォルトゲートウェイ]	[デフォルトゲートウェイ] を表示します。
	[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[MAC アドレス]	無線 LAN の [MAC アドレス] を表示します。

お知らせ

- [無線 LAN] が [無効] のときは、[ネットワークステータス] 画面の [無線 LAN] のページは表示されません。

第 5 章 機能の操作

各種機能の使い方について説明しています。

ネットワーク接続について

本機はネットワーク機能を備えており、コンピューターと接続することにより次のようなことができます。

- **WEB 制御**

コンピューターから本機にアクセスすることで、本機の設定や調整、状態表示などができます。

詳しくは、「WEB 制御機能について」(☞ 154 ページ)をご覧ください。

- **Smart Projector Control**

LAN 接続されたプロジェクターを、スマートフォンやタブレットを用いて設定・調整するアプリケーションソフトです。

アプリケーションソフトの詳細やダウンロードについては、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。

- **複数台監視制御ソフトウェア**

イントラネットに接続された複数台のディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を監視・制御するソフトウェア「複数台監視制御ソフトウェア」を使用できます。

また、イントラネット内にあるディスプレイやその周辺機器の状態を監視し、これらの機器の異常の通知や異常発生の予兆を検知するプラグインソフト「予兆監視ソフトウェア」の機能も使用できます。

詳しくは、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。

- **画像転送用アプリケーションソフト**

当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して、端末から送信された画像を投写映像として表示することができます。

詳しくは、「Panasonic APPLICATION 入力で表示する」(☞ 175 ページ)をご覧ください。

Windows コンピューターや Mac に対応した画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスマネージャー ME6.4」の使用方法については、「ワイヤレスマネージャー ME6.4」の取扱説明書をご覧ください。

市販の USB メモリーを本機とペアリングすることで簡単に無線 LAN 接続することができる画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用方法については、「プラグアンドシェア」の取扱説明書をご覧ください。本機と USB メモリーをペアリングする方法については、「ペアリング機能を使用する」(☞ 190 ページ)をご覧ください。ペアリングすることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報が USB メモリーに書き込まれます。

「ワイヤレスマネージャー ME6.4」と「プラグアンドシェア」のアプリケーションソフトと取扱説明書は、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードしてご利用いただけます。

iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末に対応した画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスプロジェクター」については、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。

- **ミラーリング**

ミラーリング機能を使用して、無線 LAN 接続した端末の画面を投写映像として表示することができます。

詳しくは、「MIRRORING 入力で表示する」(☞ 178 ページ)をご覧ください。

- **PJLink**

PJLink プロトコルを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。

詳しくは、「PJLink プロトコルを使用する」(☞ 205 ページ)をご覧ください。

- **コマンドコントロール**

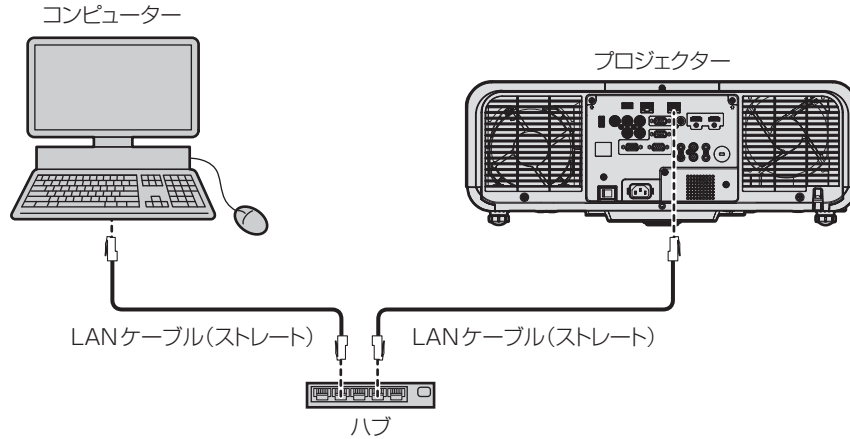
制御コマンドを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。

詳しくは、「LAN 経由の制御コマンドについて」(☞ 207 ページ)をご覧ください。

有線 LAN で接続する

本機は、ツイストペアケーブル伝送器からのイーサネット信号を、映像・音声・シリアル制御信号とともに LAN ケーブルを介して受信できます。

通常のネットワーク接続例



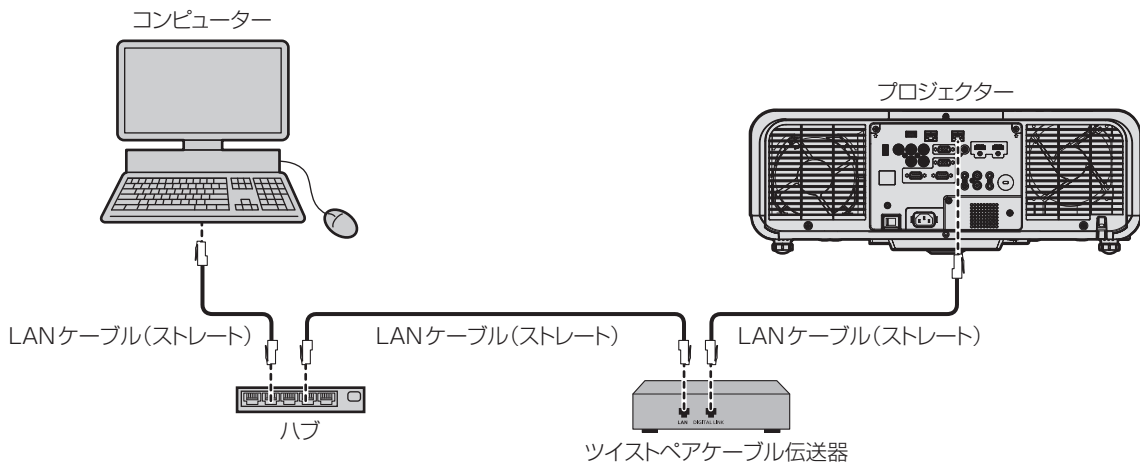
お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- 有線 LAN 接続でネットワーク機能を使用する場合は、LAN ケーブルが必要です。
- イーサネット信号を送受信する LAN ケーブルは、本機の〈LAN〉端子または〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続してください。
- LAN ケーブルはストレートまたはクロス結線で、CAT5 以上対応のものをご使用ください。システムの構成によってストレート / クロスのいずれか、または両方のケーブルを使用可能かが異なりますので、ネットワーク管理者にご確認ください。本機については、ケーブルの種類（ストレート / クロス）を自動的に判別します。
- LAN ケーブル長は 100 m 以下のものをご使用ください。

ツイストペアケーブル伝送器経由のネットワーク接続例



お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
 - CAT5e 以上の規格に適合
 - シールドタイプ（コネクターを含む）
 - ストレート結線
 - 単線
- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。これを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。途中で中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないでください。

- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に [ネットワーク / USB] メニュー → [DIGITAL LINK ステータス] で [信号品質] の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機の設定

- 1) 本機とコンピューターを LAN ケーブルで接続する
- 2) 本機の電源を入れる
- 3) メインメニューから [ネットワーク / USB] メニュー → [有線 LAN] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 4) [有線 LAN] の設定を行う
 - 詳細については [有線 LAN] (136 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- 既存のネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[DHCP]	[オフ]
[IP アドレス]	192.168.10.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1
[DNS1] / [DNS2]	(空白)
[EAP]	[なし]

コンピューターの操作

- 1) コンピューターの電源を入れる
- 2) ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う
 - 本機の設定が工場出荷の状態であれば、コンピューター側のネットワーク設定を次のようにすると、そのままお使いになれます。

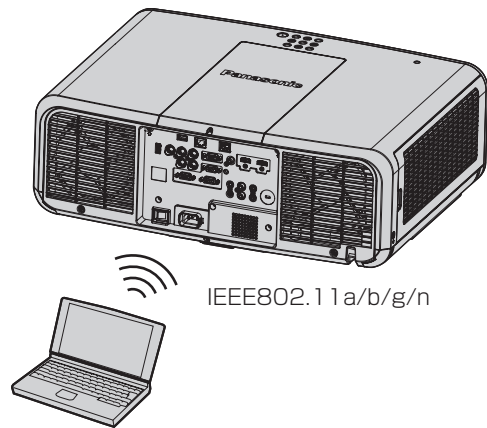
[IP アドレス]	192.168.10.101
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1

無線 LAN で接続する

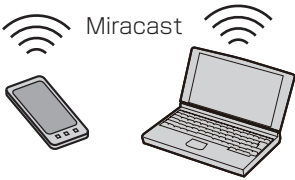
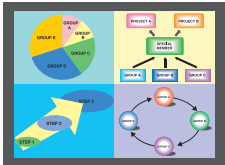
本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（📖 46 ページ）をご覧ください。

接続例



画像転送時の接続例

	MIRRORING (例) コンテンツの表示	画像転送用アプリケーションソフト (例) マルチ画面表示
接続イメージ	本機  Miracast  Miracast 対応端末	本機  当社の画像転送用のアプリケーションソフトをインストールしたコンピューターなどの端末 
入力	MIRRORING	Panasonic APPLICATION
通信方式	IEEE802.11n	IEEE802.11a/b/g/n
接続方式	—	Panasonic 独自方式 + ユーザー接続
映像伝送方式	H.264	Panasonic 独自方式

本機の設定

- 1) 本機の電源を入れる
- 2) メインメニューから [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] を選択し、[無効] 以外に設定する
- 3) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [無線 LAN 詳細設定] 画面が表示されます。
- 4) 接続設定をする
 - 詳細については [無線 LAN] (137 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- 無線 LAN と有線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- 複数の機器と接続する場合は IP アドレスが重複しないように設定する必要があります。
- SSID に『any』または『ANY』の文字列を設定して、ANY 接続で使用しないでください。
- Miracast 対応の端末と本機とをミラーリング接続する場合は、[無線 LAN 詳細設定] 画面で接続設定をする必要はありません。ミラーリング機能を使用した接続について詳しくは、“MIRRORING 入力で表示する” (178 ページ) をご覧ください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[シンプル]	[キー]	Projxxxx (ネットワーク ID と同じ文字列が設定されています。xxxx は 4 桁の数字です。)
[M-DIRECT]	[IP アドレス]	192.168.12.100
	[サブネットマスク]	255.255.255.0
	[SSID]	M-DIRECTxxxx (xxxx はネットワーク ID の下 4 桁の数字です。)
	[チャンネル]	1
[USER]	[キー]	SSID と同じ文字列
	[SSID]	Panasonic Projector
	[認証]	[オープン]
	[暗号化]	[無し]
	[DHCP]	[オフ]
	[IP アドレス]	192.168.11.100
	[サブネットマスク]	255.255.255.0
	[デフォルトゲートウェイ]	192.168.11.1
	[DNS1] / [DNS2]	(空白)

コンピューターの操作

1) コンピューターの電源を入れる

2) ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う

- [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] を [M-DIRECT] に設定している場合、コンピューター側のネットワーク設定を「IP アドレスを自動的に取得する」に設定します。
- [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] を [USER] に設定している場合、ネットワーク管理者の指示に従って、コンピューターと本機の各ネットワーク項目の設定を行ってください。

3) 本機に設定されているネットワークに接続する

- Windows コンピューターの場合、タスクトレイ（コンピューター画面の右下）の  をクリックして、接続先として次の SSID を選択してください。
 - [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が [M-DIRECT] の場合：本機に設定されている SSID
 - [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が [USER] の場合：お使いのアクセスポイントの SSID
- Mac の場合、メニューバー（コンピューター画面の右上）の  をクリックして、接続先として本機に設定されている SSID を選択してください。

お知らせ

- OS 標準の無線 LAN 接続ユーティリティを使用する場合は、使用するユーティリティの操作手順に従って接続してください。

WEB 制御機能について

WEB 制御機能を使用して、コンピュータから下記のような操作ができます。

- プロジェクターの設定と調整
- プロジェクターの状態表示
- プロジェクターが異常時に E メールメッセージを送信

また、本機は「Crestron Connected」に対応しており、Crestron Electronics, Inc. の以下のアプリケーションソフトを使用できます。

- RoomView Express
- Crestron Fusion
- RoomView Server Edition

お知らせ

- E メール機能をご使用になる場合は、E メールサーバーと通信する必要があります。あらかじめ E メールが利用できることを確認してください。
- 「Crestron Connected」はネットワークに接続された複数のシステムの様々な機器を、コンピュータで一括して管理・制御する Crestron Electronics, Inc. 製のシステムです。
- 「Crestron Connected」の詳細については、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトをご覧ください。（英語表示のみとなります。）
URL <https://www.crestron.com/>
また、「RoomView Express」は、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトよりダウンロードしてください。（英語表示のみとなります。）
URL <https://www.crestron.com/en-US/resources/get-roomview>

設定に使用できるコンピューター

WEB 制御機能を使用するには、WEB ブラウザーが必要です。あらかじめ WEB ブラウザーが使用できることを確認してください。

OS	対応ブラウザ
Windows	Internet Explorer 11.0、Microsoft Edge
Mac OS	Safari 8.0/9.0/10.0/11.0
iOS	Safari (iOS 9、iOS 10、iOS 11 搭載版)
Android	Google Chrome (Android 4.4/5.0/5.1/6.0/7.0/8.0 搭載版)

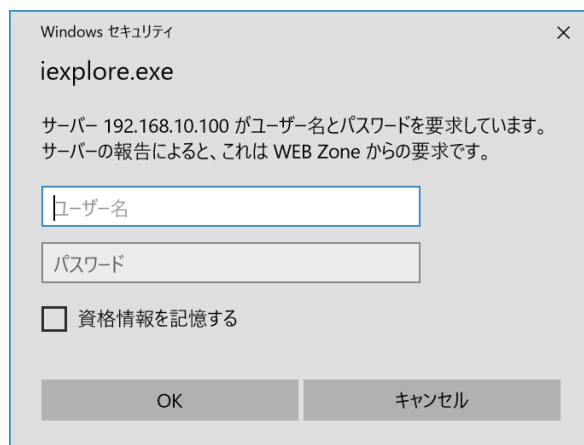
WEB ブラウザーからのアクセスのしかた

1) コンピューターの WEB ブラウザーを起動する

2) WEB ブラウザーの URL 入力欄に本機で設定した IP アドレスを入力する

3) ユーザー名とパスワードを入力する

- 工場出荷時の設定は、ユーザー名：dispuser（ユーザー権限）/dispadmin（管理者権限）、パスワード：@Panasonic です。
- はじめて WEB 制御機能を使用する場合は、パスワードの変更を求められます。手順 **4)** に進んでください。すでに WEB 制御機能を使用したことがある場合は、手順 **7)** に進んでください。



4) OK をクリックする

- [パスワード変更] ページが表示されます。
- ユーザー権限の場合

管理者権限の場合

5) 新しいユーザー名やパスワードを入力し、[変更] をクリックする

- 手順 3) の画面が再度表示されます。

6) 新しいユーザー名やパスワードを入力する

- 手順 5) で設定した、新しいユーザー名やパスワードを入力してください。

7) OK をクリックする

お願い

- ユーザー名やパスワードを入力する画面が、すでに開いている他のウィンドウで見えないことがあります。その場合は、手前にあるウィンドウを最小化して入力画面を表示してください。

お知らせ

- WEB ブラウザーで制御する場合は、[ネットワーク / USB] メニュー → [ネットワークコントロール] で [WEB 制御] を [オン] に設定してください。
- WEB ブラウザーを同時に複数立ち上げて、設定や制御をすることは避けてください。また、複数台のコンピューターから同一のプロジェクトに対して設定や制御をすることも避けてください。
- パスワードを 3 回続けて間違えると、数分間ロックされます。
- 本機の設定ページには、WEB ブラウザーの Javascript 機能を利用している項目があります。WEB ブラウザーがこの機能を使用していない設定になっている場合には、正常にコントロールできないことがあります。
- WEB 制御の画面が表示されない場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- WEB 制御の画面更新時に、画面が一瞬白くなることがありますが、故障ではありません。
- 「複数台監視制御ソフトウェア」や「Smart Projector Control」など、LAN 経由の通信制御を使用したアプリケーションソフトに本機をすでに登録している場合、[Administrator] のユーザー名またはパスワードを変更すると、本機との通信ができなくなります。[Administrator] のユーザー名またはパスワードを変更した場合は、ご使用のアプリケーションソフトの登録情報を更新してください。
- コンピューターの画面イラストについて
お客様がお使いの OS や WEB ブラウザー、コンピューターの種類によっては画面の大きさや表示が本書と異なることがあります。

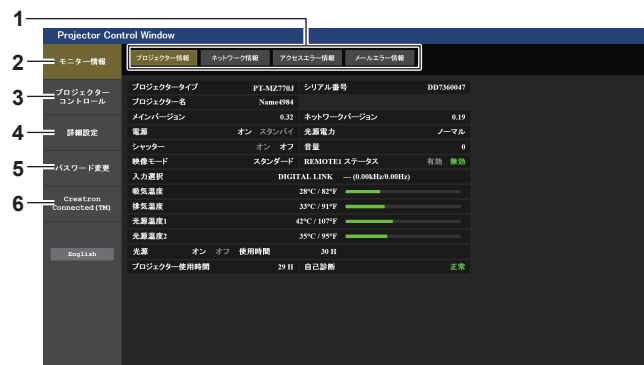
アカウントごとの権限

管理者権限は、全機能を使用できます。ユーザー権限は、使用できる権限に制限があります。目的に応じて、権限を選択してください。

管理者権限 / ユーザー権限の欄に ✓ がある機能は、それぞれの権限で操作できることを示しています。

項目	機能	管理者権限	ユーザー権限	ページ
[プロジェクター情報]	[プロジェクター情報]	✓	✓	157
	エラー情報ページ	✓	✓	158
	[ネットワーク情報]	✓	✓	158
	[アクセスエラー情報]	✓	—	158
	[メールエラー情報]	✓	—	159
[プロジェクターコントロール]	[基本制御]	✓	✓	159
	[詳細制御]	✓	—	160
[詳細設定]	[LAN 設定]	✓	—	161
	[時刻設定]	✓	—	165
	[接続テスト]	✓	—	165
	[E メール設定]	✓	—	166
	[認証サーバー設定]	✓	—	167
	[ECO マネージメント設定]	✓	—	167
[パスワード変更]	[Administrator] のユーザー名	✓	—	170
	[User] のユーザー名	✓	—	171
	[Moderator] のユーザー名	✓	—	171
	[Administrator] のパスワード	✓	—	170
	[User] のパスワード	✓	✓	171、 171
	[Moderator] のパスワード	✓	—	171
[Crestron Connected (TM)]	操作ページ	✓	—	172
	[Tools]	✓	—	173
	[Info]	✓	—	173
	[Help]	✓	—	174

各項目の説明



- 1 ページ切り換えタブ**
クリックすると、ページが切り換わります。
- 2 [モニター情報]**
この項目をクリックすると、プロジェクターの状態が表示されます。
- 3 [プロジェクターコントロール]**
この項目をクリックすると、[プロジェクターコントロール] ページが表示されます。
- 4 [詳細設定]**
この項目をクリックすると、[詳細設定] ページが表示されます。
- 5 [パスワード変更]**
この項目をクリックすると、[パスワード変更] ページが表示されます。
- 6 [Crestron Connected (TM)]**
この項目をクリックすると、Crestron Connected の操作ページが表示されます。

【プロジェクター情報】 ページ

【モニター情報】 → 【プロジェクター情報】 をクリックします。
以下の項目における本機の状態を表示します。

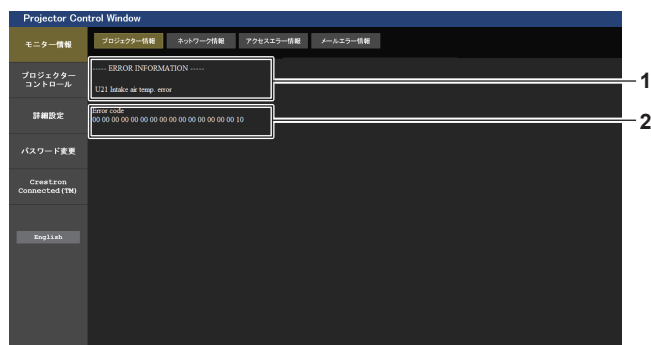


- | | |
|---|---|
| <p>1 【プロジェクタータイプ】
プロジェクターの種類を表示します。</p> <p>2 【プロジェクター名】
本機に設定されているプロジェクター名を表示します。</p> <p>3 【メインバージョン】
プロジェクターのファームウェアのメインバージョンを表示します。</p> <p>4 【電源】
電源の状態を表示します。</p> <p>5 【シャッター】
シャッター機能の状態（[オン]:有効（閉）、[オフ]:無効（開））を表示します。</p> <p>6 【光源電力】
[光源電力] の設定状態を表示します。</p> <p>7 【映像モード】
[映像モード] の設定状態を表示します。</p> <p>8 【シリアル番号】
プロジェクターのシリアル番号を表示します。</p> <p>9 【ネットワークバージョン】
プロジェクターのファームウェアのネットワークバージョンを表示します。</p> <p>10 【音量】
音量の状態を表示します。</p> <p>11 【光出力】
[光出力] の設定状態を表示します。</p> <p>12 【REMOTE1 ステータス】
〈REMOTE 1 IN〉端子による制御状態を表示します。</p> <p>13 【入力選択】
選択している入力の状態を表示します。</p> | <p>14 【吸気温度】
プロジェクターの吸気温度状態を表示します。</p> <p>15 【排気温度】
プロジェクターの排気温度状態を表示します。</p> <p>16 【光源温度 1】
光源 1 の温度状態を表示します。</p> <p>17 【光源温度 2】
光源 2 の温度状態を表示します。</p> <p>18 【光源】
光源の点灯状態、使用時間を表示します。</p> <p>19 【自己診断】
自己診断情報を表示します。</p> <p>20 【プロジェクター使用時間】
プロジェクターの稼働時間を表示します。</p> |
|---|---|

エラー情報ページ

【プロジェクター情報】画面の【自己診断】表示欄に【エラー（詳細表示）】または【警告（詳細表示）】が表示されたとき、その部分をクリックするとエラー / 警告内容が表示されます。

- エラーの内容によっては、プロジェクター保護のためスタンバイ状態になります。



1 エラー情報の表示

発生しているエラー / 警告の記号と、その内容が表示されます。
表示内容の詳細については、「【自己診断】の表示について」
(202 ページ) をご覧ください。

2 エラーコード

【ネットワーク情報】 ページ

【モニター情報】 → 【ネットワーク情報】 をクリックします。

現在のネットワークの設定情報が表示されます。



1 【有線 LAN】

有線 LAN の設定内容を表示します。

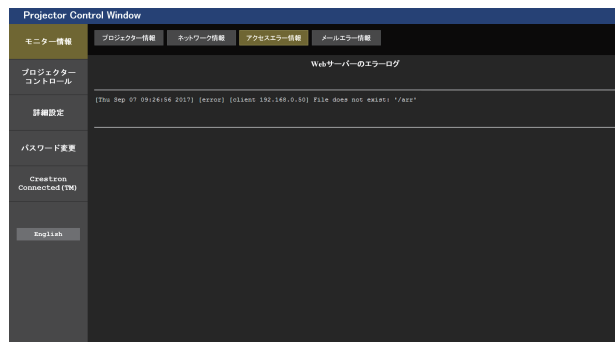
2 【無線 LAN】

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合は、無線 LAN の設定内容を表示します。

【アクセスエラー情報】 ページ

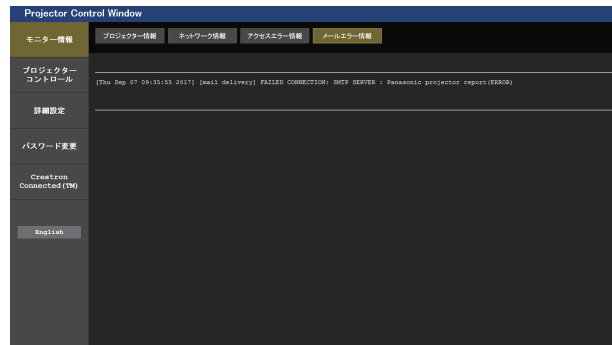
【モニター情報】 → 【アクセスエラー情報】 をクリックします。

存在しないページへのアクセスや不正なユーザー名、パスワードでのアクセスなど、WEB サーバーのエラー情報が表示されます。



【メールエラー情報】 ページ

【モニター情報】 → 【メールエラー情報】 をクリックします。
定期的な E メールの送信に失敗した場合の、メールのエラー情報が表示されます。

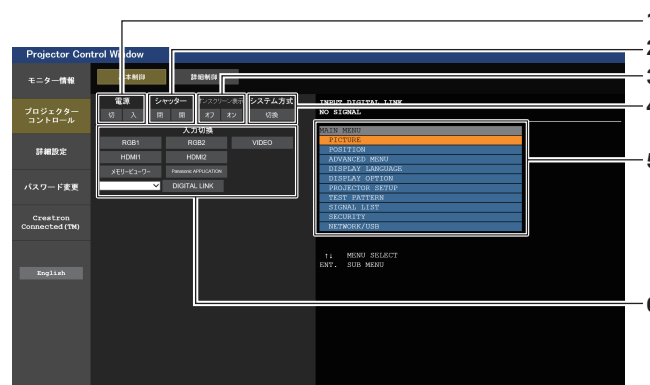


お知らせ

- 【アクセスエラー情報】 および 【メールエラー情報】 は、過去数千回分のアクセス / リクエストを表示します。一度に多量のアクセス / リクエストが発生した場合は、すべての情報を表示できない可能性があります。
- 【アクセスエラー情報】 および 【メールエラー情報】 は、一定量を超えると古い情報から消えます。
- 【アクセスエラー情報】 および 【メールエラー情報】 は、定期的に確認してください。

【基本制御】 ページ

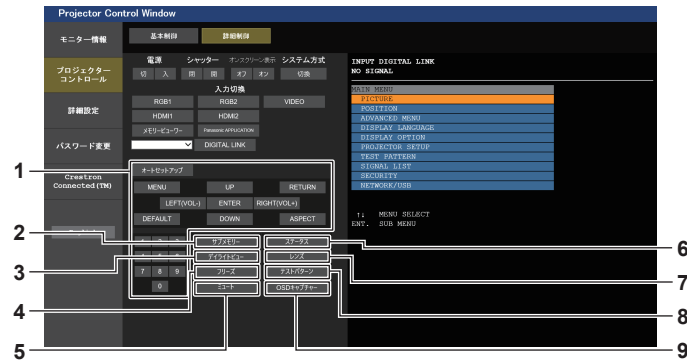
【プロジェクターコントロール】 → 【基本制御】 をクリックします。



- 1 **【電源】**
電源の切 / 入を行います。
- 2 **【シャッター】**
シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：閉） / 無効（シャッター：開））を切り換えます。
- 3 **【オンスクリーン表示】**
オンスクリーン表示機能のオン（表示） / オフ（非表示）を切り換えます。
- 4 **【システム方式】**
システム方式を切り換えます。
- 5 **プロジェクターのオンスクリーン表示**
プロジェクターのオンスクリーン表示と同じ内容が表示されます。メニューの設定内容の確認や変更ができます。オンスクリーン表示機能がオフ（非表示）に設定されていても表示されます。
- 6 **【入力切換】**
入力信号を切り換えます。

【詳細制御】 ページ

【プロジェクターコントロール】 → 【詳細制御】 をクリックします。



1 プロジェクターの制御

リモコンのボタンと同じように各ボタンをクリックすることによりプロジェクターを制御します。制御後に制御ページ右側のプロジェクターのオンスクリーン表示を更新します。

2 【サブメモリー】

サブメモリーの切り換えをします。

3 【デイトライトビュー】

デイトライトビューの設定を切り換えます。

4 【フリーズ】

映像を一時的に静止させます。

5 【ミュート】

消音機能を使用するかどうかを切り換えます。

6 【ステータス】

投写画面上に【ステータス】画面が表示されます。

7 【レンズ】

【レンズ】 ページが表示します。

8 【テストパターン】

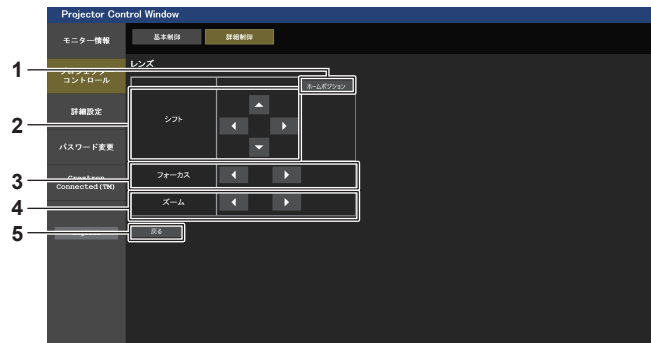
テストパターンを表示します。

9 【OSD キャプチャー】

制御ページ右側のプロジェクターのオンスクリーン表示を、最新の状態に更新します。

【レンズ】 ページ

【プロジェクターコントロール】 → 【詳細制御】 → 【レンズ】 をクリックします。



1 【ホームポジション】

投写レンズをホームポジションへ移動します。

2 【シフト】

▲▼◀▶ ボタンでレンズシフト（垂直位置、水平位置）を調整します。
約 3 秒以上ボタンを押し続けると、速く動作させることができます。

3 【フォーカス】

◀▶ ボタンでフォーカスを調整します。
約 3 秒以上ボタンを押し続けると、速く動作させることができます。

4 【ズーム】

◀▶ ボタンでズームを調整します。
約 3 秒以上ボタンを押し続けると、速く動作させることができます。

5 【戻る】

【詳細制御】 ページに戻ります。

[LAN 設定] ページ

[詳細設定] → [LAN 設定] をクリックします。

- 本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（ 46 ページ）をご覧ください。

1) [LAN 設定] をクリックする

- [LAN 設定] をクリックすると、[CAUTION!] 画面が表示されます。



2) 設定を変更したい項目にチェックを入れる

- [無線 LAN] の設定は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合のみ、選択できます。

3) [次へ] ボタンをクリックする

- 現在の設定内容が表示されます。

4) [変更] ボタンをクリックする

- 設定変更画面が表示されます。画面の指示に従って設定してください。

[有線 LAN] を選択した場合

The left screenshot shows the 'Projector Control Window' with the 'LAN 設定' (LAN Settings) tab selected. The 'SET UP (1/2)' screen displays the following fields:

- ネットワーク** (Network): Includes a '有線 LAN' (Wired LAN) section with 'DHCP オン' (DHCP On) selected.
- IP**: IP Address field with a value of 192.168.0.100.
- サブネットマスク** (Subnet Mask): Subnet Mask field with a value of 255.255.255.0.
- デフォルトゲートウェイ** (Default Gateway): Default Gateway field with a value of 192.168.0.1.
- DNS**: DNS field with a value of 192.168.0.100.
- EAP**: EAP field with a value of PEAP/MS-CHAPv2.

The right screenshot shows the 'SET UP (2/2)' screen with the following fields:

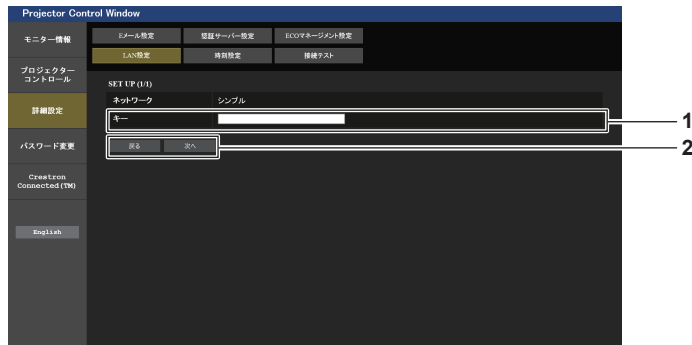
- ユーザー名** (User Name): User Name field.
- パスワード** (Password): Password field.
- 電子証明書** (Electronic Certificate): Electronic Certificate field.
- CA 証明書** (CA Certificate): CA Certificate field.

- 1 **【DHCP オン】、【DHCP オフ】**
DHCP クライアント機能を有効にする場合は [DHCP オン] にします。
- 2 **【IP アドレス】**
DHCP サーバーを利用しない場合は IP アドレスを入力します。
- 3 **【サブネットマスク】**
DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。
- 4 **【デフォルトゲートウェイ】**
DHCP サーバーを利用しない場合はデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
- 5 **【DNS1】**
DNS1 サーバーアドレスを入力します。
DNS1 サーバーアドレス (プライマリー) の入力使用可能文字:
数字 (0 ~ 9)、ピリオド (.)
(例: 192.168.0.253)
- 6 **【DNS2】**
DNS2 サーバーアドレスを入力します。
DNS2 サーバーアドレス (セカンダリー) の入力使用可能文字:
数字 (0 ~ 9)、ピリオド (.)
(例: 192.168.0.254)
- 7 **【EAP】**
RADIUS サーバーに設定されている EAP を選択します。
- 8 **【戻る】、【次へ】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[EAP] を [無し] 以外に設定した場合、[次へ] ボタンをクリックすると、次ページへ進みます。[EAP] を [無し] に設定した場合、[次へ] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[送信] ボタンをクリックして設定を更新します。
- 9 **【ユーザー名】**
認証に使用するユーザー名を半角英数字 (スペースは除く) で入力します。(最大 64 文字)
- 10 **【パスワード】**
認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。(最大 64 文字)
- 11 **【戻る】、【次へ】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[次へ] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[送信] ボタンをクリックして設定を更新します。
- 12 **【電子証明書】**
認証に使用する電子証明書 (拡張子: PFX) を登録します。
- 13 **【CA 証明書】**
認証に使用する CA 証明書 (拡張子: CER) を登録します。

お知らせ

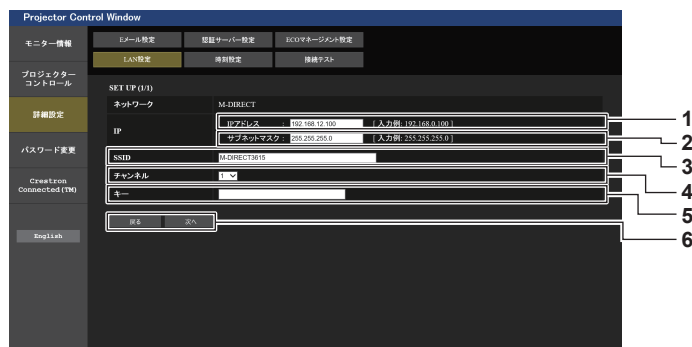
- ブラウザーの「戻る」または「進む」機能を使用した場合、「ページの有効期限切れ」という警告画面が表示されることがあります。その場合、以降の動作は保証されませんので、再度 [LAN 設定] をクリックしてください。
- LAN で接続中に LAN 設定を変更すると、接続が途切れることがあります。

[シンプル]（無線 LAN）を選択した場合



- 1 **【キー】**
シンプルで使用するキーを設定します。
8 ～ 15 文字の半角英数字で入力します。
- 2 **【戻る】、【次へ】**
【戻る】 ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。【次へ】 ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。【送信】 ボタンをクリックして設定を更新します。

[M-DIRECT]（無線 LAN）を選択した場合



- 1 **【IP アドレス】**
IP アドレスを入力します。
- 2 **【サブネットマスク】**
サブネットマスクを入力します。
- 3 **【SSID】**
M-DIRECT で使用する SSID を半角英数字で設定します。
- 4 **【チャンネル】**
M-DIRECT で使用するチャンネルを選択します。
- 5 **【キー】**
M-DIRECT で使用するキーを設定します。
8 ～ 63 文字の ASCII 文字、または 64 桁の 16 進数で入力します。
- 6 **【戻る】、【次へ】**
【戻る】 ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。【次へ】 ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。【送信】 ボタンをクリックして設定を更新します。

お知らせ

- SSID に『any』または『ANY』の文字列を設定して、ANY 接続で使用しないでください。

[USER] (無線 LAN) を選択した場合

- 1 **【DHCP オン】、【DHCP オフ】**
DHCP クライアント機能を有効にする場合は [DHCP オン] にします。
- 2 **【IP アドレス】**
DHCP サーバーを利用しない場合は IP アドレスを入力します。
- 3 **【サブネットマスク】**
DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。
- 4 **【デフォルトゲートウェイ】**
DHCP サーバーを利用しない場合はデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
- 5 **【DNS1】**
DNS1 サーバーアドレスを入力します。
DNS1 サーバーアドレス (プライマリー) の入力使用可能文字:
数字 (0 ~ 9)、ピリオド (.)
- 6 **【DNS2】**
DNS2 サーバーアドレスを入力します。
DNS2 サーバーアドレス (セカンダリー) の入力使用可能文字:
数字 (0 ~ 9)、ピリオド (.)
- 7 **【SSID】**
アクセスポイントに登録されている SSID と同じ文字列を入力します。
- 8 **【戻る】、【次へ】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[次へ] ボタンをクリックすると、次ページへ進みます。

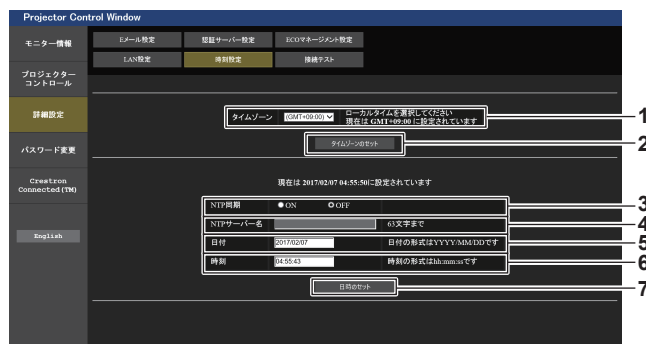
- 9 **【認証】**
接続するネットワークで使用されているユーザー認証方式を選択します。
- 10 **【EAP】**
RADIUS サーバーに設定されている EAP を選択します。
- 11 **【暗号化】**
プロジェクターとネットワークの間の通信で使用する暗号化方式を選択します。
- 12 **【戻る】、【次へ】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[次へ] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[送信] ボタンをクリックして設定を更新します。
- 13 **【キー】**
USER で使用するキーを設定します。
8 ~ 63 文字の ASCII 文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。
- 14 **【ユーザー名】**
認証に使用するユーザー名を半角英数字 (スペースは除く) で入力します。(最大 64 文字)
- 15 **【パスワード】**
認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。(最大 64 文字)
- 16 **【電子証明書】**
認証に使用する電子証明書 (拡張子: PFX) を登録します。
- 17 **【CA 証明書】**
認証に使用する CA 証明書 (拡張子: CER) を登録します。

お知らせ

- 接続する無線 LAN の認証方式により設定内容が異なります。

〔時刻設定〕 ページ

〔詳細設定〕 → 〔時刻設定〕 をクリックします。



- 1 **〔タイムゾーン〕**
タイムゾーンを選択します。
(日本は GMT+09:00)
- 2 **〔タイムゾーンのセット〕**
タイムゾーンの設定を更新します。
- 3 **〔NTP 同期〕**
自動で日時を設定する場合は **〔ON〕** にします。
- 4 **〔NTP サーバー名〕**
自動で日時を設定する場合は NTP サーバーの IP アドレスかサーバー名を入力します。
(サーバー名を入力する場合は DNS サーバーの設定が必要です。)
- 5 **〔日付〕**
変更する日付を入力します。
- 6 **〔時刻〕**
変更する時間を入力します。
- 7 **〔日時のセット〕**
日時設定を更新します。

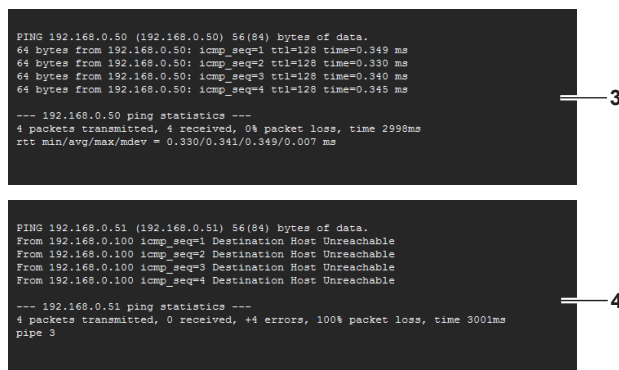
お知らせ

- 時刻を設定してもすぐに時刻が合わない場合は、本機内部の電池交換が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

〔接続テスト〕 ページ

E メールサーバー、POP サーバー、DNS サーバーなどとネットワークが接続しているかを確認できます。

〔詳細設定〕 → 〔接続テスト〕 をクリックします。



- 1 **〔接続先の IP アドレス〕**
テストするサーバーの IP アドレスを入力します。
- 2 **〔送信〕**
接続テストを実行します。
- 3 **接続できた場合の表示例**
- 4 **接続できなかった場合の表示例**

[E メール設定] ページ

異常時や光源の使用時間が設定値になったとき、あらかじめ設定しておいた E メールアドレス（最大 2 か所）にメールを送信できます。

[詳細設定] → [E メール設定] をクリックします。

1 [許可]

E メール機能を使用する場合は [有効] を選択してください。

2 [SMTP サーバー名]

E メールサーバー (SMTP) の IP アドレスかサーバー名を入力してください。サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーの設定が必要です。

3 [送信者メールアドレス]

プロジェクターの E メールアドレスを入力してください。(半角で 63 文字まで)

4 [メモ]

Eメールの発信元がわかりやすいように、プロジェクターの設置場所などを入力できます。(半角で 63 文字まで)

5 [最短送信間隔]

温度警告メールの最短時間間隔を変更できます。初期値は 60 分です。この場合、温度警告メールを送信後 60 分間は、再び警告温度になってもメールを送信できません。

6 [吸気温度]

温度警告メール用の設定温度を変更できます。この値を超えた場合、温度警告メールを送信します。

7 [E メールアドレス 1]、[E メールアドレス 2]

送信する宛先の E メールアドレスを入力してください。2 つの E メールアドレスを使わない場合は、[E メールアドレス 2] を未記入にします。

8 E メールを送信する条件の設定

E メールを送信する条件を選択します。

[メール内容]：

[通常] か [簡易] を選択します。

[エラー発生時]：

自己診断でエラーが発生した場合に送信します。

[吸気温度]：

吸気温度が上欄に設定された値になった場合に送信します。

[定期報告]：

E メールを定期的に送信する場合はチェックします。

チェックの付いている曜日・時間にメールを送信します。

9 [送信]

設定を更新します。

【認証サーバー設定】 ページ

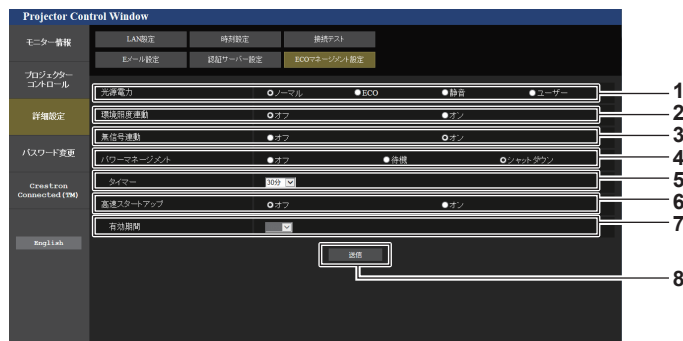
メール送信に POP 認証または SMTP 認証が必要な場合は認証項目を設定します。
 [詳細設定] → [認証サーバー設定] をクリックします。



- 1 **【認証】**
インターネットプロバイダー側が指示する認証方式を選択します。
- 2 **【SMTP 認証】**
SMTP 認証を選択した場合に設定します。
- 3 **【POP サーバー名】**
POP サーバー名を入力します。
使用可能文字：
英数字（A～Z、a～z、0～9）
マイナス記号（-）ピリオド（.）
- 4 **【ユーザー名】**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのユーザー名を入力します。
- 5 **【パスワード】**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのパスワードを入力します。
- 6 **【SMTP サーバー ポート番号】**
SMTP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 25 番です）
- 7 **【POP サーバー ポート番号】**
POP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 110 番です）
- 8 **【送信】**
設定を更新します。

【ECO マネージメント設定】 ページ

プロジェクターの ECO マネージメント機能に関する設定を行うことができます。
 [詳細設定] → [ECO マネージメント設定] をクリックします。



- 1 **【光源電力】**
[光源電力] の設定を選択します。
- 2 **【環境照度連動】**
環境照度連動機能の有効([オン]) / 無効([オフ])を選択します。
- 3 **【無信号連動】**
無信号連動機能の有効([オン]) / 無効([オフ])を選択します。
- 4 **【パワーマネージメント】**
[パワーマネージメント] の設定を選択します。
- 5 **【タイマー】**
パワーマネージメント機能が働いて光源が消灯するまでの時間を選択します。
- 6 **【高速スタートアップ】**
[高速スタートアップ] の設定を選択します。
- 7 **【有効期間】**
スタンバイ状態になってから、[高速スタートアップ] の機能が無効になるまでの有効期間を選択します。
- 8 **【送信】**
設定を更新します。

お知らせ

- 各設定項目の詳細内容については、プロジェクター本体の [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] をご覧ください。

送信するメール内容

E メール設定時のメール送信例

E メール設定を行ったときはこのようなメールを発信します。

```

=== Panasonic projector report(CONFIGURE) ===
Projector Type       : PT-MZ770J
Serial No           : 123456789

----- E-mail setup data -----
TEMPERATURE WARNING SETUP
MINIMUM TIME        at [ 60] minutes interval
INTAKE AIR TEMPERATURE      Over [ 32 degC / 89 degF ]

ERROR      [ ON ]
INTAKE AIR TEMPERATURE      [ ON ]
PERIODIC REPORT
Sunday      [ OFF ]      Monday      [ OFF ]      Tuesday      [ OFF ]      Wednesday      [ OFF ]
Thursday      [ OFF ]      Friday      [ OFF ]      Saturday      [ OFF ]

00:00 [ OFF ]  01:00 [ OFF ]  02:00 [ OFF ]  03:00 [ OFF ]
04:00 [ OFF ]  05:00 [ OFF ]  06:00 [ OFF ]  07:00 [ OFF ]
08:00 [ OFF ]  09:00 [ OFF ]  10:00 [ OFF ]  11:00 [ OFF ]
12:00 [ OFF ]  13:00 [ OFF ]  14:00 [ OFF ]  15:00 [ OFF ]
16:00 [ OFF ]  17:00 [ OFF ]  18:00 [ OFF ]  19:00 [ OFF ]
20:00 [ OFF ]  21:00 [ OFF ]  22:00 [ OFF ]  23:00 [ OFF ]

----- Error information -----
Error code :
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

Intake air temperature      : 30 degC / 86 degF
Exhaust air temperature     : 50 degC / 122 degF
Light temperature1          : 31 degC / 87 degF
Light temperature2          : 31 degC / 87 degF
PROJECTOR RUNTIME           10 H
POWER ON                    5 times
LIGHT RUNTIME               25 H
LIGHT ON                    6 times

----- Current status -----
MAIN VERSION                1.00
NETWORK VERSION             1.00
SUB VERSION                 1.00
LIGHT STATUS                LIGHT=OFF
INPUT                       DIGITAL LINK
REMOTE1 STATUS              ENABLE

----- Wired network configuration -----
DHCP Client                 OFF
IP address                  192.168.0.100
MAC address                  7E:D6:57:86:D9:0F

----- Wireless network configuration -----
DHCP Client                 OFF
IP address                  192.168.13.166
MAC address                  7C:B7:33:1C:9B:98

Mon Jan 01 12:34:56 20XX

----- Memo -----

```

お知らせ

- 無線 LAN の情報は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合にのみ表示されます。

エラー時のメール送信例

エラーになったときはこのようなメールを発信します。

```

=== Panasonic projector report(ERROR) ===
Projector Type      : PT-MZ770J
Serial No          : 123456789

----- E-mail setup data -----
TEMPERATURE WARNING SETUP
MINIMUM TIME          at [ 60] minutes interval
INTAKE AIR TEMPERATURE      Over [ 32 degC / 89 degF ]

ERROR      [ ON ]
INTAKE AIR TEMPERATURE      [ ON ]
PERIODIC REPORT
Sunday      [ OFF ]      Monday      [ OFF ]      Tuesday      [ OFF ]      Wednesday      [ OFF ]
Thursday      [ OFF ]      Friday      [ OFF ]      Saturday      [ OFF ]

00:00 [ OFF ]  01:00 [ OFF ]  02:00 [ OFF ]  03:00 [ OFF ]
04:00 [ OFF ]  05:00 [ OFF ]  06:00 [ OFF ]  07:00 [ OFF ]
08:00 [ OFF ]  09:00 [ OFF ]  10:00 [ OFF ]  11:00 [ OFF ]
12:00 [ OFF ]  13:00 [ OFF ]  14:00 [ OFF ]  15:00 [ OFF ]
16:00 [ OFF ]  17:00 [ OFF ]  18:00 [ OFF ]  19:00 [ OFF ]
20:00 [ OFF ]  21:00 [ OFF ]  22:00 [ OFF ]  23:00 [ OFF ]

----- Error information -----
U21 Intake air temp. error

Error code :
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 10

Intake air temperature      : 30 degC / 86 degF
Exhaust air temperature     : 50 degC / 122 degF
Light temperature1          : 31 degC / 87 degF
Light temperature2          : 31 degC / 87 degF
PROJECTOR RUNTIME           10 H
POWER ON                    5 times
LIGHT RUNTIME               25 H
LIGHT ON                    6 times

----- Current status -----
MAIN VERSION                1.00
NETWORK VERSION             1.00
SUB VERSION                 1.00
LIGHT STATUS                LIGHT=OFF
INPUT                       DIGITAL LINK
REMOTE1 STATUS              ENABLE

----- Wired network configuration -----
DHCP Client                 OFF
IP address                  192.168.0.100
MAC address                 7E:D6:57:86:D9:0F

----- Wireless network configuration -----
DHCP Client                 OFF
IP address                  192.168.13.166
MAC address                 7C:B7:33:1C:9B:98

Mon Jan 01 12:34:56 20XX

----- Memo -----

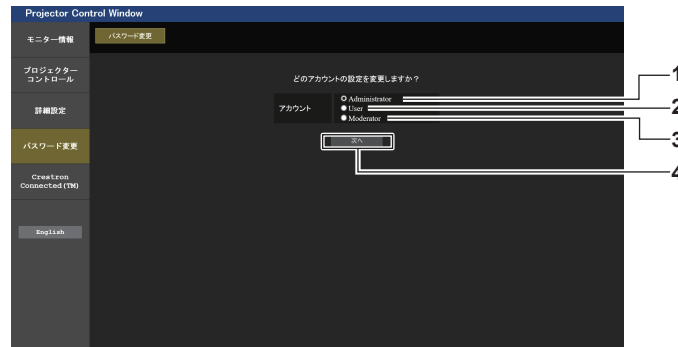
```

お知らせ

- 無線 LAN の情報は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付けている場合にのみ表示されます。

【パスワード変更】 ページ

【パスワード変更】 をクリックします。

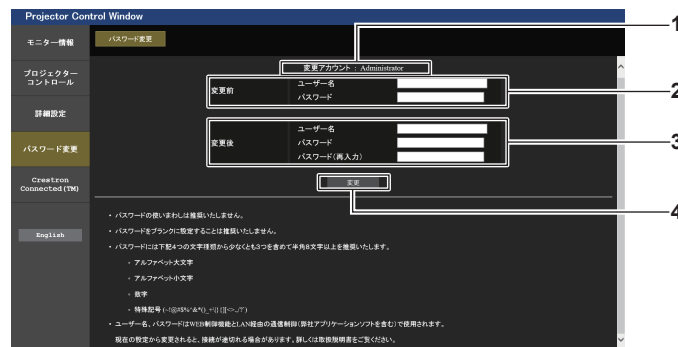


- 1 **【Administrator】**
【Administrator】（管理者）の設定を変更する場合に選択します。
- 2 **【User】**
【User】（ユーザー）の設定を変更する場合に選択します。
- 3 **【Moderator】**
【Moderator】（司会者）の設定を変更する場合に選択します。
- 4 **【次へ】**
パスワードの設定を変更する画面を表示します。

お知らせ

- 【Moderator】（司会者）のアカウントは、MIRRORING 入力または Panasonic APPLICATION 入力選択時に司会者モードで操作する場合に使用します。

【Administrator】（管理者）について

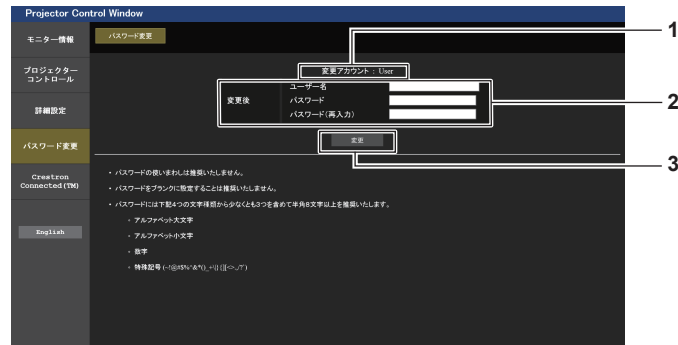


- 1 **【変更アカウント】**
変更するアカウントが表示されます。
- 2 **【変更前】**
【ユーザー名】：
変更前のユーザー名を入力します。
【パスワード】：
変更前のパスワードを入力します。
- 3 **【変更後】**
【ユーザー名】：
変更後のユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード】：
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード（再入力）】：
変更後のパスワードを再度入力します。
- 4 **【変更】**
パスワードの変更を確定します。

お知らせ

- 「複数台監視制御ソフトウェア」や「Smart Projector Control」など、LAN 経由の通信制御を使用したアプリケーションソフトに本機をすでに登録している場合、【Administrator】のユーザー名またはパスワードを変更すると、本機との通信ができなくなります。【Administrator】のユーザー名またはパスワードを変更した場合は、ご使用のアプリケーションソフトの登録情報を更新してください。

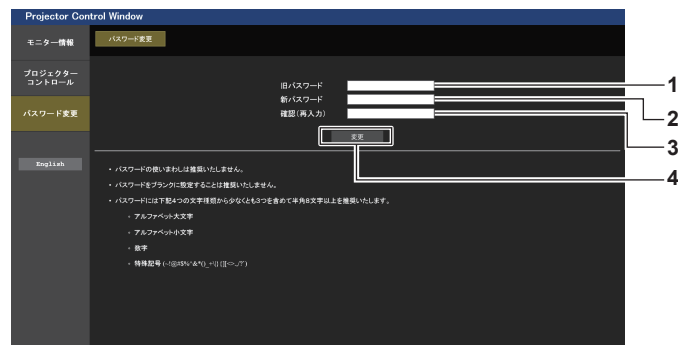
[User]（ユーザー）、[Moderator]（司会者）について



- 1 **【変更アカウント】**
変更するアカウントが表示されます。
- 2 **【変更後】**
【ユーザー名】:
変更後のユーザー名を入力します。(半角で 16 文字まで)
【パスワード】:
変更後のパスワードを入力します。(半角で 16 文字まで)
【パスワード(再入力)】:
変更後のパスワードを再度入力します。
- 3 **【変更】**
パスワードの変更を確認します。

【パスワード変更】（ユーザー権限でアクセスした場合）

ユーザー権限時はパスワードの変更のみ有効です。



- 1 **【旧パスワード】**
変更前のパスワードを入力します。
- 2 **【新パスワード】**
変更後のパスワードを入力します。(半角で 16 文字まで)
- 3 **【確認(再入力)】**
変更後のパスワードを再度入力します。
- 4 **【変更】**
パスワードの変更を確認します。

お知らせ

- [Administrator]（管理者）のアカウントを変更する場合は、[変更前] の [ユーザー名] と [パスワード] の入力が必要です。

【Crestron Connected (TM)】 ページ

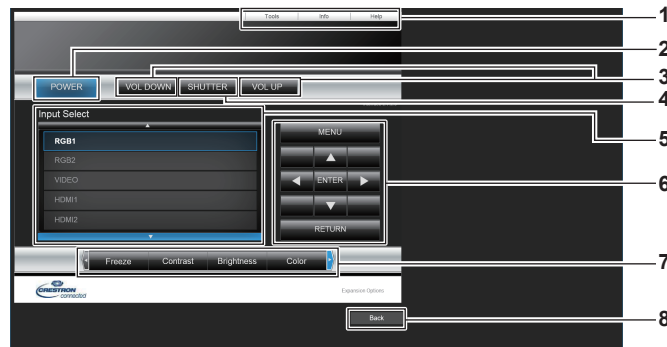
Crestron Connected でプロジェクターの監視 / 制御を行うことができます。

WEB 制御画面から Crestron Connected の操作ページを起動するには、管理者権限でアクセスする必要があります。(ユーザー権限では、WEB 制御画面に【Crestron Connected (TM)】 ボタンが表示されません。)

【Crestron Connected (TM)】 をクリックすると、Crestron Connected の操作ページが表示されます。

ご使用のコンピューターに Adobe Flash Player がインストールされていない場合、または Flash に対応していないブラウザでは表示されません。その場合、操作ページの【Back】 をクリックして前のページに戻ってください。

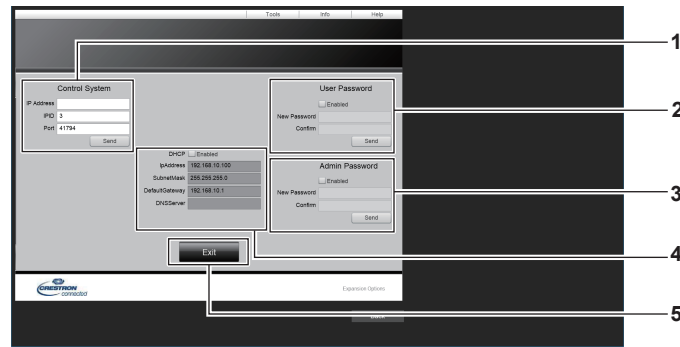
操作ページ



- | | |
|---|--|
| <p>1 【Tools】、【Info】、【Help】
プロジェクターの設定 / 情報 / ヘルプページに切り換えるタブです。</p> <p>2 【POWER】
電源の切 / 入を行います。</p> <p>3 【VOL DOWN】、【VOL UP】
音量を調整します。</p> <p>4 【SHUTTER】
シャッター機能を使用するかどうか (有効 (シャッター : 閉) / 無効 (シャッター : 開)) を切り換えます。</p> <p>5 【Input Select】
入力切り換えの操作をします。
プロジェクターの電源が切れている場合、操作はできません。</p> <p>6 メニュー画面の操作ボタン
メニュー画面の操作をします。</p> | <p>7 フリーズ / 画質調整
フリーズ / 画質に関する項目の操作をします。</p> <p>8 【Back】
前のページへ戻る操作をします。</p> |
|---|--|

[Tools] ページ

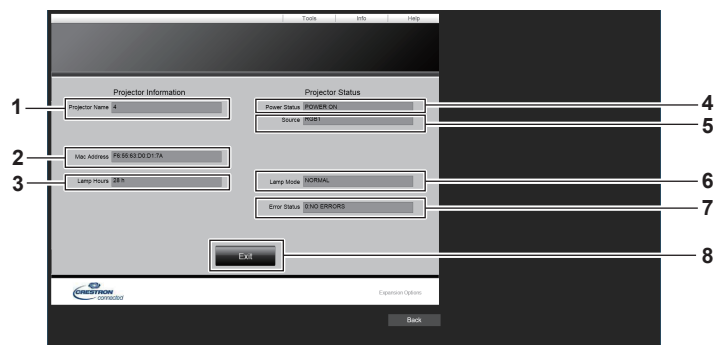
操作ページで [Tools] をクリックします。



- 1 **[Control System]**
プロジェクターに接続するコントローラーとの通信に必要な情報を設定します。
- 2 **[User Password]**
Crestron Connected の操作ページ内でのユーザー権限パスワードを設定します。
- 3 **[Admin Password]**
Crestron Connected の操作ページ内での管理者権限パスワードを設定します。
- 4 **ネットワークステータス**
有線 LAN の設定内容を表示します。
[DHCP]
現在設定している値を表示します。
[Ip Address]
現在設定している値を表示します。
[Subnet Mask]
現在設定している値を表示します。
[Default Gateway]
現在設定している値を表示します。
[DNS Server]
現在設定している値を表示します。
- 5 **[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Info] ページ

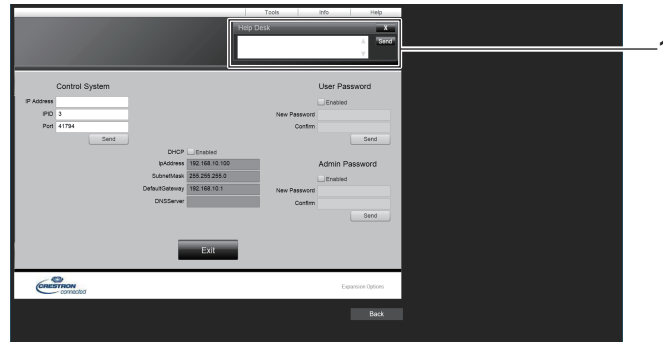
操作ページで [Info] をクリックします。



- 1 **[Projector Name]**
プロジェクター名を表示します。
- 2 **[Mac Address]**
MAC アドレスを表示します。
- 3 **[Lamp Hours]**
光源の使用時間を表示します。
- 4 **[Power Status]**
電源の状態を表示します。
- 5 **[Source]**
選択している入力を表示します。
- 6 **[Lamp Mode]**
[光源電力] の設定を表示します。
- 7 **[Error Status]**
エラーの状態を表示します。
- 8 **[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Help] ページ

操作ページで [Help] をクリックします。
[Help Desk] ウィンドウが表示されます。



- 1 [Help Desk]
Crestron Connected を利用する管理者とのメッセージの送受信ができます。

Panasonic APPLICATION 入力で表示する

当社のアプリケーションを使用して、LAN 接続した端末から送信された画像を投写映像として表示することができます。

使用できるアプリケーション

Panasonic APPLICATION 入力で使用する画像転送用アプリケーションソフトは次のとおりです。

- ワイヤレスマネージャー ME6.4
- プラグアンドシェア
- ワイヤレスプロジェクター for iOS、ワイヤレスプロジェクター for Android

お知らせ

- 各アプリケーションソフトのインストール方法や本機への接続方法、操作方法などについては、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) をご覧ください。
- 「プラグアンドシェア」については、本機の〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを取り付けることで、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報を書き込むことができます。このペアリング済みの USB メモリーを Windows コンピューターまたは Mac の USB 端子に取り付けると、「プラグアンドシェア」が自動的に起動し、本機への接続動作を行います。ペアリングの方法については、「ペアリング機能を使用する」(190 ページ) をご覧ください。

端末を接続する

1) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、Panasonic APPLICATION に入力を切り換える

- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が Panasonic APPLICATION に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
- 入力が Panasonic APPLICATION に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。
- 待ち受け画面は、[ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] の設定によって異なります。待ち受け画面について詳しくは、「待ち受け画面の説明」(176 ページ) をご覧ください。

2) 画像転送用アプリケーションソフトを起動した端末で本機に接続する

- 端末側の操作で本機に送信された画像が投写映像として表示されます。

お知らせ

- アプリケーションソフトを使用した本機への接続方法については、各アプリケーションソフトの説明書などをご覧ください。
- 端末の画像を表示中にリモコンの〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタン、または本体操作部の〈LENS/CANCEL〉ボタンを押すと、画面上にネットワーク ID、プロジェクター名、QR コードなどの情報が表示されます。これらの情報について詳しくは、「待ち受け画面の説明」(176 ページ) を参照してください。

端末との接続を終了する

1) 端末側で切断処理をする

- 接続終了後は待ち受け画面が表示されます。

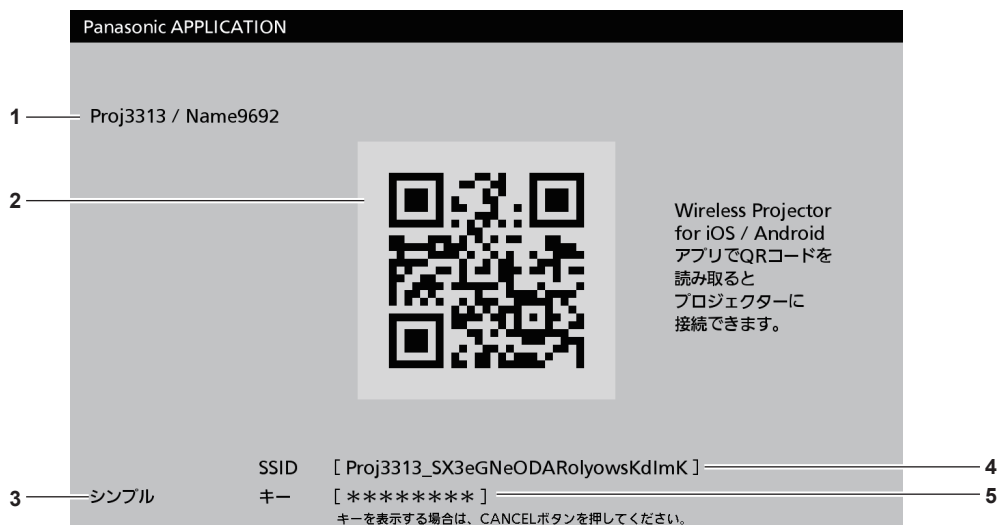
お知らせ

- 端末の電源を切るなど、適切な切断処理を行わずに強制的に接続を終了した場合、待ち受け画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。

待ち受け画面の説明

待ち受け画面は、[ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] の設定によって異なります。

■ [無線 LAN] を [シンプル] に設定している場合

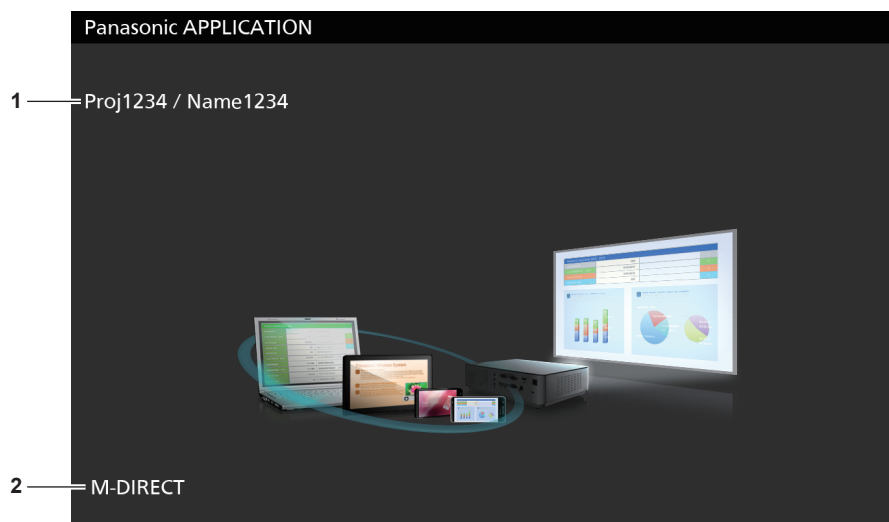


- | | |
|---|--|
| <p>1 ネットワーク ID/ プロジェクター名
本機のネットワーク ID と、本機に設定されているプロジェクター名が表示されます。</p> <p>2 QR コード
「ワイヤレスプロジェクター」を使用して本機に接続するための接続情報です。</p> <p>3 接続方法
[ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が表示されます。この場合、[シンプル] と表示されます。</p> | <p>4 [SSID]
使用する SSID が表示されます。</p> <p>5 [キー]
使用するキーを表示します。
通常は * 印で表示されています。リモコンの〈AUTO SETUP/ CANCEL〉ボタンまたは本体操作部の〈LENS/CANCEL〉ボタンを押すと文字列が表示されます。</p> |
|---|--|

お知らせ

- QR コードは、「ワイヤレスプロジェクター」を使用して本機に接続する際に使用します。

■ [無線 LAN] を [シンプル] 以外に設定している場合

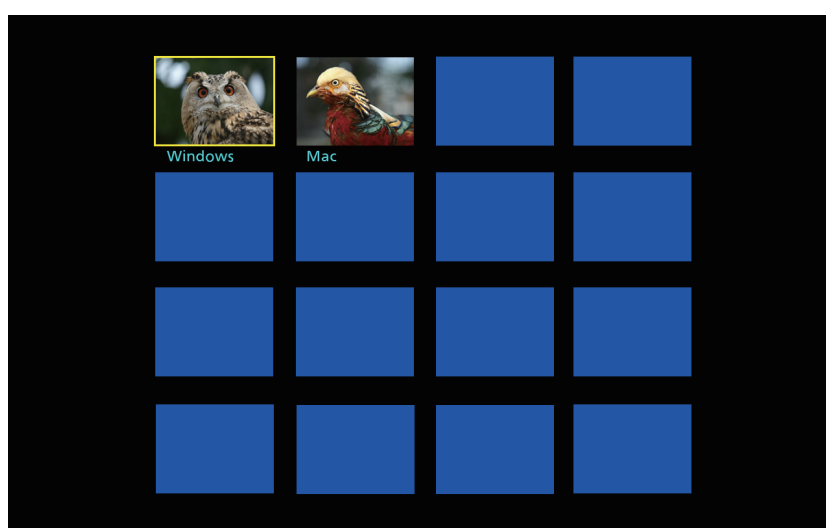


- | | |
|---|--|
| <p>1 ネットワーク ID/ プロジェクター名
本機のネットワーク ID と、本機に設定されているプロジェクター名が表示されます。</p> | <p>2 接続方法
[ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が表示されます。この場合、[M-DIRECT] または [USER] と表示されます。</p> |
|---|--|

Panasonic APPLICATION 入力で司会者モードを使用する

本機を司会者モードで使用すると、複数の端末が本機と接続状態にあるとき、司会者が本機を操作して全画面での表示を許可する画像を指定することができます。

- 1) [ネットワーク /USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード] を [オン] に設定する
- 2) 〈NETWORK/USB〉 ボタンを押し、Panasonic APPLICATION に入力を切り換える
 - 〈NETWORK/USB〉 ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が Panasonic APPLICATION に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉 ボタンを押してください。
 - 入力が Panasonic APPLICATION に切り換わると、サムネイル形式で表示するための画面が表示されます。
- 3) 画像転送用アプリケーションソフトを起動した端末で本機に接続する
 - 端末側の操作で本機に送信された画像がサムネイル形式で表示されます。
 - サムネイル形式の画面には、最大 16 台の端末の画像を表示できます。



- 4) 画像を全画面で表示する端末を ▲▼◀▶ ボタンで選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - サムネイルで表示されている画像の中から、全画面で表示したいものを選択してください。
 - しばらくすると、選択した画像が全画面で表示されます。

お知らせ

- アプリケーションソフトを使用した本機への接続方法、操作方法などについては、各アプリケーションソフトの説明書などをご覧ください。
- 司会者モードの設定について詳しくは、[ネットワーク /USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] (142 ページ) をご覧ください。
- 画像を全画面で表示中に 〈ENTER〉 ボタンを押すと、サムネイル形式の画面に戻ります。▲▼◀▶ ボタンで別の画像を選択すると、表示する画面が切り換わります。
- 端末の画像を表示中にリモコンの 〈AUTO SETUP/CANCEL〉 ボタン、または本体操作部の 〈LENS/CANCEL〉 ボタンを押すと、画面上にネットワーク ID、プロジェクター名、QR コードなどの情報が表示されます。これらの情報については、「待ち受け画面の説明」(176 ページ) を参照してください。
- 「ワイヤレスマネージャー ME6.4」、「ワイヤレスプロジェクター」をご使用の場合、全画面で表示する画像の選択は、WEB ブラウザー上でも操作できます。詳しくは、各アプリケーションソフトの説明書などをご覧ください。
- [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] を [シンプル] または [M-DIRECT] に設定している場合、本機に無線 LAN で接続できる端末は 10 台に制限されます。

MIRRORING 入力で表示する

ミラーリング機能を使用して、Miracast 対応の端末の画面を、投写映像として表示することができます。

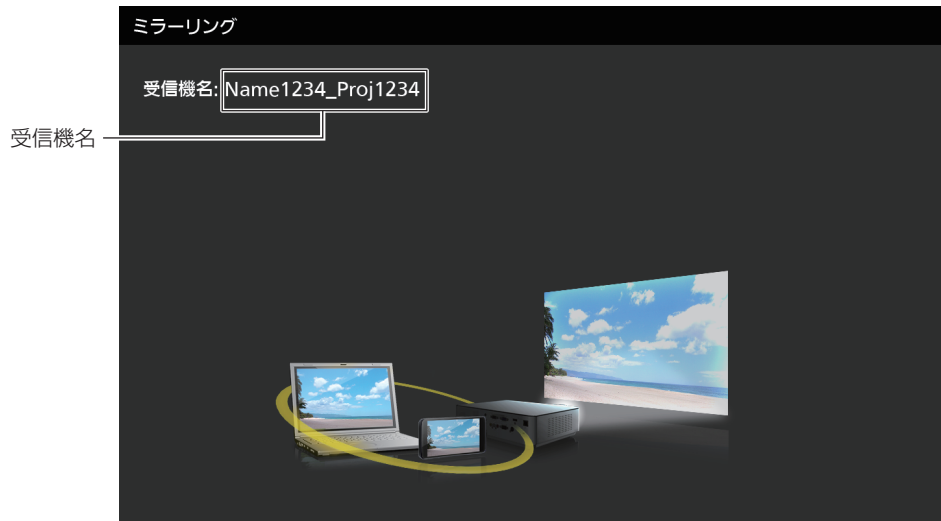
- ミラーリング機能を使用するには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。

別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（👁 46 ページ）をご覧ください。

端末を接続する

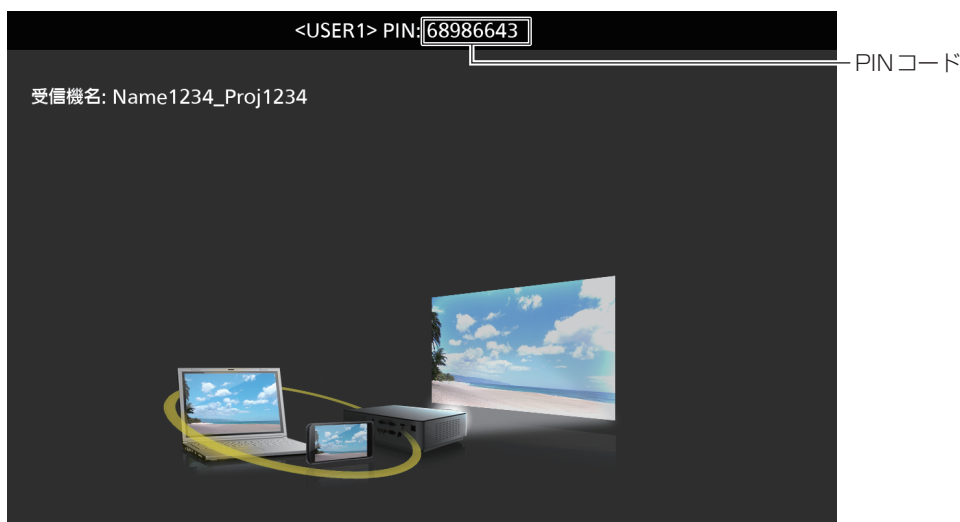
1) 〈NETWORK/USB〉 ボタンを押し、MIRRORING に入力を切り換える

- 〈NETWORK/USB〉 ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が MIRRORING に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉 ボタンを押してください。
- 入力が MIRRORING に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。



2) Miracast 対応の端末で接続可能なディスプレイを検索し、本機を選んで接続する

- 待ち受け画面に表示されている受信機名を確認し、端末の画面に表示されている検索結果の中から本機に該当する機器名を選択します。
- [ネットワーク / USB] メニュー → [ミラーリング] → [接続方法] を [PIN] に設定している場合、接続時に PIN の入力を求められることがあります。その場合は、待ち受け画面の上部に表示されている 8 桁の PIN コードを入力してください。
- しばらくすると、端末の画面が投写映像として表示されます。



お知らせ

- お使いの端末やアプリケーションソフトによって、操作方法が異なることがあります。

- ミラーリング機能による接続の設定について詳しくは、[ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] (144 ページ) をご覧ください。
- [ネットワーク /USB] メニュー → [無線 LAN] を [無効] に設定している場合、ミラーリング機能を使用できません。
- 待ち受け画面に表示されている受信機名は、本機に設定されているプロジェクター名と本機固有のネットワーク ID で構成されています。
- 端末の画面を表示中に〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、画面左上に受信機名が表示されます。

端末との接続を終了する

1) 端末側で切断処理をする

- 接続終了後は待ち受け画面が表示されます。

お知らせ

- 端末の電源を切るなど、適切な切断処理を行わずに強制的に接続を終了した場合、待ち受け画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。

MIRRORING 入力で司会者モードを使用する

本機を司会者モードで使用すると、複数の端末が本機とミラーリングによる接続ができる状態にあるとき、司会者が本機を操作して接続を許可する端末を指定することができます。

1) [ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] → [司会者モード] を [オン] に設定する

2) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、MIRRORING に入力を切り換える

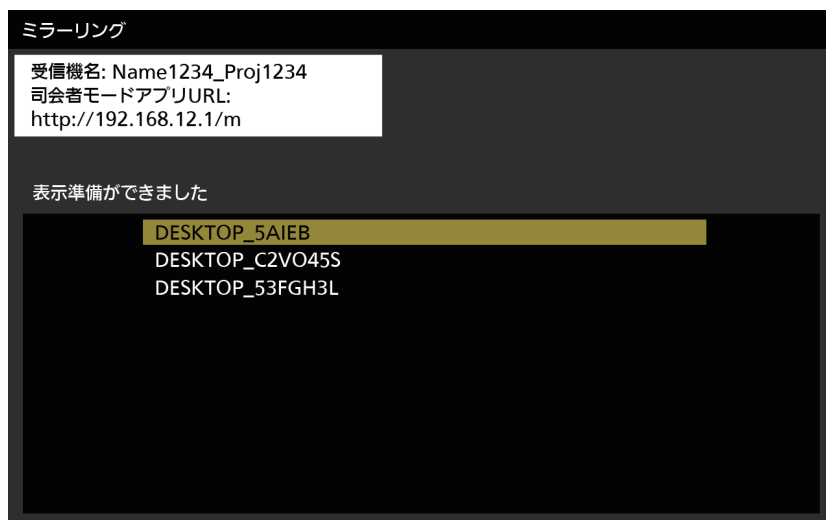
- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が MIRRORING に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
- 入力が MIRRORING に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。

3) Miracast 対応の端末で接続可能なディスプレイを検索し、本機を選択する

- 待ち受け画面に表示されている受信機名を確認し、端末の画面に表示されている検索結果の中から本機に該当する機器名を選択します。
- [ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] → [接続方法] を [PIN] に設定している場合、接続時に PIN の入力を求められることがあります。その場合は、待ち受け画面の上部に表示されている 8 桁の PIN コードを入力してください。

4) ▲▼ ボタンで接続を許可する端末を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 待ち受け画面に表示されている端末名の中から、本機でその画面を表示したい端末を選択してください。
- しばらくすると、選択した端末の画面が投写映像として表示されます。



お知らせ

- お使いの端末やアプリケーションソフトによって、操作方法が異なることがあります。
- 司会者モードの設定について詳しくは、[ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] (144 ページ) をご覧ください。
- 待ち受け画面に表示される端末名は、お使いの端末やアプリケーションソフトによって異なります。Miracast に対応した Windows コンピューターの場合は、コンピューター名が表示されます。
- 端末の画面を表示中に、▲▼ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンのいずれかのボタンを押すと、待ち受け画面が表示されます。
- 表示する端末の選択は、WEB ブラウザー上でも操作できます。詳しくは、「WEB ブラウザーで操作する」(180 ページ) をご覧ください。
- 端末の画面を表示中に〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、画面左上に受信機名が表示されます。

WEB ブラウザーで操作する

司会者モードで使用する場合、待ち受け画面での操作以外に、WEB ブラウザー上でも接続を許可する端末を指定することができます。

- 1) [ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] → [司会者モード] を [オン] に設定する
- 2) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、MIRRORING に入力を切り換える
 - 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が MIRRORING に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
 - 入力が MIRRORING に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。
- 3) Miracast 対応の端末で接続可能なディスプレイを検索し、本機を選択する
 - 待ち受け画面に表示されている受信機名を確認し、端末の画面に表示されている検索結果の中から本機に該当する機器名を選択します。
 - [ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] → [接続方法] を [PIN] に設定している場合、接続時に PIN の入力を求められることがあります。その場合は、待ち受け画面の上部に表示されている 8 桁の PIN コードを入力してください。
- 4) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す
 - 画面左上に受信機名と、本機にアクセスするための URL が表示されます。
- 5) 司会者の端末で WEB ブラウザーを起動する
 - 司会者の端末も、あらかじめ手順 3) の操作を行ってください。
 - 使用できるブラウザーについては、“設定に使用できるコンピューター” (154 ページ) をご覧ください。
- 6) WEB ブラウザーの URL 入力欄に、手順 4) で表示されたアドレスを入力する
- 7) 司会者権限のユーザー名とパスワードを入力する
 - 工場出荷時の設定は、ユーザー名：moderator、パスワード：@Panasonic です。
- 8) OK をクリックする
 - [司会者モード] ページが表示されます。

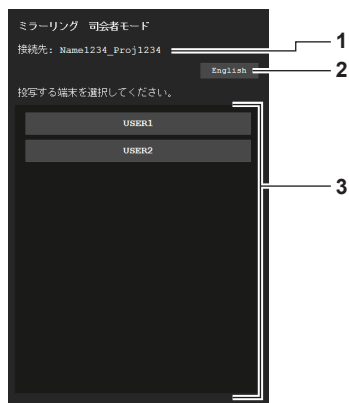


- 9) 接続を許可する端末をクリックする
 - [司会者モード] ページに表示されている端末名の中から、本機でその画面を表示したい端末を選択してください。
 - しばらくすると、選択した端末の画面が投写映像として表示されます。

お知らせ

- 端末の画面を表示中に、[司会者モード] ページで別の端末をクリックすると、その端末の画面の表示に切り換わります。表示中の端末をクリックした場合は、端末の画面の表示を終了し、待ち受け画面を表示します。
- [司会者モード] ページは、WEB 制御画面の管理者権限のユーザー名とパスワードでも操作できます。

[司会者モード] ページの説明



1 接続先

接続している受信機名が表示されます。

2 表示言語切替ボタン

表示言語（日本語 / 英語）を切り換えます。

3 端末一覧

端末名をクリックすると、その端末の画面が投写映像として表示されます。

お知らせ

- 司会者権限のユーザー名とパスワードは、WEB 制御画面の “[パスワード変更] ページ” (🔗 170 ページ) で変更できます。

MEMORY VIEWER 入力で表示する

メモリービューワー機能を用いて、USB メモリーに記録されている静止画または動画を投写映像として表示します。

メモリービューワー機能で再生できる画像

本機では、以下の静止画 / 動画ファイルを再生できます。

	拡張子	フォーマット	制限事項
静止画	jpg/jpeg	JPEG	画素数：最大 8 000 x 8 000 (プログレッシブ形式の場合は、最大 4 096 x 4 096) YUV フォーマット：YUV444、YUV422、YUV411 のみ対応 カラーモード：RGB のみ対応
	bmp	Windows Bitmap	画素数：最大 2 000 x 2 000 (1 bit、4 bit、8 bit、16 bit、24 bit、32 bit 対応) 次の形式には対応していません。 ランレングス圧縮、ビットフィールド、トップダウン、透過データ

	拡張子	コーデック		制限事項 *1	
		映像	音声	映像	音声
動画	mov	H.264/MPEG-4 AVC Motion JPEG	AAC Linear PCM	解像度： 最大 1 920 x 1 080 最小 240 x 180 フレームレート： 最大 30 fps ビットレート： 最大 40 Mbps	サンプルレート： 最大 48 kHz (Linear PCM の場合は、 最大 16 kHz) チャンネル： 最大 2 ch ビットレート： 最大 384 kbps
	avi	H.264/MPEG-4 AVC Motion JPEG MPEG-4	MPEG-1/2 Audio Layer-3 (MP3) AAC Linear PCM		
	mp4	H.264/MPEG-4 AVC MPEG-4	AAC MPEG-4 AAC-LC		
	mpg/mpeg	MPEG-2	MPEG-1/2 Audio Layer-2		
	wmv	WMV9	WMA		

*1 以下の動画ファイルには対応していません。

- 映像コーデックが WMV7、WMV8、DivX、または Xvid
- 非圧縮映像
- マルチアングル映像
- プロファイルが Advanced Simple Profile @ Level 0 または Advanced Simple Profile @ Level 1

お知らせ

- 静止画 / 動画ファイルの一部の情報については、該当のファイルにアクセス可能なコンピューターで確認できます。

操作例

– Windows コンピューターの場合

1. ファイルを右クリックし、[プロパティ] をクリックする
2. [詳細] タブをクリックする

– Mac の場合

1. 「Control」キーを押しながらファイルをクリックし、[情報を見る] をクリックする
2. [詳細情報] をクリックする

- 再生できるファイルのサイズは最大 2 GB です。
- DRM (Digital Rights Management、デジタル著作権管理) で保護されたファイルは再生できません。
- 本機で認識できるフォルダー / ファイルの数は、合計で 1 000 までです。フォルダー / ファイルの合計数が 1 001 以上の場合は、エラー画面が表示されます。
- 対応フォーマットのファイルでも再生できない場合があります。
- 本機で利用できる USB メモリーについては、「本機で使える USB メモリー」(P. 63 ページ) をご覧ください。

メモリービューワー画面を表示する

[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] を [オン] または [オフ] に設定している場合、メモリービューワー画面で静止画または動画ファイルを選択して再生できます。

[自動再生] を [シナリオ] に設定している場合、メモリービューワー画面は表示されず、シナリオファイルの設定に従い、静止画や動画の投映、光 ID 信号の発信を自動的に行います。

[シナリオ] の操作については、“コンテンツリストを使って再生する” (188 ページ) をご覧ください。

1) 静止画または動画ファイルが記録されている USB メモリーを〈VIEWER/PAIRING〉端子に挿す

- USB メモリーの取り扱いについては、“USB メモリーを使う” (63 ページ) をご覧ください。

2) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、MEMORY VIEWER に入力を切り換える

- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が MEMORY VIEWER に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
- メモリービューワー画面 (サムネイル形式またはリスト形式) が投映されます。
- カーソルは、画面右のサムネイル表示領域またはリスト表示領域にあります。(カーソル背景色：黄)



サムネイル形式での表示例



リスト形式での表示例

お知らせ

- メモリービューワー画面の表示方法 (サムネイル形式またはリスト形式での表示) は、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [表示切換] (141 ページ) で設定できます。

メモリービューワー画面を操作する

メモリービューワー画面表示後の画面操作の例を説明します。

サムネイル形式の場合



1) ▲▼◀▶ ボタンでファイルを選択する

- サムネイル表示領域にあるフォルダーを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、そのフォルダー内のファイルを表示できます。
- 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、カーソルが画面右のサムネイル表示領域から画面左のフォルダーリストに移ります。▲▼ ボタンでフォルダーを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、そのフォルダー内のファイルがサムネイル表示領域に表示され、カーソルがサムネイル表示領域に移ります。
- 画面左下のインフォメーション領域に、選択中の静止画または動画ファイルの情報が表示されます。

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 全画面表示で再生を開始します。
- 再生手順の詳細については、“静止画を再生する”（ 185 ページ）または“動画を再生する”（ 186 ページ）をご覧ください。

3) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押して再生を終了する

- 全画面表示を終了し、メモリービューワー画面（サムネイル形式）が表示されます。
- 引き続き別のファイルを再生する場合は、手順 1) ～ 2) の操作を行ってください。

お知らせ

- メモリービューワー画面表示中、〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すごとに、フォルダーリストとサムネイル表示領域の間でカーソルが移動します。
- サムネイルの表示順序は、[ネットワーク / USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ファイル表示ソート]（ 141 ページ）の設定に従います。

リスト形式の場合



1) ▲▼ボタンでファイルを選択する

- リスト表示領域にあるフォルダーを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、そのフォルダー内のファイルを表示できます。
- 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すと、カーソルが画面右のリスト表示領域から画面左のフォルダーリストに移ります。▲▼ボタンでフォルダーを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、そのフォルダー内のファイルがリスト表示領域に表示され、カーソルがリスト表示領域に移ります。
- 画面左下の領域に、選択中の静止画または動画ファイルのサムネイルが表示されます。

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 全画面表示で再生を開始します。
- 再生手順の詳細については、“静止画を再生する”（ 185 ページ）または“動画を再生する”（ 186 ページ）をご覧ください。

3) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押して再生を終了する

- 全画面表示を終了し、メモリービューワー画面（リスト形式）が表示されます。
- 引き続き別のファイルを再生する場合は、手順 1) ～ 2) の操作を行ってください。

お知らせ

- メモリービューワー画面表示中、〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押すごとに、フォルダーリストとリスト表示領域の間でカーソルが移動します。
- リストの表示順序は、[ネットワーク / USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ファイル表示ソート]（ 141 ページ）の設定に従います。

静止画を再生する

サムネイル形式のメモリービューワー画面での操作を例に手順を説明します。

リスト形式のメモリービューワー画面の場合も、ファイルの選択操作以外は同じ手順で再生することができます。



自動再生中(静止画)の表示例

自動再生が有効の場合

[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (141 ページ) を [オン] に設定している場合の操作方法について説明します。

この場合、同一フォルダー内のすべての静止画ファイルを、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] (141 ページ) → [自動再生間隔]、[画面切り換わり効果] の設定に従って自動再生します。

1) ▲▼◀▶ ボタンで、最初に投映したいファイルサムネイルの中から選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 全画面表示で再生を開始します。
- 再生中に 〈ENTER〉 ボタンを押すと、自動再生を一時停止します。もう一度押すと、自動再生を再開します。
- 再生が終了すると、次のファイルの再生を開始します。
- 再生中に ▶ ボタンを押すと、再生中のファイルを飛び越して次のファイルから自動再生を続けます。
- 再生中に ◀ ボタンを押すと、1 つ前のファイルに戻って自動再生を続けます。
- 再生中に ▲ ボタンを押すと、アスペクト比を維持したまま画像が時計方向に 90° 回転します。
- 再生中に ▼ ボタンを押すと、アスペクト比を維持したまま画像が反時計方向に 90° 回転します。

2) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す

- 自動再生を終了し、メモリービューワー画面（サムネイル形式）に戻ります。

自動再生が無効の場合

[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (141 ページ) を [オフ] に設定している場合の操作方法について説明します。この場合、投映したいファイルを一つ一つ選んで再生します。

1) ▲▼◀▶ ボタンでサムネイルの中からファイルを選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 該当の静止画が全画面表示で再生されます。
- ▶ ボタンを押すと、次のファイルを再生します。
- ◀ ボタンを押すと、1 つ前のファイルを再生します。
- ▲ ボタンを押すと、アスペクト比を維持したまま画像が時計方向に 90° 回転します。
- ▼ ボタンを押すと、アスペクト比を維持したまま画像が反時計方向に 90° 回転します。

2) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す

- 全画面表示を終了し、サムネイル形式のメモリービューワー画面に戻ります。

お知らせ

- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも小さい場合は、アスペクト比を維持したまま拡大表示されます。
 - 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも大きい場合は、アスペクト比を維持したまま縮小表示されます。
 - 再生の順序は、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ファイル表示ソート] (141 ページ) で設定した表示順序に従います。
- フォルダー内に静止画ファイルと動画ファイルが混在している場合も、[ファイル表示ソート] の設定に従って再生されます。

- 再生画面下部の操作ガイドは、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ガイド表示] (142 ページ) を [オフ] にすることで消すことができます。
 - [自動再生] を [オン] に設定している場合、入力を MEMORY VIEWER に切り換えたとき、自動再生が開始されます。
 - 再生中に「複数台監視制御ソフトウェア」を使用してコンテンツリスト配信を行うと、再生が終了してメモリービューワー画面に戻ります。静止画の再生を再開する場合は、コンテンツリスト配信終了後に再生操作を行ってください。
- *1 各製品の最大表示ドット数は次のとおりです。
 PT-MZ770J: 1 920 x 1 080
 PT-MW730J: 1 280 x 800

動画を再生する

サムネイル形式のメモリービューワー画面での操作を例に手順を説明します。

リスト形式のメモリービューワー画面の場合も、ファイルの選択操作以外は同じ手順で再生することができます。



早送り再生中(10倍速)の表示例

自動再生が有効の場合

[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (141 ページ) を [オン] に設定している場合の操作方法について説明します。

この場合、同一フォルダー内のすべての動画ファイルを自動再生します。

1) ▲▼◀▶ ボタンで、最初に投映したいファイルをサムネイルの中から選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 全画面表示で再生を開始します。
- 再生中に〈ENTER〉ボタンを押すと、再生を一時停止します。もう一度押すと、停止した位置から再生を再開します。
- 再生が終了すると、次のファイルの再生を開始します。
- 再生中に▶ ボタンを押すと、早送り再生を行います。また、▶ ボタンを押すごとに速度が速くなります。(3段階)
- 再生中に◀ ボタンを押すと、巻き戻し再生を行います。また、◀ ボタンを押すごとに速度が速くなります。(3段階)
- 再生中に▲ ボタンを押すと、再生中のファイルを最初から再生します。(頭出し再生)
- 一時停止中に▶ ボタンを押すと、再生中のファイルを飛び越して次のファイルを再生します。
- 一時停止中に◀ ボタンを押すと、1 つ前のファイルに戻って再生します。

2) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す

- 自動再生を終了し、メモリービューワー画面（サムネイル形式）に戻ります。

自動再生が無効の場合

[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (141 ページ) を [オフ] に設定している場合の操作方法について説明します。

この場合、投映したいファイルを一つ一つ選んで再生します。

1) ▲▼◀▶ ボタンでサムネイルの中からファイルを選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 全画面表示で再生を開始します。
- 再生中に〈ENTER〉ボタンを押すと、再生を一時停止します。もう一度押すと、停止した位置から再生を再開します。
- 再生が終了すると、そのファイルの最初に戻り、一時停止の状態になります。

- 再生中に ► ボタンを押すと、早送り再生を行います。また、► ボタンを押すごとに速度が速くなります。(3 段階)
- 再生中に ◀ ボタンを押すと、巻き戻し再生を行います。また、◀ ボタンを押すごとに速度が速くなります。(3 段階)
- 再生中に ▲ ボタンを押すと、再生中のファイルを最初から再生します。(頭出し再生)
- 一時停止中に ► ボタンを押すと、再生中のファイルを飛び越して次のファイルを再生します。
- 一時停止中に ◀ ボタンを押すと、1 つ前のファイルに戻って再生します。

2) 〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタンを押す

- 全画面表示を終了し、サムネイル形式のメモリービューワー画面に戻ります。

お知らせ

- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも小さい場合は、アスペクト比を維持したまま拡大表示されます。
- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも大きい場合は、アスペクト比を維持したまま縮小表示されます。
- 再生の順序は、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ファイル表示ソート] (☞ 141 ページ) で設定した表示順序に従います。
フォルダー内に静止画ファイルと動画ファイルが混在している場合も、[ファイル表示ソート] の設定に従って再生されます。
- 再生画面下部の操作ガイドのタイムバーは、[ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [ガイド表示] (☞ 142 ページ) を [オフ] にすることで消すことができます。
- [自動再生] を [オン] に設定している場合、入力を MEMORY VIEWER に切り換えたとき、自動再生が開始されます。
- 再生中に「複数台監視制御ソフトウェア」を使用してコンテンツリスト配信を行うと、再生が終了してメモリービューワー画面に戻ります。
動画の再生を再開する場合は、コンテンツリスト配信終了後に再生操作を行ってください。

*1 各製品の最大表示ドット数は次のとおりです。

PT-MZ770J : 1 920 x 1 080
PT-MW730J : 1 280 x 800

レジューム再生について

自動再生が無効 ([ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (☞ 141 ページ) を [オフ] に設定) の場合、レジューム再生をすることができます。

レジューム再生は、動画再生を途中で停止し、次に同じファイルを再生する際に、前回停止した位置から再生を開始する機能です。

次のような操作を行うと、前回停止した位置から再生を再開します。

- 動画再生を途中で停止してメモリービューワー画面に戻ったのち、もう一度同じ動画ファイルを選んで再生する場合
- 別の動画ファイルや静止画ファイルを再生したあとに、再び元の動画ファイルを選んで再生する場合

お知らせ

- レジューム情報 (動画の再生を途中で停止した際の位置情報) は、再生中に 〈ENTER〉 ボタンを押して一時停止したり、再生中に 〈AUTO SETUP/CANCEL〉 ボタンを押して全画面表示を終了したりした時点で自動的に保持されます。
- レジューム情報 (動画の再生を途中で停止した際の位置情報) を保持できる動画ファイル数は 50 個です。51 番目の動画ファイルを再生以降、レジューム情報は古いものから順番に破棄されます。
- レジューム再生する場合、前回停止した位置から正確に再生できないことがあります。
- 次の操作を行うと、レジューム情報はすべて破棄されます。
 - USB メモリーを取り外す
 - 電源コードを抜く

電源を入れたときに自動で静止画 / 動画を再生するには

次の 3 つの条件すべてを満たしている場合、本機の電源を入れると自動的に静止画 / 動画ファイルの再生を開始します。

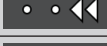
- 自動再生が有効
 - [ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] (☞ 141 ページ) を [オン] に設定
- 電源を入れて投写を開始する際の入力が MEMORY VIEWER
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [スタートアップ入力選択] (☞ 111 ページ) を [MEMORY VIEWER] に設定
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [スタートアップ入力選択] (☞ 111 ページ) を [維持] に設定し、入力が MEMORY VIEWER の状態で電源を切った場合
- USB メモリーのルートフォルダーに、メモリービューワー機能で再生できる静止画 / 動画ファイルがある

お知らせ

- 再生の順序は、[ネットワーク /USB] メニュー→[メモリービューワー]→[ファイル表示ソート] (141 ページ) で設定した表示順序に従います。フォルダー内に静止画ファイルと動画ファイルが混在している場合も、[ファイル表示ソート] の設定に従って再生されます。
- 本機の電源を入れたときに自動的に静止画 / 動画ファイルを再生させる場合は、次の設定や操作をしてください。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー→[起動方法] (111 ページ) を [オン] に設定
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー→[起動方法] (111 ページ) を [ラストメモリー] に設定し、投写中に電源コードのプラグをコンセントから抜く、または投写中に直接電源ブレーカーで電源を落とす

メモリービューワー画面の説明

メモリービューワー画面のアイコンの意味は次のとおりです。

	上位階層へ移動を表すアイコンです。選択すると上位階層へ移動します。
	下位階層のフォルダー表示用のアイコンです。選択すると下位階層へ移動します。
	ファイルが静止画であることを示すアイコンです。
	ファイルが動画であることを示すアイコンです。
	ファイル名の拡張子是对应しているものですが、展開できないファイルであることを示すアイコンです。
	静止画を反時計方向に 90° 回転させます。
	静止画を時計方向に 90° 回転させます。
	約 2 倍速で早送り再生しています。
	約 5 倍速で早送り再生しています。
	約 10 倍速で早送り再生しています。
	一時停止しています。
	約 2 倍速で早戻し再生しています。
	約 5 倍速で早戻し再生しています。
	約 10 倍速で早戻し再生しています。

コンテンツリストを使って再生する

[ネットワーク /USB] メニュー→[メモリービューワー]→[自動再生] を [シナリオ] に設定している場合、USB メモリー内に保存されているコンテンツリストの設定に従って、静止画や動画の再生、光 ID 信号の発信を自動的に行います。光 ID 信号を発信する場合は、[プロジェクターセットアップ] メニュー→[光 ID] を [外部制御] に設定しておく必要があります。

コンテンツリストは「複数台監視制御ソフトウェア」で生成し、本体に取り付けた USB メモリーなどに保存しておくことができます。詳しくは、「複数台監視制御ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。

1) コンテンツリストが保存されている USB メモリーを〈VIEWER/PAIRING〉端子に挿す

- USB メモリーの取り扱いについては、「USB メモリーを使う」 (63 ページ) をご覧ください。

2) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押して、入力を MEMORY VIEWER に切り換える

- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が MEMORY VIEWER に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
- 入力が MEMORY VIEWER に切り換わると、自動的にコンテンツリストの設定に従って繰り返し再生を行います。

3) 〈NETWORK/USB〉 ボタンを押して、入力を MEMORY VIEWER 以外に切り換えて終了する

- 入力が MEMORY VIEWER 以外に切り換わると、コンテンツリストを使った再生が終了します。

お知らせ

- コンテンツリストは以下の 4 種類のファイルです。「複数台監視制御ソフトウェア」で事前に生成してください。
 - 再生順序や時間を指定したシナリオファイル (scenario.dat)
 - 再生ファイル名をまとめたファイルリスト (filelist.dat)
 - 光 ID を指定するための光 ID 定義ファイル (lightid.dat)
 - 動画や静止画などの投映するコンテンツファイル (jpg、mp4 など)
- [ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] を [シナリオ] に設定している状態で、USB メモリー内にコンテンツリストがない場合や、不備がある場合は何も再生されません。
- [ネットワーク /USB] メニュー → [メモリービューワー] → [自動再生] を [シナリオ] 以外に変更しても再生を停止できません。
- コンテンツリストを使って再生しているときに、「複数台監視制御ソフトウェア」を使用してコンテンツリスト配信を行うと、再生を中断してコンテンツリストの更新を行います。コンテンツリストの更新が終了すると、上書きされたコンテンツリストを使った再生を開始します。

ペアリング機能を使用する

次の 2 つの条件を満たしている場合、〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを取り付けると、待ち受け画面上にペアリングデータ書き込みの案内が表示されます。

- [ネットワーク /USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] → [ペアリングガイド] を [オン] に設定
- 入力が Panasonic APPLICATION

案内に従ってペアリングデータを USB メモリーに書き込むことで、本機とその USB メモリーとのペアリングが完了します。

Windows コンピューターまたは Mac の USB 端子に本機とペアリング済みの USB メモリーを取り付けて、USB メモリー内の画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」を起動すると、自動的に本機への接続動作を行います。

ペアリングデータとは、画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」と、本機と USB メモリーとの接続情報です。

お願い

- USB 延長ケーブルや USB ハブを使用せずに、USB メモリーを本機の〈VIEWER/PAIRING〉端子に直接挿してください。
- USB メモリーを〈DC OUT〉端子に挿さないようにしてください。USB メモリーは〈DC OUT〉端子では使用できません。

お知らせ

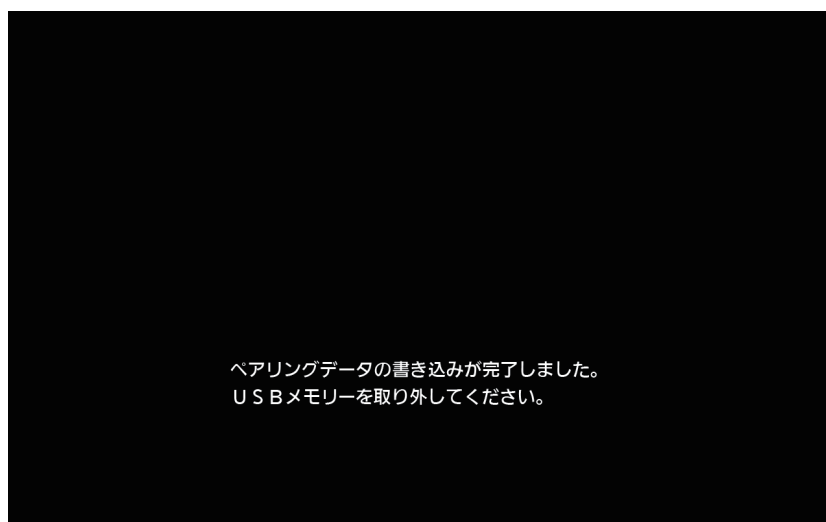
- 天つり設置している場合など、USB メモリーを本機の〈VIEWER/PAIRING〉端子に直接挿せない場合は、弊社 WEB サイトから画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」を USB メモリーにダウンロードして使用することができます。次の URL を参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/projector/>

USB メモリーをペアリングする

- 1) [ネットワーク /USB] メニュー → [Panasonic APPLICATION] → [ペアリングガイド] を [オン] に設定する
- 2) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、Panasonic APPLICATION に入力を切り換える
 - 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER、Panasonic APPLICATION、MIRRORING の順に入力が切り換わります。入力が Panasonic APPLICATION に切り換わるまで、〈NETWORK/USB〉ボタンを押してください。
 - 入力が Panasonic APPLICATION に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。
- 3) ペアリングをする USB メモリーを〈VIEWER/PAIRING〉端子に挿す
 - ペアリングに使用できる USB メモリーについては、“本機で使える USB メモリー”（ 63 ページ）をご覧ください。
 - USB メモリーの取り扱いについては、“USB メモリーを使う”（ 63 ページ）をご覧ください。
- 4) 待ち受け画面に確認のメッセージが表示されるので、◀▶ ボタンで【実行】を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
 - USB メモリーに対してペアリングデータの書き込みが行われます。



5) 待ち受け画面に完了のメッセージが表示されたら USB メモリーを取り外す



お知らせ

- ペアリングに使用する USB メモリーは、FAT16 または FAT32 でフォーマットされた市販のものをお使いください。約 30 MB の空き容量が必要です。
- ペアリング中は、画像転送用アプリケーションソフトを使用した画像の表示はできません。また、画像転送用アプリケーションソフトを使用して画像を表示中は、ペアリング機能を使用できません。
- 画像転送用アプリケーションソフト「プラグアンドシェア」の使用方法については、「プラグアンドシェア」の取扱説明書をご覧ください。「プラグアンドシェア」の取扱説明書は、弊社 WEB サイト (<https://panasonic.biz/cns/projector/>) からダウンロードできます。

第 6 章 点検とお手入れ

異常時の点検方法とお手入れ / 部品交換の方法について説明しています。

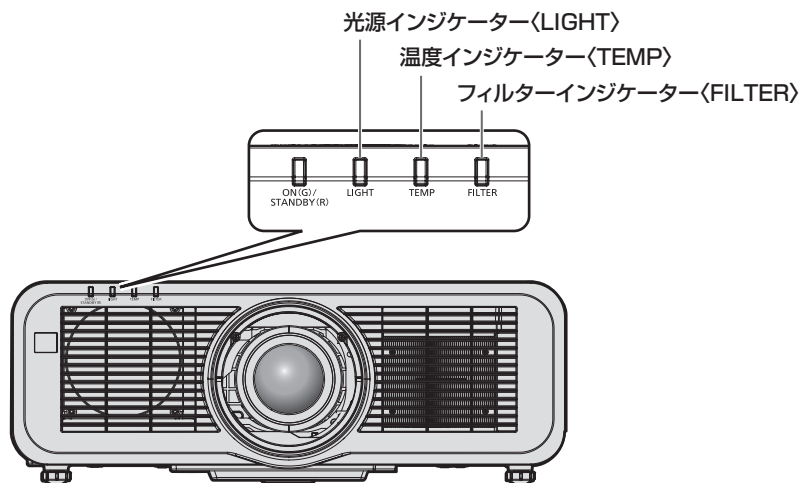
光源 / 温度 / フィルターインジケーター

インジケーターが点灯したら

本機内部に異常が発生すると、光源インジケーター〈LIGHT〉・温度インジケーター〈TEMP〉・フィルターインジケーター〈FILTER〉が点灯や点滅でお知らせします。インジケーターの状態を調べて、次の処置を行ってください。

お願い

- 処置を行う際に電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 59 ページ）の手順を必ずお守りください。



光源インジケーター 〈LIGHT〉

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (2 回)	赤色点滅 (3 回)
状態	光源の一部の素子が故障して、光出力が低下している	光源が点灯しない、または使用している途中で光源が消灯した	
処置方法	● 主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして (👉 59 ページ)、もう一度電源を入れてみてください。		

お知らせ

- 処置をしても光源インジケーター〈LIGHT〉が点灯や点滅する場合は、主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして、販売店に修理をご依頼ください。

温度インジケーター〈TEMP〉

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (2 回)	赤色点滅 (3 回)
状態	内部が高温になっている (警告)	内部が高温になっている (スタンバイ状態)	ファンが止まっている
お調べください	- 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。 - 気温の高い所で使用していませんか。		—
処置方法	- 吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。 - 使用環境温度 0 °C ~ 45 °C の場所に設置してください。 - 海拔 2 700 m 以上の場所では使用しないでください。		主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして (☞ 59 ページ)、販売店にご相談ください。

お知らせ

- 処置をしても温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

フィルターインジケーター〈FILTER〉

点灯状況	赤色点灯		赤色点滅
状態	フィルターが目づまりしている あるいは、周囲または内部が異常に高温になっている		エアフィルターユニットが装着されていない
お調べください	エアフィルターユニットが汚れていませんか。	吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。	エアフィルターユニットが装着されていますか。
処置方法	エアフィルターユニットのお手入れ、または交換をしてください。(☞ 195 ページ)	吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。	エアフィルターユニットを装着してください。

お知らせ

- 処置をしてもフィルターインジケーター〈FILTER〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。
- 電源を入れたときに、エアフィルターユニットが装着されていない場合、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色点滅します。
- フィルターの目づまりが検出されて光源の明るさが制限された場合、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [光 ID] (☞ 110 ページ) は [オフ] になり光 ID 信号は発信されなくなります。目づまりを解消したのちに、再度設定してください。

お手入れ / 部品交換

お手入れ / 部品交換の前に

- お手入れや部品交換を行うときは、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。(☞ 53、59 ページ)
- 電源を切るときは、“電源を切る” (☞ 59 ページ) の手順を必ずお守りください。

お手入れ

外装ケース

汚れやほこりはやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 汚れがひどいときは水にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤、または台所用洗剤を使用しないでください。使用すると外装ケースが変質するおそれがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

レンズの前面

レンズの前面に付着したごみやほこりは、清潔なやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 毛羽立った布、油分・水分を含んだ布、ほこりの付いた布でふかないでください。
- レンズは傷つきやすいため、強くこすらないでください。

お願い

- レンズに堅いものを当てたり、レンズの前面を強くふいたりすると傷つくおそれがあります。

エアフィルターユニット

次の場合はエアフィルターのお手入れを行ってください。

- エアフィルターがほこりなどによって目づまりし、画面上に交換メッセージが表示され、フィルターインジケータ 〈FILTER〉 が赤色点灯をした場合。

お願い

- 必ずプロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターカバーやエアフィルターユニットが落下しても安全な場所で実施してください。
- エアフィルターユニットを交換したら、必ず、フィルターカウンターをリセットしてください。
エアフィルターユニットの交換後、フィルターカウンターをリセットしないと、[フィルターカウンターが設定時間に到達しました] と表示されます。
フィルターカウンターのリセットについて、詳しくは“フィルターカウンターをリセットする” (☞ 196 ページ) をご覧ください。

エアフィルターユニットを取り外す

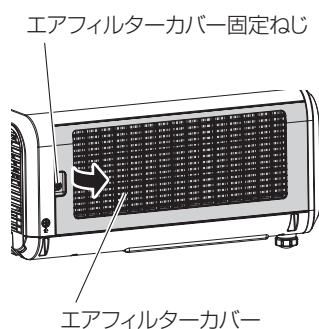


図1

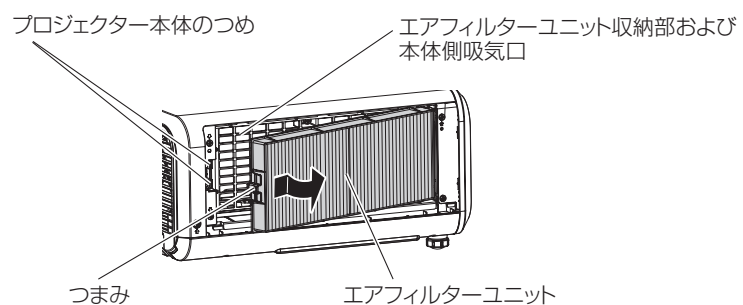


図2

1) プロジェクターの電源を切る

- 電源を切るときは、“電源を切る” (☞ 59 ページ) の手順を必ずお守りください。

2) エアフィルターカバーを取り外す (図1)

- エアフィルターカバー固定ねじ (1 本) をプラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、エアフィルターカバーの凹部に指をかけて矢印方向へゆっくりと引き開けて取り外します。

- エアフィルターカバーを引き開ける際は、必ずエアフィルターカバーに手をそえてください。勢いよく引き開けると、エアフィルターカバーが落下する場合があります。

3) エアフィルターユニットを取り出す (図 2)

- エアフィルターユニットのつまみを、矢印のとおり内側に少し押しながら、プロジェクター本体のつまめから外して引き出し、エアフィルターユニットを取り出します。
- エアフィルターユニットを取り出したあと、本体側エアフィルターユニット収納部および本体側吸気口にごみやほこりがある場合は取り除いてください。

エアフィルターユニットをお手入れする

あらかじめ前述の“エアフィルターユニットを取り外す” (☞ 195 ページ) の手順でエアフィルターユニットを取り外します。

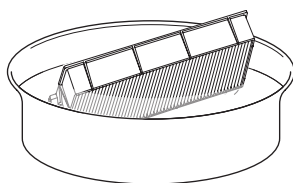


図 1

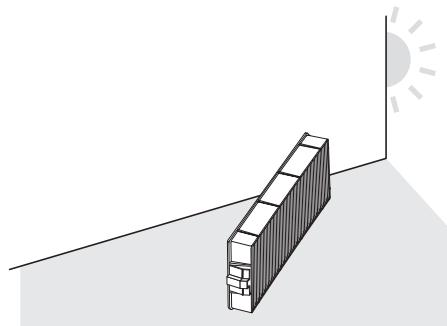


図 2

1) エアフィルターユニットを洗淨する (図 1)

- i) エアフィルターユニットを、水またはぬるま湯につけ、軽くゆすぎます。
 - ブラシなどの洗淨器具は使用しないでください。
 - ゆすぐ際は、エアフィルターユニットの枠を持ち、フィルター部に強い力をかけないようにしてください。
- ii) 2 ～ 3 回、新しい水ですすぎ洗いをします。
 - すすぎが不十分だとにおいの原因になります。

2) エアフィルターユニットを乾燥させる (図 2)

- ほこりが少なく、直射日光の当たらない風通しの良い所で自然乾燥させます。
- ドライヤーなどの乾燥器具を用いて乾燥させないでください。
- エアフィルターユニットが乾燥したら、次の“エアフィルターユニットを取り付ける” (☞ 196 ページ) に進んでください。

エアフィルターユニットを取り付ける

1) エアフィルターユニットをプロジェクター本体に取り付ける

- “エアフィルターユニットを取り外す” (☞ 195 ページ) の手順 **3)** と逆の手順で取り付けてください。
- エアフィルターユニットをカチッと音がするまで、しっかりと押し込んでください。

2) エアフィルターカバーを取り付ける

- “エアフィルターユニットを取り外す” (☞ 195 ページ) の手順 **2)** と逆の手順でエアフィルターカバーを閉じ、カチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。
- エアフィルターカバー固定ねじ (1 本) をプラスドライバーでしっかりと締めつけます。

フィルターカウンターをリセットする

1) プロジェクターの電源を入れる

2) リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- [メインメニュー] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [プロジェクターセットアップ] を選択する

- 4) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プロジェクターセットアップ] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する
- 6) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンターリセット] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 8) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] の表示が [0 時間] になります。

お願い

- エアフィルターユニットを洗浄した際は、十分に乾燥させてから本体に取り付けてください。ぬれたまま取り付けると、感電や故障の原因になります。
- エアフィルターユニットを分解しないでください。
- エアフィルターユニットは必ず正しく取り付けてご使用ください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- 吸気口の穴から物などを差し込まないでください。故障の原因になります。

お知らせ

- フィルターカウンターをリセットせずに使用すると、実際のフィルター使用時間（カウンター数値）が確認できなくなります。
- エアフィルターユニットを取り付けずに使用すると、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色に点滅し、投写画面上にメッセージが約 30 秒間表示されます。
- エアフィルターユニットが破損した場合や洗っても汚れが目立つ場合は、新しい別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFM100）に交換してください。
- 洗浄による再使用は 2 回を目安に新品と交換することをお勧めします。
- 洗浄後のフィルターの性能は、初期に比べて低下することがあります。
- エアフィルターユニットの交換サイクルは、使用環境によって大きく異なります。

部品交換

エアフィルターユニット

お手入れをしても、汚れが目立つようになったら交換時期です。

交換用フィルターユニット（品番：ET-RFM100）は別売品です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。

エアフィルターユニットの交換手順

お願い

- エアフィルターユニットの交換を行う前に、必ず電源を切ってください。
- 取り付けに際しては、必ずプロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターユニットが落下しても安全な場所で実施してください。

1) エアフィルターユニットを取り外す

- “エアフィルターユニットを取り外す”（ 195 ページ）をご覧ください。

2) 別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFM100）をプロジェクター本体に取り付ける

- エアフィルターユニットには上下方向の区別はありませんが、表裏の区別があります。プロジェクター本体側の溝とエアフィルターユニットの突起位置を合わせてください。
- “エアフィルターユニットを取り付ける”（ 196 ページ）をご覧ください。

お願い

- プロジェクターの電源を入れるときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けて使用してください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- エアフィルターユニットを取り付けずに使用すると、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色に点滅し、投写画面上にメッセージが約 30 秒間表示されます。

お知らせ

- エアフィルターユニットの交換サイクルは、使用環境によって大きく異なります。

故障かな！？

もう一度次の点をお調べください。詳しくは、対応するページをご覧ください。

症状	ここをお調べください	ページ
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。	—
	● 主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にしていますか。	59
	● 電源プラグを差し込んでいるコンセントは通電していますか。	—
	● ブレーカーが落ちていませんか。	—
	● 光源インジケーター〈LIGHT〉が点滅していませんか。	193
	● 温度インジケーター〈TEMP〉が点灯または点滅していませんか。	194
映像がでない	● 外部機器との接続は正しく行われていますか。	47
	● 入力切り換えは正しく選択されていますか。	60
	● [黒レベル] の調整が最小になっていませんか。	78
	● 本機に接続している外部機器は、正常に動作していますか。	—
	● シャッター機能を使用していませんか。	65、103
	● 電源インジケーター〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色点滅している場合は、販売店にご相談ください。	—
映像がボヤけている	● レンズのフォーカスは合っていますか。	61
	● 投写距離は適切ですか。	32
	● レンズが汚れていませんか。	21
	● 本機がスクリーンに対して垂直に設置されていますか。	—
色が薄い / 色あいが悪い	● [色の濃さ] および [色あい] は正しく調整されていますか。	79
	● 本機に接続している外部機器は正しく調整されていますか。	47
	● コンピューターケーブルが切れていませんか。	—
音声がない	● 音声入力端子に外部機器が正しく接続されていますか。	27
	● 音量が最小になっていませんか。	66、116
	● 消音機能を使用していませんか。	65、118
	● [音声設定] の [音声入力選択] は正しく設定されていますか。	118
	● [内蔵スピーカー] を [オフ] に設定していませんか。	117
リモコンがはたらかない	● 乾電池が消耗していませんか。	—
	● 乾電池の極性は正しくセットされていますか。	28
	● リモコンと本体のリモコン受信部の間に障害物はありませんか。	24
	● リモコン操作有効範囲を超えた場所でリモコンを操作していませんか。	24
	● 蛍光灯などの影響を受けていませんか。	24
	● [操作設定] の [リモコン] の設定が [無効] になっていませんか。	132
メニュー画面が出ない	● ID ナンバーの設定の操作を間違えていませんか。	71
	● オンスクリーン表示機能をオフ (非表示) にしていませんか。	66
本体操作部のボタンがはたらかない	● [操作設定] の [本体操作部] の設定が [無効] になっていませんか。	132
正常な映像が映らない	● [システムセクター] は適切に設定されていますか。	82
	● ビデオテープなど、映像出力側に異常はありませんか。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	214
コンピューターからの映像が映らない	● ケーブルが長くありませんか。(D-Sub ケーブルの場合は 10 m 以下にしてください。)	—
	● ノート型コンピューターの外部映像出力が、正しく設定されていますか。(例: [Fn] + [F3] あるいは [Fn] + [F10] キーを同時に押すと、外部出力設定が切り換わることがあります。コンピューターの機種によって異なりますので、コンピューター付属の説明書をご覧ください。)	—
HDMI 対応機器の映像が出ない、乱れる	● HDMI ケーブルが確実に接続されていますか。	47
	● 本機の電源および外部機器の電源を切 / 入してください。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	214
HDMI 対応機器の音声がでない	● 接続機器の音声をリニア PCM に設定してください。	—

症状	ここをお調べください	ページ
DIGITAL LINK 入力の映像 がでない	● 本機の条件に適合したケーブルを使用していますか。	50
	● ツイストペアケーブル伝送器と外部機器、ツイストペアケーブル伝送器とプロジェクターとの接続は正しく行われていますか。	—
	● [DIGITAL LINK モード] が [オート] または [DIGITAL LINK] になっていますか。 [イーサネット] になっていませんか。	135
	● ツイストペアケーブル伝送器が対応していない信号を入力していませんか。	—
光 ID が受信できない	● [ECO マネージメント] の [光源電力] を [ノーマル] 以外に設定した場合、[光 ID] の設定は無効になり、[オフ] に固定されます。	108
	● 距離や明るさなどの周辺環境によっては、光 ID 信号が受信しにくくなる場合があります。	19
動作音が大きくなった	本機内部の温度が高くなると、自動的に内蔵冷却ファンの回転数が上がり、動作音が大きくなります。内部温度が異常値に達した場合は、インジケータが点灯・点滅します。	193
	● 周囲温度が高くなっていませんか。	15
	● エアフィルターユニットが汚れていませんか。	195
	● 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。	15

お願い

- 表の内容を確認後、正常に動作しない場合は販売店にご相談ください。

困ったとき

無線 LAN 接続や、ミラーリング機能による接続（以下「ミラーリング接続」と表記）でお困りの場合に参考にしてください。

無線 LAN 接続

■ 無線 LAN 接続ができない

- 本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）を取り付ける必要があります。
別売品のワイヤレスモジュール（品番：ET-WM300）の取り付けについて、詳しくは“ワイヤレスモジュールの取り付けについて”（🔗 46 ページ）をご覧ください。
- [ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が [無効] になっていませんか。
- 端末側の設定を確認してください。
- 端末と本機との間に障害物はありませんか。また、端末が本機から離れすぎていませんか。
- [ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] をいったん [無効] に設定したあと、再度無線 LAN 接続の操作を行ってください。内蔵の無線モジュールの復帰処理が行われ、接続できるようになることがあります。

■ Panasonic APPLICATION 入力の映像が乱れる

- 電波環境によっては映像が乱れることがあります。このようなときは、次のことをお試しください。
 - 無線 LAN 接続する機器を本機に近づけてください。
 - 電子レンジ、ゲーム機など電磁波を発する他の機器から、本機を離して設置してください。それでも改善しない場合は、電磁波を発する他の機器の使用を控えてください。
 - 複数台の無線 LAN 機器が同一ルーターに接続されている場合、無線の帯域が不足していることがあります。使用していない機器の電源を切るか、他の機器の使用を控えてください。
 - 静電気やノイズが多く発生する場所での使用は、できるだけ控えてください。

ミラーリング接続

■ ミラーリング接続ができない

- 入力が MIRRORING になっていますか。
- [ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] の設定が [無効] になっていませんか。
- 端末側の設定を確認してください。
- 端末と本機との間に障害物はありませんか。また、端末が本機から離れすぎていませんか。
- 端末がスリープ状態から復帰した直後や、ログオンユーザーの切り換え直後は、正常に接続できないことがあります。端末の無線 LAN を切 / 入するか、端末を再起動してください。

■ 接続が途切れて、画像が更新されなくなった

- ミラーリング接続が途切れた場合は、次のことをお試しください。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した状態で、本機の電源を切 / 入してください。
 - 本機の電源を切ったあと、電源コードのプラグをコンセントに接続し直してください。
 - 端末を再起動してください。

■ MIRRORING 入力の映像が乱れる

- 電波環境によっては映像が乱れることがあります。このようなときは、次のことをお試しください。
 - 無線 LAN 接続する機器を本機に近づけてください。
 - 電子レンジ、ゲーム機など電磁波を発する他の機器から、本機を離して設置してください。それでも改善しない場合は、電磁波を発する他の機器の使用を控えてください。
 - 複数台の無線 LAN 機器が同一ルーターに接続されている場合、無線の帯域が不足していることがあります。使用していない機器の電源を切るか、他の機器の使用を控えてください。
 - 静電気やノイズが多く発生する場所での使用は、できるだけ控えてください。
 - [ネットワーク / USB] メニュー → [無線 LAN] を [USER] に設定している場合、[シンプル] または [M-DIRECT] に設定を変更すると改善することがあります。いったんミラーリング接続を終了して、接続し直してください。

– いったんミラーリング接続を終了し、[ネットワーク /USB] メニュー → [ミラーリング] → [チャンネル] で異なるチャンネルに変更すると改善することがあります。いったんミラーリング接続を終了して、接続し直してください。

- 使用しているコンテンツに問題がないかご確認ください。
- お使いの端末の処理能力や無線伝送性能に起因していることがあります。端末の仕様をご確認ください。

■ ミラーリング接続して放置していたら、接続が切れた

- お使いの端末によっては、一定時間経過すると接続を切断する設定になっていることがあります。端末の省電力設定などをご確認ください。
- お使いの端末のファームウェアや無線 LAN のドライバーを更新することで改善することがあります。端末のサポート窓口にもお問い合わせください。

■ その他

- お使いの端末によっては、“from UNKNOWN” という接続者名で再接続の確認画面が表示されることがありますが、その画面からは再接続できません。
- お使いの端末によっては、接続時に「デバイスの削除」を求められることがあります。その場合は、端末の指示に従ってデバイスを削除してください。

[自己診断] の表示について

[自己診断] は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ステータス] の [自己診断] で確認できます。エラーや警告が発生した場合に表示される記号とその内容は、次の表のとおりです。“対応番号”をご確認のうえ、“エラーや警告への対応” (203 ページ) の対応に従ってください。

エラー / 警告表示	内容	対応番号
U04	フィルター目づまり警告	6
U11	吸気温度警告	1
U13	排気温度警告	1
U16	光源温度 1 警告	1
U18	光源温度 2 警告	1
U21	吸気温度エラー	1
U23	排気温度エラー	1
U25	光源温度 1 エラー	1
U27	光源温度 2 エラー	1
U76	フィルター未装着警告	6
U78	フィルター目づまりエラー	6
U84	〈DC OUT〉 端子給電エラー	4
H01	内部時計用電池交換	3
H11	吸気温度センサーエラー	4
H13	排気温度センサーエラー	4
H14	光源温度センサー 1 エラー	4
H16	光源温度センサー 2 エラー	4
F16	角度センサーエラー	4
F18	気圧センサーエラー	4
F50	電源吸気ファン警告	4
F51	電源排気ファン警告	4
F52	液晶パネル赤ファン警告	4
F53	液晶パネル緑ファン警告	4
F54	液晶パネル青ファン警告	4
F55	PBS ファン警告	4
F56	蛍光体ホイールファン警告	4
F57	光源ファン警告	4
F58	バックアップファン警告	4
F61	光源ドライバ通信エラー	4
F90	FPGA コンフィグエラー	4
F96	レンズマウンター動作エラー	4
FE1	電源吸気ファンエラー	4
FE2	電源排気ファンエラー	4
FE3	液晶パネル赤ファンエラー	4
FE4	液晶パネル緑ファンエラー	4
FE5	液晶パネル青ファンエラー	4
FE6	PBS ファンエラー	4
FE7	蛍光体ホイールファンエラー	4
FE8	光源ファンエラー	4
FE9	バックアップファンエラー	4
FH0	PW ERROR (FM/SUB)	4
FH1	蛍光体ホイールエラー	4
FL1	光源ユニットエラー	5
FL5	光源バンク 1 警告	4
FL6	光源バンク 2 警告	4
FL7	光源バンク 3 警告	4
FL8	光源バンク 4 警告	4

お知らせ

- 自己診断表示と故障の内容が異なることがあります。
- 表に記載されていないエラー / 警告が表示された場合は、販売店にご相談ください。

■ エラーや警告への対応

対応番号	対応
1	使用環境温度が高すぎます。適切な使用環境温度下 *1 でご使用ください。
2	使用環境温度が低すぎます。適切な使用環境温度下 *1 でご使用ください。
3	電池交換が必要です。販売店にご相談ください。
4	主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。
5	光源点灯に失敗しています。再び電源を入れても点灯しない場合は、販売店にご相談ください。
6	フィルターのお手入れまたは交換をしてください。(🔍 195 ページ)

*1 本機の使用環境温度については、“使用環境温度” (🔍 217 ページ) をご覧ください。

第 7 章 その他

本機の仕様やアフターサービスについて説明しています。

付録

PJLink プロトコルを使用する

本機のネットワーク機能はPJLink クラス 1、クラス 2 に対応しており、PJLink プロトコルを使用してコンピューターからプロジェクターの設定や、プロジェクターの状態問い合わせの操作ができます。

対応コマンド

PJLink プロトコルで本機を制御する際のコマンドです。

- 表内の x は任意の文字です。

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考		
1	POWR	電源制御	0 1	スタンバイ 電源入		
1	POWR?	電源状態問い合わせ	0 1 2	スタンバイ 電源入 電源を切る準備中		
1、2	INPT	入力切り換え	11 12 21	RGB1 RGB2 VIDEO		
	INPT?	入力切り換え問い合わせ	31 32 33 41 51 52	HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER Panasonic APPLICATION MIRRORING		
	1	AVMT	シャッター制御 / 音声出力制御	10 11 20	シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：閉）、消音機能 無効 シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 無効	
AVMT?		シャッター状態 / 音声出力状態問い合わせ	21 30 31	シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 有効（消音） シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：閉）、消音機能 有効（消音）		
1	ERST?	エラー状態問い合わせ	xxxxxx	1 バイト目	ファンエラーを意味し、0 または 2 で応答します	● 0= エラーを検知していない ● 1= 警告 ● 2= エラー
				2 バイト目	光源エラーを意味し、0 または 2 で応答します	
				3 バイト目	温度エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
				4 バイト目	0 で応答します	
				5 バイト目	0 で応答します	
				6 バイト目	その他のエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
1	LAMP?	光源状態問い合わせ	AAAA X	AAAA：光源使用時間 X：0= 光源消灯、1= 光源点灯		
1、2	INST?	入力切り換え一覧問い合わせ	11 12 21 31 32 33 41 51 52	—		
1	NAME?	プロジェクター名問い合わせ	xxxxx	[ネットワーク / USB] メニュー → [プロジェクター名] で設定した名称を応答します		
1	INF1?	メーカー名問い合わせ	Panasonic	メーカー名を応答します		
1	INF2?	機種名問い合わせ	PT-MZ770J PT-MW730J	機種名を応答します		
1	INFO?	その他情報問い合わせ	xxxxx	バージョン番号などを応答します		
1	CLSS?	クラス情報問い合わせ	2	PJLink のクラスを応答します		
2	SNUM ?	シリアル番号問い合わせ	xxxxxxxxx	シリアル番号を応答します		

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考
2	SVER ?	ソフトウェアバージョン問い合わせ	xxxxxxxx	バージョン番号を応答します
2	INNM ?	入力端子名称問い合わせ	11 / RGB1 12 / RGB2 21 / VIDEO 31 / HDMI1 32 / HDMI2 33 / DIGITAL LINK 41 / MEMORY VIEWER 51 / PANASONIC APPLICATION 52 / MIRRORING	入力端子名称を応答します
2	IRES ?	入力信号解像度問い合わせ	AAAAxBBBB	AAAA：水平解像度 BBBB：垂直解像度
2	RRES ?	推奨解像度問い合わせ	1920x1200 1280 x 800	PT-MZ770J のみ PT-MW730J のみ
2	FILT ?	フィルター使用時間問合せ	xxxxx	フィルターの使用時間を応答します
2	RFIL ?	フィルター交換型番問合せ	ET-RFM100	フィルター交換型番を応答します
2	SVOL	スピーカー音量	0 1	音を大きくします 音を小さくします
2	FREZ	フリーズ制御	0 1	静止機能解除 静止機能（停止）
	FREZ ?	フリーズ状態問い合わせ		
2	LKUP	リンクアップ通知	xx:xx:xx:xx:xx:xx	PJLink の通信が可能になったときに、MAC アドレスを通知します
2	SRCH	プロジェクター検索	ACKN=xx:xx:xx:xx:xx:xx	同一ネットワーク内に接続されている、PJLink の通信が可能なプロジェクターが、その MAC アドレスを応答します

PJLink セキュリティー認証

PJLink で使用するパスワードは、WEB 制御で設定したパスワードと同じです。
認証なしで使用する場合は、WEB 制御のパスワードをなしに設定してください。

- PJLink に関する仕様については、(社) ビジネス機械・情報システム産業協会の WEB サイトをご覧ください。
URL <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

LAN 経由の制御コマンドについて

WEB 制御管理者権限パスワード設定時（プロテクトモード）

接続方法

- 1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 = 1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	[ネットワーク / USB] メニュー → [ネットワークステータス] から取得
ポート番号	[ネットワーク / USB] メニュー → [ネットワークコントロール] → [コマンドポート] から取得

- 2) プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	空白	乱数部	終端記号
コマンド例	"NTCONTROL" (ASCII 文字列)	0x20	0x31	0x20	"zzzzzzzz" (ASCII コード 16 進数)	(CR) 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte	8 bytes	1 byte

- モード：1 = プロテクトモード
- 例) プロテクトモード時の応答（乱数部は不定値）
"NTCONTROL 1 23181e1e" (CR)

- 3) MD5 アルゴリズムを用いて以下のデータから 32 バイトのハッシュ値を生成する

- "xxxxxx:yyyyy:zzzzzzzz"

xxxxxx	WEB 制御の管理者権限ユーザー名（デフォルトのユーザー名は "dispadmin"）
yyyyy	上記管理者権限ユーザーのパスワード（デフォルトのパスワードは "@Panasonic"）
zzzzzzzz	手順 2) で取得した 8 バイトの乱数

コマンド送信方法

以下のコマンド形式で送信してください。

■ 送信データ

	ヘッダー			データ部	終端記号
コマンド例	ハッシュ値 "接続方法" (207 ページ)	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	32 bytes	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) 電源状態取得コマンドの送信（ハッシュ値はデフォルトのユーザー名、パスワードおよび取得した乱数より算出）
"dbdd2dabd3d4d68c5dd970ec0c29fa6400QPW" (CR)

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) プロジェクターの電源が入っている場合
"00001" (CR)

■ エラー応答

	文字列	内容	終端記号
メッセージ	"ERR1"	未定義の制御コマンド	(CR) 0x0d
	"ERR2"	パラメーター範囲外	
	"ERR3"	ビジー状態または受け付け不可期間	
	"ERR4"	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	"ERR5"	データ長不正	
	"ERRA"	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

WEB 制御管理者権限パスワード非設定時（非プロテクトモード）

接続方法

1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 = 1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	[ネットワーク / USB] メニュー → [ネットワークステータス] から取得
ポート番号	[ネットワーク / USB] メニュー → [ネットワークコントロール] → [コマンドポート] から取得

2) プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	終端記号
コマンド例	"NTCONTROL" (ASCII 文字列)	' ' 0x20	'0' 0x30	(CR) 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte

- モード：0 = 非プロテクトモード
- 例) 非プロテクトモード時の応答
"NTCONTROL 0" (CR)

コマンド送信方法

以下のコマンド形式で送信してください。

■ 送信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) 電源状態取得コマンドの送信
"00QPW" (CR)

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) プロジェクターの電源がスタンバイ状態の場合
"00000" (CR)

■ エラー応答

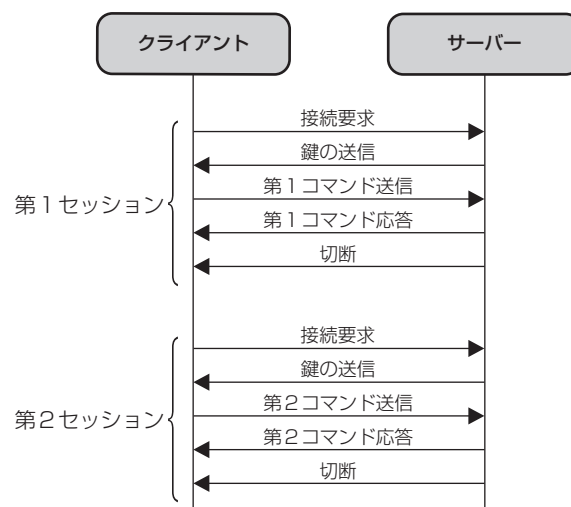
	文字列	内容	終端記号
メッセージ	"ERR1"	未定義の制御コマンド	(CR) 0x0d
	"ERR2"	パラメーター範囲外	
	"ERR3"	ビジー状態または受け付け不可期間	
	"ERR4"	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	"ERR5"	データ長不正	
	"ERRA"	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

サーバークライアント間の通信フロー

LAN 経由でコマンドを送受信する場合は、次に示す通信フローを参考にしてください。

サーバー：プロジェクター

クライアント：コンピューターなどの制御装置

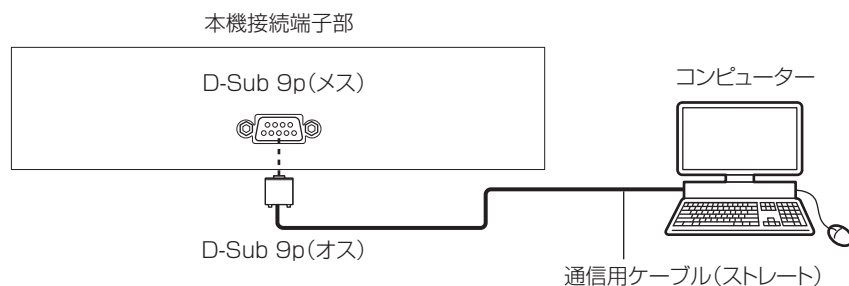


〈SERIAL IN〉 端子について

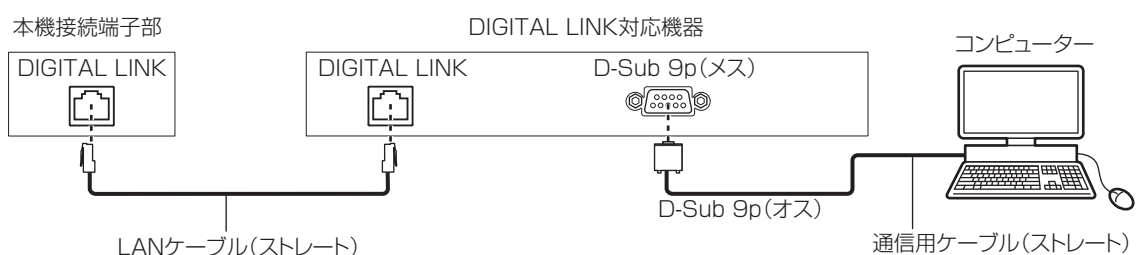
本機の接続端子部の〈SERIAL IN〉端子は RS-232C に準拠しており、コンピューターと接続して本機をコンピューターで制御できます。

接続

直接接続する場合



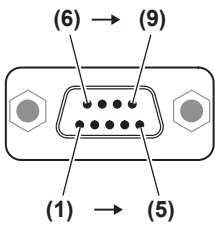
DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合



お知らせ

- 接続方法に合わせて、[RS-232C]（ 114 ページ）の接続先を設定する必要があります。
- DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合、スタンバイ状態で本機を制御するには、[プロジェクターセットアップ]メニュー→[ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定してください。
[スタンバイモード] を [ECO] に設定しているときは、スタンバイ状態での本機の制御はできません。

ピン配列と信号名

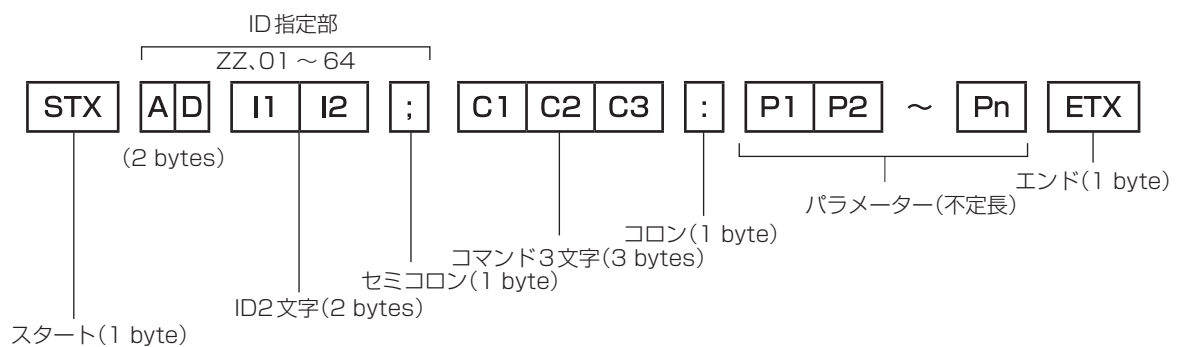
D-Sub 9 ピン（メス） 外側から見た図	ピン No.	信号名	内容
	(1)	—	NC
	(2)	TXD	送信データ
	(3)	RXD	受信データ
	(4)	—	NC
	(5)	GND	グラウンド
	(6)	—	NC
	(7)	CTS	内部で接続されています
	(8)	RTS	
	(9)	—	NC

通信条件（工場出荷時の状態）

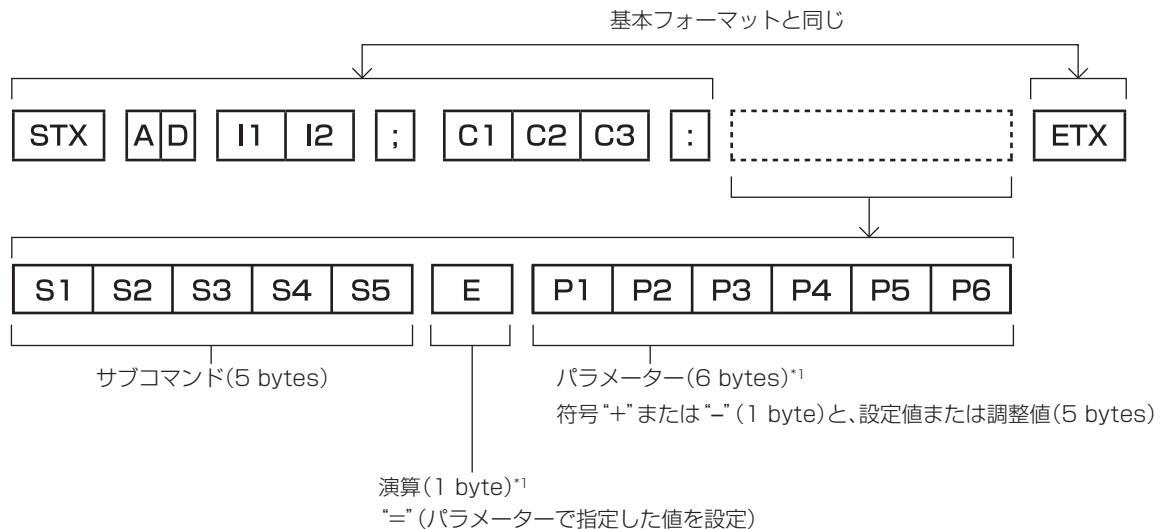
信号レベル	RS-232C 準拠
同期方式	調歩同期
ボーレート	9 600 bps
パリティ	なし
キャラクター長	8 ビット
ストップビット	1 ビット
X パラメーター	なし
S パラメーター	なし

基本フォーマット

コンピューターからの伝送は STX で開始され、続いて ID、コマンド、パラメーター、最後に ETX の順に送信します。パラメーターは制御内容の必要に応じて付加してください。



基本フォーマット（サブコマンドあり）



*1 パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、演算（E）とパラメーターは必要ありません。

お願い

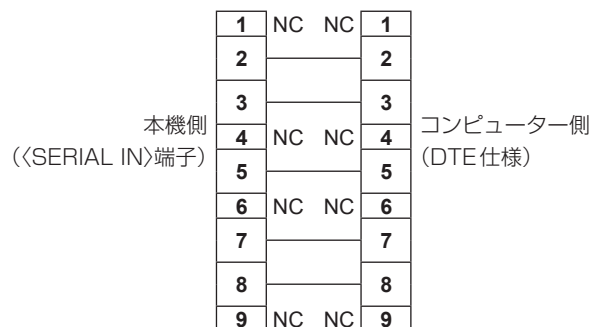
- 光源の点灯開始直後にコマンドを送信すると、応答が遅く返ってきたり、コマンドが実行できなかったりすることがあります。60 秒経過後に送受信してください。
- 複数のコマンドを送信する場合は、必ず本機からの応答を受け取ってから 0.5 秒以上経過後に次のコマンドを送信してください。パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、コロン（:）は必要ありません。

お知らせ

- コマンドが実行できない場合、本機から「ER401」という応答がコンピューター側に送信されます。
- 無効なパラメーターを送信すると、本機から「ER402」という応答がコンピューター側に送信されます。
- RS-232C での ID 送信は、ZZ（オール）と 01 ～ 64 の対応になっています。
- ID 指定でコマンドを送信した場合、以下のときのみコンピューターへの応答を返します。
 - 本機 ID と一致した場合
 - 本機の「プロジェクターセットアップ」メニュー → 「プロジェクター ID」が「オール」の場合
- STX と ETX はキャラクターコードです。STX は 16 進数で表すと 02、ETX は 16 進数で表すと 03 となります。

ケーブル仕様

コンピューターと接続する場合



制御コマンド

コンピューターで本機を制御する際のコマンドです。

■ 操作コマンド

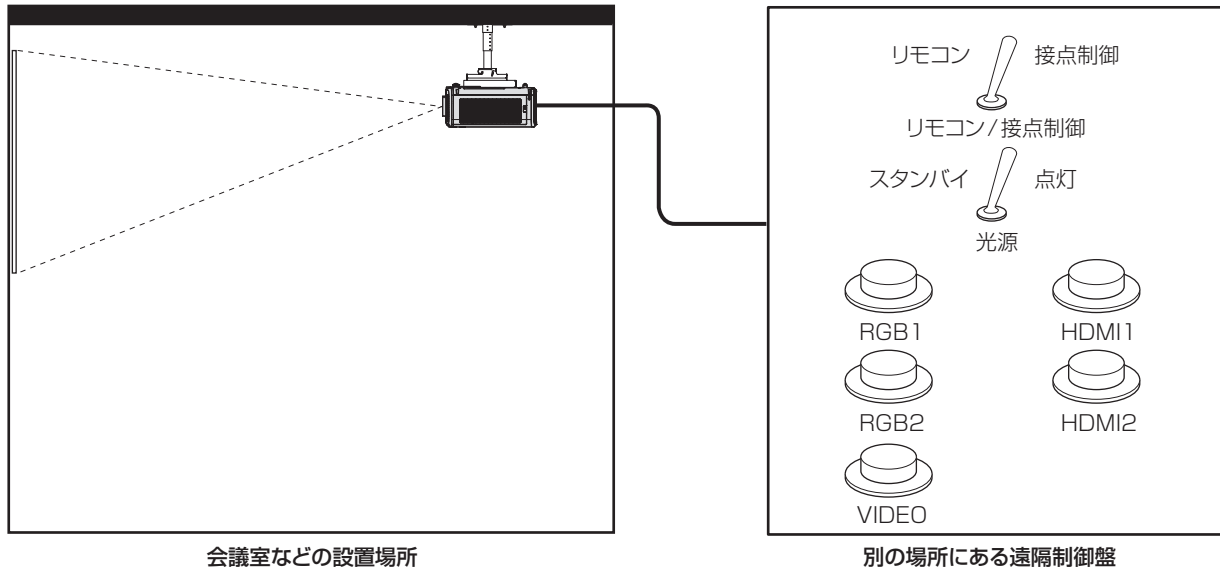
コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考（パラメーター）
PON	電源入	—	電源が入っているかを確認する場合は、“電源問い合わせ” コマンドを使用してください。
POF	電源スタンバイ		
QPW	電源問い合わせ	000 001	スタンバイ 電源入

第 7 章 その他 — 付録

コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考 (パラメーター)
IIS	入力信号切り換え	VID RG1 RG2 HD1 HD2 DL1 PA1 MC1 MV1	VIDEO RGB1 RGB2 HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK Panasonic APPLICATION MIRRORING MEMORY VIEWER
OSH	シャッター制御	0	開
QSH	シャッター状態問い合わせ	1	閉
VSE	アスペクト切り換え	0 1 2 5	ノーマル /VID オート 4 : 3 ワイド リアル
QSE	アスペクト設定問い合わせ	6 9 10	フル H フィット V フィット
OCS	サブメモリー切り換え	01 ~ 96	サブメモリー番号
QSB	サブメモリー状態問い合わせ		

〈REMOTE 1 IN〉端子について

リモコンの信号が届かないくらい、本体から離れた場所にある制御盤から本体を遠隔制御（接点制御）できます。本体の接続端子部にある〈REMOTE 1 IN〉端子を使用して、制御盤と接続します。



ピン配列と信号名

D-Sub 9 ピン 外側から見た図	ピン No.	信号名	オープン (H)	ショート (L)
	(1)	GND	—	GND
	(2)	POWER	オフ	オン
	(3)	RGB1	その他	RGB1
	(4)	RGB2	その他	RGB2
	(5)	VIDEO	その他	VIDEO
	(6)	HDMI1	その他	HDMI1
	(7)	HDMI2	その他	HDMI2
	(8)	SHUTTER	オフ	オン
	(9)	RST/SET	リモコン制御	外部接点制御

お願い

- 制御を行う場合は必ず、(1) 番、(9) 番ピンを短絡させてください。
- (1) 番、(9) 番ピンを短絡させると、本体操作部とリモコンの次のボタンが使用できなくなります。また、これらの機能に相当する RS-232C 用コマンドやネットワーク機能も使用できなくなります。
 - 電源 〈ON/OFF〉 ボタン、〈SHUTTER〉 ボタン
- (1) 番、(9) 番ピンを短絡させて、さらに (3) ～ (7) 番ピンのいずれかと (1) 番ピンを短絡させると、本体操作部とリモコンの次のボタンが使用できなくなります。また、これらの機能に相当する RS-232C 用コマンドやネットワーク機能も使用できなくなります。
 - 電源 〈ON/OFF〉 ボタン、〈INPUT SELECT〉 ボタン、〈RGB1/2〉 ボタン、〈HDMI 1〉 ボタン、〈HDMI 2〉 ボタン、〈DIGITAL LINK〉 ボタン、〈VIDEO〉 ボタン、〈NETWORK/USB〉 ボタン、〈SHUTTER〉 ボタン

お知らせ

- (2) 番ピン～(8) 番ピンの設定は、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [REMOTE1 端子モード] を [ユーザー] に設定すると変更できます。(p. 116 ページ)

〔メニューロックパスワード〕の操作について

パスワードをお買い上げ時の設定 (AAAA) に戻すには、[メニューロックパスワード] の入力要求画面の表示中に以下の操作を行ってください。

- 1) リモコンの 〈AUTO SETUP/CANCEL〉 ボタンを 3 秒以上押す
- 2) ▼ ボタンを 3 秒以上押す

対応信号リスト

本機が投写できる映像信号です。

対応信号欄に ✓ がある信号に対応しています。

● フォーマットを表す記号は次のとおりです。

- V : VIDEO
- R : RGB
- Y : YC_BC_R/YP_BP_R
- H : HDMI
- DL : DIGITAL LINK

● プラグアンドプレイ対応欄の各項目に対応する入力は次のとおりです。

- RGB : RGB2 入力
- HDMI : HDMI1/HDMI2 入力
- DIGITAL LINK : DIGITAL LINK 入力

対応信号	解像度 (ドット)	走査周波数		ドット ク ロック 周波数 (MHz)	フォーマッ ト	プラグアンドプレイ対応 ^{*1}						
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)			RGB	HDMI			DIGITAL LINK		
							4K/60p	4K/30p	2K	4K/60p	4K/30p	2K
NTSC/NTSC4.43/ PAL-M/PAL60	720 x 480i	15.7	59.9	—	V	—	—	—	—	—	—	—
PAL/PAL-N/SECAM	720 x 576i	15.6	50.0	—	V	—	—	—	—	—	—	—
480/60i	720 x 480i	15.7	59.9	13.5	R/Y	—	—	—	—	—	—	—
576/50i	720 x 576i	15.6	50.0	13.5	R/Y	—	—	—	—	—	—	—
480/60i	720 (1 440) x 480i ^{*2}	15.7	59.9	27.0	H/DL	—	—	—	—	—	—	—
576/50i	720 (1 440) x 576i ^{*2}	15.6	50.0	27.0	H/DL	—	—	—	—	—	—	—
480/60p	720 x 480	31.5	59.9	27.0	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
576/50p	720 x 576	31.3	50.0	27.0	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
720/60p	1 280 x 720	45.0	60.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
720/50p	1 280 x 720	37.5	50.0	74.3	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1080/60i	1 920 x 1 080i	33.8	60.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1080/50i	1 920 x 1 080i	28.1	50.0	74.3	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1080/24p	1 920 x 1 080	27.0	24.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1080/24sF	1 920 x 1 080i	27.0	48.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1080/25p	1 920 x 1 080	28.1	25.0	74.3	R/Y/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1080/30p	1 920 x 1 080	33.8	30.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1080/60p	1 920 x 1 080	67.5	60.0 ^{*7}	148.5	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1080/50p	1 920 x 1 080	56.3	50.0	148.5	R/Y/H/DL	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓
3840 x 2160/24p ^{*6}	3 840 x 2 160	54.0	24.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
3840 x 2160/25p ^{*6}	3 840 x 2 160	56.3	25.0	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
3840 x 2160/30p ^{*6}	3 840 x 2 160	67.5	30.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
3840 x 2160/60p ^{*6}	3 840 x 2 160 ^{*8}	135.0	60.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	—	—	✓	—	—
	3 840 x 2 160	135.0	60.0 ^{*7}	594.0	H	—	✓	—	—	—	—	—
3840 x 2160/50p ^{*6}	3 840 x 2 160 ^{*8}	112.5	50.0	297.0	H/DL	—	✓	—	—	✓	—	—
	3 840 x 2 160	112.5	50.0	594.0	H	—	✓	—	—	—	—	—
4096 x 2160/24p ^{*6}	4 096 x 2 160	54.0	24.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
4096 x 2160/25p ^{*6}	4 096 x 2 160	56.3	25.0	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
4096 x 2160/30p ^{*6}	4 096 x 2 160	67.5	30.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	✓	—	✓	✓	—
4096 x 2160/60p ^{*6}	4 096 x 2 160 ^{*8}	135.0	60.0 ^{*7}	297.0	H/DL	—	✓	—	—	✓	—	—
	4 096 x 2 160	135.0	60.0 ^{*7}	594.0	H	—	✓	—	—	—	—	—
4096 x 2160/50p ^{*6}	4 096 x 2 160 ^{*8}	112.5	50.0	297.0	H/DL	—	✓	—	—	✓	—	—
	4 096 x 2 160	112.5	50.0	594.0	H	—	✓	—	—	—	—	—
640 x 400/70	640 x 400	31.5	70.1	25.2	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—

第7章 その他 — 付録

対応信号	解像度 (ドット)	走査周波数		ドット ク ロック 周波数 (MHz)	フォーマッ ト	プラグアンドプレイ対応 ^{*1}						
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)			RGB	HDMI			DIGITAL LINK		
							4K/60p	4K/30p	2K	4K/60p	4K/30p	2K
640 x 400/85	640 x 400	37.9	85.1	31.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
640 x 480/60	640 x 480	31.5	59.9	25.2	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
640 x 480/67	640 x 480	35.0	66.7	30.2	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
640 x 480/73	640 x 480	37.9	72.8	31.5	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
640 x 480/75	640 x 480	37.5	75.0	31.5	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
640 x 480/85	640 x 480	43.3	85.0	36.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
800 x 600/56	800 x 600	35.2	56.3	36.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
800 x 600/60	800 x 600	37.9	60.3	40.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
800 x 600/72	800 x 600	48.1	72.2	50.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
800 x 600/75	800 x 600	46.9	75.0	49.5	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
800 x 600/85	800 x 600	53.7	85.1	56.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
832 x 624/75	832 x 624	49.7	74.6	57.3	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1024 x 768/50	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1024 x 768/60	1 024 x 768	48.4	60.0	65.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1024 x 768/70	1 024 x 768	56.5	70.1	75.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1024 x 768/75	1 024 x 768	60.0	75.0	78.8	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1024 x 768/82	1 024 x 768	65.5	81.6	86.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1024 x 768/85	1 024 x 768	68.7	85.0	94.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1024 x 768/100	1 024 x 768	81.4	100.0	113.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1152 x 864/60	1 152 x 864	53.7	60.0	81.6	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1152 x 864/75	1 152 x 864	67.5	75.0	108.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1152 x 864/85	1 152 x 864	77.1	85.0	119.7	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1152 x 870/75	1 152 x 870	68.7	75.1	100.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1280 x 720/50	1 280 x 720	37.1	49.8	60.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 720/60	1 280 x 720	44.8	59.9	74.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 768/50	1 280 x 768	39.6	49.9	65.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 768/60	1 280 x 768	47.7	60.0	80.1	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
	1 280 x 768	47.8	59.9	79.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 768/75	1 280 x 768	60.3	74.9	102.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 768/85	1 280 x 768	68.6	84.8	117.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 800/50	1 280 x 800	41.3	50.0	68.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 800/60	1 280 x 800	49.7	59.8	83.5	R/H/DL	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}
1280 x 800/75	1 280 x 800	62.8	74.9	106.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 800/85	1 280 x 800	71.6	84.9	122.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 960/60	1 280 x 960	60.0	60.0	108.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 1024/50	1 280 x 1 024	52.4	50	88.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 1024/60	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1280 x 1024/75	1 280 x 1 024	80.0	75.0	135.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1280 x 1024/85	1 280 x 1 024	91.1	85.0	157.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1366 x 768/50	1 366 x 768	39.6	49.9	69.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1366 x 768/60	1 366 x 768	47.7	59.8	85.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1400 x 1050/50	1 400 x 1 050	54.1	50	99.9	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1400 x 1050/60	1 400 x 1 050	65.2	60.0	122.6	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
	1 400 x 1 050	65.3	60.0	121.8	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1400 x 1050/75	1 400 x 1 050	82.2	75.0	155.9	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1440 x 900/50	1 440 x 900	46.3	50.0	87.4	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1440 x 900/60	1 440 x 900	55.9	59.9	106.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1600 x 900/50	1 600 x 900	46.4	49.9	96.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1600 x 900/60	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1600 x 1200/50	1 600 x 1 200	61.8	49.9	131.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—

対応信号	解像度 (ドット)	走査周波数		ドット ク ロック 周波数 (MHz)	フォーマッ ト	プラグアンドプレイ対応 *1						
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)			RGB	HDMI			DIGITAL LINK		
							4K/60p	4K/30p	2K	4K/60p	4K/30p	2K
1600 x 1200/60	1 600 x 1 200	75.0	60.0	162.0	R/H/DL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
1680 x 1050/50	1 680 x 1 050	54.1	50.0	119.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1680 x 1050/60	1 680 x 1 050	65.3	60.0	146.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1920 x 1080/50	1 920 x 1 080	55.6	49.9	141.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1920 x 1080/60	1 920 x 1 080*4	66.6	59.9	138.5	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
	1 920 x 1 080*5	67.2	60.0	173.0	R	—	—	—	—	—	—	—
1920 x 1200/50	1 920 x 1 200	61.8	49.9	158.3	R/H/DL	—	—	—	—	—	—	—
1920 x 1200/60	1 920 x 1 200*4	74.0	60.0	154.0	R/H/DL	✓*6	✓*6	✓*6	✓*6	✓*6	✓*6	✓*6
	1 920 x 1 200*5	74.6	59.9	193.3	R	—	—	—	—	—	—	—

*1 プラグアンドプレイ対応欄に✓がある信号は、プロジェクターの EDID（拡張ディスプレイ識別データ）に記述している信号です。プラグアンドプレイ対応欄に✓がない信号でもフォーマット欄に記載があれば入力できます。プラグアンドプレイ対応欄に✓がない信号は、プロジェクターが対応していてもコンピューター側で解像度の選択ができないことがあります。

*2 Pixel-Repetition 信号（ドットクロック周波数 27.0 MHz）のみ

*3 PT-MW730J のみ

*4 VESA CVT-RB（Reduced Blanking）準拠

*5 画像処理回路で画素を間引いて投写します。

*6 PT-MZ770J のみ

*7 1/1.001 倍の垂直走査周波数の信号にも対応しています。

*8 YPbPr 4:2:0 フォーマットのみ

お知らせ

- 解像度が異なる信号は表示ドット数に変換されて表示されます。表示ドット数は次のとおりです。
 - PT-MZ770J：1 920 x 1 200
 - PT-MW730J：1 280 x 800
- 解像度のドット数の後ろにある「i」はインターレース信号を意味します。
- インターレース信号接続時は映像にちらつきが発生することがあります。
- 対応信号リストに掲載されている信号であっても、特殊な方式で映像信号が記録されている場合は、本機で表示できないことがあります。

仕様

本機の仕様は次のとおりです。

使用電源		AC100 V 50 Hz/60 Hz	
消費電力		PT-MZ770J	570 W (6.4 A)
		PT-MW730J	545 W (6.1 A)
消費電力（スタンバイ時）		約 0.5 W	[スタンバイモード] を [ECO] に設定時
		約 22 W	[スタンバイモード] を [ノーマル] に設定時
		約 47 W	[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン] に設定して最大音声出力時、かつ、〈VIEWER/PAIRING〉端子に USB メモリーを挿入時
		約 115 W	[高速スタートアップ] を [オン] に設定時、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン] に設定して最大音声出力時、かつ、〈DC OUT〉端子から電源供給時
液晶パネル	サイズ	0.76 型（アスペクト比 16 : 10）	
	表示方式	透過型液晶パネル 3 枚 3 原色方式	
	駆動方式	アクティブマトリクス方式	
	画素数	PT-MZ770J	2 304 000 画素（1 920 x 1 200 ドット）
		PT-MW730J	1 024 000 画素（1 280 x 800 ドット）
レンズ	電動ズーム	1.6 ～ 2.8 : 1	
	電動フォーカス	F=1.7 ～ 2.3 f=26.8 mm ～ 45.5 mm	
光源		レーザー	
光出力 *1*2		8 000 lm（[ECO マネージメント] の [光源電力] を [ノーマル] に設定時）	
コントラスト比 *1		3 000 000 : 1（[ダイナミックコントラスト] を [1] または [2] に設定時）	
カラー方式		7 方式（NTSC/NTSC4.43/PAL/PAL-N/PAL-M/SECAM/PAL60）	
投写画面サイズ		40 ～ 400 型 *3	
画面アスペクト比		16 : 10	
投写方式		[フロント / リア] / [床置 / 天井]	
スピーカー		4.0 cm 円形 1 個	
音声実用最大出力		10 W（モノラル）	
電源コードの長さ		3.0 m	
外装ケース		樹脂成型品	
外装色		白	
外形寸法	横幅	560 mm	
	高さ	205 mm（脚最小時）	
	奥行	443 mm（標準ズームレンズを含む）	
質量		約 17.1 kg*4（標準ズームレンズを含む）	
騒音値 *1	35 dB		[ECO マネージメント] の [光源電力] を [ノーマル] または [ECO] に設定時
	28 dB		[ECO マネージメント] の [光源電力] を [静音] に設定時
使用環境条件	使用環境温度	0 ℃ ～ 45 ℃ *5	
	使用環境湿度	20 % ～ 80 %（結露のないこと）	
リモコン	使用電源	DC 3 V（単 4 形マンガンまたはアルカリ乾電池 2 本）	
	操作距離	約 30 m 以内（受信部正面）	
	質量	102 g（乾電池含む）	
	外形寸法	横幅 : 48 mm 高さ : 145 mm 奥行 : 27 mm	

*1 工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2015 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 B に基づいています。

*2 付属の標準ズームレンズの値です。レンズによって値は異なります。

*3 ズームレンズ（品番：ET-ELW22）使用時は、60 ～ 400 型になります。

*4 平均値。各製品で質量が異なることがあります。

*5 海拔 2 700 m 以上の場所ではご使用いただけません。

使用環境温度が 36 ℃ を超えると、プロジェクターを保護するために、光出力が低下することがあります。

お知らせ

- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。海外では使用しないでください。
(This projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

■ 接続端子

〈RGB 1 IN〉 端子	1 系統 BNC x 5 (RGB/YPbPr/YCbCr) x 1
	RGB 信号 0.7 V [p-p] 75 Ω (SYNC ON GREEN 時 1.0 V [p-p] 75 Ω) SYNC/HD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応 VD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	YPbPr 信号 Y : 1.0 V [p-p] 同期信号を含む、PbPr : 0.7 V [p-p] 75 Ω
〈RGB 2 IN〉 端子	1 系統 高密度 D-Sub 15 p (メス)
	RGB 信号 0.7 V [p-p] 75 Ω (SYNC ON GREEN 時 1.0 V [p-p] 75 Ω) SYNC/HD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応 VD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	YPbPr 信号 Y : 1.0 V [p-p] 同期信号を含む、PbPr : 0.7 V [p-p] 75 Ω
〈MONITOR OUT〉 端子	1 系統 高密度 D-Sub 15 p (メス)
	RGB 信号 0.7 V [p-p] 75 Ω (SYNC ON GREEN 時 1.0 V [p-p] 75 Ω) SYNC/HD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性 VD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性
	YPbPr 信号 Y : 1.0 V [p-p] 同期信号を含む、PbPr : 0.7 V [p-p] 75 Ω
〈HDMI 1 IN〉 端子 〈HDMI 2 IN〉 端子	計 2 系統 HDMI 19 p HDCP 対応*1 Deep Color 対応
〈VIDEO IN〉 端子	音声信号 リニア PCM (サンプリング周波数 : 48 kHz/44.1 kHz/32 kHz)
〈AUDIO IN 1〉 端子 〈AUDIO IN 2〉 端子	1 系統 ピンジャック 1.0 V [p-p] 75 Ω
〈AUDIO IN 3〉 端子	計 2 系統 M3 ステレオミニジャック 0.5 V [rms]、入力インピーダンス 22 k Ω以上
〈VARIABLE AUDIO OUT〉 端子	1 系統 ピンジャック x 2 (L-R) 0.5 V [rms]、入力インピーダンス 22 k Ω以上
〈SERIAL IN〉 端子	1 系統 M3 ステレオミニジャック (モニター出力、ステレオ対応可) 0 V [rms] ~ 2.0 V [rms] (可変)、出力インピーダンス 2.2 k Ω以下
〈REMOTE 1 IN〉 端子	D-Sub 9 p 1 系統 RS-232C 準拠 コンピューター制御用
〈REMOTE 2 IN〉 端子	1 系統 D-Sub 9 p 接点制御用
〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子	1 系統 M3 ステレオミニジャック リモコン (ワイヤード) 制御用
〈LAN〉 端子	1 系統 RJ-45 ネットワーク、DIGITAL LINK 接続用 (HDBaseT™ 準拠) PLink 対応 100Base-TX HDCP 対応*1 Deep Color 対応
〈VIEWER/PAIRING〉 端子	1 系統 RJ-45 ネットワーク接続用 PLink 対応 10Base-T/100Base-TX
〈DC OUT〉 端子	1 系統 USB コネクタ (タイプ A)、メモリービューワー機能 / ペアリング機能用
	USB コネクタ (タイプ A) x 1、給電専用 (DC5 V、最大 2 A)

*1 PT-MZ770J: HDCP 2.2 対応 ; PT-MW730J: HDCP 対応

■ 無線 LAN

本機で無線 LAN 機能を利用するためには、別売品のワイヤレスモジュール (品番 : ET-WM300) を取り付ける必要があります。

準拠規格	IEEE802.11a/b/g/n
伝送方式	DSSS、OFDM
変調方式	DBPSK、DQPSK、CCK、BPSK、QPSK、16QAM、64QAM、MIMO
転送速度	IEEE802.11b 最大 11 Mbps IEEE802.11g/a 最大 54 Mbps IEEE802.11n 最大 300 Mbps
通信距離	約 30 m (ただし、使用環境により異なります)
使用周波数範囲 (中心周波数)	MIRRORING 入力を選択時
	IEEE802.11b/g/n 2.412 GHz ~ 2.462 GHz
	IEEE802.11a/n 5.180 GHz ~ 5.240 GHz (W52)
	【無線 LAN】を【シンプル】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 2.412 GHz ~ 2.462 GHz
	【無線 LAN】を【M-DIRECT】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 2.412 GHz ~ 2.472 GHz
	IEEE802.11a/n 5.180 GHz ~ 5.240 GHz (W52)
	【無線 LAN】を【USER】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 2.412 GHz ~ 2.472 GHz
	IEEE802.11a/n 5.180 GHz ~ 5.700 GHz (W52/W53/W56)

使用チャンネル	MIRRORING 入力を選択時
	IEEE802.11b/g/n 1 ～ 11 チャンネル
	IEEE802.11a/n 36/40/44/48 チャンネル (W52)
	【無線 LAN】を【シンプル】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 1/6/11 チャンネル
	【無線 LAN】を【M-DIRECT】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 1 ～ 13 チャンネル
	IEEE802.11a/n 36/40/44/48 チャンネル (W52)
	【無線 LAN】を【USER】に設定時
	IEEE802.11b/g/n 1 ～ 13 チャンネル
セキュリティ	IEEE802.11a/n 36/40/44/48 チャンネル (W52)、52/56/60/64 チャンネル (W53)、100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140 チャンネル (W56)
	インフラストラクチャーモードで接続時 128 bit/64 bit WEP、WPA-PSK <TKIP/AES>、WPA2-PSK <TKIP/AES>、WPA-EAP/ WPA2-EAP <PEAP (MS-CHAPv2) /PEAP (GTC) /EAP-TTLS (MD5) / EAP-TTLS (MS-CHAPv2) /EAP-FAST (MS-CHAPv2) /EAP-FAST (GTC) /EAP-TLS>

■ 対応信号

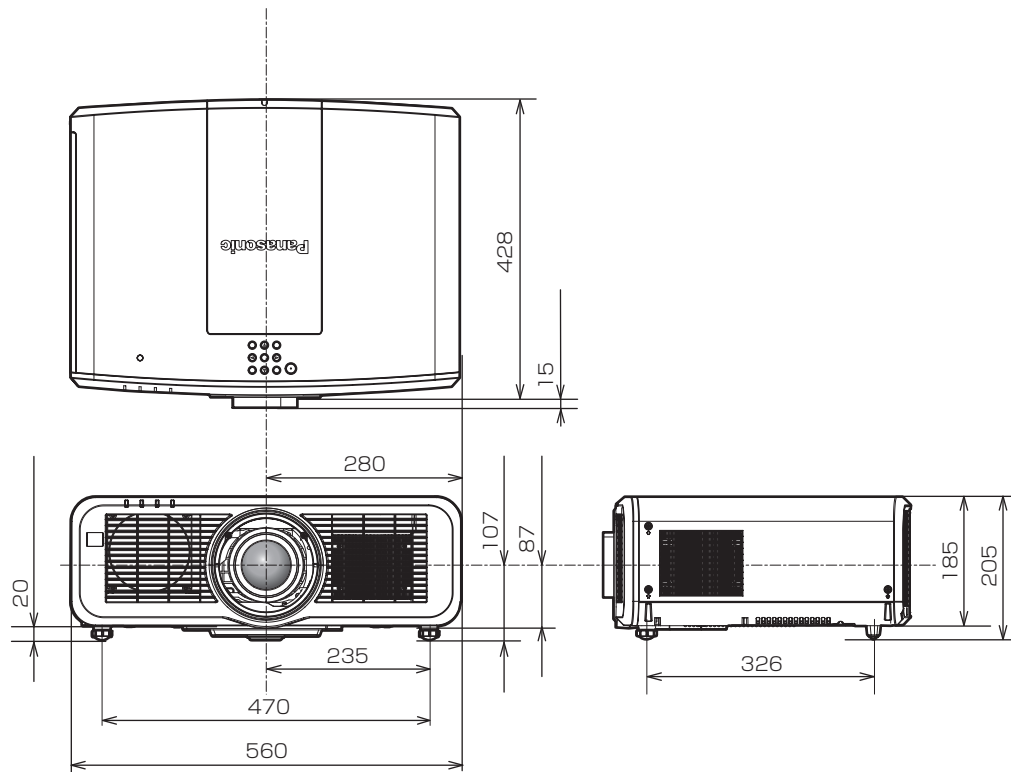
本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト” (214 ページ) をご覧ください。

ビデオ入力
水平 15.73 kHz 垂直 59.94 Hz、水平 15.63 kHz 垂直 50 Hz
RGB 入力
- 解像度：640 x 400 ～ 1 920 x 1 200 - ドットクロック周波数：162 MHz 以下 - PIAS (Panasonic Intelligent Auto Scanning) 方式
YCbCr/YPbPr 入力
- 解像度：480i/576i ～ 1 920 x 1 080 - ドットクロック周波数：148.5 MHz 以下 - SYNC/HD、VD 端子は、3 値 SYNC には対応していません。
HDMI 入力
PT-MZ770J について
- 動画系信号解像度：480i^{*1}/576i^{*1} ～ 4 096 x 2 160 静止画系信号解像度：640 x 400 ～ 1 920 x 1 200 (ノンインターレース) - ドットクロック周波数：25 MHz ～ 594 MHz
PT-MW730J について
- 動画系信号解像度：480i^{*1}/576i^{*1} ～ 1 920 x 1 080 静止画系信号解像度：640 x 400 ～ 1 920 x 1 200 (ノンインターレース) - ドットクロック周波数：25 MHz ～ 162 MHz
DIGITAL LINK 入力
PT-MZ770J について
- 動画系信号解像度：480i^{*1}/576i^{*1} ～ 4 096 x 2 160 静止画系信号解像度：640 x 400 ～ 1 920 x 1 200 (ノンインターレース) - ドットクロック周波数：25 MHz ～ 297 MHz
PT-MW730J について
- 動画系信号解像度：480i^{*1}/576i^{*1} ～ 1 920 x 1 080 静止画系信号解像度：640 x 400 ～ 1 920 x 1 200 (ノンインターレース) - ドットクロック周波数：25 MHz ～ 162 MHz

*1 Pixel-Repetition 信号 (ドットクロック周波数 27.0 MHz) のみ

外形寸法図

単位：mm



- * 上記は、標準ズームレンズを取り付けている場合の寸法です。
- * 各製品で寸法は異なることがあります。

天つり金具取り付け時の注意事項

- 本製品を天井に取り付ける場合は天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用））は、天つり金具（品番：ET-PKE301B（取付用ベース金具））と組み合わせて使用します。

品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKE301B（取付用ベース金具）

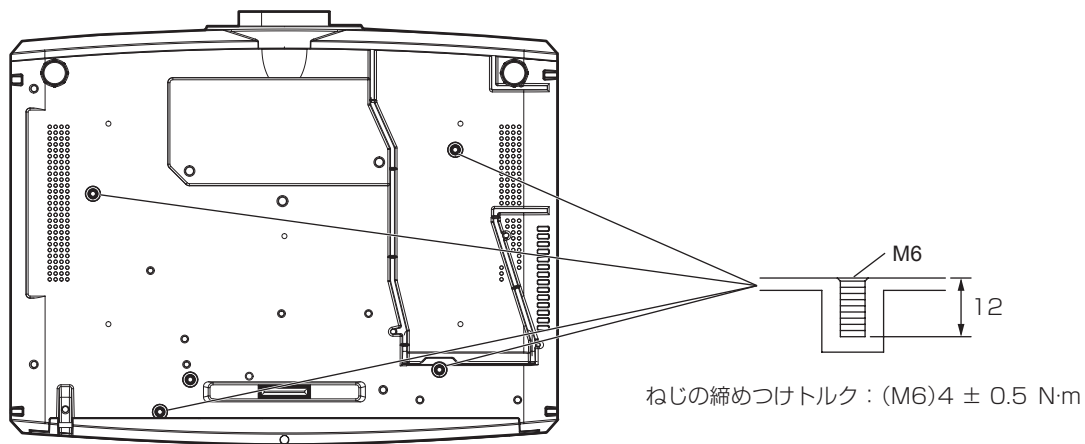
- 取り付けの際は、天つり金具に付属の落下防止セットを、プロジェクター本体に取り付けてご使用ください。別途落下防止セット（サービス品番：DPPW1004ZA/X1）をご入用の際は、販売店にご相談ください。
- 既設の天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）またはET-PKD120S（低天井用）と、品番：ET-PKE300B（取付用ベース金具）との組み合わせ）に本機を取り付ける場合は、落下防止用のワイヤーロープを本機に対応した仕様のものに交換する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

落下防止セット（サービス品番：DPPW1004ZA/X1）

- 天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者にご依頼ください。
- 当社製以外の天つり金具の使用、および天つり金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。
- ご使用を終了した製品は、工事専門業者にご依頼のうえ速やかに撤去してください。
- ねじ類の締めつけの際は、トルクドライバーまたは、六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
- 詳しくは、天つり金具の施工説明書をお読みください。
- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。

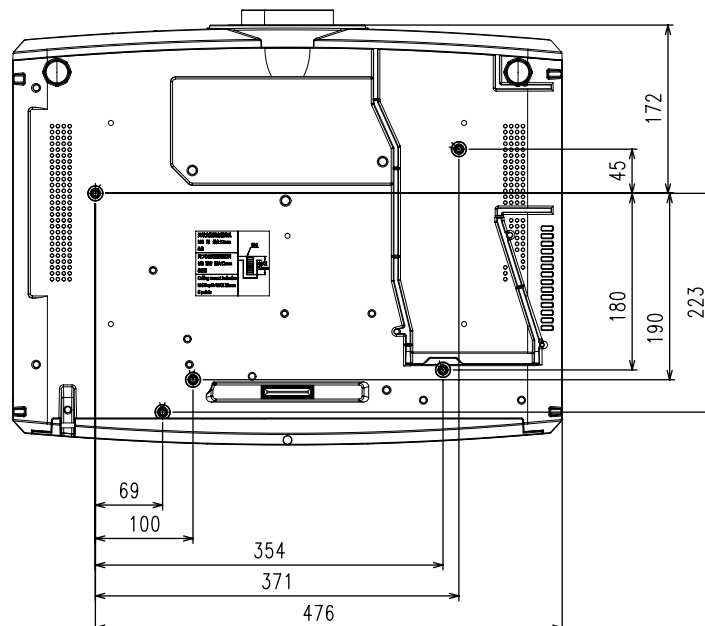
■ プロジェクター固定用ねじ穴仕様（本体底面）

単位：mm



■ プロジェクター固定用ねじ穴寸法図（本体底面）

単位：mm



保証とアフターサービス

よくお読みください

故障・修理・お取扱い・メンテナンス

などのご相談は、まず、

お買い上げの販売店

へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、当社（下記、パナソニック プロジェクターサポートセンター）までご連絡ください。

* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がありますのでご了承ください。

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間：お買い上げ日から本体 3 年間または
プロジェクター使用時間 20 000 時間の
早い方

補修用性能部品の保有期間

8 年

当社では、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8 年間保有しています。

* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理のご依頼について

この取扱説明書を再度ご確認ください。お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	液晶プロジェクター
品番	PT-MZ770J / PT-MW730J
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

パナソニック プロジェクターサポートセンター

電話 フリー
ダイヤル

0120-872-601

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

受付時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～12：00 13：00～17：00URL <https://panasonic.biz/cns/projector/supportcenter/>

- * 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
- * お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

さくいん

A			
〈AC IN〉端子	25, 53	〈RETURN〉ボタン	
〈ASPECT〉ボタン		リモコン	23
リモコン	23, 69	[RGB IN]	95
〈AUTO SETUP/CANCEL〉ボタン		〈RGB1/2〉ボタン	
リモコン	23, 67	リモコン	23, 60
		[RS-232C]	114, 209
C		S	
[Creston Connected (TM)]	172	〈SCREEN ADJ〉ボタン	
D		リモコン	23, 67
〈D.ZOOM-〉ボタン		〈SERIAL IN〉端子	209
リモコン	23, 68	〈SHIFT〉ボタン	
〈D.ZOOM+〉ボタン		リモコン	23, 61
リモコン	23, 68	〈SHUTTER〉ボタン	
[DC OUT]	119	本体	26
〈DEFAULT〉ボタン		リモコン	23, 65
リモコン	23, 74	〈STATUS〉ボタン	
DIGITAL LINK	19	リモコン	23, 70
[DIGITAL LINK IN]	98	T	
[DIGITAL LINK ステータス]	135	〈TEST PATTERN〉ボタン	
〈DIGITAL LINK〉ボタン		リモコン	23, 69
リモコン	23, 60	V	
[DIGITAL LINK メニュー]	136	〈VIDEO〉ボタン	
[DIGITAL LINK モード]	135	リモコン	23, 60
E		〈VOL-〉 / 〈VOL+〉ボタン	
〈ECO〉ボタン		本体	26
リモコン	23, 70	リモコン	23, 66
[ECO マネージメント]	107	W	
〈ENTER〉ボタン		WEB 制御	154
本体	26	Z	
リモコン	23, 73	〈ZOOM〉ボタン	
F		リモコン	23, 61
〈FOCUS〉ボタン		あ	
リモコン	23, 61	アジャスター脚の調整	43
〈FREEZE〉ボタン		[アスペクト]	84
リモコン	23, 66	アスペクト機能	69
〈FUNCTION〉ボタン		[アドバンスドメニュー]	75, 90
リモコン	23, 69	アフターサービス	222
H		アプリケーションソフト	20
〈HDMI 1〉ボタン		安全上のご注意	5
リモコン	23, 60	い	
〈HDMI 2〉ボタン		[位置調整]	75, 84
リモコン	23, 60	[色あし]	79
[HDMI IN]	96	[色温度設定]	79
I		[色の濃さ]	79
〈ID ALL〉ボタン		う	
リモコン	23, 71	運搬上の留意点	14
〈ID SET〉ボタン		え	
リモコン	23, 71	エアフィルターユニット	195
〈INPUT SELECT〉ボタン		エアフィルターユニット交換	197
本体	26, 61	[映像]	75, 78
L		[映像モード]	78
〈LENS/CANCEL〉ボタン		お	
本体	26, 61	オートセットアップ機能	67
M		お手入れ	195
MEMORY VIEWER 入力	182	[オンスクリーン表示]	99
〈MENU〉ボタン		オンスクリーンメニュー	73
本体	26, 73	[音声設定]	116
リモコン	23, 73	温度インジケーター	193
MIRRORING 入力	178	音量調整	66
〈MUTE〉ボタン		か	
リモコン	23, 65	外形寸法図	220
N		[カラーコレクション]	93
〈NETWORK/USB〉ボタン		[カラーアジャスト]	93
リモコン	23, 60	[ガンマ選択]	80
O		き	
〈ON SCREEN〉ボタン		[起動方法]	111
リモコン	23, 66	く	
P		[クランプ位置]	91
〈P-TIMER〉ボタン		[クロースドキャプション設定]	101
リモコン	23, 69	[クロックフェーズ]	86
[Panasonic APPLICATION]	142	[黒レベル]	78
Panasonic APPLICATION 入力	175	け	
R		ケーブルで本体と接続して使う	28
〈REMOTE 1 IN〉端子	213	こ	
〈REMOTE 2 IN〉端子	28	光源インジケーター	193
[REMOTE1 端子モード]	116		
		工場出荷時の状態に戻す	74
		ご使用になる前に	14
		困ったとき	200
		さ	
		[サービスパスワード]	126
		サブメモリーについて	130
		し	
		[自己診断] の表示	202
		[システムセクター]	82
		[自動調整]	94
		[シフト]	84
		[シャープネス]	81
		[シャッター設定]	103
		修理のご依頼の前に	198
		主電源スイッチ	25, 54
		仕様	217
		使用上の留意点	20
		[初期化]	125
		初期設定	55
		新規登録	128
		信号の引き込み範囲を拡大する	129
		す	
		[ズーム]	85
		[スクリーン設定]	94
		[スクリーン補正]	87
		[スケジュール]	112
		[スタートアップ入力選択]	111
		[スタートアップログ]	103
		[ステータス]	120
		せ	
		静止機能	66
		[セキュリティ]	77, 131
		セキュリティに関するお願い	17
		[セキュリティパスワード]	131
		[セキュリティパスワード変更]	131
		接続	47
		設置	30
		設置形態	30
		設置に関する留意点	14
		[全ユーザーデータ保存]	125
		[全ユーザーデータ呼出]	125
		そ	
		[操作設定]	132
		[操作設定パスワード変更]	134
		た	
		対応信号リスト	214
		[ダイナミックコントラスト]	81
		て	
		[デイルイトビュー]	81
		[データクロージング]	121
		[テキスト変更]	132
		[デジタルシネマリアリティ]	90
		[デジタルズーム]	106
		[テストパターン]	77, 127
		電源インジケーター	53
		電源コード	53
		電源コードの接続	53
		電源ボタン	
		本体	26
		リモコン	23
		電源を入れる	54
		電源を切る	59
		天つり金具	221
		天つり金具取り付け時の注意事項	221
		と	
		投写する	60
		投写する映像の選択	60
		[投写方式]	107
		投写レンズの取り外し / 取り付け方	44
		登録した信号を削除する	128
		登録した信号を保護する	129
		[登録信号一覧]	77, 128
		登録信号の名前の変更	128
		に	
		[入力解像度]	91
		[入力検出]	103
		[入力自動セットアップ]	94
		ね	
		[ネットワーク / USB]	77, 135

[ネットワークコントロール]	141
[ネットワークステータス]	146
ネットワーク接続	148
の	
[ノイズリダクション]	81
は	
廃棄について	20
[バックカラー]	103
ひ	
[光 ID]	110
[ピクチャー]	78
[日付と時刻]	112
[表示オプション]	76, 93
表示言語	76, 92
[表示設定]	131
ふ	
[ファンクションボタン]	116
ファンクションボタン	69
フィルターインジケータ	193
[フィルターカウンター]	119
付属品の確認	22
部品交換	197
[ブランキング]	90
[フリーズ]	105
[プレゼンテーションタイマー]	104
[プロジェクター ID]	107
[プロジェクターセットアップ]	76, 107
[プロジェクター名]	140
へ	
ペアリング機能	190
別売品	22
ほ	
保証とアフターサービス	222
本体	25
み	
[ミラーリング]	145
む	
[無線 LAN]	137
無線 LAN で接続	151
め	
メインメニュー	74
メニュー画面の操作方法	73
メニュー項目	75
[メニューロック]	132
[メニューロックパスワード]	132
[メモリービューワー]	141
ゆ	
[有線 LAN]	136
ら	
[ラスターポジション]	91
り	
[リアルタイム台形補正]	86
リモコン	23
リモコン操作	65
リモコンの ID ナンバー設定	71
れ	
[レンズキャリブレーション]	116
わ	
ワイヤレスモジュール	46

■ ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報



これらのシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法
をお問い合わせください。

